

東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会
第7回会合

平成23年東日本大震災における
避難行動等に関する面接調査(住民)
単純集計結果

目次

I. 調査概要	1
II. 調査結果	2

避難所等の生活環境について

問1. (1) 避難所での生活期間	3
問1. (2) 災害直後からの避難所での生活について【困っていること】	4
問2. (1) 仮設住宅での生活期間	5
問2. (2) 仮設住宅での生活について【困っていること】	6

今後のことについて

問3. 今、気になっていること	7
問4. これからのまちづくりについて	8
問5. 津波から地域を守るために必要なこと	9
問5. 津波から地域を守るために必要なこと【最も重要なもの】	10

東北地方太平洋沖地震について

問6. 地震が発生した時にいた場所	11
問7. 地震が発生してから揺れている間の行動・意識	12
問8. 地震の揺れがおさまってからの行動	13
問9. 地震の揺れによる停電	14
問10. 安否の確認（発信）	15
問11. 安否の確認（受信）	25

地震・津波の情報について

問12. 緊急地震速報の見聞き	33
問13. 緊急地震速報を見聞きしたタイミング	34
問14. 緊急地震速報を見聞きした後の行動	35
問15. 地震情報の見聞き	36
問16. 津波情報や避難の呼びかけの見聞き	38
問17. 防災行政無線による避難の呼びかけ	54

東日本大震災でとった行動について

問18. 地震が発生してから津波が襲来するまでにいた地域	56
問19. 地震後の津波に対する意識（1）	57
問20. 津波に対する意識（4）自宅への被害予想	60
問21. 最初に避難しようと思った場所	61
問22. 最初に避難しようと思った場所に行ったか	62
問23. 揺れが収まった直後から日没までの行動	64
問24. 地震発生時にいた場所	65
問24. 津波が来たことを見聞きしたか	66
問25. ア 避難した場所【最初】	70
問25. イ 選んだ理由【最初】	71
問25. ウ 避難したきっかけ【最初】	72
問25. エ 移動した手段【最初】	73
問25. オ 所要時間（分）【最初】	74
問25. カ 津波が来たことを見聞きしたか【最初】	75
問26. さらに移動したか【さらに移動した場所①】	76
問26. 避難をした場所【さらに移動した場所①】	77
問26. 選んだ理由【さらに移動した場所①】	78
問26. 避難したきっかけ【さらに移動した場所①】	79
問26. 避難した手段【さらに移動した場所①】	80
問26. 避難した時間【さらに移動した場所①】	81
問26. 津波を見たり、津波が来たこと聞いたりしたか【さらに移動した場所①】	82
問26. さらに移動したか【さらに移動した場所②】	83
問26. 避難をした場所【さらに移動した場所②】	84
問26. 選んだ理由【さらに移動した場所②】	85
問26. 避難したきっかけ【さらに移動した場所②】	86
問26. 避難した手段【さらに移動した場所②】	87

目次

問2 6. 避難した時間【さらに移動した場所②】	88
問2 6. 津波を見たり、津波が来たこと聞いたりしたか 【さらに移動した場所②】	89
問2 6. さらに移動したか【さらに移動した場所③】	90
問2 6. 避難をした場所【さらに移動した場所③】	91
問2 6. 選んだ理由【さらに移動した場所③】	92
問2 6. 避難したきっかけ【さらに移動した場所③】	93
問2 6. 避難した手段【さらに移動した場所③】	94
問2 7. 避難した場所【日没時】	95
問2 8. 津波が来たことを見聞きしたか【日没】	96
問2 9. 避難している時の津波体験について	97
問3 0. 遭遇した津波の高さ	98
問3 1. 車で避難した理由	99
問3 2. 避難する時に障害となったこと	100
問3 3. 避難する時、一緒に行動された方について	101
問3 4. ビルや高い建物の上階または屋上に避難しましたか	102
問3 4. (1) (避難した) 建物の階数	103
問3 4. (1) (避難した) 階数	104
問3 4. (2) ビルや建物の上階、屋上避難時の体験	105
問3 5. 避難した地域や建物での体験	106
問3 6. 津波による被害	107
<u>これまでの津波経験について</u>	
問3 7. 津波の経験について	108
問3 8. 昨年のチリ地震津波の際の避難行動	111
問3 9. 2日前の三陸沖地震について	112

これまでの防災啓発や取り組みについて

問4 0. 過去の地震・津波についての教訓や知恵を聞いたことがありますか	114
問4 1. 住んでいた地区での、津波防災の取り組みについて	114
問4 2. 津波ハザードマップについて(地震前)	118
問4 3. 津波ハザードマップにおける自宅の浸水予想	119
問4 4 (1) 自宅にいて津波が襲来した時の、避難する場所について	120
問4 4 (2) 自宅にいて津波が襲来した時の、避難する場所について	121
問4 5. 今回の経験を経て得た教訓・後世に伝えたいこと	124

調査対象者について

F 1. 性別	125
F 2. 年齢	126
F 3. 職業	127
F 4. 地域での役割	128
F 6. 居住年数	129
F 7. 1 同居人数	130
F 7. 2 当時自宅にいた人数	131
F 7. 3 そのうち避難した人数	132
F 8. 災害時要援護者名簿に登録されていましたか	133
F 9. 地震が起きた時、一緒に住んでいた方	134
F 1 0. いつでも利用できる自家用車の有無	135
F 1 1. 家の構造	136
F 1 1. 鉄筋コンクリートの階数(建物の階数)	137
F 1 1. 鉄筋コンクリートの階数(住居階)	138
F 1 2. 戸別受信機の有無	139

I. 調査概要

1. 調査の趣旨

津波避難行動と被害の関係を分析し、今後、必要な避難対策を進める上での資料とするため、避難者の避難行動等に関する実態調査を実施。(内閣府・消防庁・気象庁共同調査)

2. 調査の対象

1) 調査対象者

岩手県、宮城県、福島県の沿岸地域で県内避難をされている被災者の方 870名
(岩手県:391名、宮城県:385名、福島県:94名)

2) 調査方法

仮設住宅・避難所を訪問し、面接方式で実施
(調査員が調査票を持参し、調査に同意の得られた方に一問一答で回答を記録する方式)

3) 調査時期

7月上旬から下旬
午前9時～午後6時を基本として、1名につき30分～60分程度

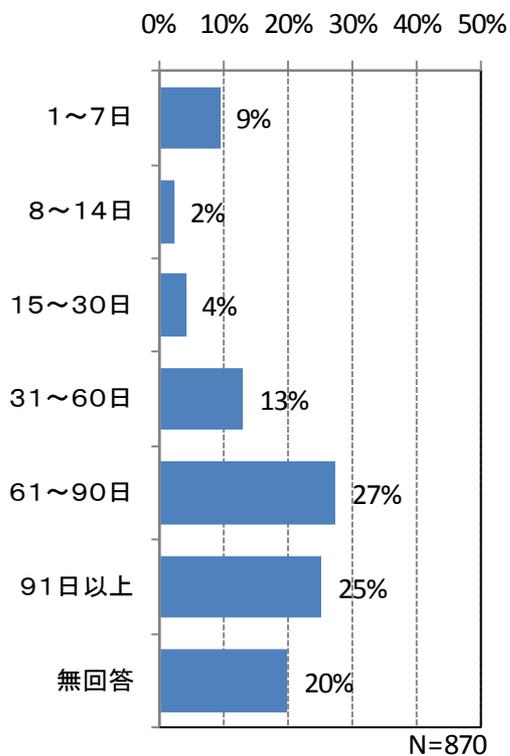
Ⅱ. 調查結果

問1. 1 避難所での生活期間

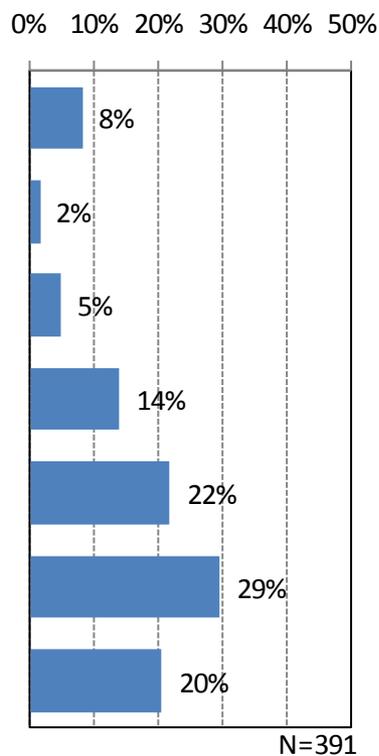
全員が回答 N=870

- 災害直後から避難所での生活期間について調査した。岩手県と福島県が「91日以上」が多く、宮城県では「61～90日」が多い。
- 3県ともに「61日以上」の長期の避難所生活が続いている人が半数以上を占めていることが分かる。

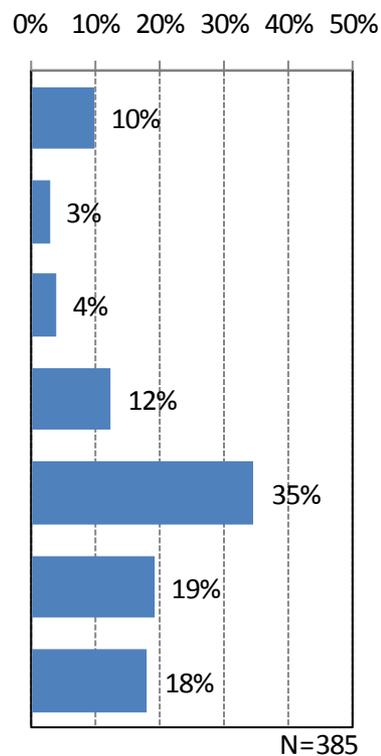
全体



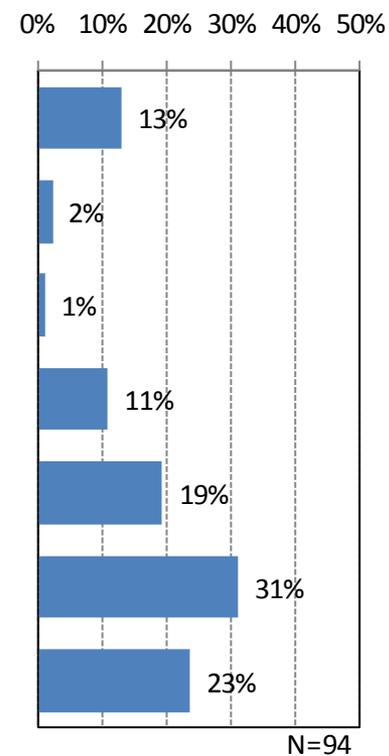
岩手県



宮城県



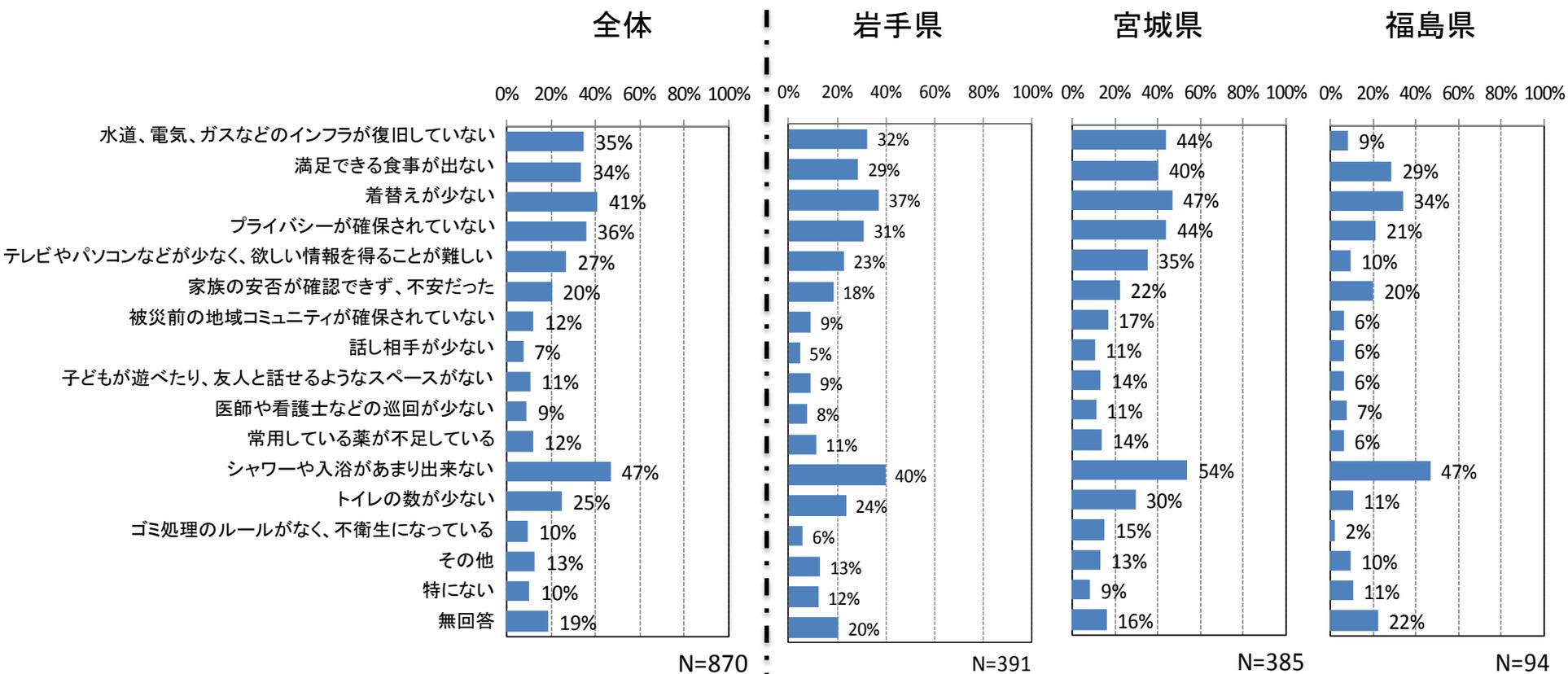
福島県



問1.2 災害直後からの避難所での生活について【困っていること】

全員が回答 N=870

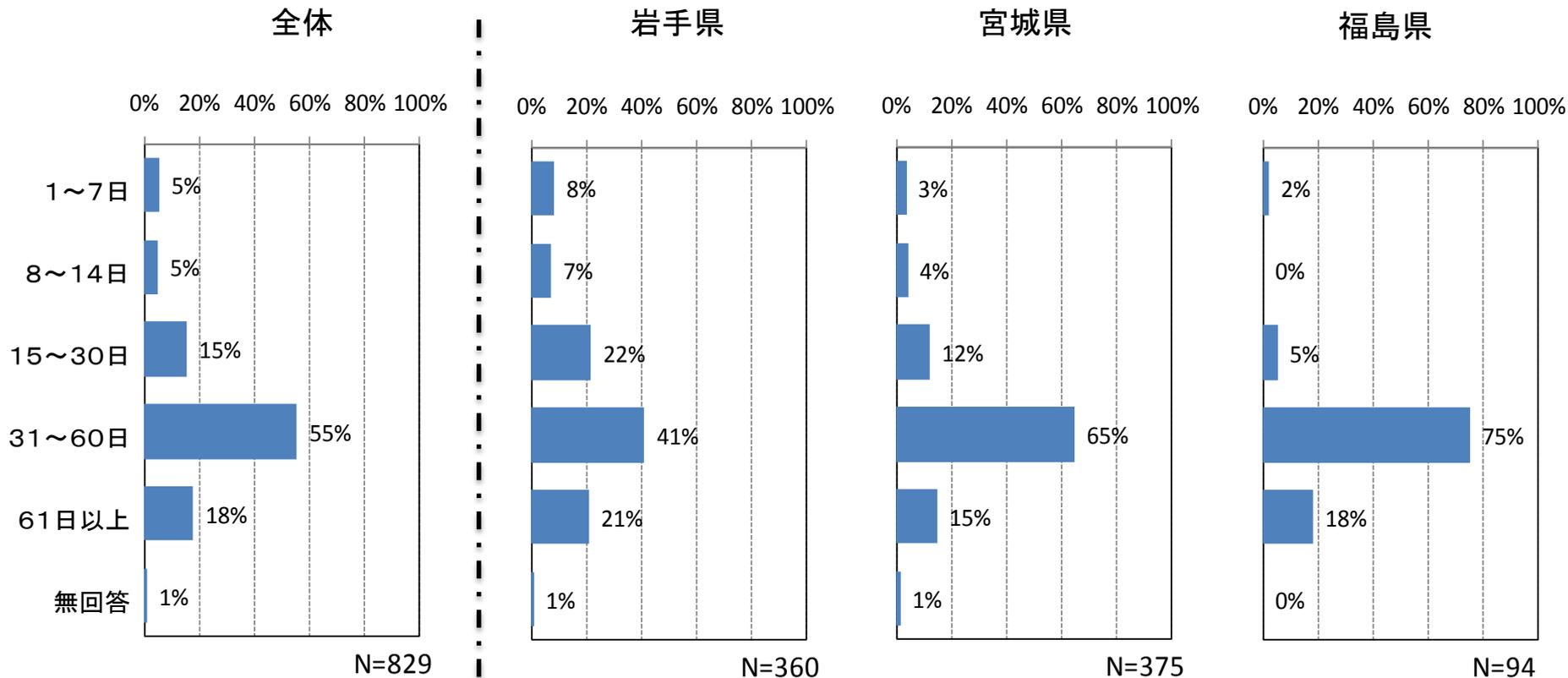
- 避難所での生活で困っていることを調査した。「シャワーや入浴があまり出来ない」と回答した方が最も多く、着替えやプライバシーの確保、さらに食事環境への改善を答えている人が多い。3県の傾向は、ほぼ同じ状況にある。



問2. 1 仮設住宅での生活期間

仮設住宅にお住まいの人が回答 N=829

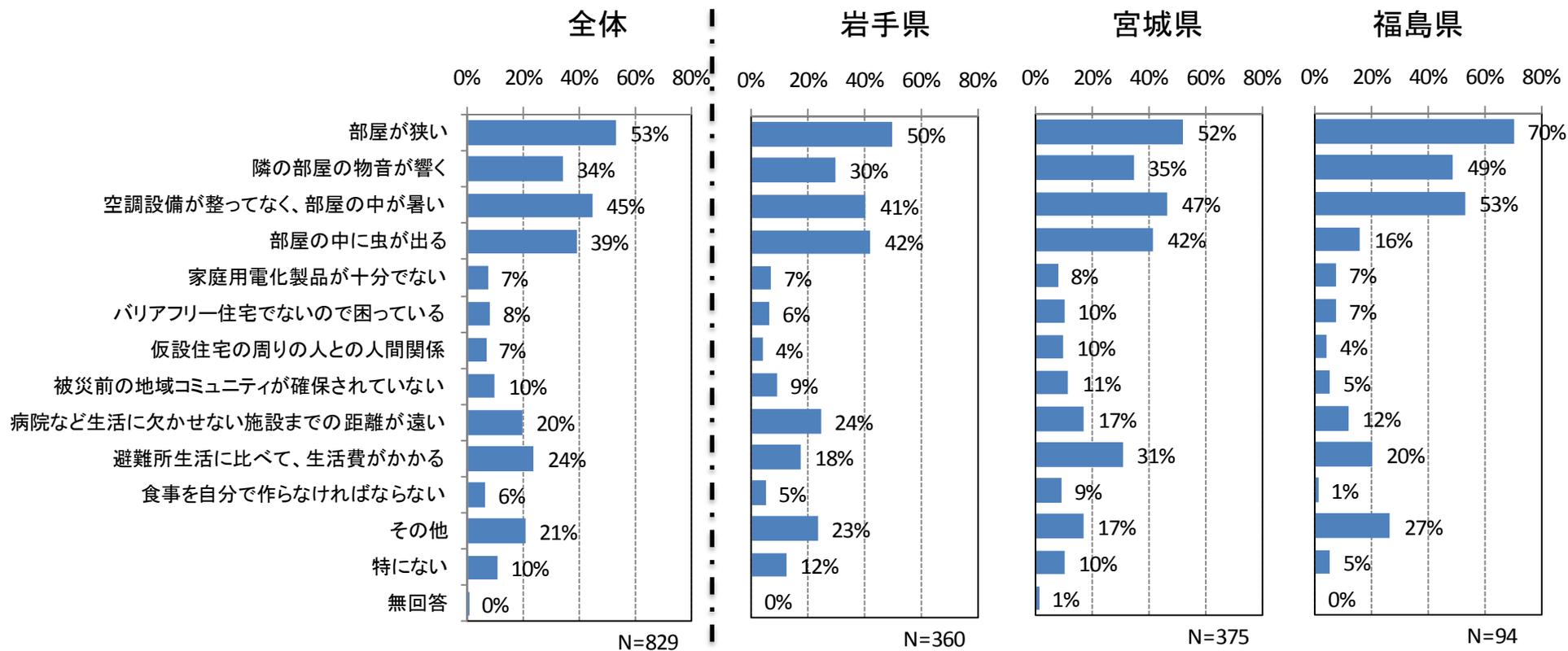
- 仮設住宅での生活期間について調査した。3県ともに「31～60日」が最も多い。
- 次いで、「61日以上」から「15～30日」と続いている。



問2. 2 仮設住宅での生活について【困っていること】

仮設住宅にお住まいの人が回答 N=829

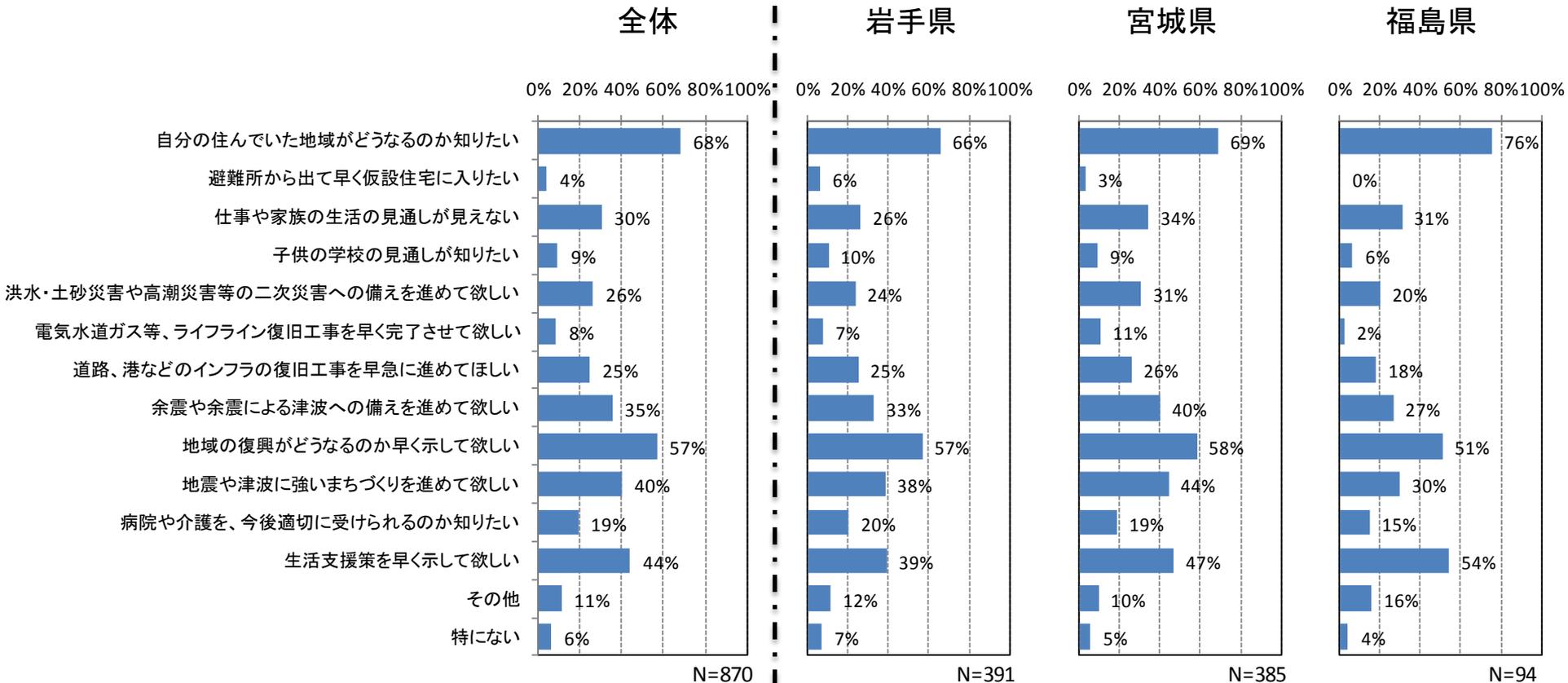
- 仮設住宅での生活環境で困っていることについて調査した。3県ともに「部屋が狭い」が一番多く、次いで、「空調設備が整ってなく、部屋の中が暑い」「部屋の中に虫が出る」が続く。



問3. 今、気になっていること

全員が回答 N=870

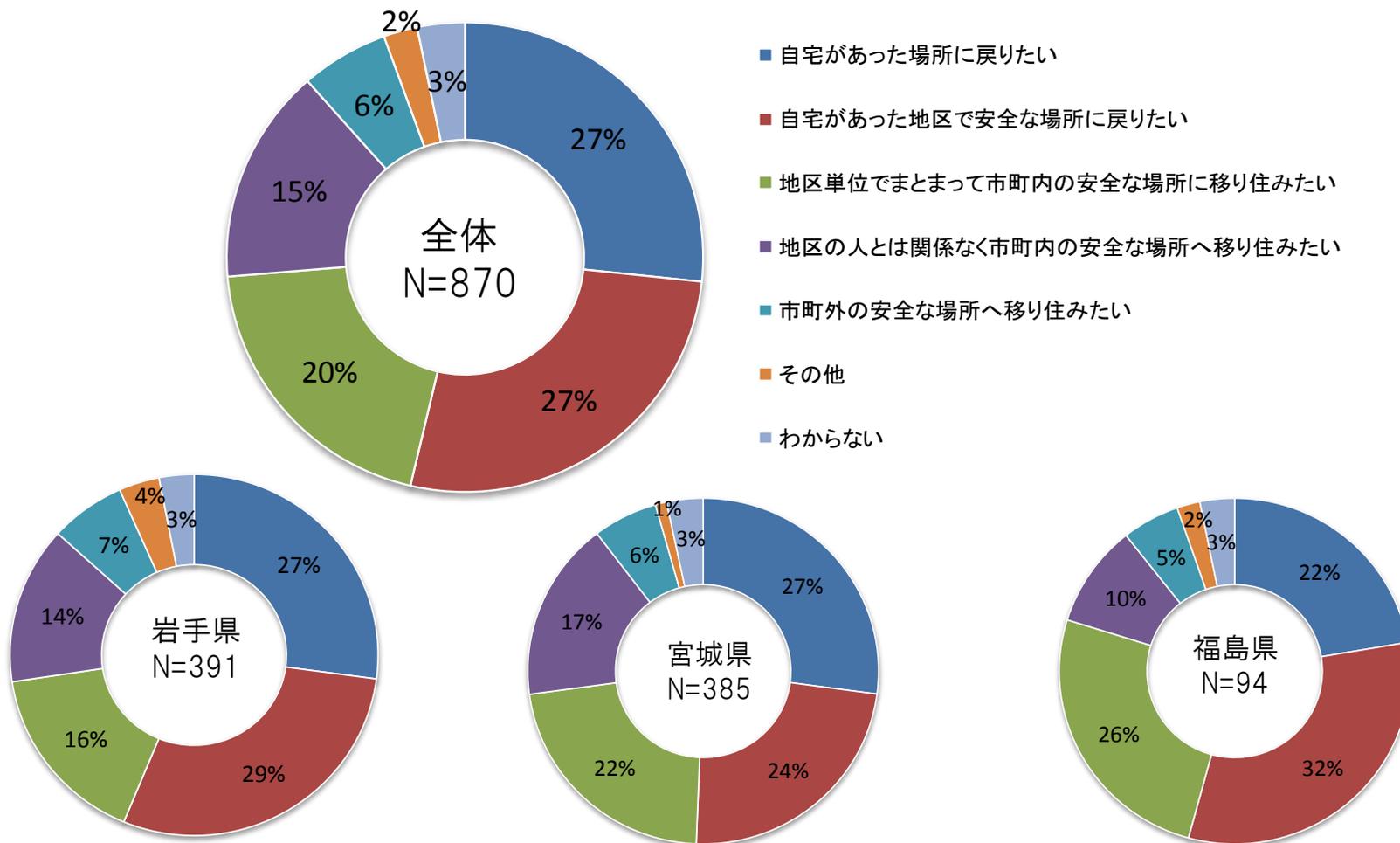
- 今、調査対象者の気になっていることを調査した。3県ともに「自分の住んでいた地域がどうなるのか知りたい」が多く、次いで、「地域の復興がどうなるのか早く示して欲しい」「生活支援策を早く示して欲しい」「地震や津波に強いまちづくりを進めて欲しい」と続く。



問4. これからのまちづくりについて

全員が回答 N=870

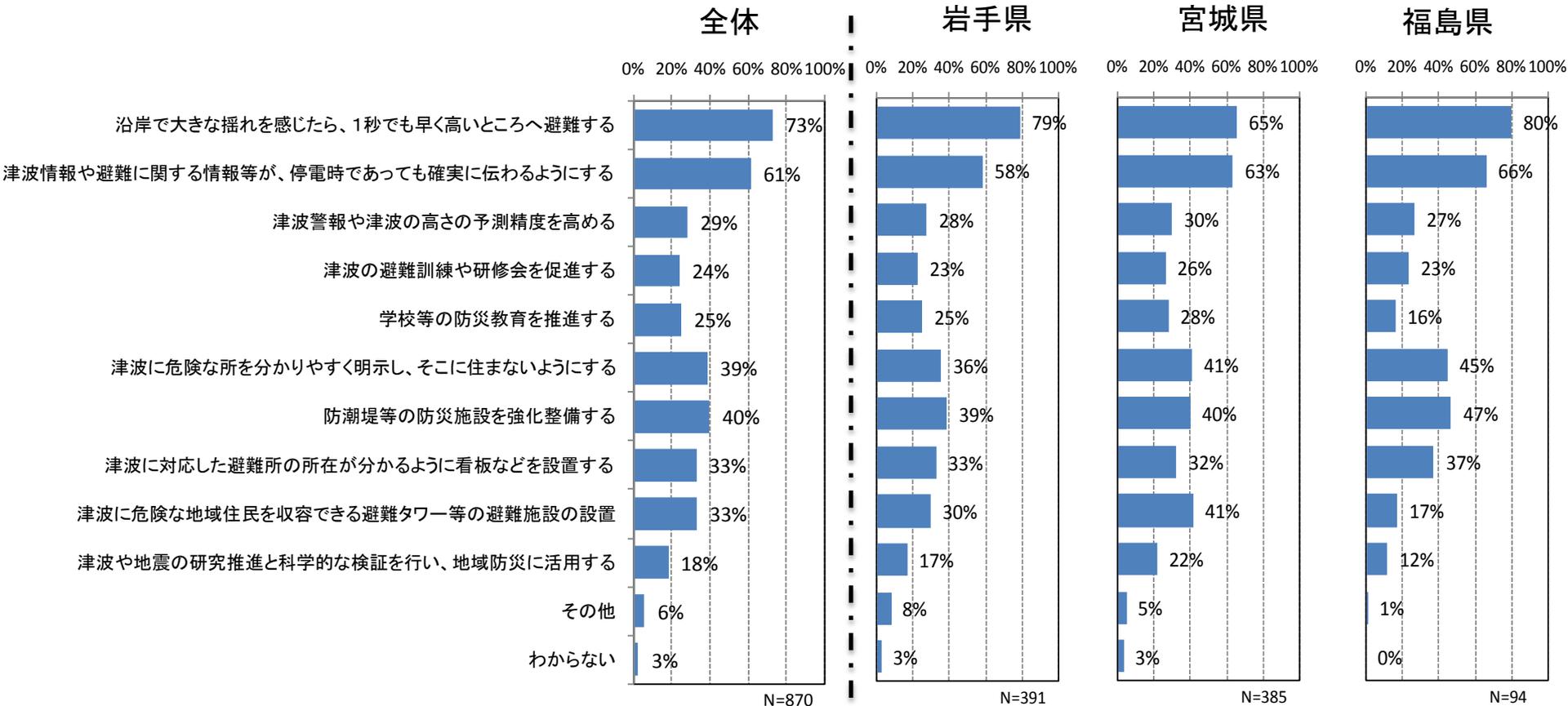
- これからのまちづくりに関する考えを調査した。傾向的に「自宅があった地区で安全な場所に戻りたい」と「自宅があった場所に戻りたい」は均衡している。福島県は、「地区単位でまとまって市町内の安全な場所に移り住みたい」も比較的が多い。



問5. 津波から地域を守るために必要なこと

全員が回答 N=870

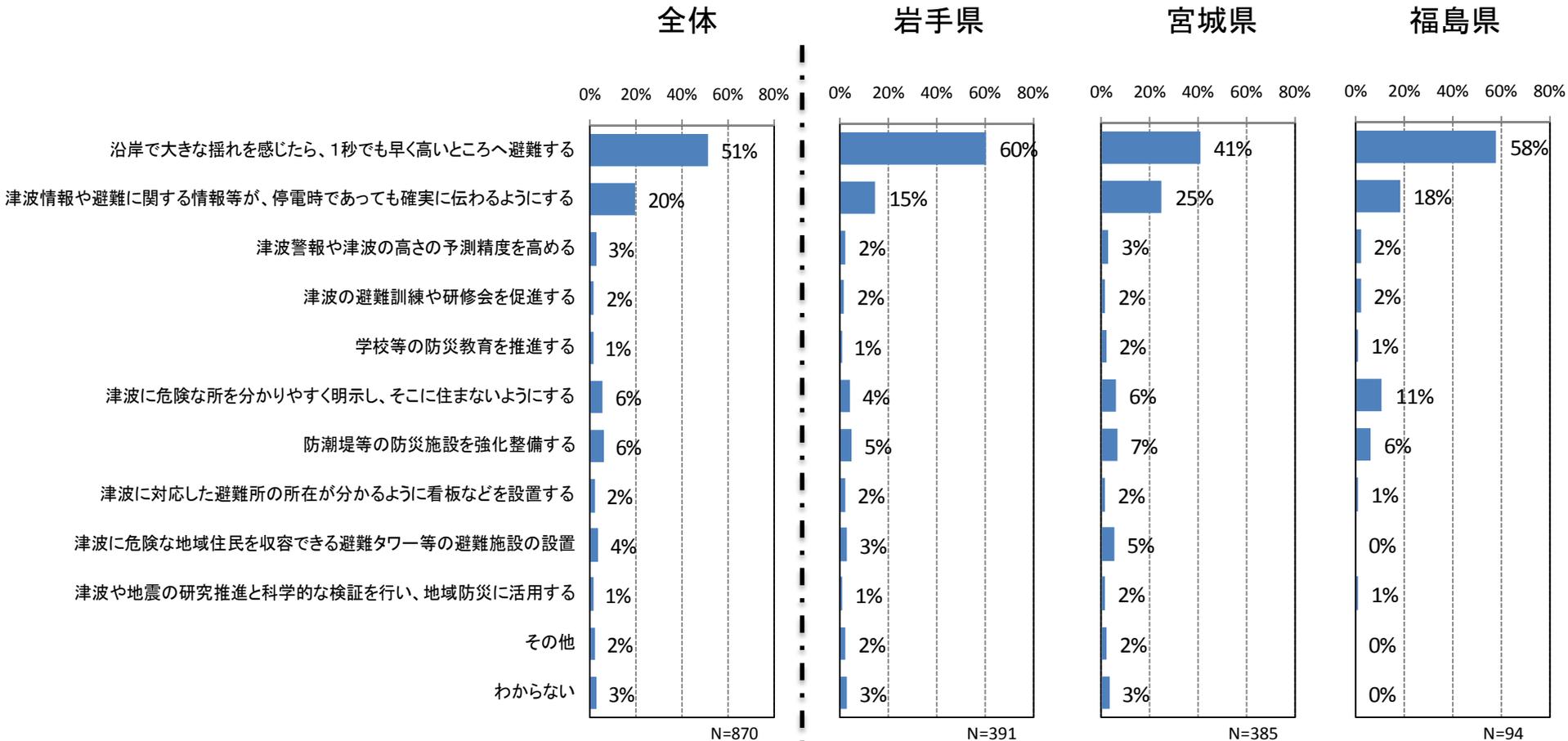
- 津波から地域を守るために必要なことを調査した。3県とも「沿岸で大きな揺れを感じたら、1秒でも早く高いところへ避難する」「津波情報等が停電であっても確実に伝わるようにする」「防潮堤等の防災施設を強化する」「津波危険箇所の明示とそこに住まないようにする」と続いている。



問5. 津波から地域を守るために必要なこと【最も重要なもの】

全員が回答 N=870

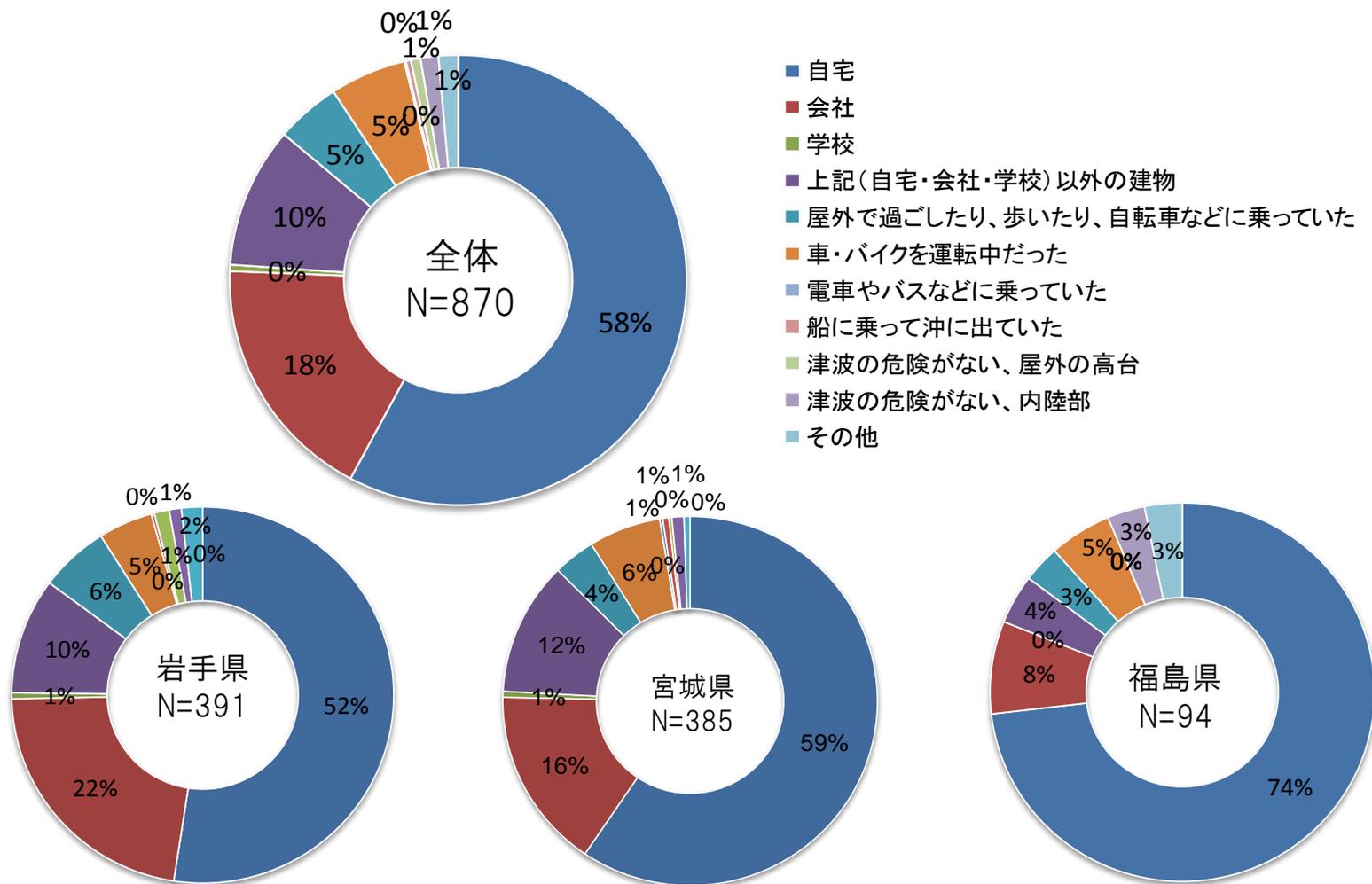
- 津波から地域を守るために必要なことの中でも最も重要なものをひとつ調査した。3県ともに「沿岸で大きな揺れを感じたら、1秒でも早く高いところへ避難する」が多く、次に「津波情報等が停電であっても確実に伝わるようにする」と続いている。



問6. 地震が発生した時にいた場所

全員が回答 N=870

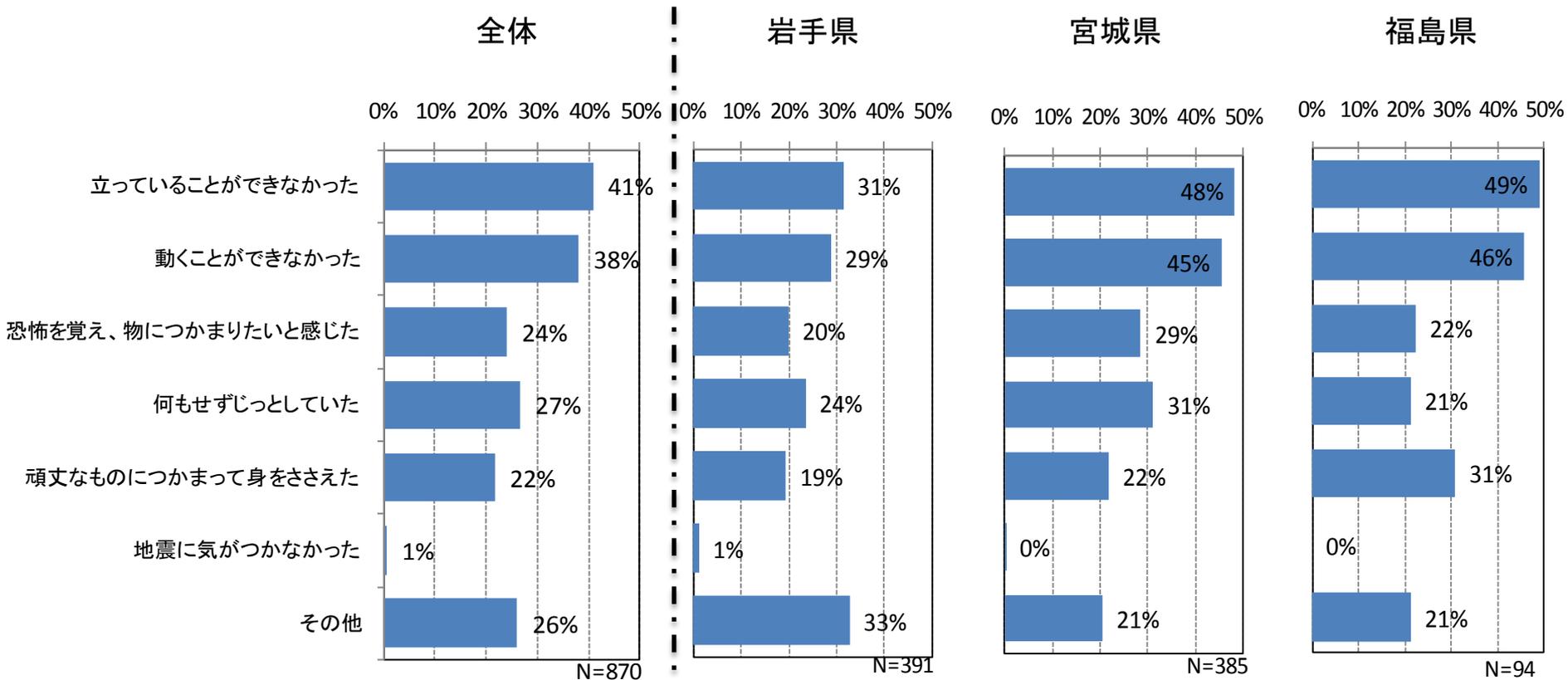
- 地震が発生した時(3月11日午後2時46分頃)に居た場所を調査した。3県ともに「自宅」にいた人が半数以上となっている。



問7. 地震が発生してから揺れている間の行動・意識

全員が回答 N=870

- 地震が発生してから揺れている間に感じたことと行ったことを調査した。3県ともに「立っていることができなかった」「動くことができなかった」が多い。その他の意見として、「何もせずじっとしていた」と続いている。



問8. 地震の揺れがおさまってからの行動

全員が回答 N=870

- 地震の揺れがおさまってからの行動について調査した。3県ともに「避難した」が半数以上となっている。さらに「避難の準備をした」「家族や知人の安全を確認した」「外に出て様子を見た」が多い結果となっている。

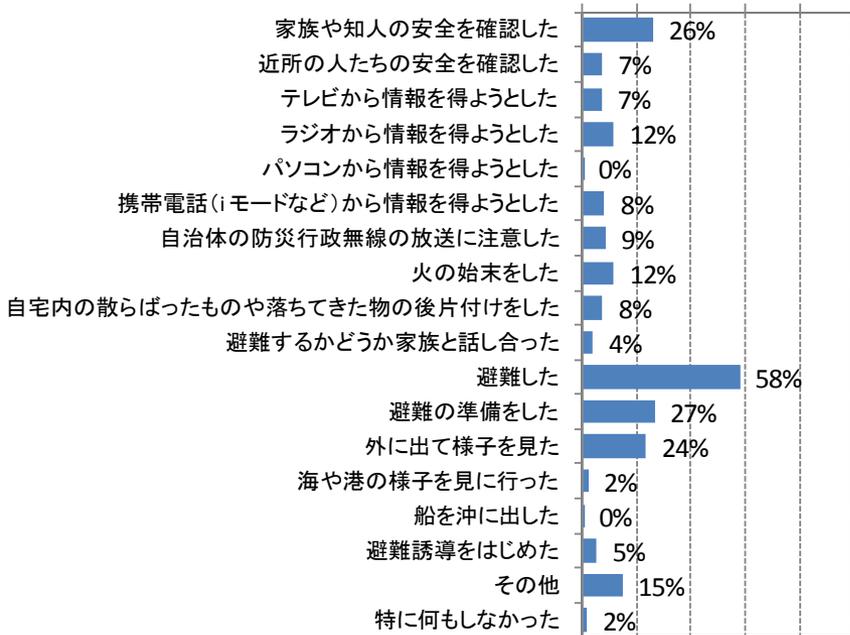
全体

岩手県

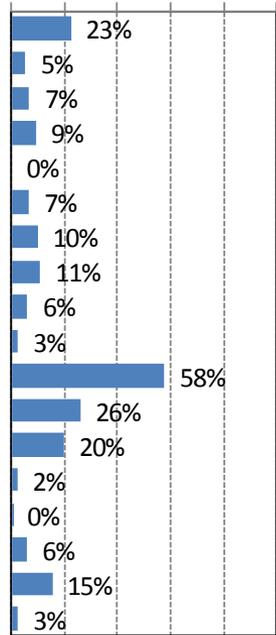
宮城県

福島県

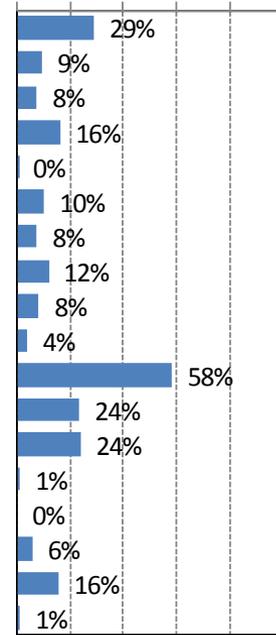
0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%



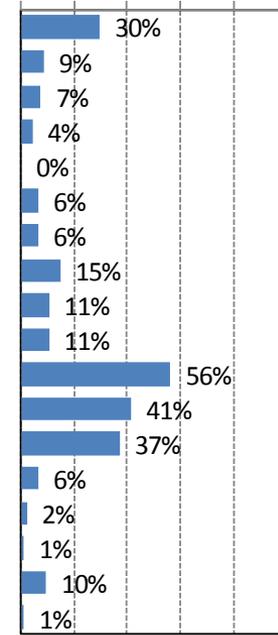
N=870



N=391



N=385

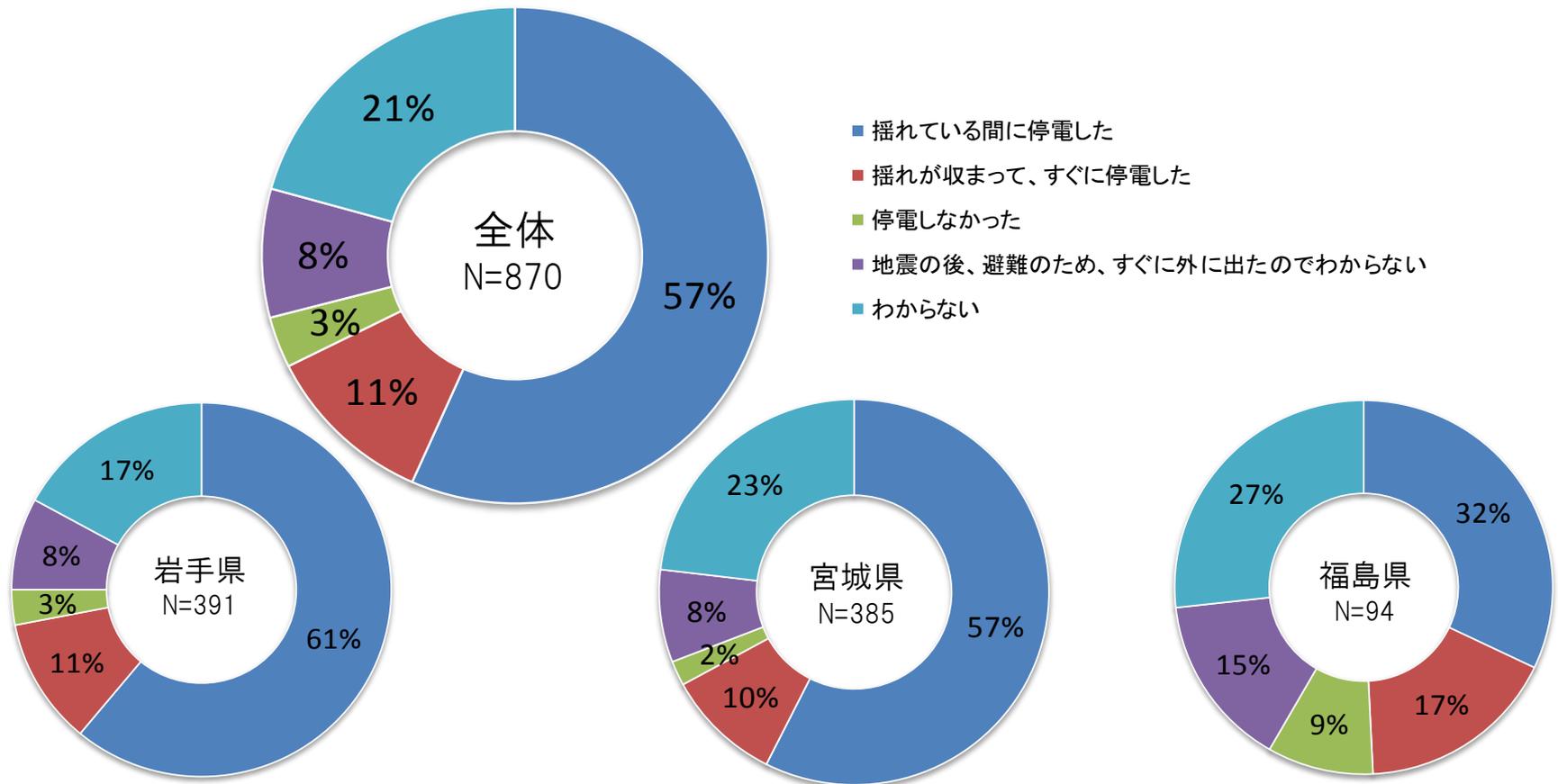


N=94

問9. 地震の揺れによる停電

全員が回答 N=870

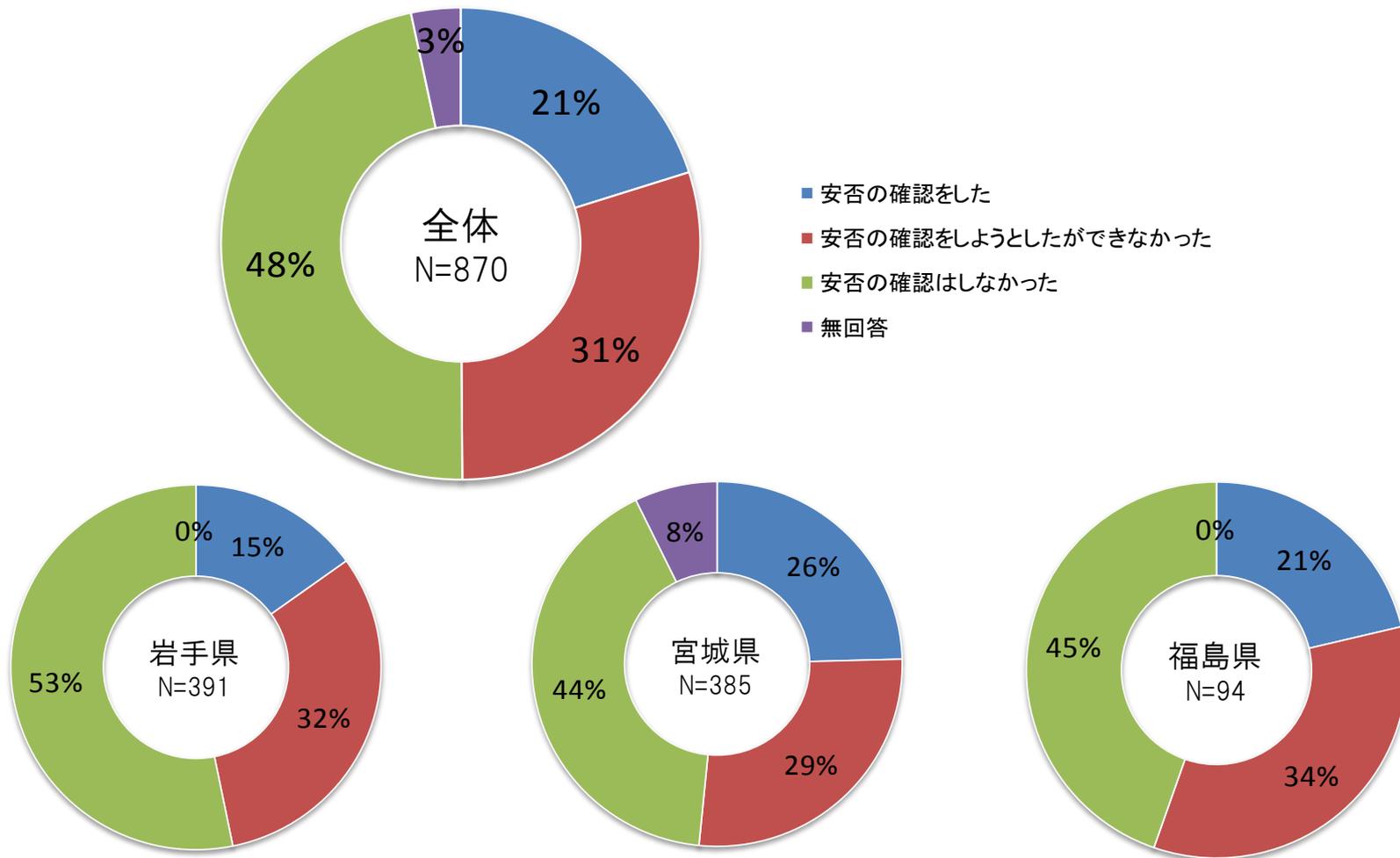
- 地震が発生した後、自身がいた場所で停電したかを調査した。岩手県・宮城県は6割近くが「揺れている間に停電した」となった。
- 福島県は、「揺れている間に停電した」は約32%であるが「揺れが収まって停電」を含めると約49%になる。
- 「停電しなかった」との回答は、僅か約2~9%であった。



問10. 安否の確認(発信)

全員が回答 N=870

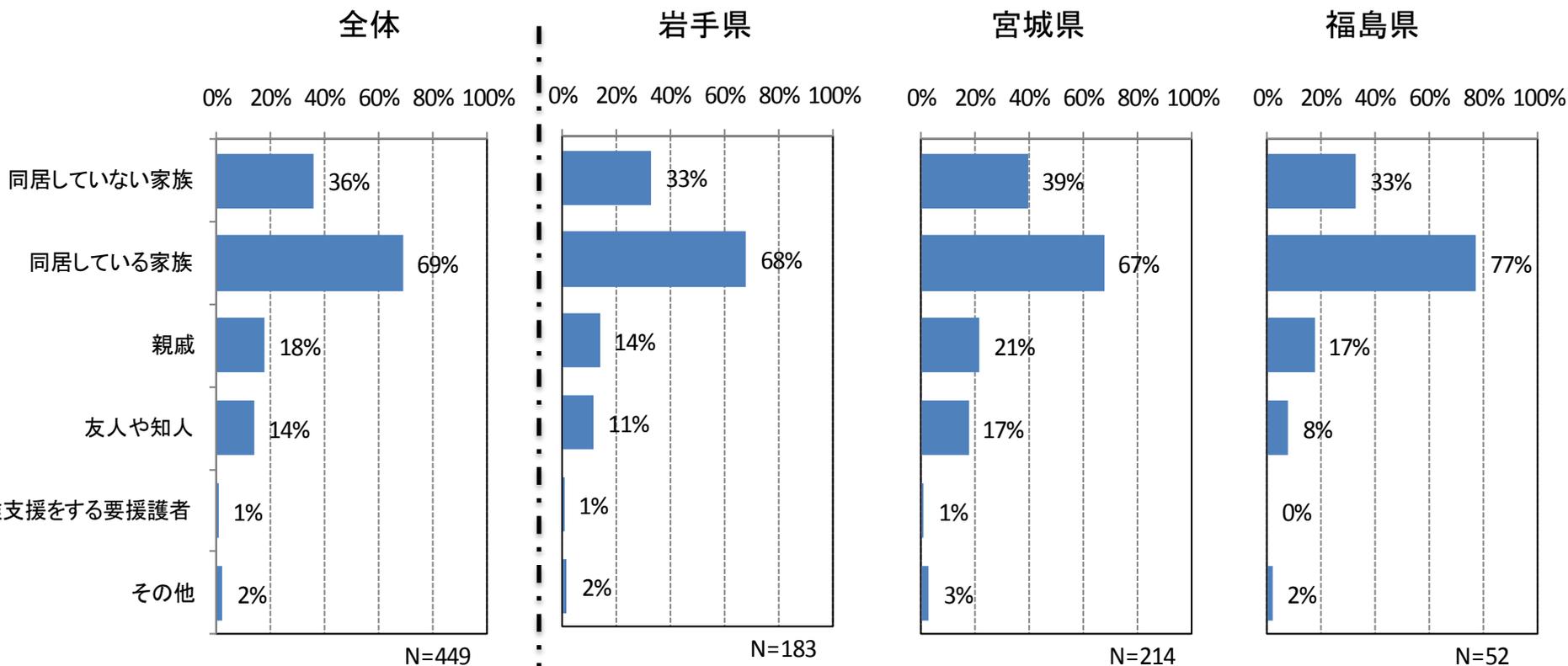
- 津波が来るまでの間で電話やメールによる家族や知人の安否の確認の状況を調査した。3県とも「安否の確認をした」「安否の確認をしようとしたができなかった」が約50%前後であった。



付問10.1 安否の確認をした相手

問10で「1.安否の確認をした」「2.安否の確認をしようとしたが出来なかった」を選択した人が回答 N=449

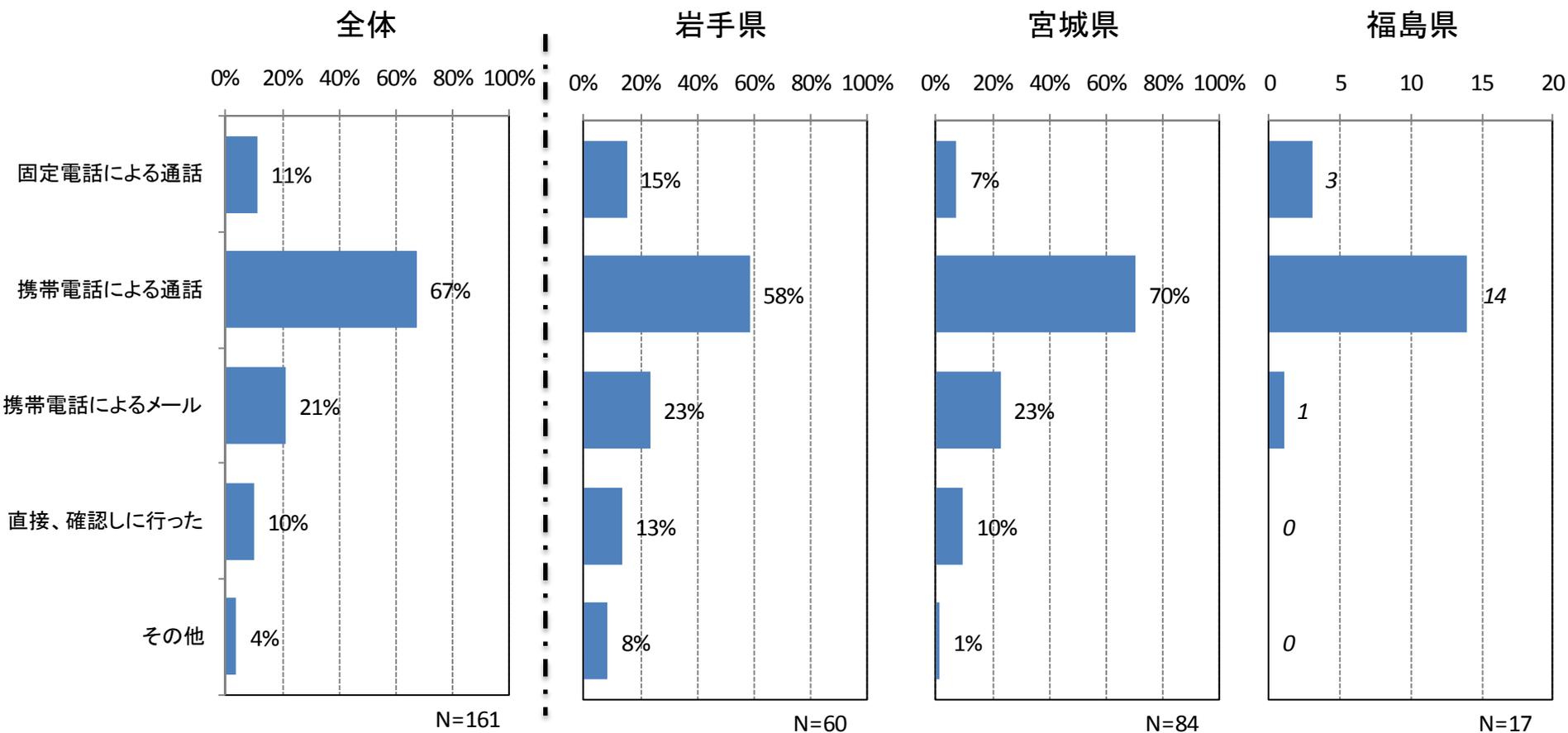
- 問10で「安否の確認をした」、「安否の確認をしようとしたが出来なかった」と回答した方に対して、安否の確認をした相手を複数選択で調査した。全体では、「同居している家族」が約69%で「同居していない家族」が約36%と多くが家族への安否確認となっていることが分かる。



付問10. 1-1 安否の確認をした手段【同居していない家族】

付問10.1で「1.同居していない家族」を選択した人が回答 N=161

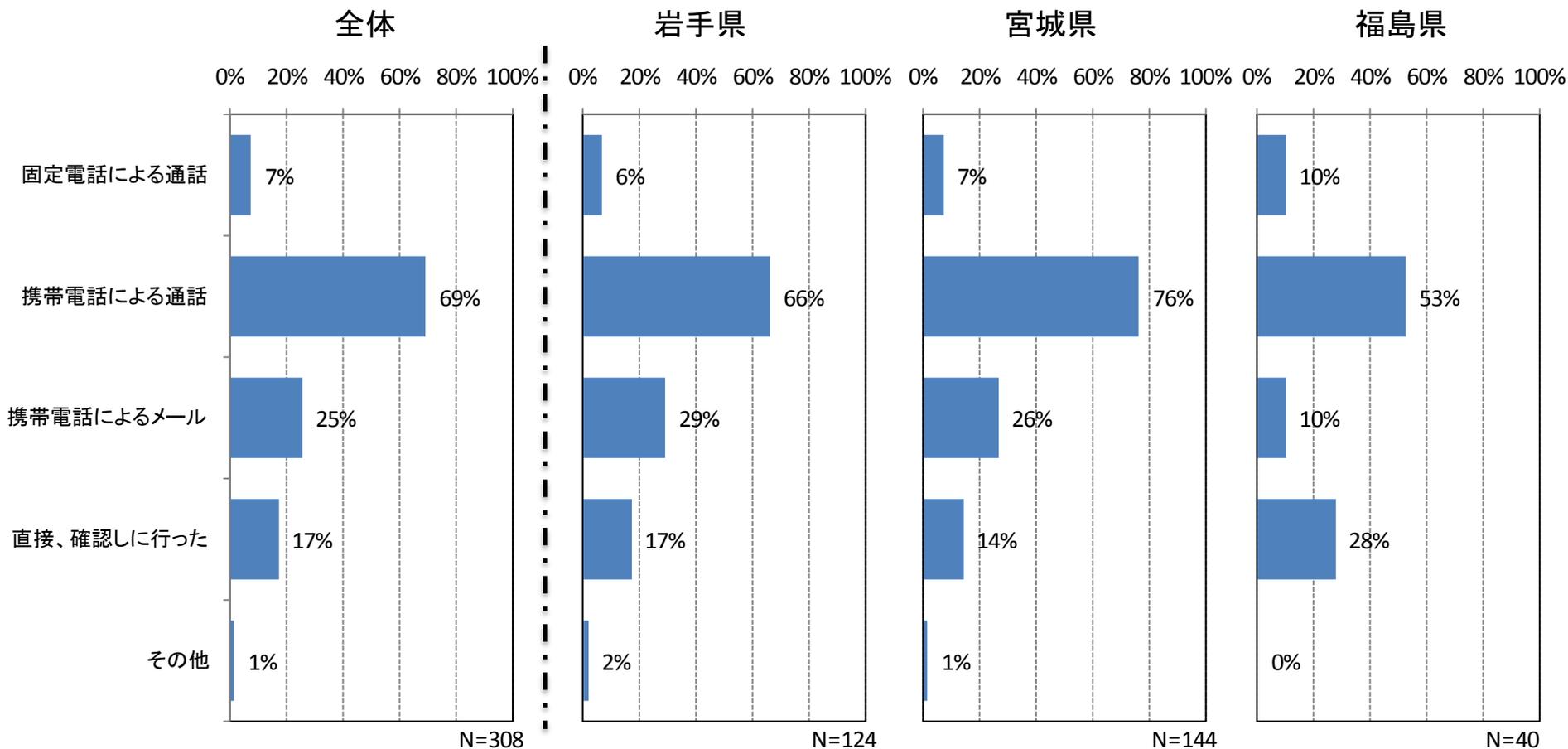
- 「1.同居していない家族」に安否の確認をしたと回答した方に、安否確認の手段を調査した。「携帯電話による通話」が約58%~70%に及んでいる。



付問10. 1-2 安否の確認をした手段【同居している家族】

付問10.1で「2.同居している家族」を選択した人が回答 N=308

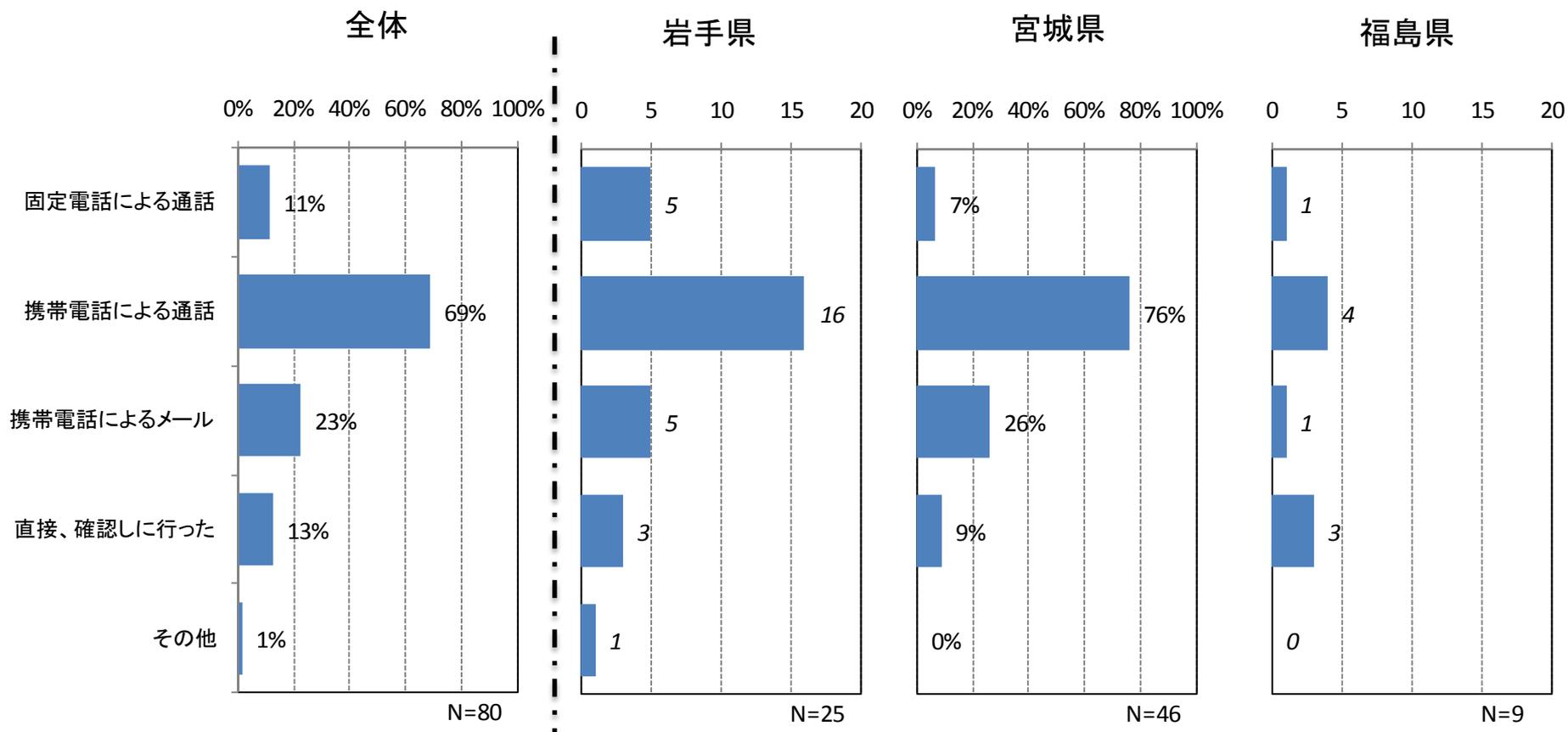
- 「2.同居している家族」に安否の確認をしたと回答した方に、安否確認の手段を調査した。「携帯電話による通話」が、約53%~76%となった。



付問10. 1-3 安否の確認をした手段【親戚】

付問10.1で「3.親戚」を選択した人が回答 N=80

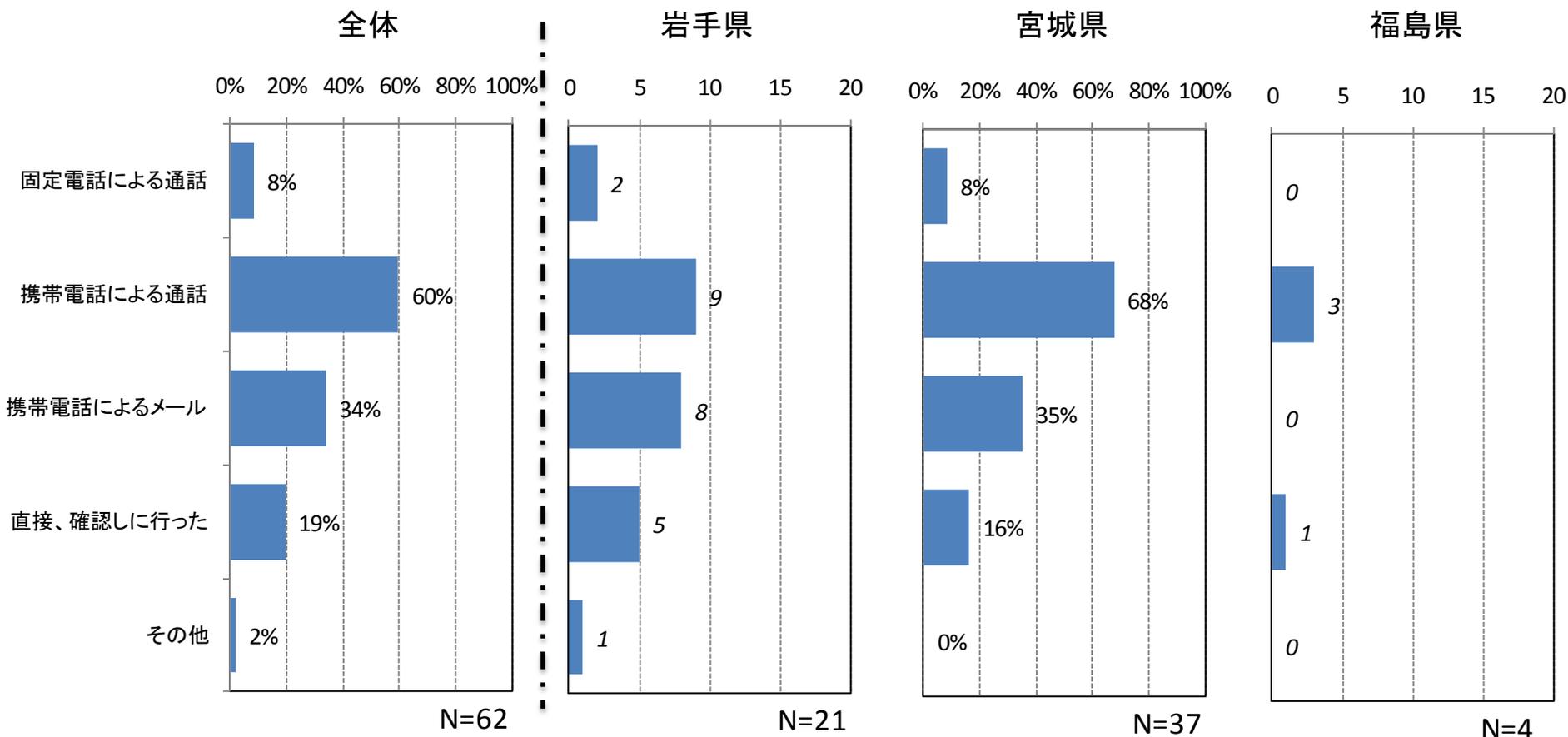
- 「3.親戚」に安否確認をしたと回答した方に、安否確認の手段を調査した。「携帯電話による通話」が、全体の約69%となった。



付問10. 1-4 安否の確認をした手段【友達・知人】

付問10.1で「4.友達や知人」を選択した人が回答 N=62

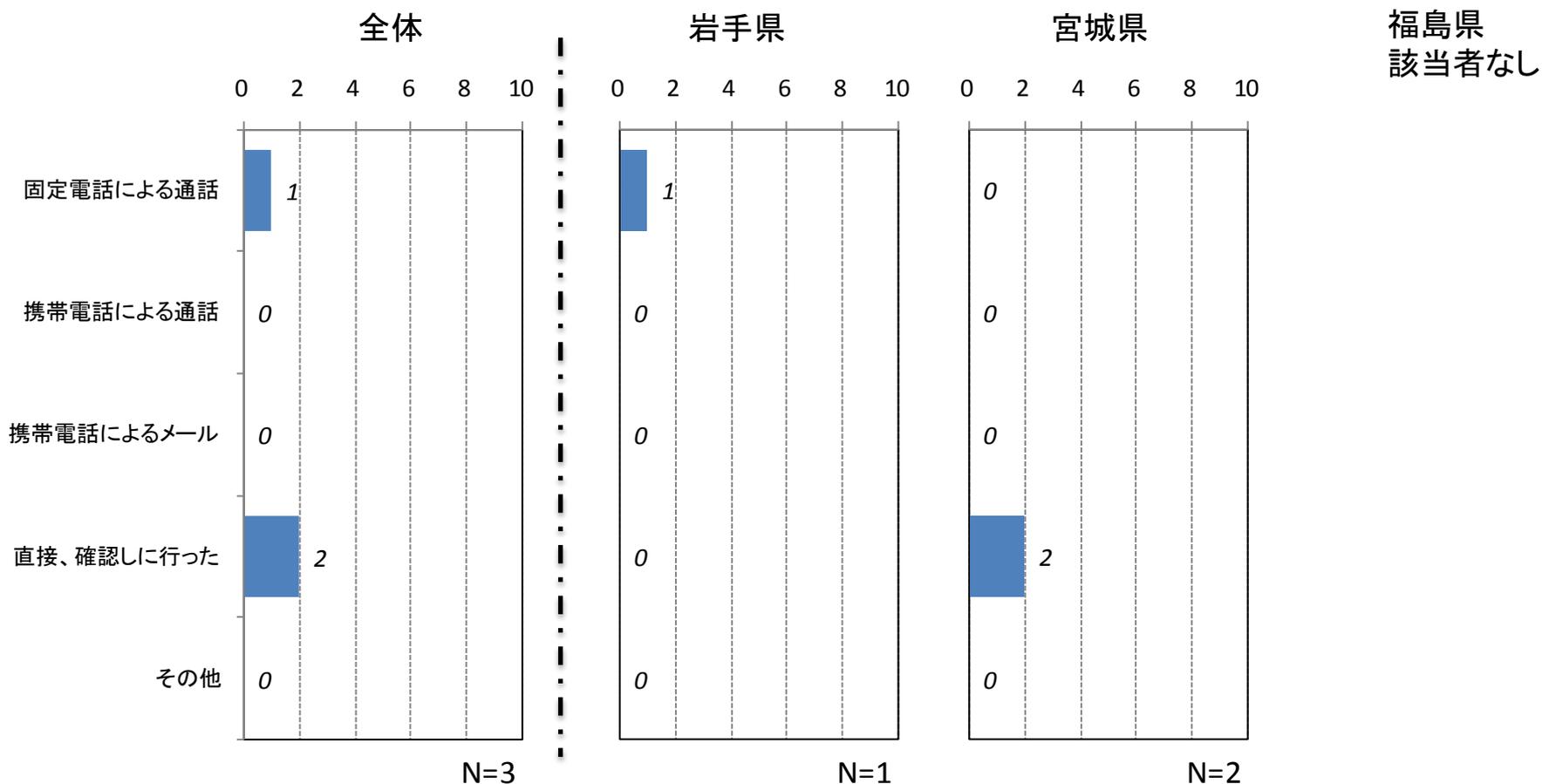
- 「4.友達や知人」に対して安否確認をしたと回答した方に、安否確認の手段を調査した。3県ともに「携帯電話による通話」が多く、次いで「携帯電話によるメール」になった。



付問10. 1-5 安否の確認をした手段【要援護者】

付問10.1で「5.避難支援をする要援護者」を選択した人が回答 N=3

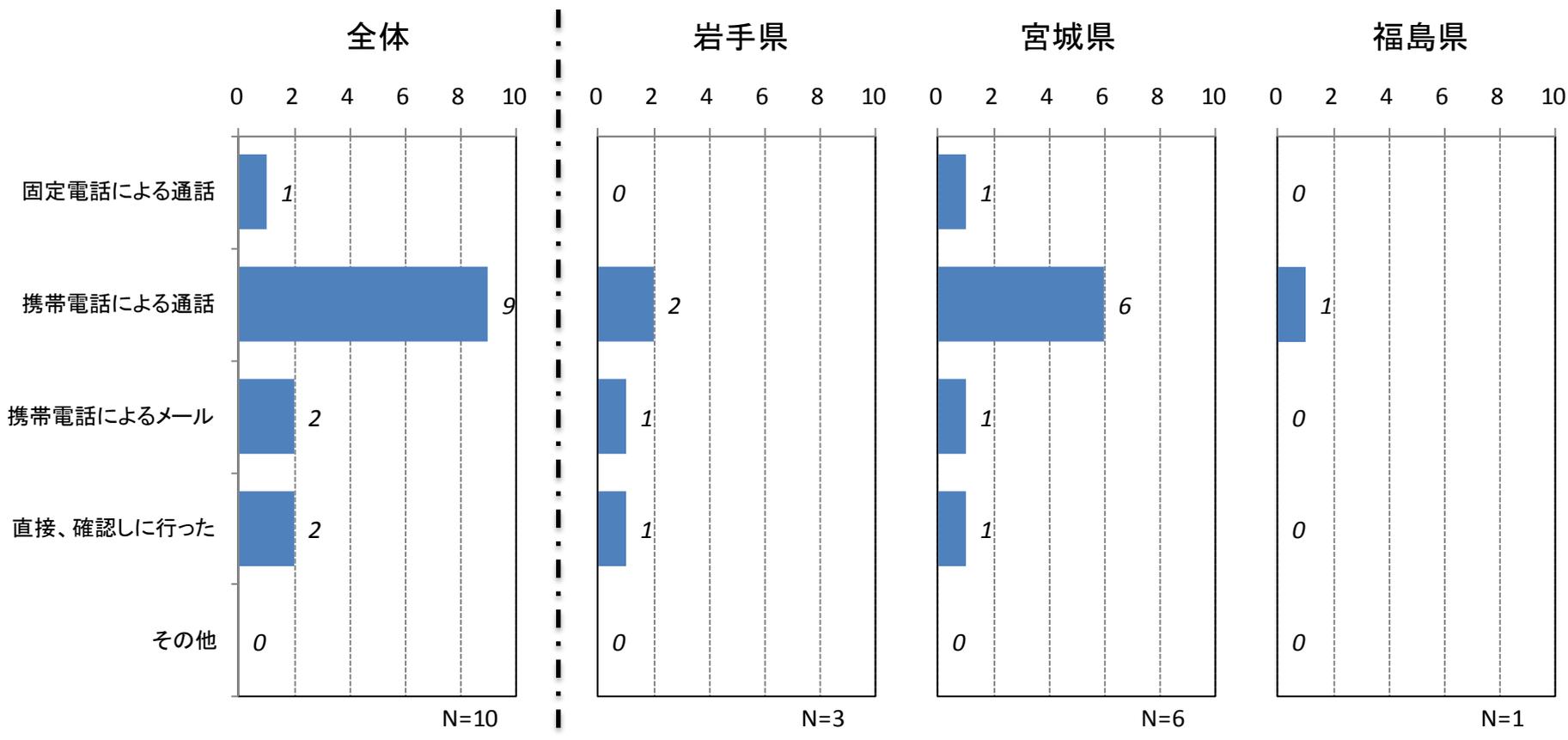
- 「避難支援をする要援護者」への安否確認をしたと回答した方に、安否確認の手段を調査した。



付問10. 1-6 安否の確認をした手段【その他】

付問10.1で「6.その他」を選択した人が回答 N=10

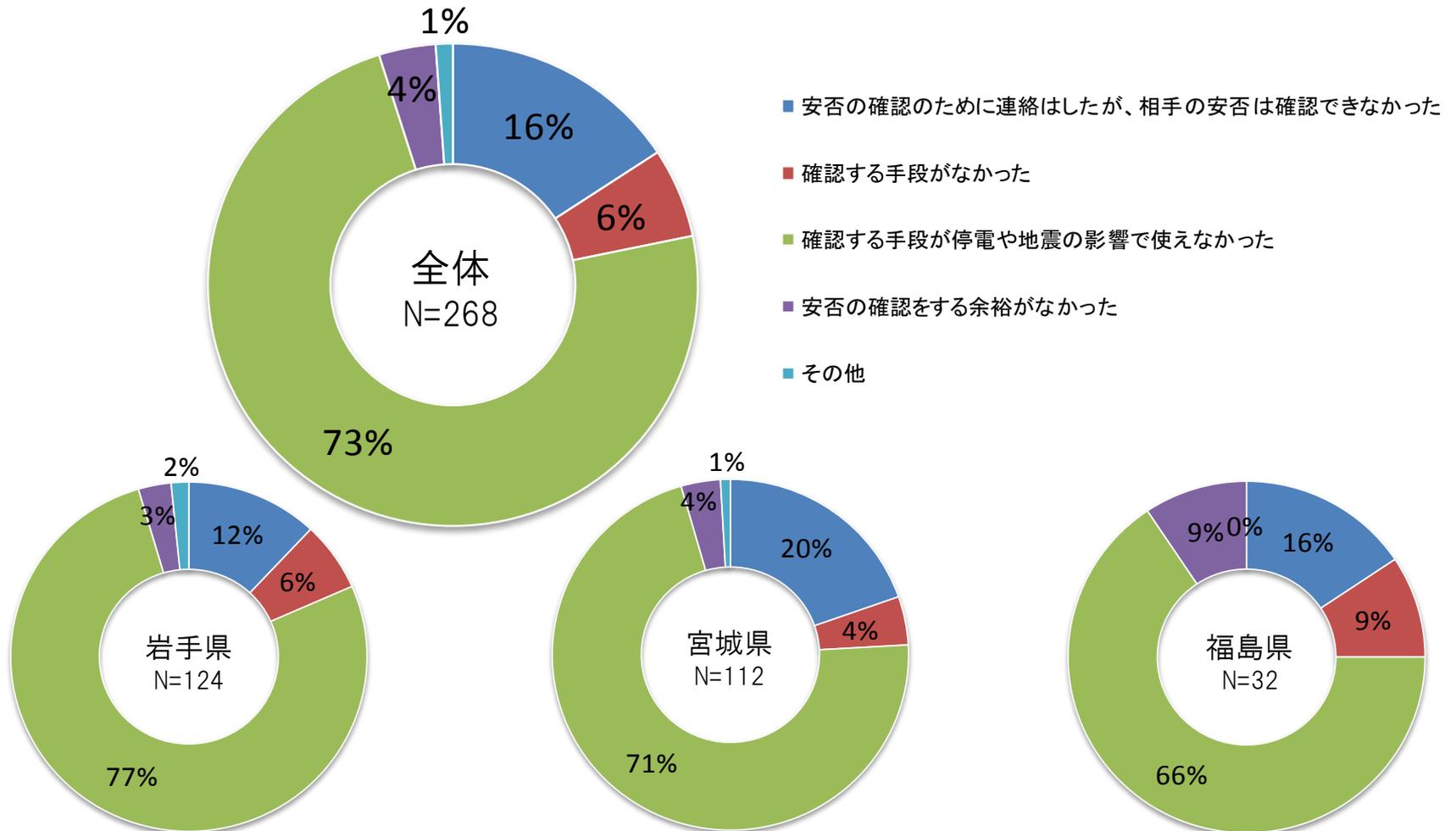
- 「6.その他」と回答した方は、学校や会社などに安否確認をしている。安否確認の手段は、「携帯電話による通話」が多い。



付問10. 2 安否の確認をしようとしたが出来なかった理由

問10で「2.安否の確認をしようとしたが出来なかった」を選択した人が回答 N=268

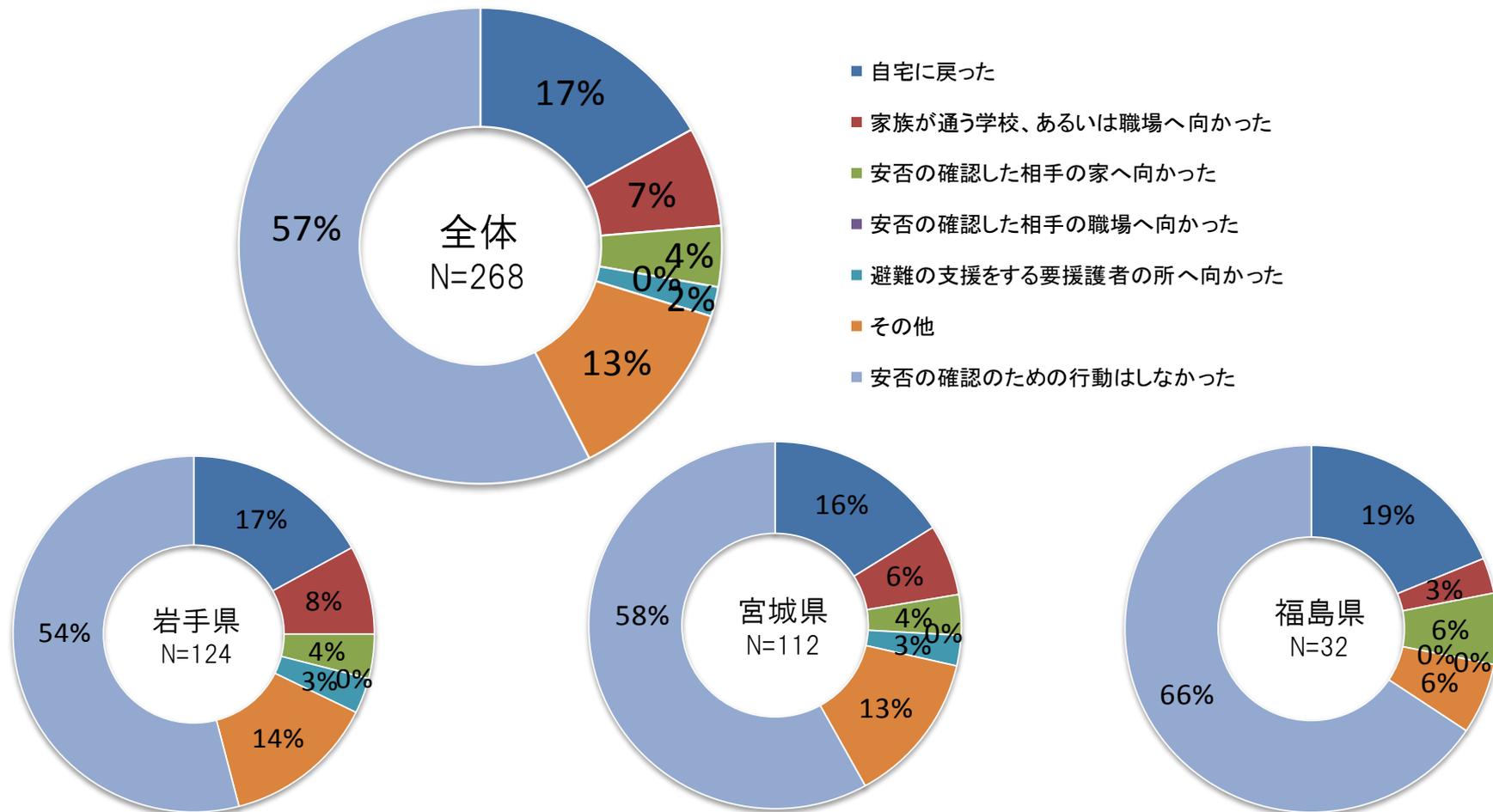
- 「2.安否の確認をしようとしたが出来なかった」と回答した方に、その理由を調査した。3県ともに「確認する手段が停電や地震の影響で使えなかった」が70%前後となっている。



付問10.3 安否の確認が出来なかった後の行動

問10で「2.安否の確認をしようとしたが出来なかった」を選択した人が回答 N=268

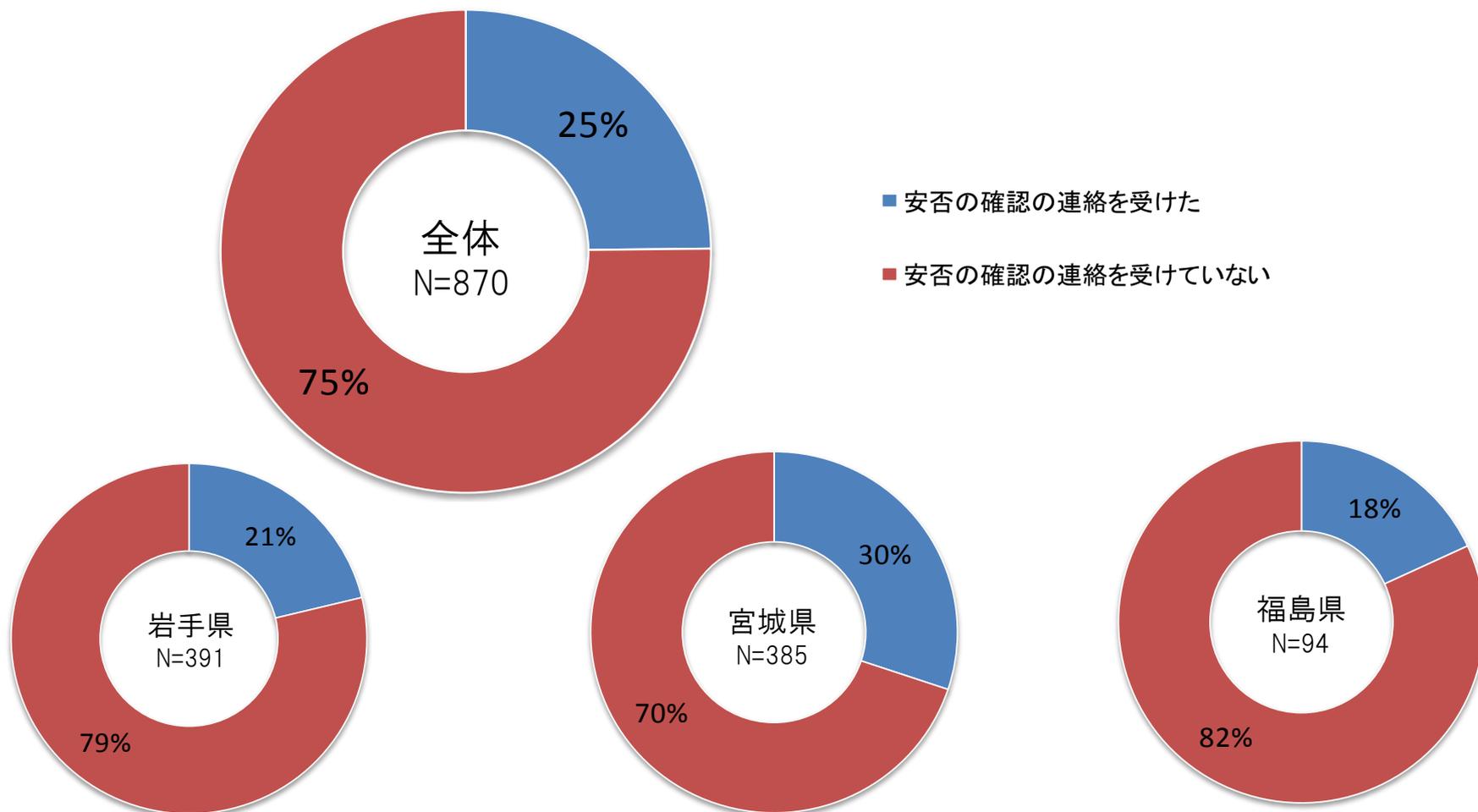
- 「2.安否の確認をしようとしたが出来なかった」と回答した方に、さらに安否確認をするための行動を調査した。さらなる安否確認を行っていないが半数強になったが、30%前後は、安否確認のため自宅や職場などへ向かっている。



問11. 安否の確認(受信)

全員が回答 N=870

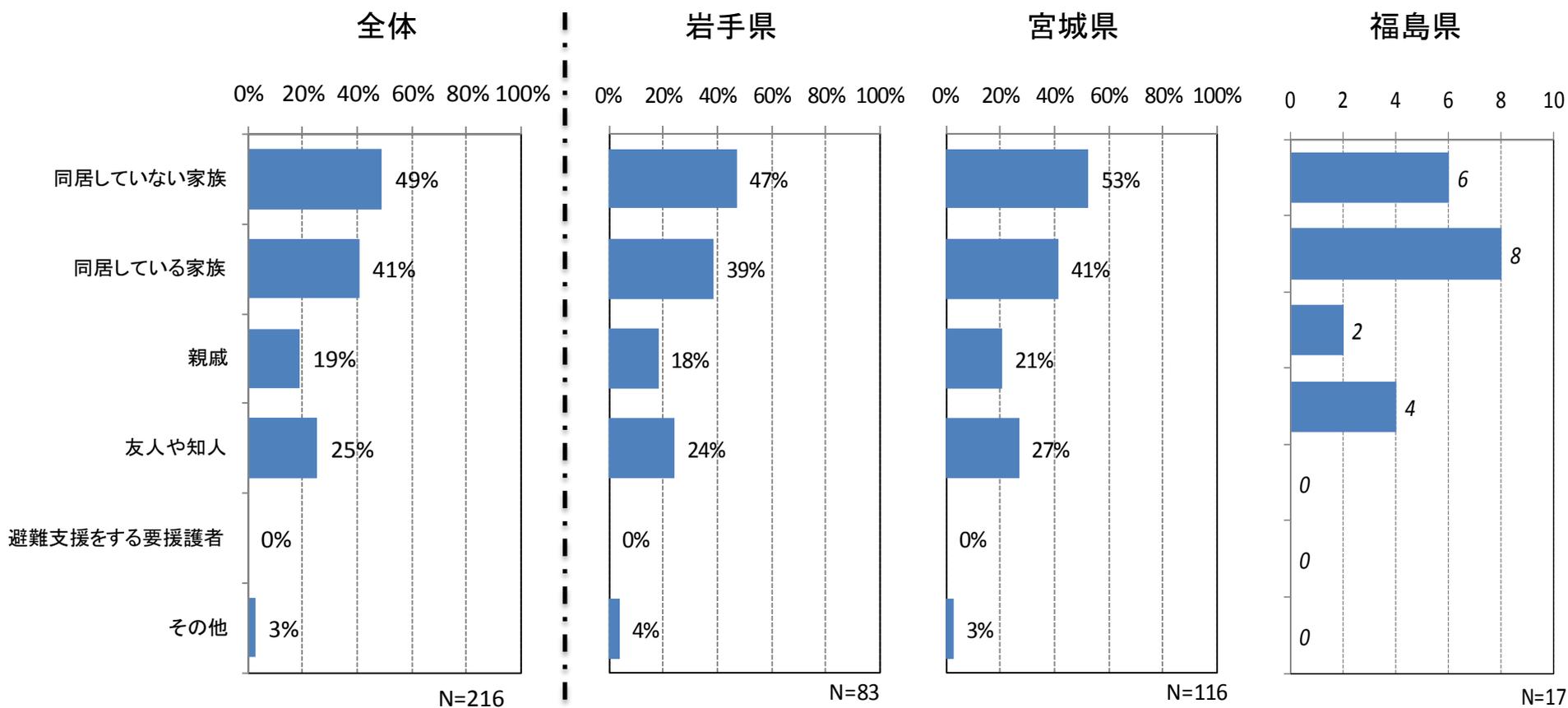
- 地震発生直後、もしくは揺れがおさまってから津波が来るまでの間に安否を確認する連絡を受けていない方は、岩手県で約79%、宮城県で約70%、福島県で約82%である。



付問11.1 安否確認の連絡をしてきた相手

問11で「1.安否の確認の連絡を受けた」を選択した人が回答 N=216

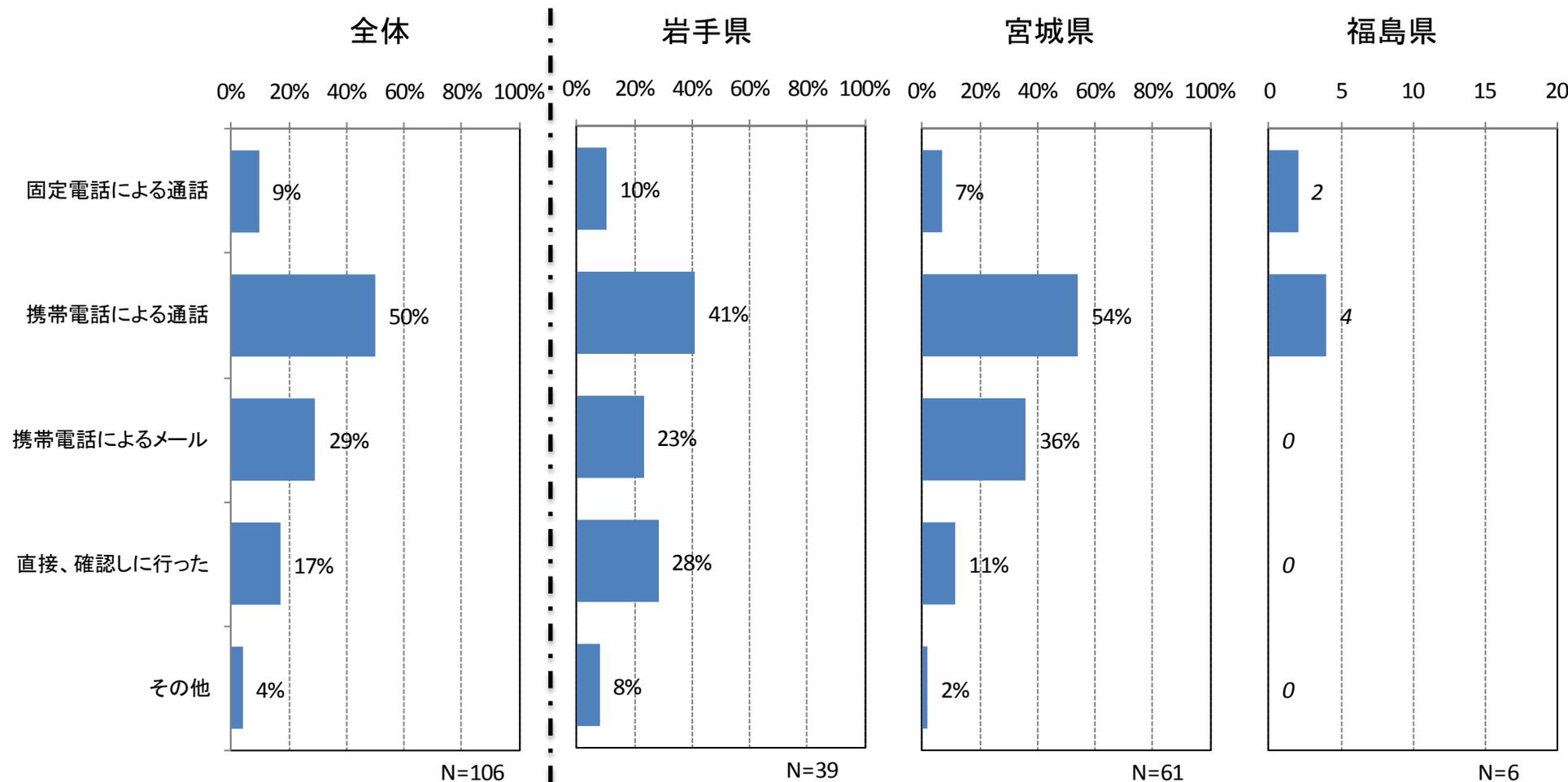
- 津波が来るまでの間で「安否の確認の連絡を受けた」と回答した人に、安否を確認してきた相手を調査した。岩手県・宮城県は、「同居していない家族」が最も多く、次に「同居している家族」と回答した人が多い。



付問11.1-1 安否確認の手段【同居していない家族】

付問11.1で「1.同居していない家族」を選択した人が回答 N=106

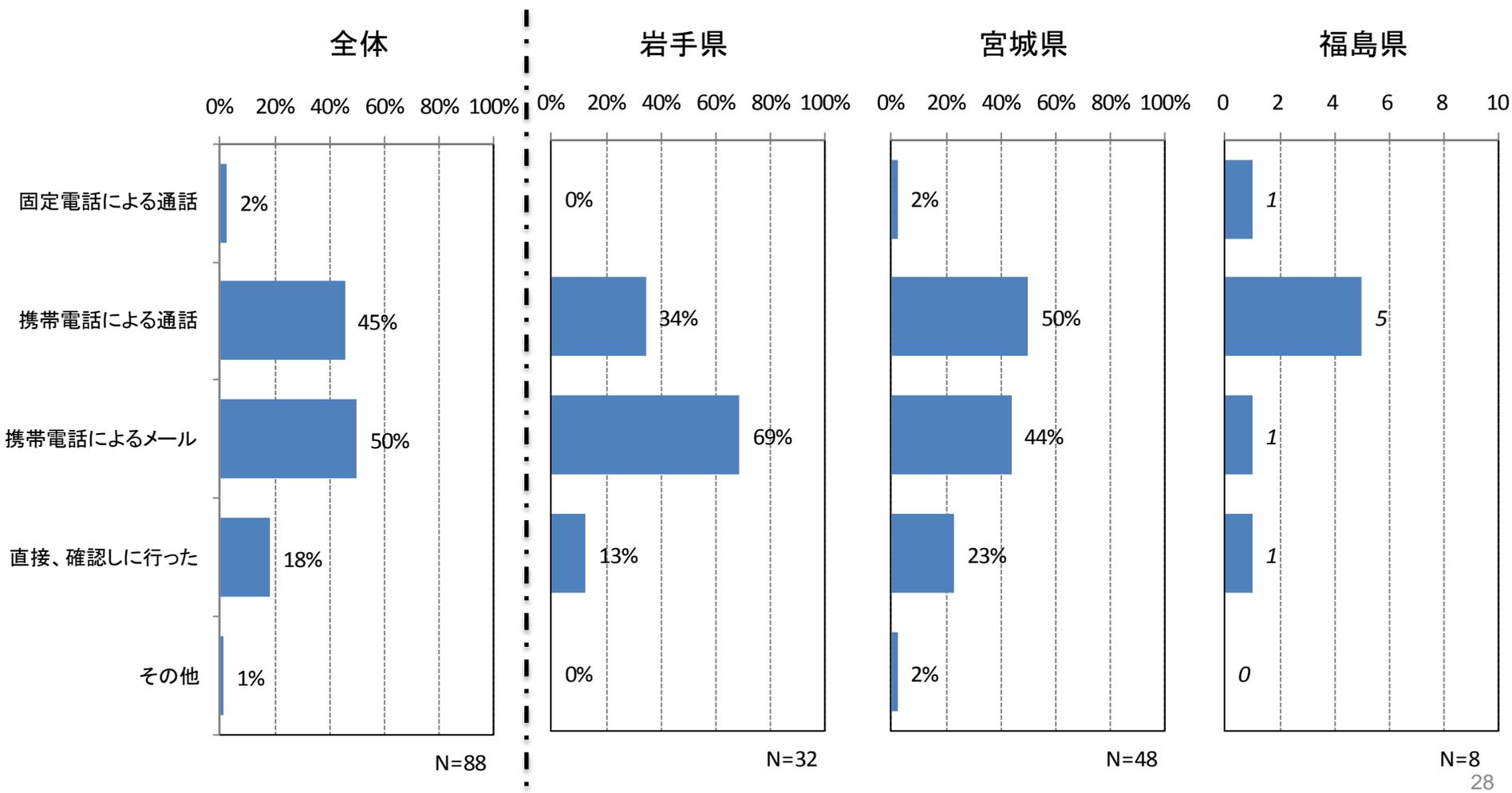
- 「同居していない家族」から安否確認の連絡を受けた人は、「携帯電話による通話やメール」による手段となった。岩手県は「直接、確認しに行った」が2番目に多い。



付問11. 1-2 安否確認の手段【同居している家族】

付問11.1で「2.同居している家族」を選択した人が回答 N=88

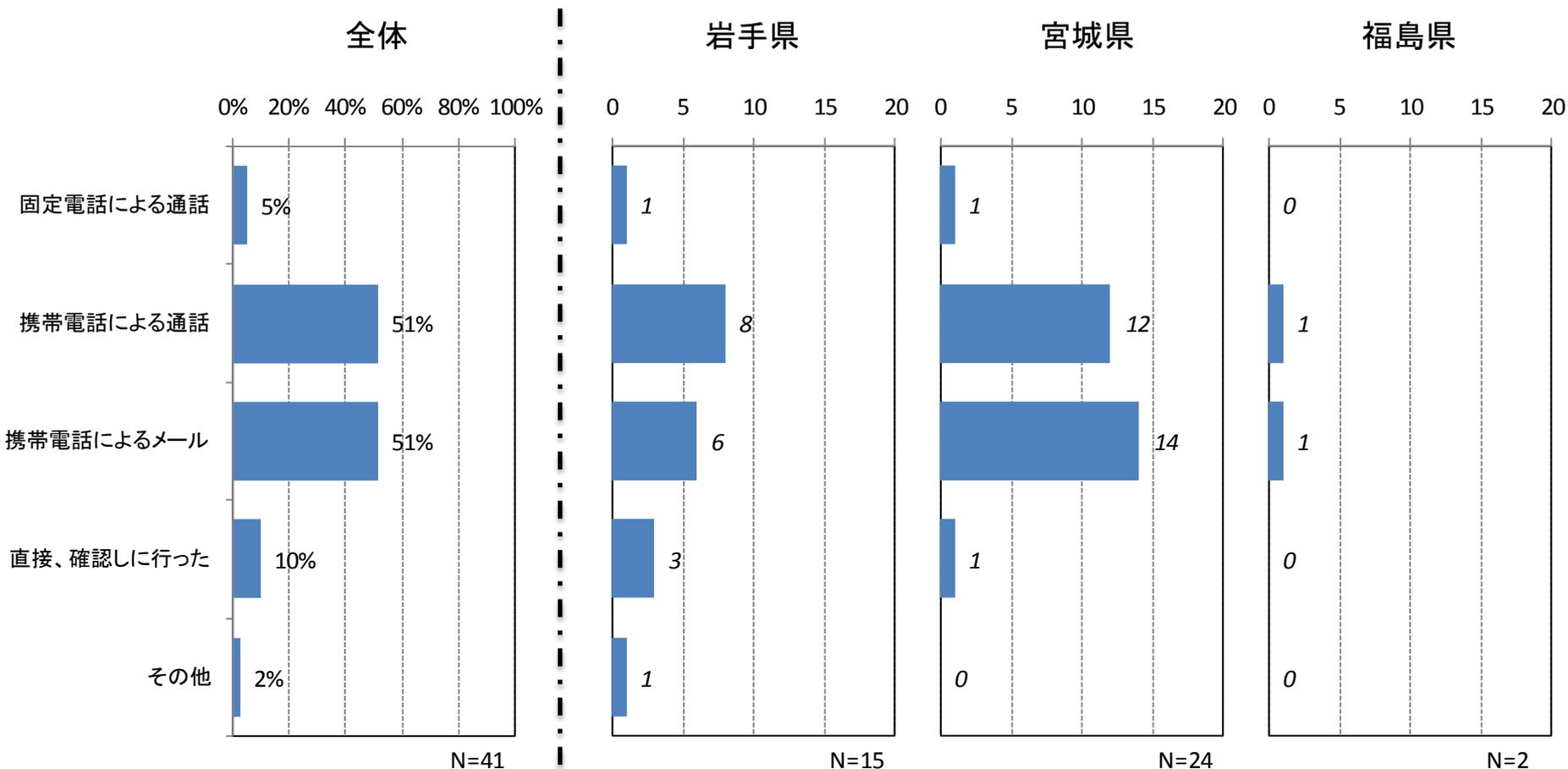
- 「同居している家族」から安否確認の連絡を受けた人は、「携帯電話による通話やメール」によるものが多い。



付問11. 1-3 安否確認の手段【親戚】

付問11.1で「3.親戚」を選択した人が回答 N=41

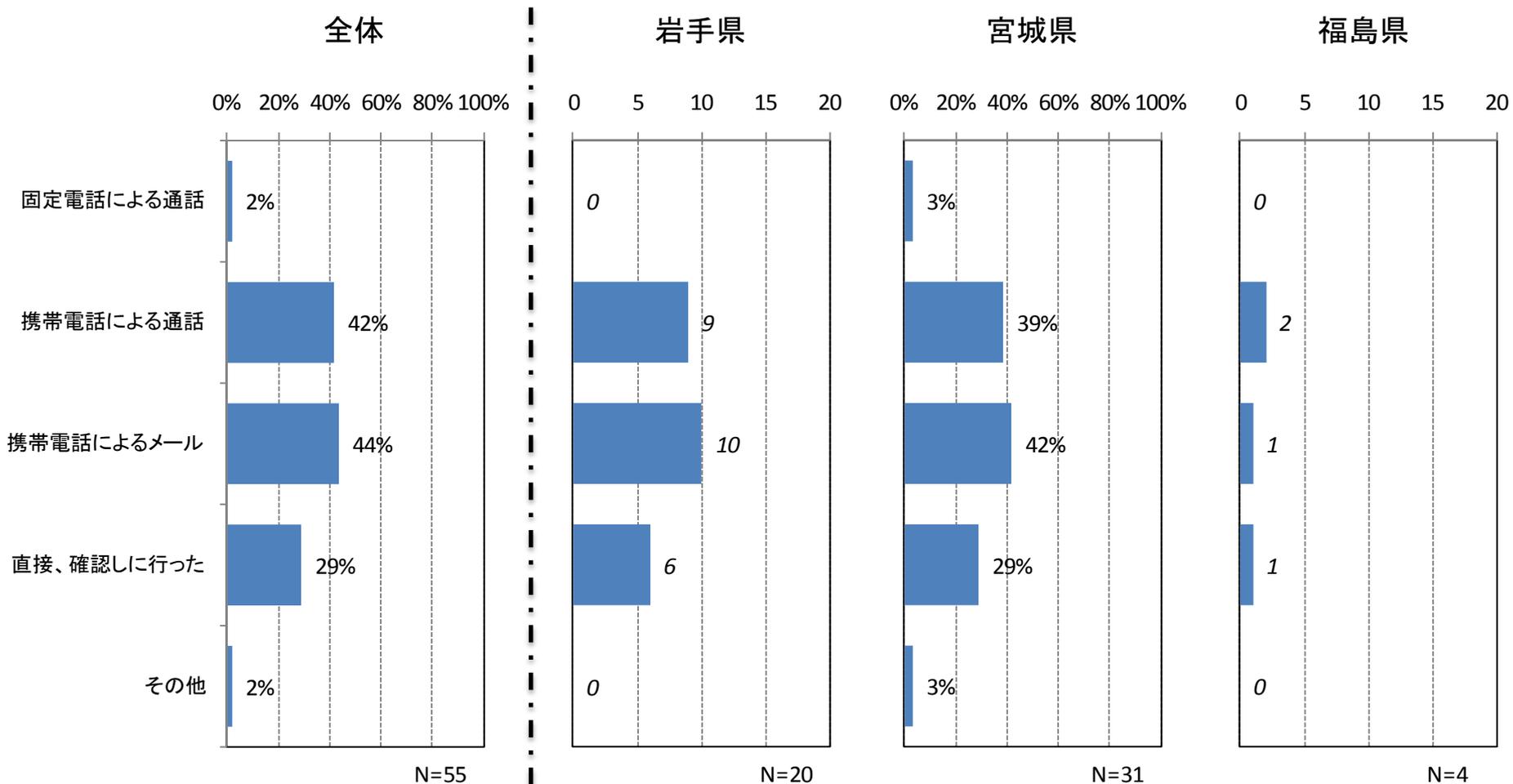
- 「親戚」から安否確認の連絡を受けた人は、3県ともに「携帯電話による通話」と「携帯電話によるメール」が使われている。



付問11.1-4 安否確認の手段【友人や知人】

付問11.1で「4.友人や知人」を選択した人が回答 N=55

- 「友人や知人」から安否確認の連絡を受けた人は、3県ともに「携帯電話による通話」と「携帯電話によるメール」が多く、「直接、確認しに行った」が続く。

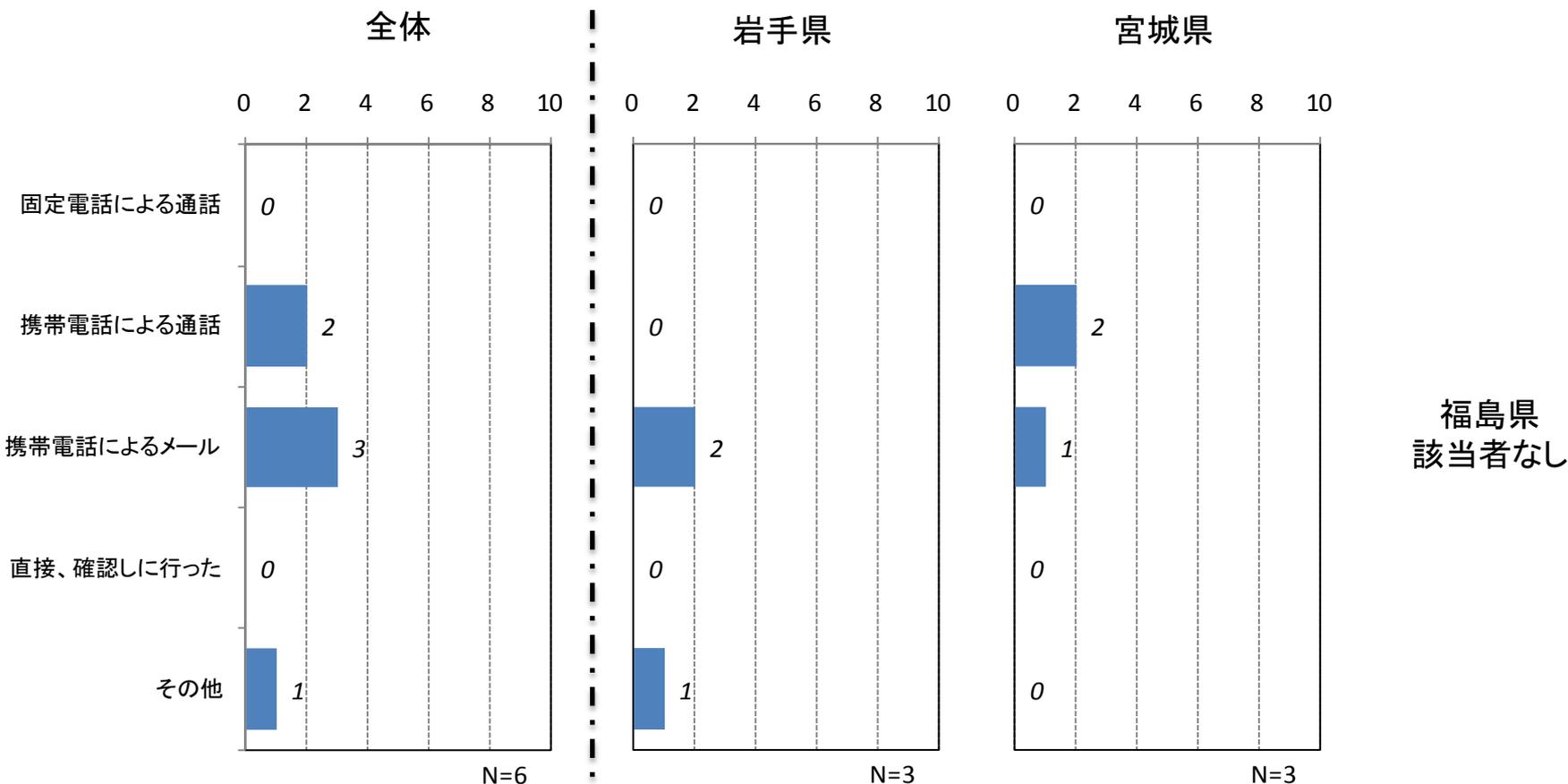


該当者なし

付問11. 1-6 安否の連絡をしてきた手段【その他】

付問11.1で「6.その他」を選択した人が回答 N=6

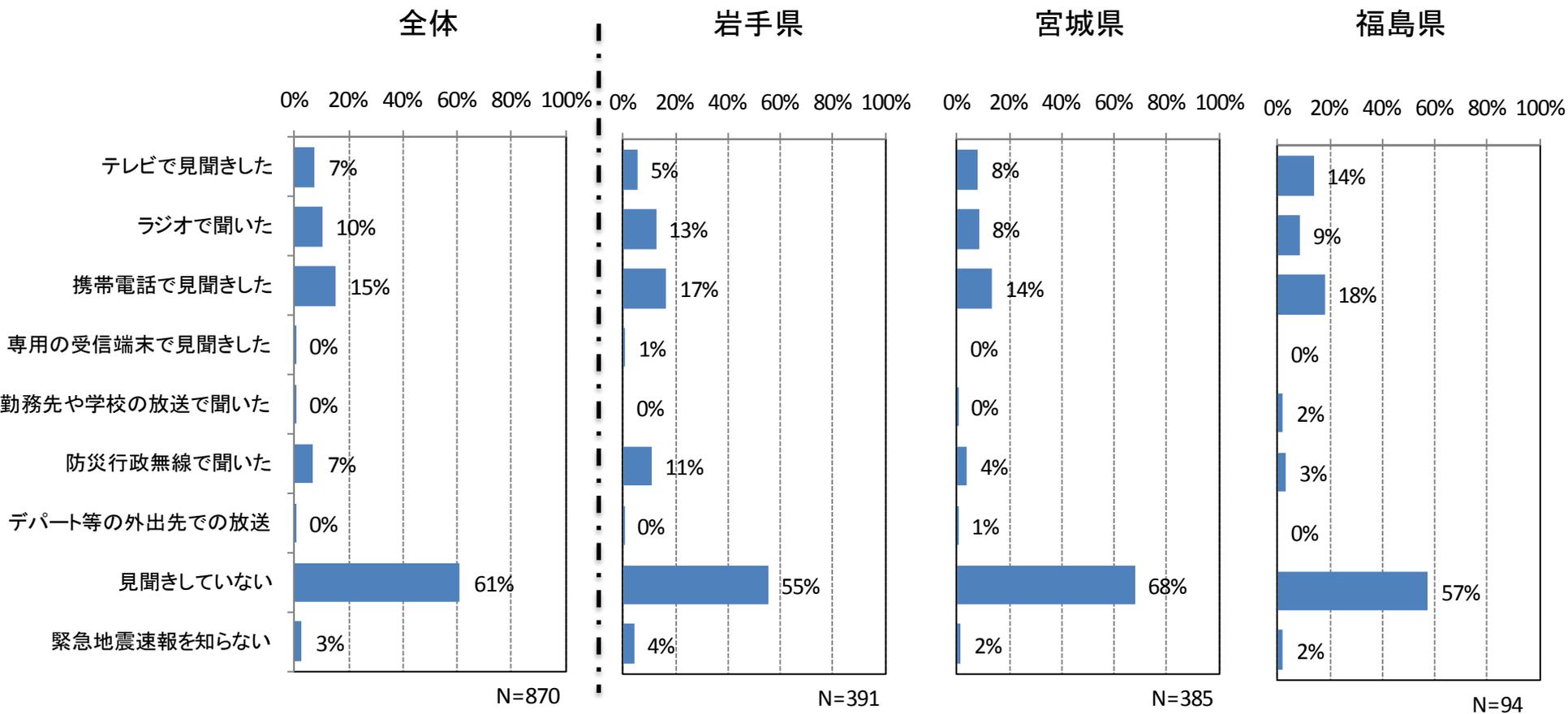
- 仕事先等を含む「その他」から安否確認の連絡を受けた人は、岩手県と宮城県で「携帯電話による通話」、「携帯電話によるメール」等の手段が使われた。



問12. 緊急地震速報の見聞き

全員が回答 N=870

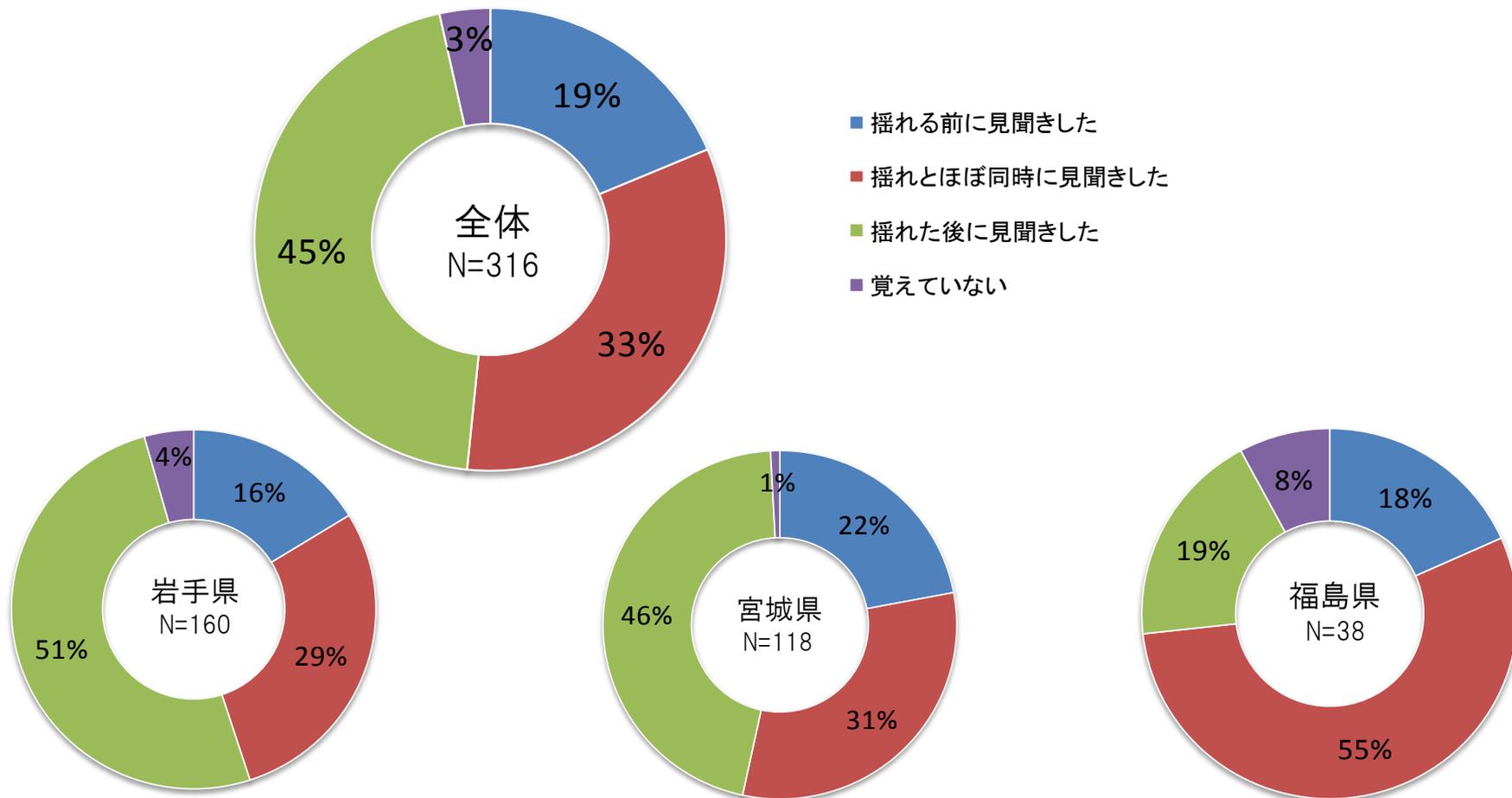
- 緊急地震速報を見聞きしたかを調査した。3県ともに半数以上が「見聞きしていない」との回答が多く、見聞きした人は各々の項目について10%前後であるが、全体では「携帯電話」、「ラジオ」、「テレビ」の順に多い。



問13. 緊急地震速報を見聞きしたタイミング

問12で「1~7.(緊急地震速報を見聞きした)」を選択した人が回答 N= 316

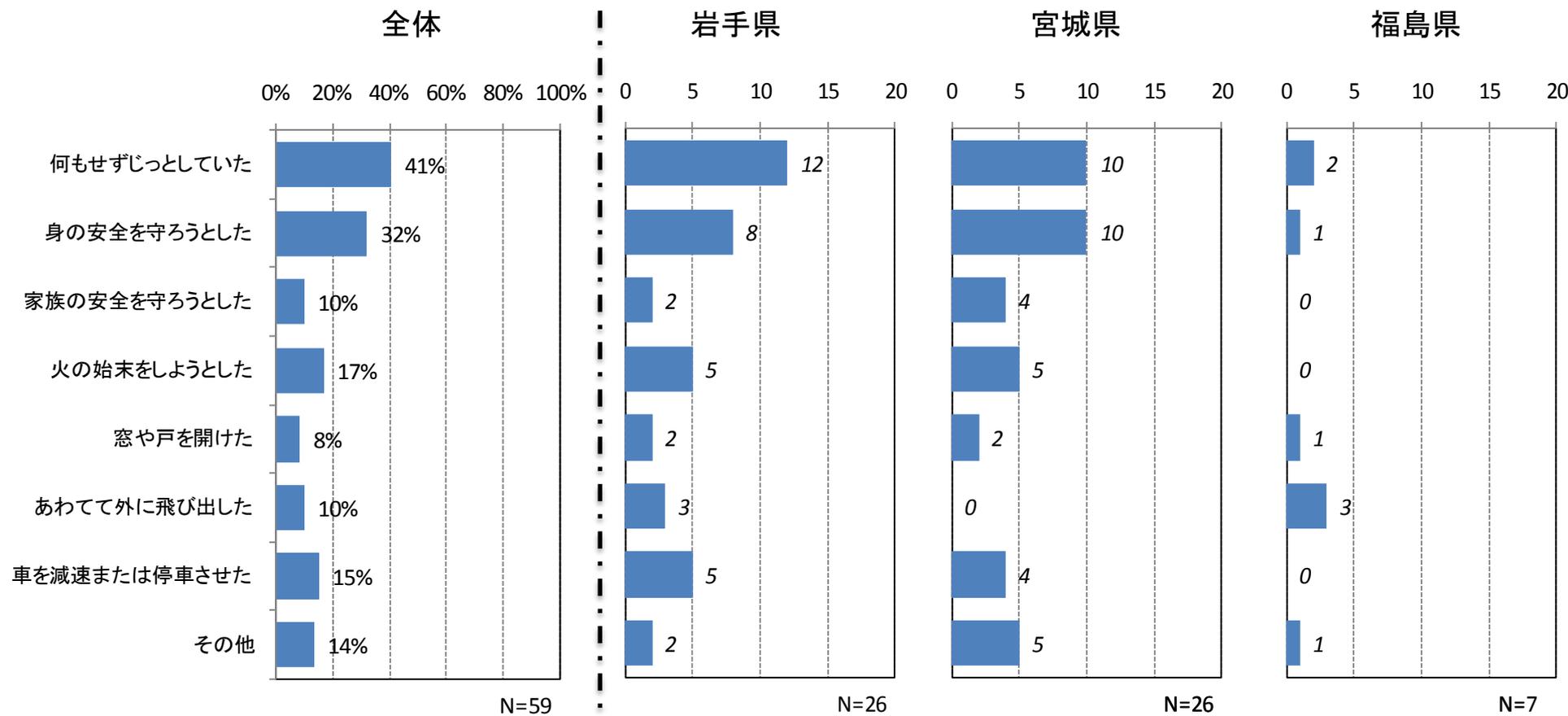
- 緊急地震速報を見聞きしたタイミングを調査した。岩手県・宮城県は、「揺れた後に見聞きした」が半数前後であり、福島県で「揺れとほぼ同時に見聞きした」方が多い結果となった。「揺れる前に見聞きした」は、3県とも20%前後である。



問14. 緊急地震速報を見聞きした後の行動

問13で「1.揺れる前に見聞きした」を選択した人が回答 N=59

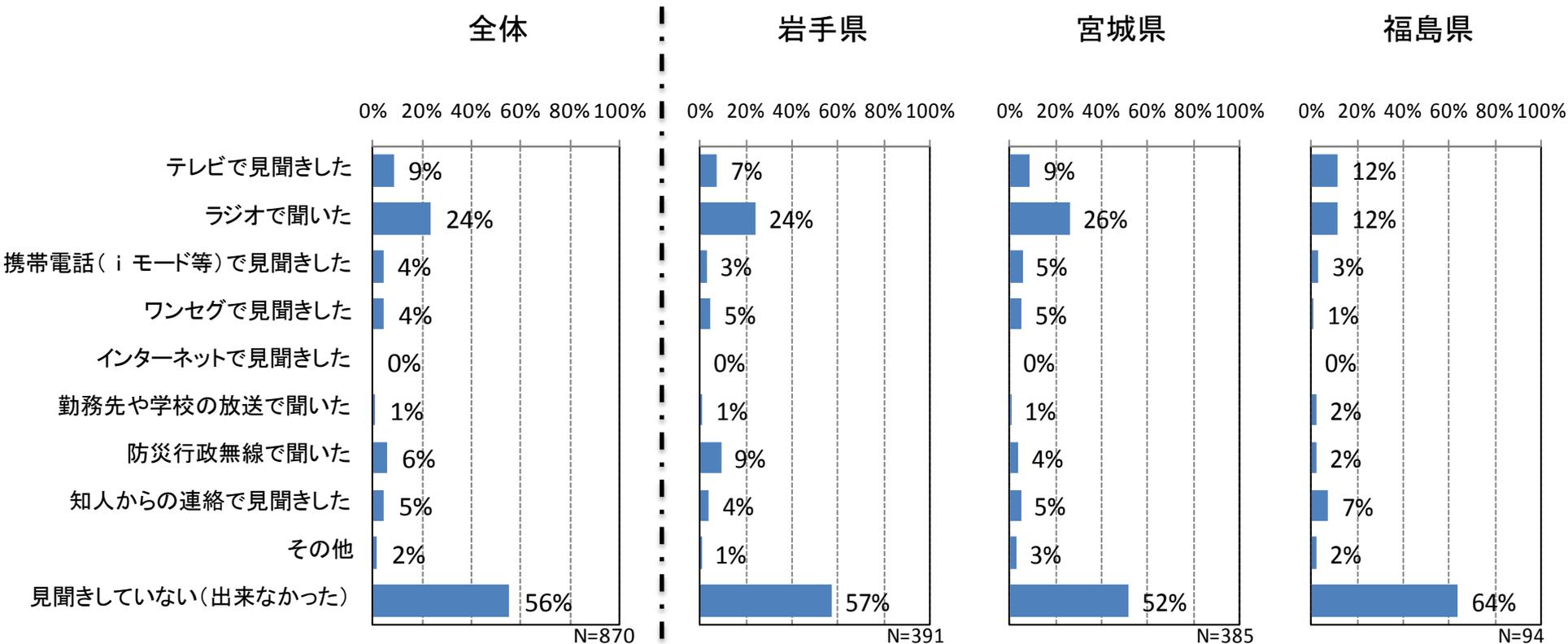
- 緊急地震速報を見聞きした後の行動を調査した。岩手県と宮城県は「何もせずじっとしていた」、「身の安全を守ろうとした」が多い。



問15. 地震情報の見聞き

全員が回答 N=870

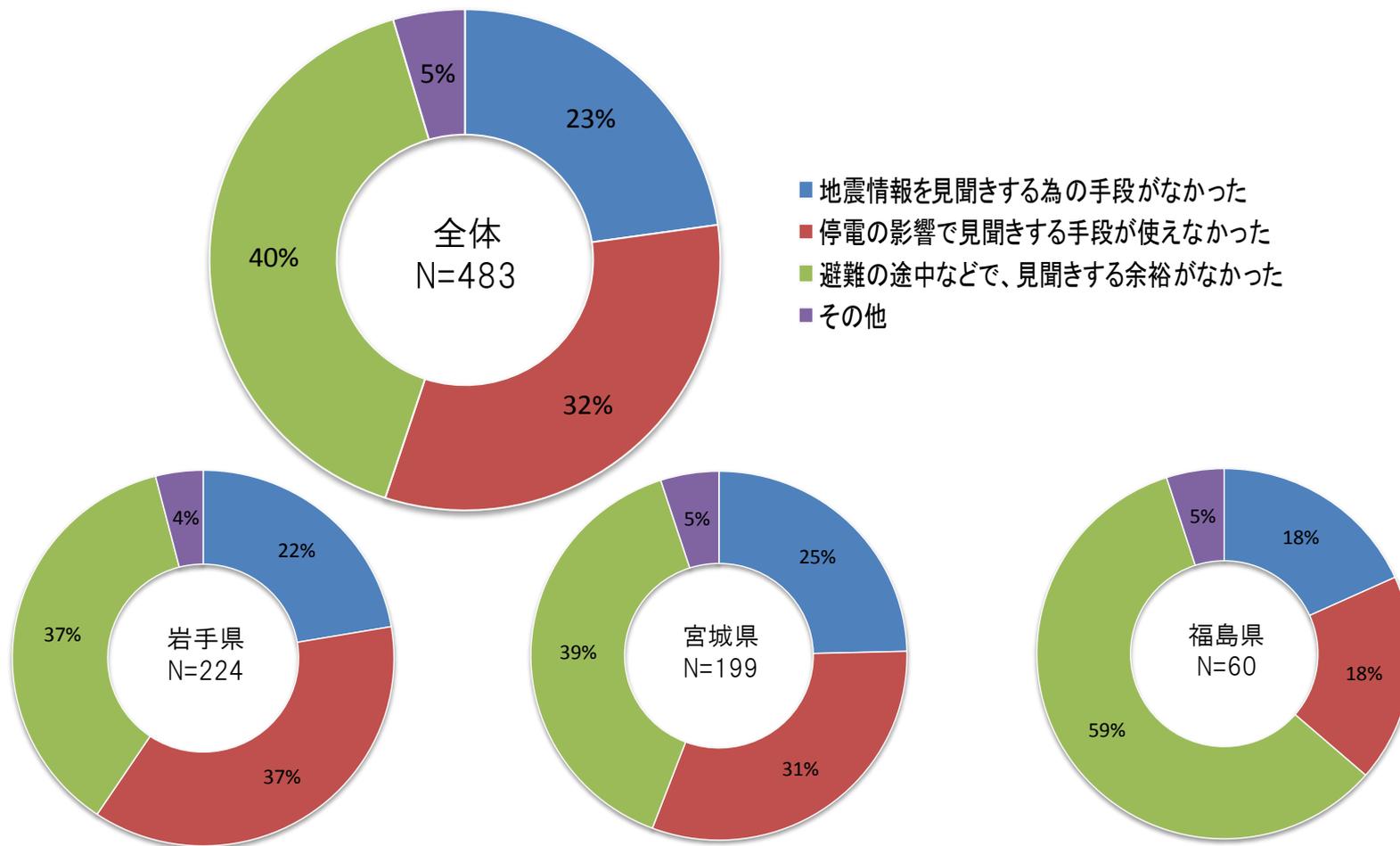
- 地震情報(震度やマグニチュード)の入手とその入手先を調査した。3県ともに「見聞きしていない(出来なかった)」が50%以上と多く、見聞きした人は、「ラジオ」や「テレビ」となっている。



付問15.1 地震情報を見聞きしていない(出来なかった)理由

問15で「10.見聞きしていない(出来なかった)」を選択した人が回答 N=483

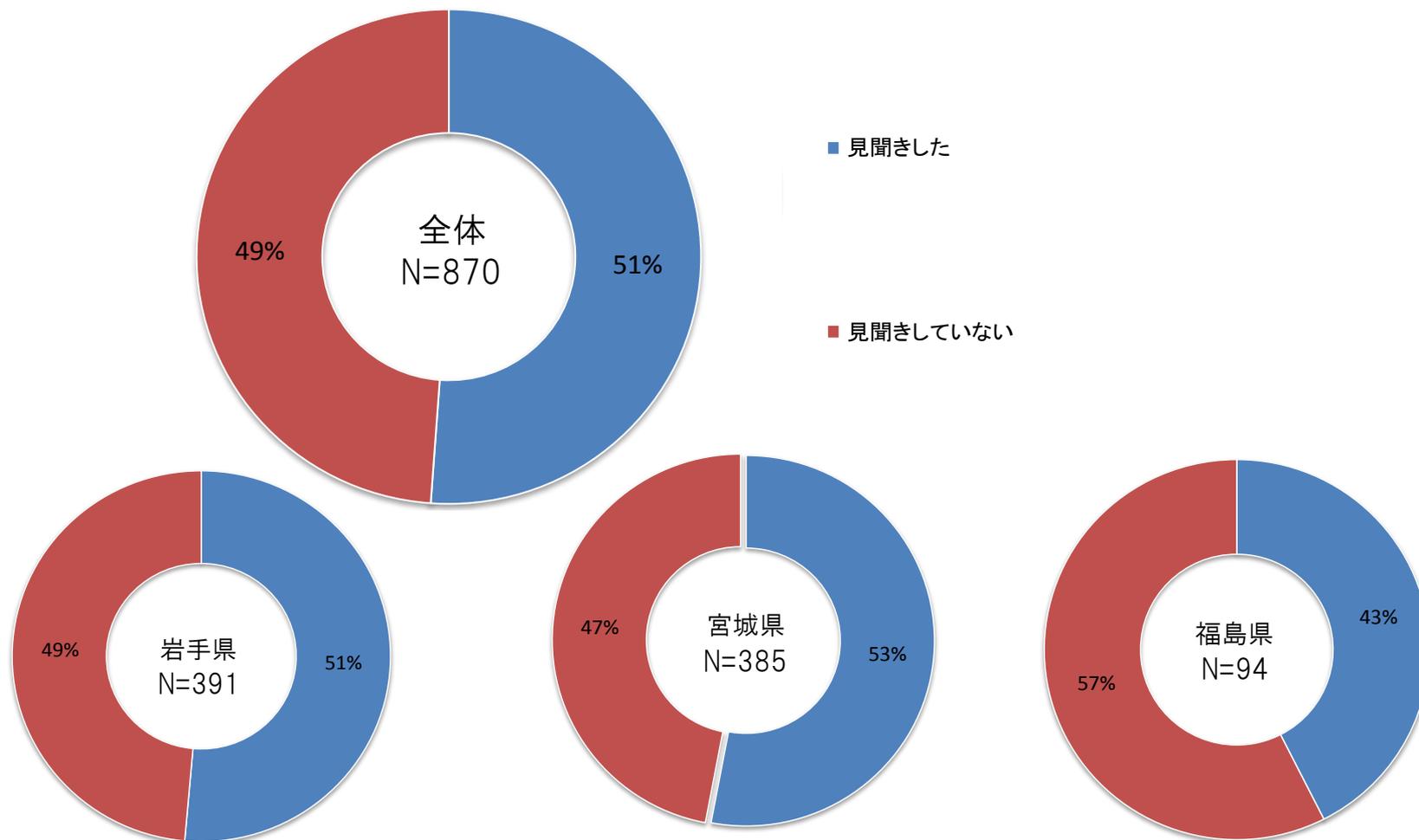
- 「地震情報を見聞きしていない(出来なかった)」理由を調査した。「避難の途中などで、見聞きする余裕がなかった」が多く、続いて「停電の影響で見聞きする手段が使えなかった」と回答した方が多い。



問16. 津波情報や避難の呼びかけの見聞き

全員が回答 N=870

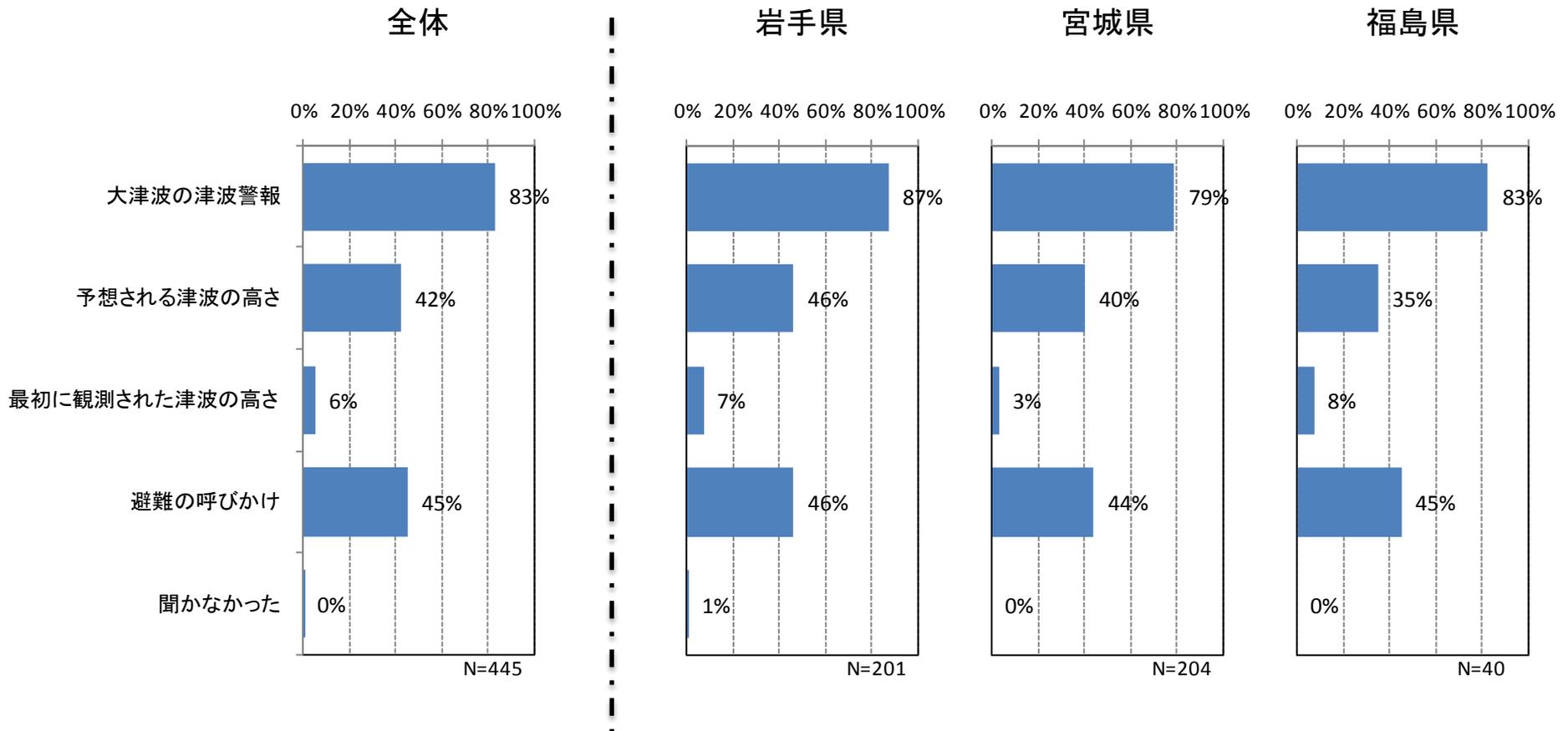
- 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけなどを見聞きしたかを調査した。岩手県、宮城県は、「見聞きした」が約50%で、福島県は「見聞きしていない」と回答した人が6割弱になった。



付問16.1 避難するまでに見聞きした情報

問16で「1.見聞きした」を選択した人が回答 N=445

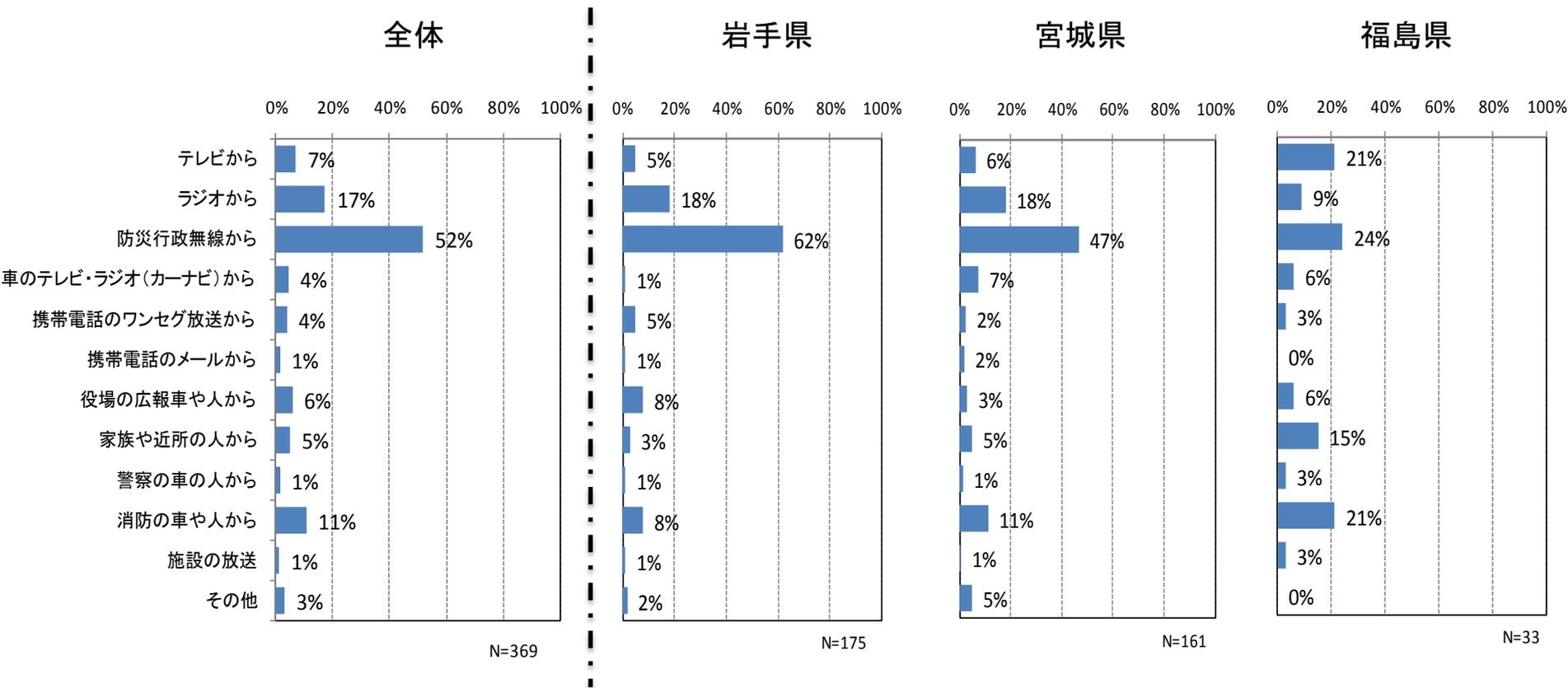
- 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけを「見聞きした」人に、情報の内容を調査した。そのうち「大津波の津波警報」を見聞きした人が80%近くもあり、さらに「避難の呼びかけ」が40%強、「予想される津波の高さ」も40%前後になった。



付問16.1 情報の入手先【大津波の津波警報】

付問16.1で「1.大津波の津波警報」を選択した人が回答 N=369

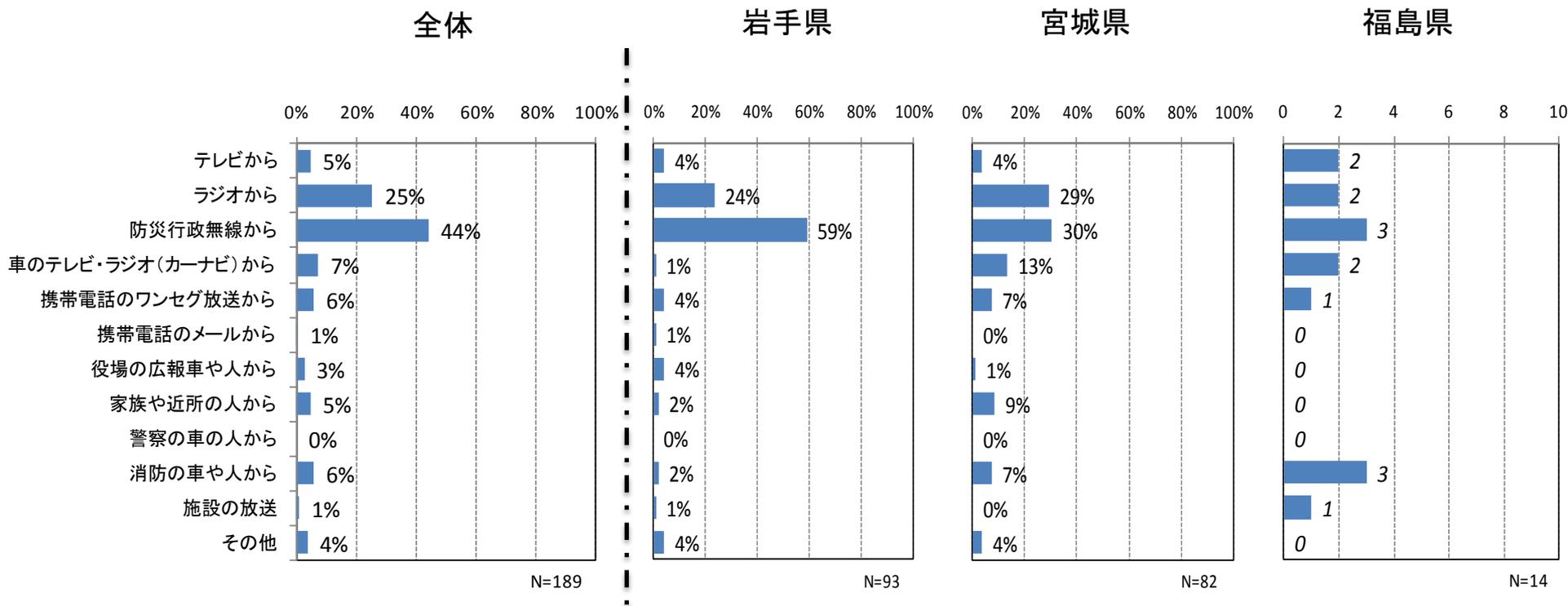
- 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけを「見聞きした」人のうち、「大津波の津波警報」の入手先を調査した。3県ともに「防災行政無線」が多く、「ラジオ」、「テレビ」と続いている。なお福島県は、「消防の車や人から」聞いた人が約21%もいた。



付問16.1 情報の入手先【予想される津波の高さ】

付問16.1で「2.予想される津波の高さ」を選択した人が回答 N=189

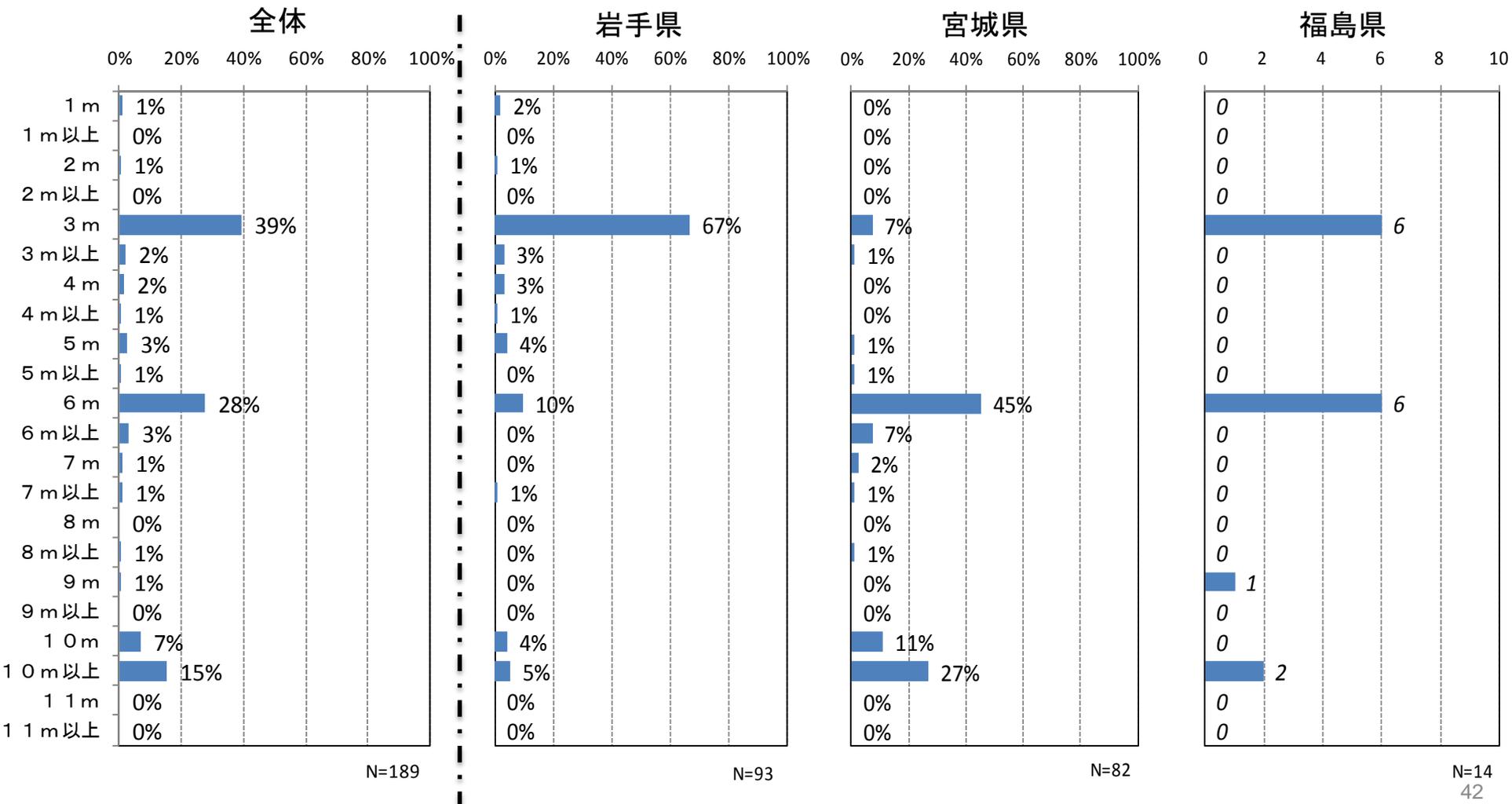
• 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけを「見聞きした」人のうち、「予想される津波の高さ」の入手先を調査した。3県ともに「防災行政無線」が多い。次いで岩手県と宮城県で「ラジオ」と続く。福島県は「消防の車や人から」という意見もある。



付問16.1 入手した情報の内容【予想される津波の高さ(総合)】

付問16.1で「2.予想される津波の高さ」を選択した人が回答 N=189

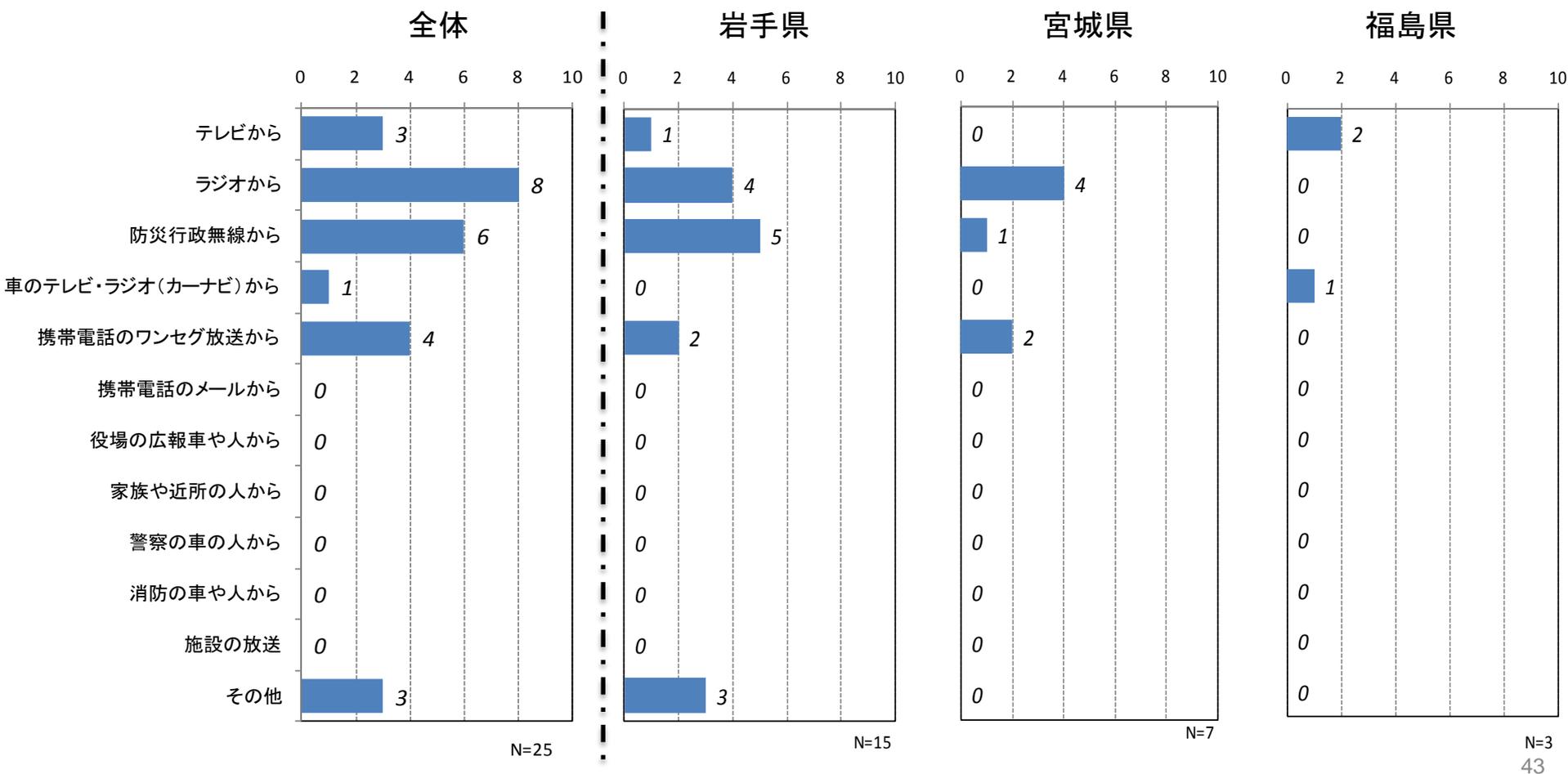
- 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけを「見聞きした」人のうち、「予想される津波の高さ」の具体的な高さを調査した。岩手県で「3m」、宮城県で「6m」、福島県は「3m」と「6m」と回答した方が多い。



付問16.1 情報の入手先【最初に観測された津波】

付問16.1で「3.最初に観測された津波」を選択した人が回答 N=25

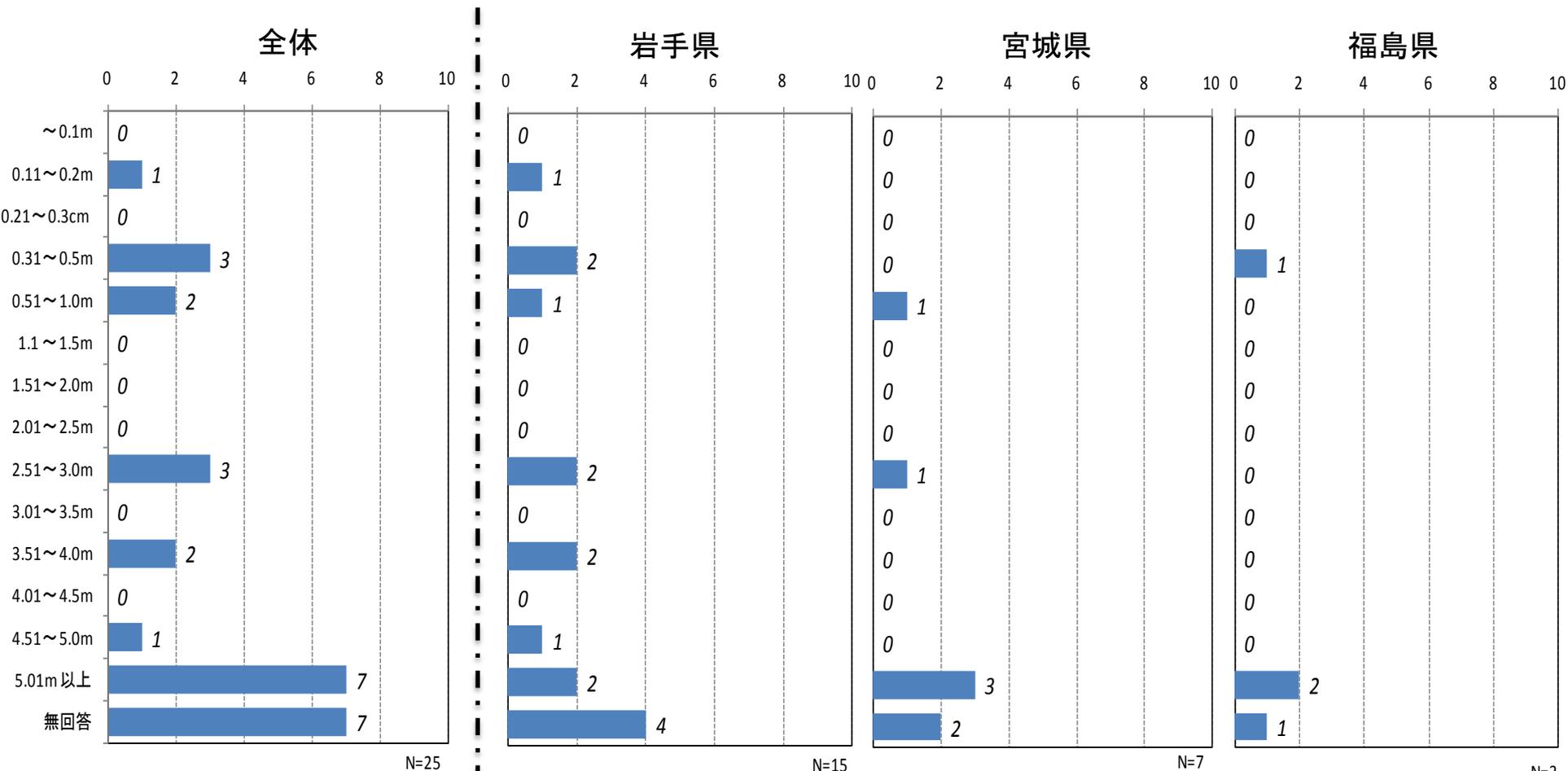
- 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけを「見聞きした」人のうち、「最初に観測された津波」の入手先を調査した。僅かであるが岩手県は「防災行政無線」が多く、宮城県は「ラジオ」から、福島県は「テレビ」からと回答した方が多い。



付問16.1 入手した情報の内容【観測された津波の高さ】

付問16.1で「3.最初に観測された津波」を選択した人が回答 N=25

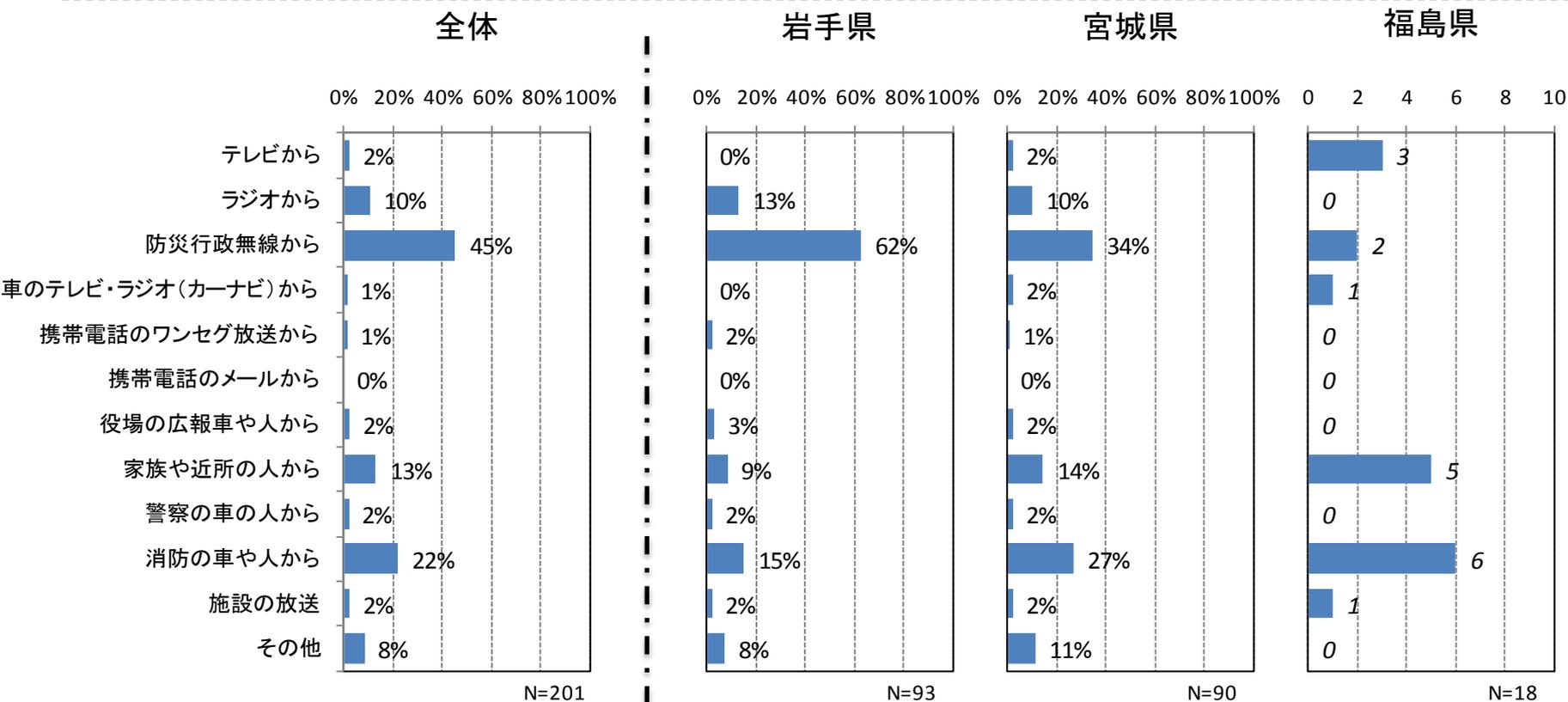
- 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけを「見聞きした」人のうち、「最初に観測された津波」の具体的な高さを調査した。全体数からすれば僅かであり、ばらついていた傾向となった。



付問16.1 情報の入手先【避難の呼びかけ】

付問16.1で「4.避難の呼びかけ」を選択した人が回答 N=201

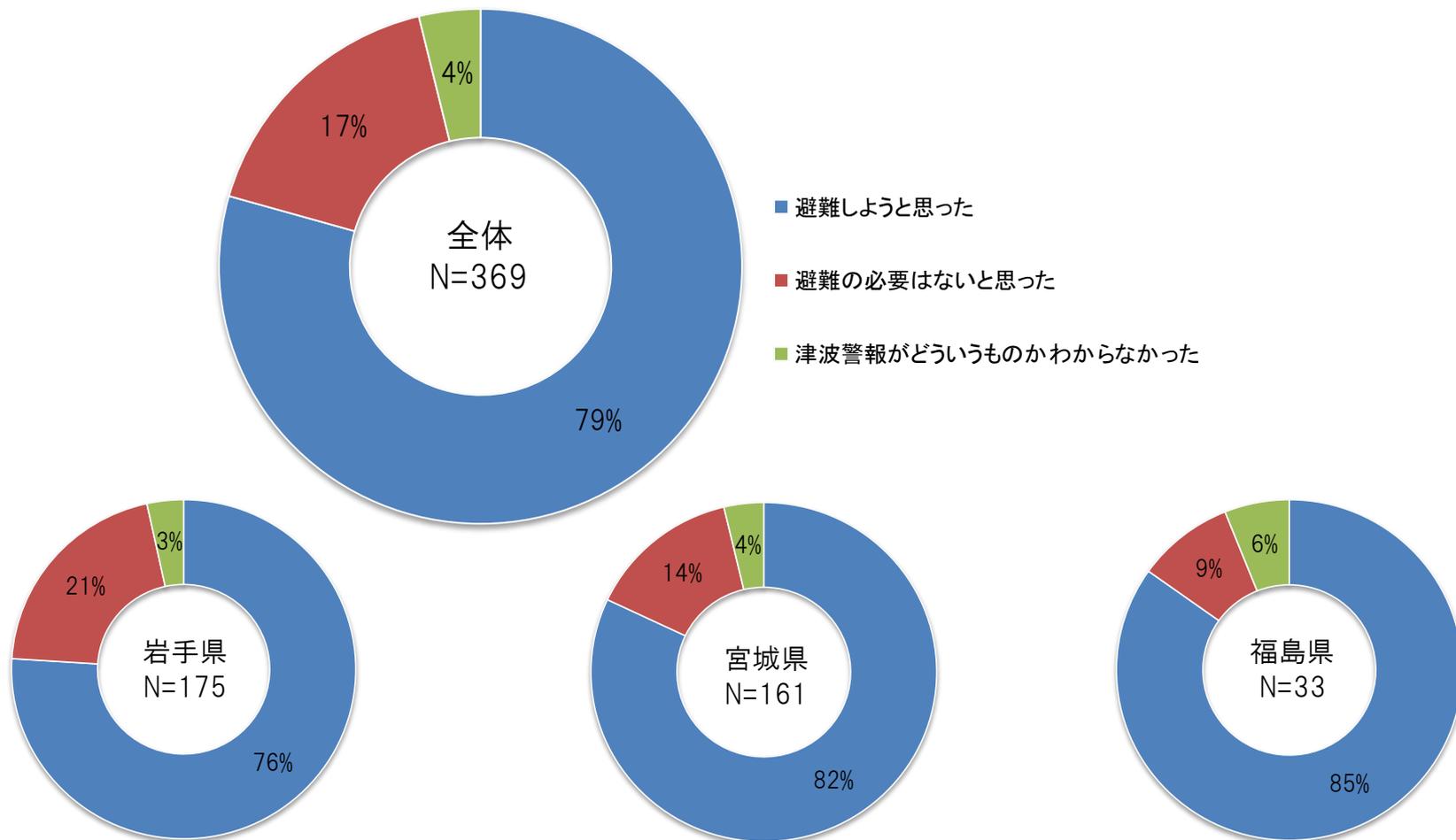
- 避難するまでの間に津波情報や避難の呼びかけを「見聞きした」人のうち、「避難の呼びかけ」の入手先は、岩手県と宮城県は「防災行政無線」が多く、次いで「消防の車や人」が多い。福島県は、「消防の車や人」が多く、次いで「家族や近所の人から」が多い。



付問16. 2 「津波警報(大津波)」を見聞きして思ったこと(1)

付問16.1で「1.大津波警報」を選択した人が回答 N=369

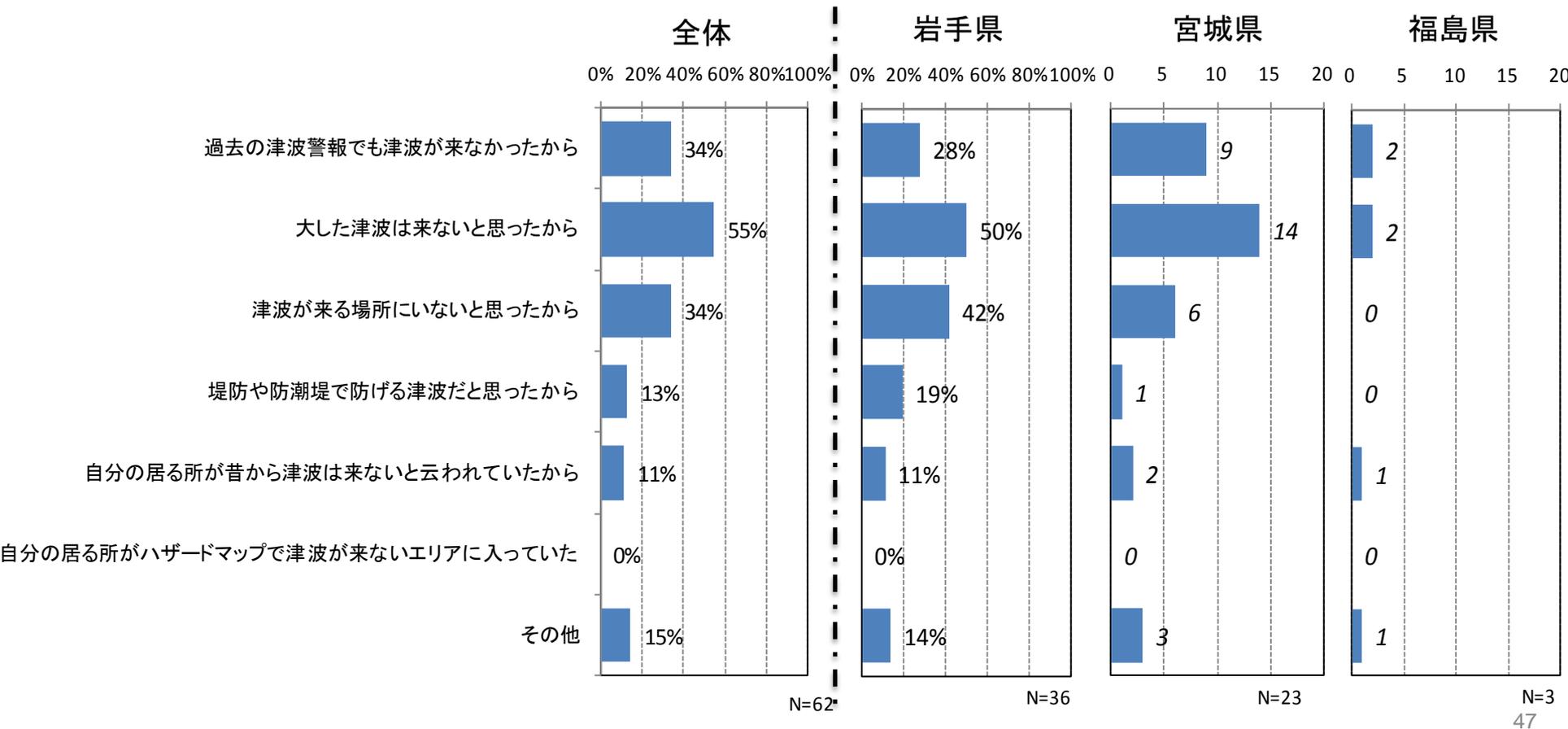
- 「大津波の津波警報」を見聞きしてどのように思ったかを調査した。3県ともに「避難しようと思った」と回答した方が80%前後となった。



付問16. 3. (1)「津波警報(大津波)」を見聞きして思ったこと(2) 避難の必要がないと思った理由

付問16.2で「2.避難の必要はないと思った」を回答した人が回答 N=62

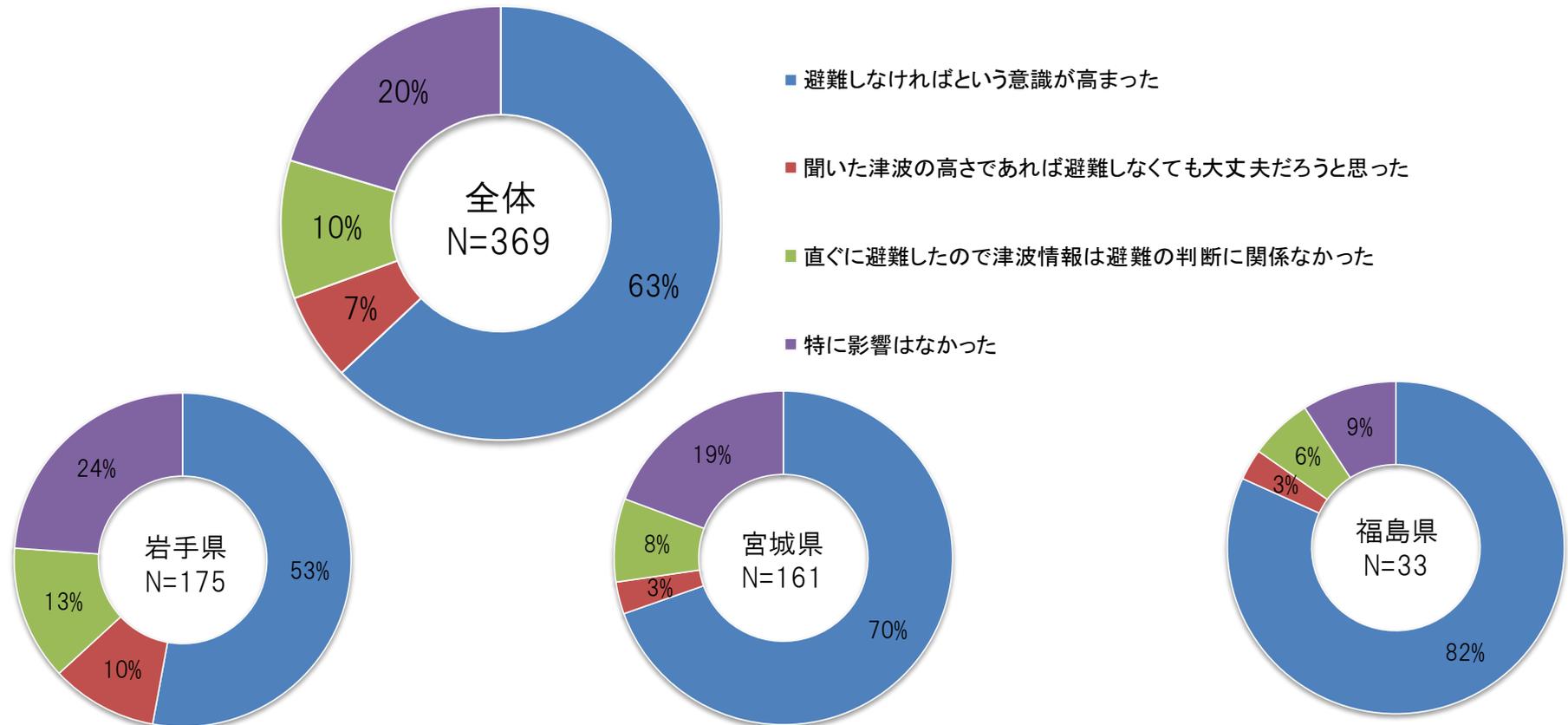
- 大津波の津波警報を聞いて「避難の必要はないと思った」人の理由を調査した。3県とも「大した津波は来ないと思ったから」と回答した方が多い。



付問16. 3. (2)「津波警報(大津波)」を見聞きして思ったこと(3) 避難判断への影響

付問16.1で「1.大津波警報」を選択し人方が回答 N=369

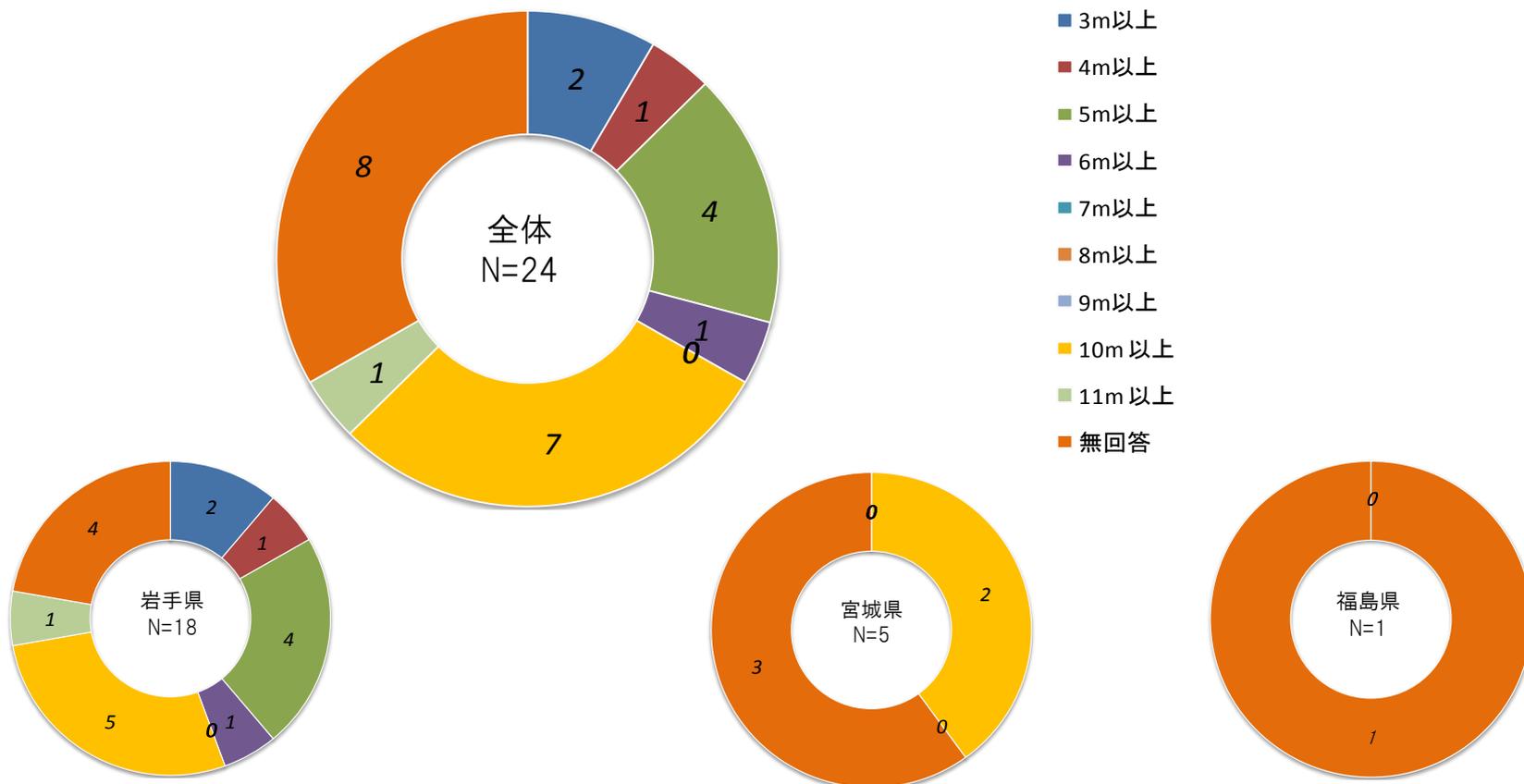
- 大津波の津波警報が避難の判断に影響したかを調査した。「避難しなければという意識が高まった」が、福島県が約82%、宮城県が約70%、岩手県が約53%となった。避難しなくても大丈夫と思った人は僅かであった。



付問16. 3. (2)「津波警報(大津波)」を見聞きして思ったこと(4) 避難すると思う津波の高さ(m)

付問16.3(2)で「2.聞いた津波の高さであれば避難しなくても大丈夫だろうと思った」を選択した人が回答 N=24

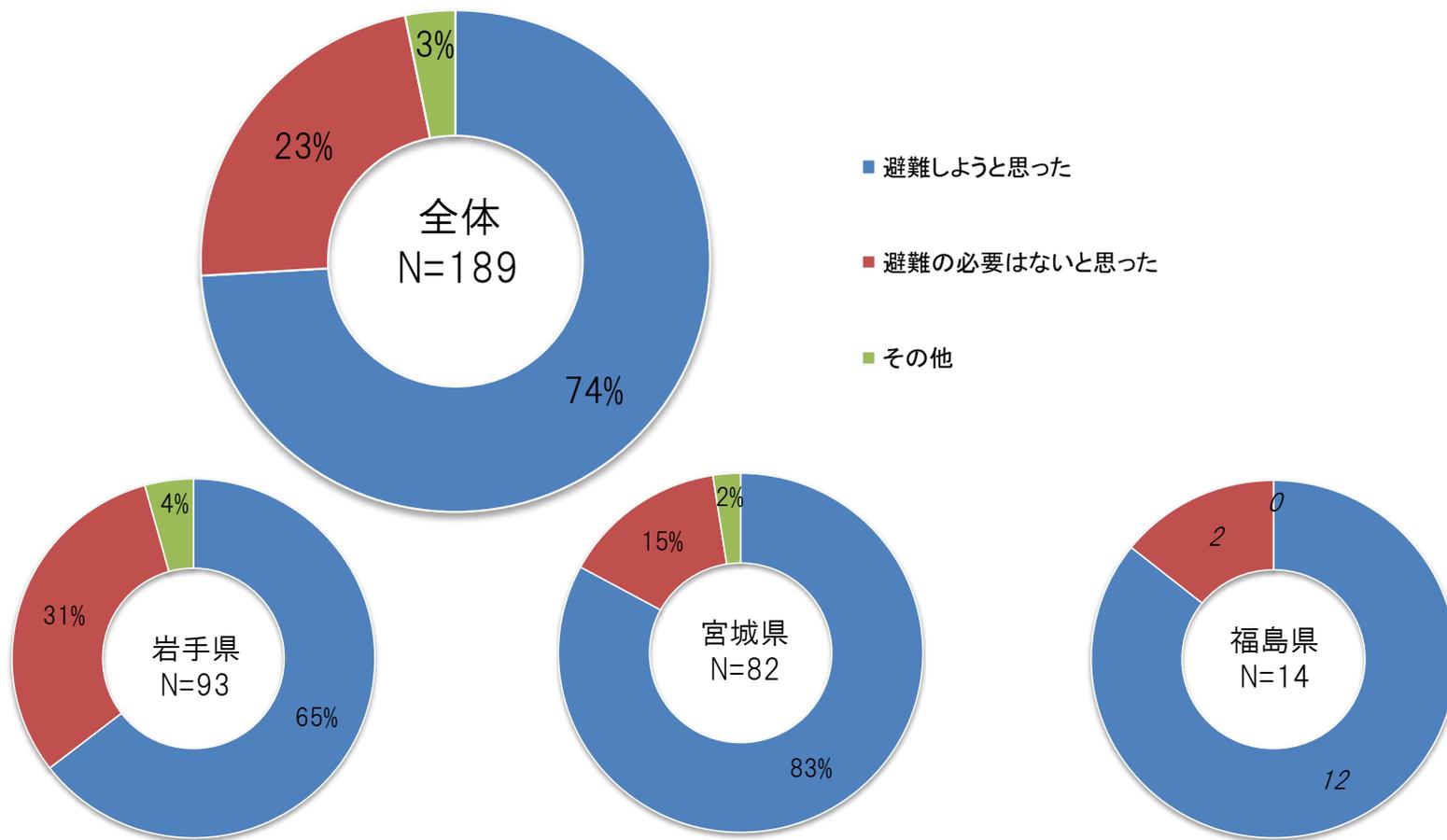
- 「聞いた津波の高さであれば避難しなくても大丈夫だろうと思った」を選択した人を対象に「どの程度の津波の高さなら避難すると思ったか」と調査したところ、「10m以上」と答えた人が多い。



付問16.4 「予想される津波の高さ」を見聞きして思ったこと

付問16.1で「2. 予想される津波の高さ」を選択した人が回答 N=189

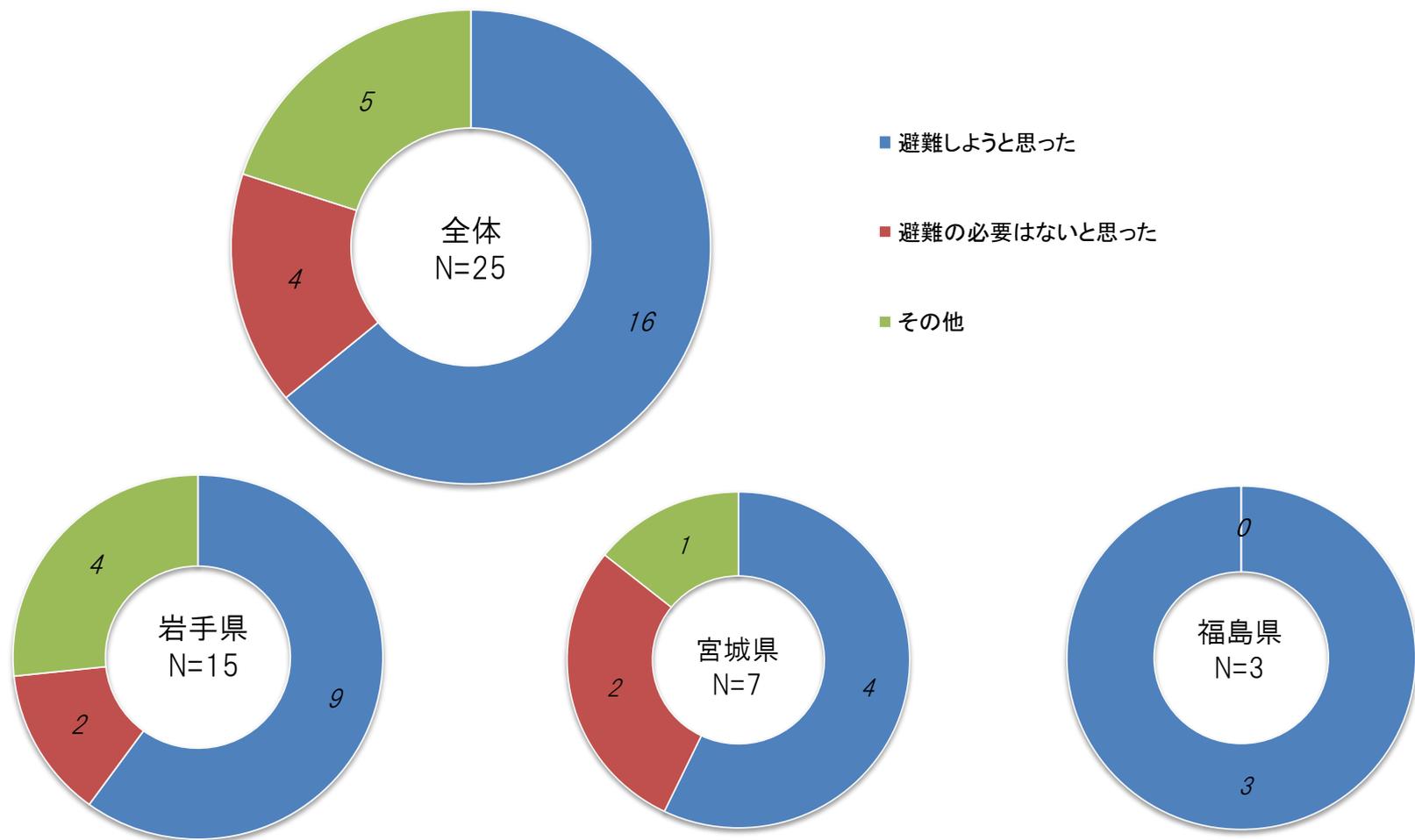
- 「予想される津波の高さ」を見聞きしてどのように思ったかを調査した。「避難しようと思った」と回答された方は、全体で約74%にもなる。



付問16.5 「最初に観測された津波の高さ」を見聞きして思ったこと

付問16.1で「3.最初に観測された津波の高さ」を選択した人が回答 N=25

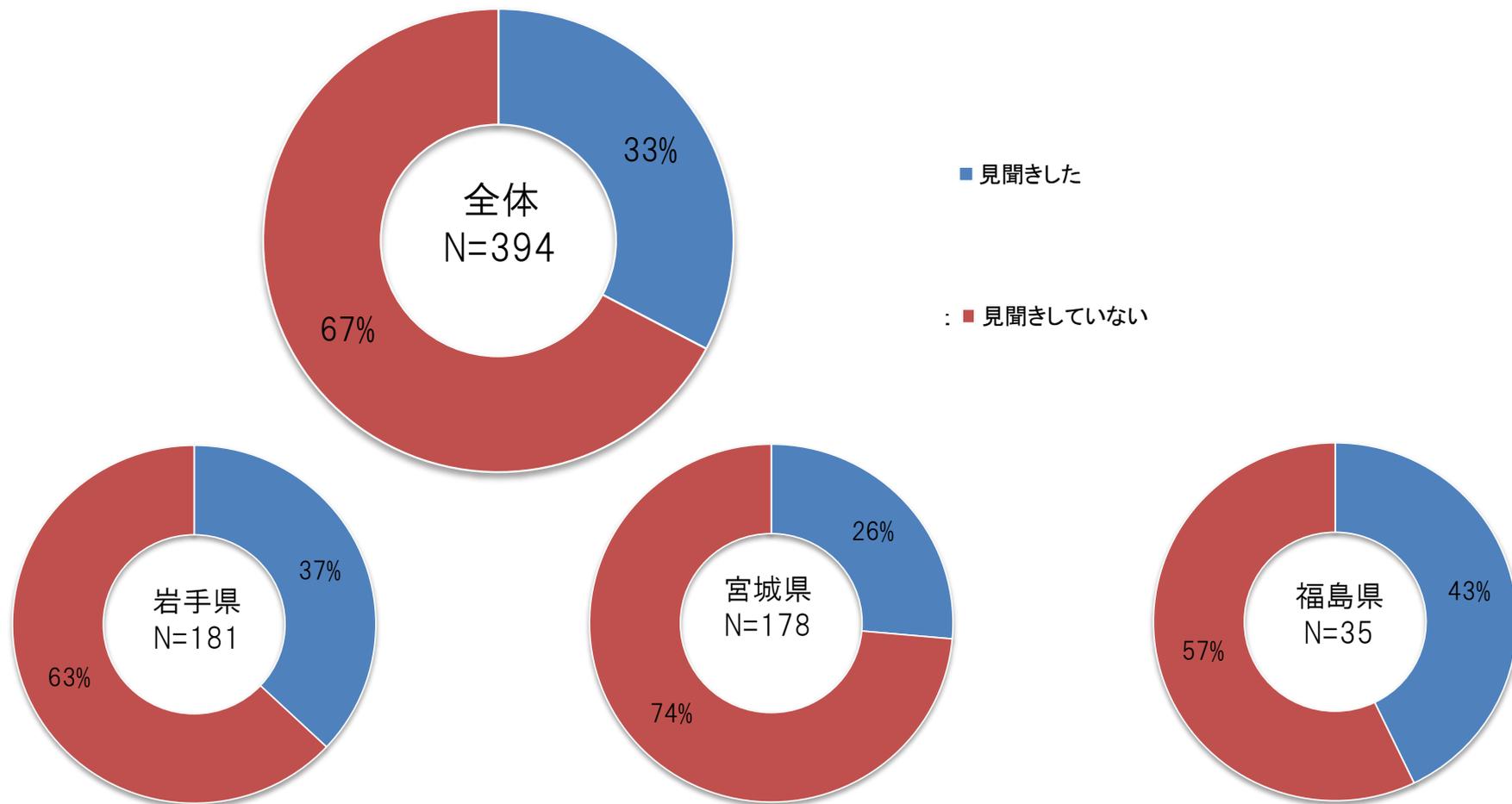
- 「最初に観測された津波の高さ」を見聞きしてどのように思ったかを調査した。「避難しようと思った」と回答された人は半数以上になる。



付問16.6 更新された「予想される津波の高さ」の見聞き

付問16.1で「1.大津波警報」、「2.予想される津波の高さ」、「3.最初に観測された津波の高さ」を選択した人が回答
N=394

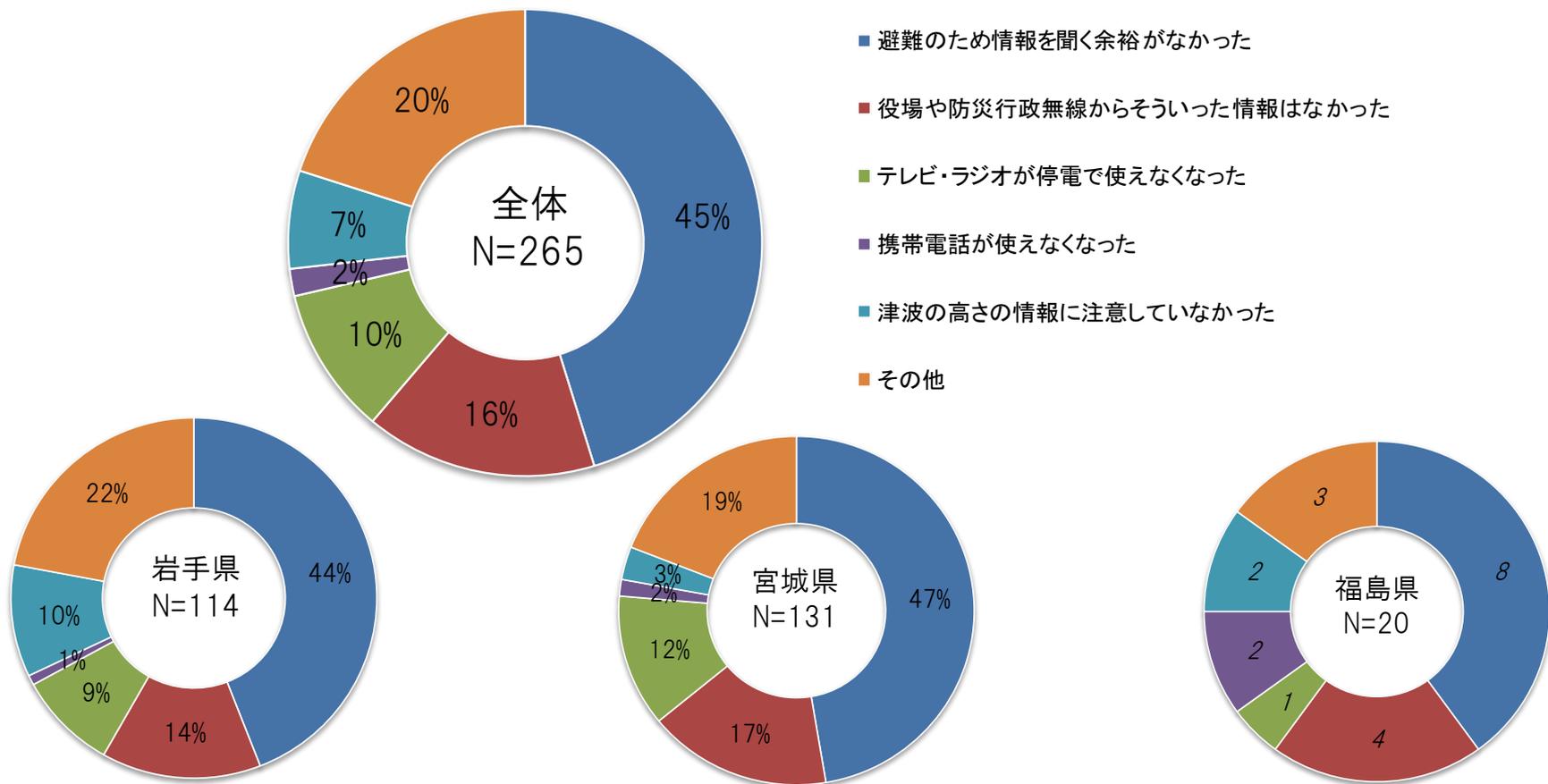
- 「予想される津波の高さ」が段階的に高くなっていく津波警報を見聞きしたかを調査した。岩手県と福島県で40%前後となったが、宮城県は約26%となった。



付問16. 7 更新された「予想される津波の高さ」を見聞きしていない理由

付問16.6で「2.見聞きしていない」を選択した人が回答 N=265

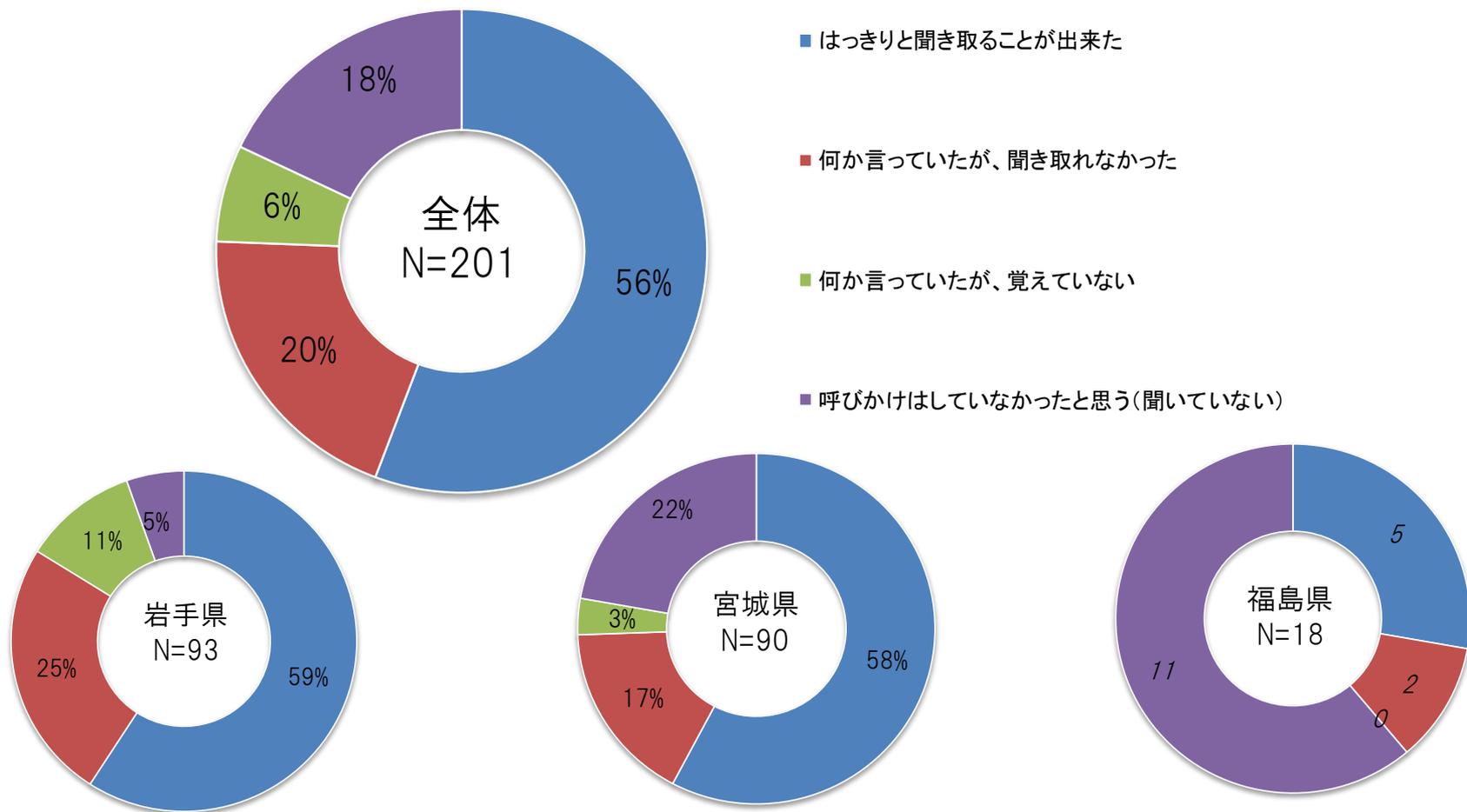
• 更新された「予想される津波の高さ」を見聞きしていない理由を調査した。3県とも「避難のため情報を聞く余裕がなかった」が最も多く、次いで、「役場や防災無線からそういった情報はなかった」が多い。「その他」の回答には、「車の運転で気づかなかった」、「覚えていない」等があった。



問17. 防災行政無線による避難の呼びかけ(1)

付問16.1で「4.避難の呼びかけ」を選択した人が回答 N=201

- 地震の後、自治体が防災行政無線を使って避難の呼びかけを行っており、この呼びかけを聞き取ることが出来たかをきいた。「はっきり聞き取ることが出来た」は、岩手県・宮城県で約60%と多いが、福島県は5票と少ない。

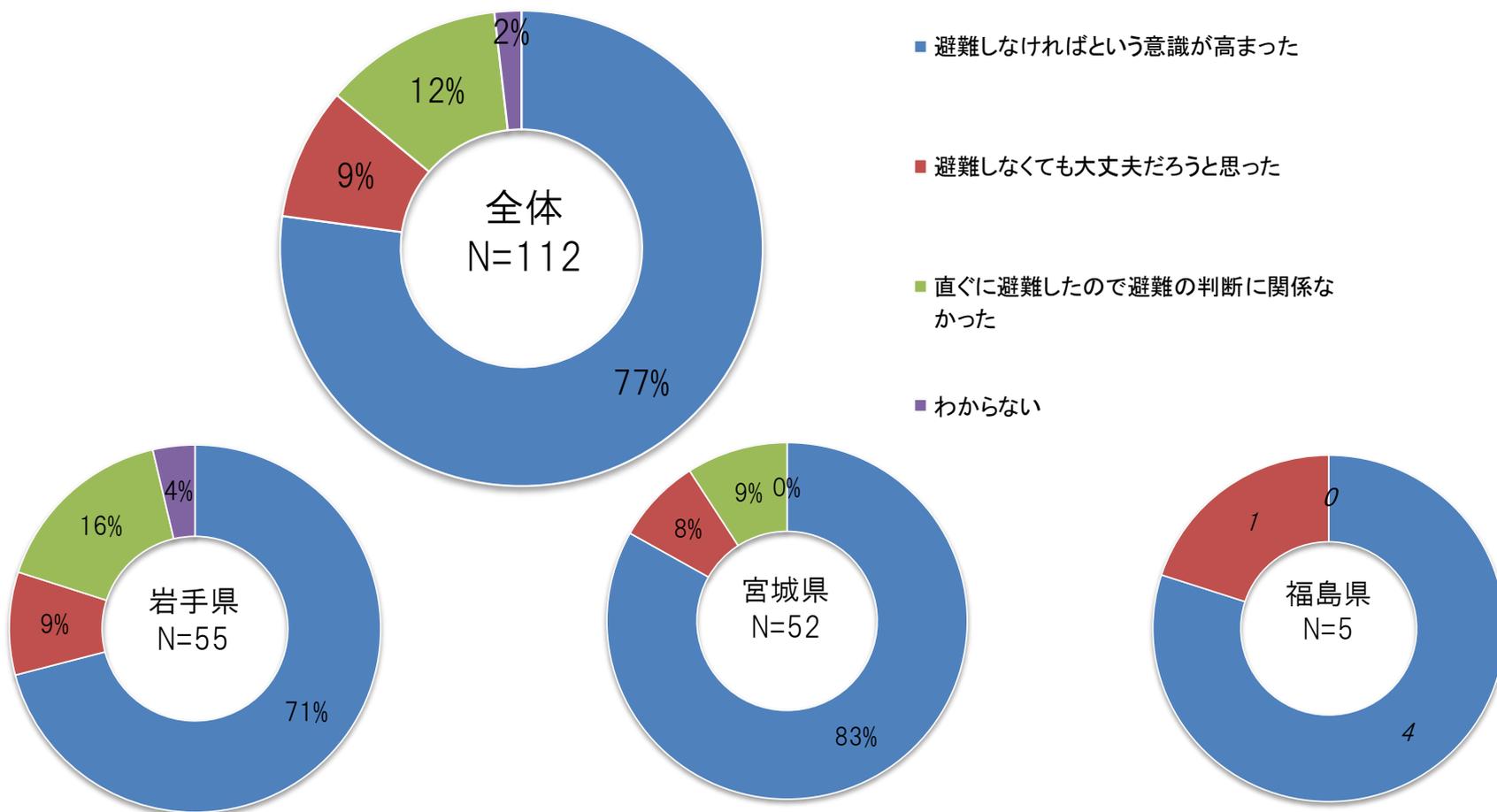


付問17.1 防災行政無線による避難の呼びかけ(2)

「避難の呼びかけ」に対する意識

問17で「1.はっきりと聞きとることが出来た」を選択した人が回答 N=112

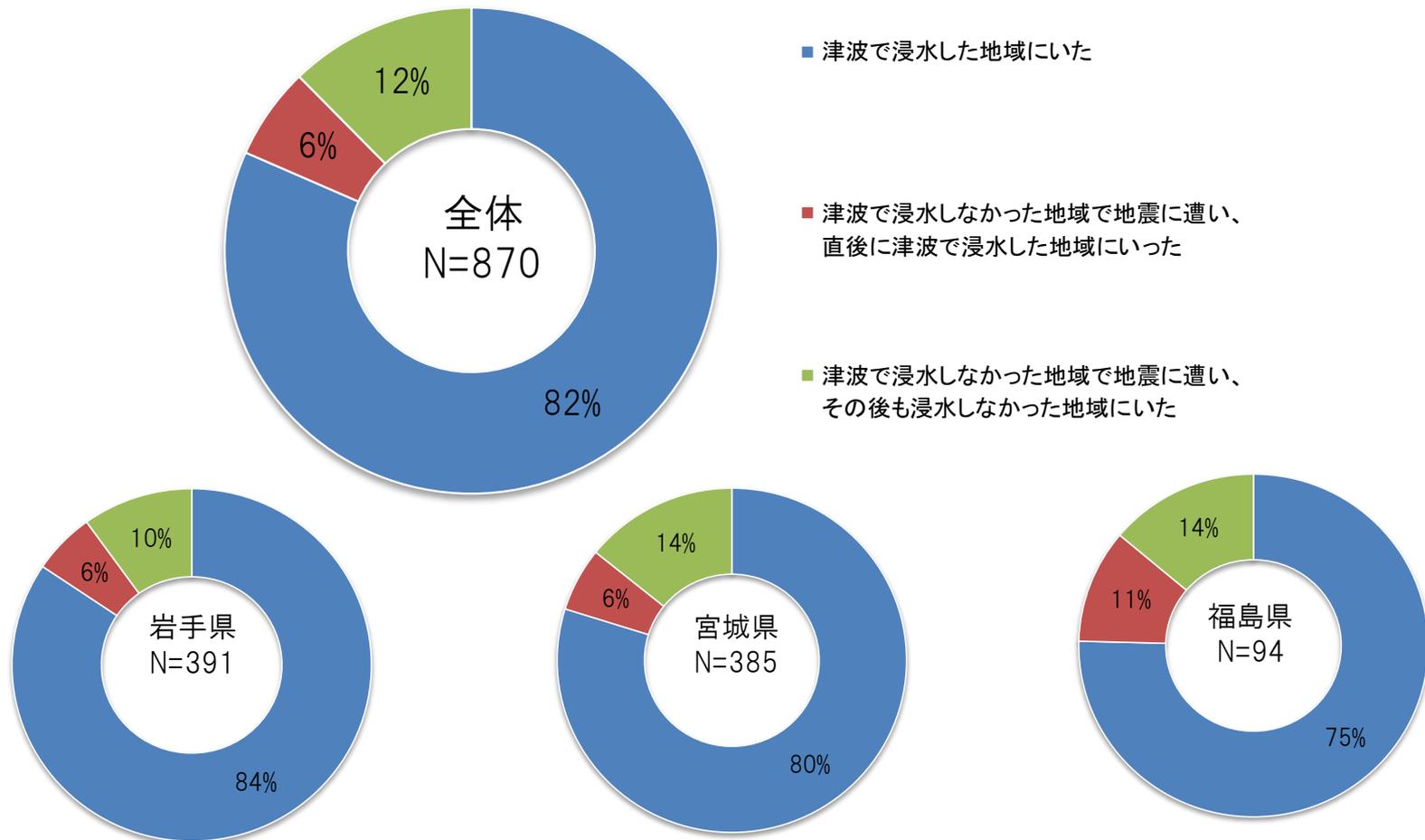
- 「避難の呼びかけ」が避難行動に影響したかを調査した。その70%~80%強は、避難意識が高まった結果となった。



問18. 地震が発生してから津波が襲来するまでにいた地域

全員が回答 N=870

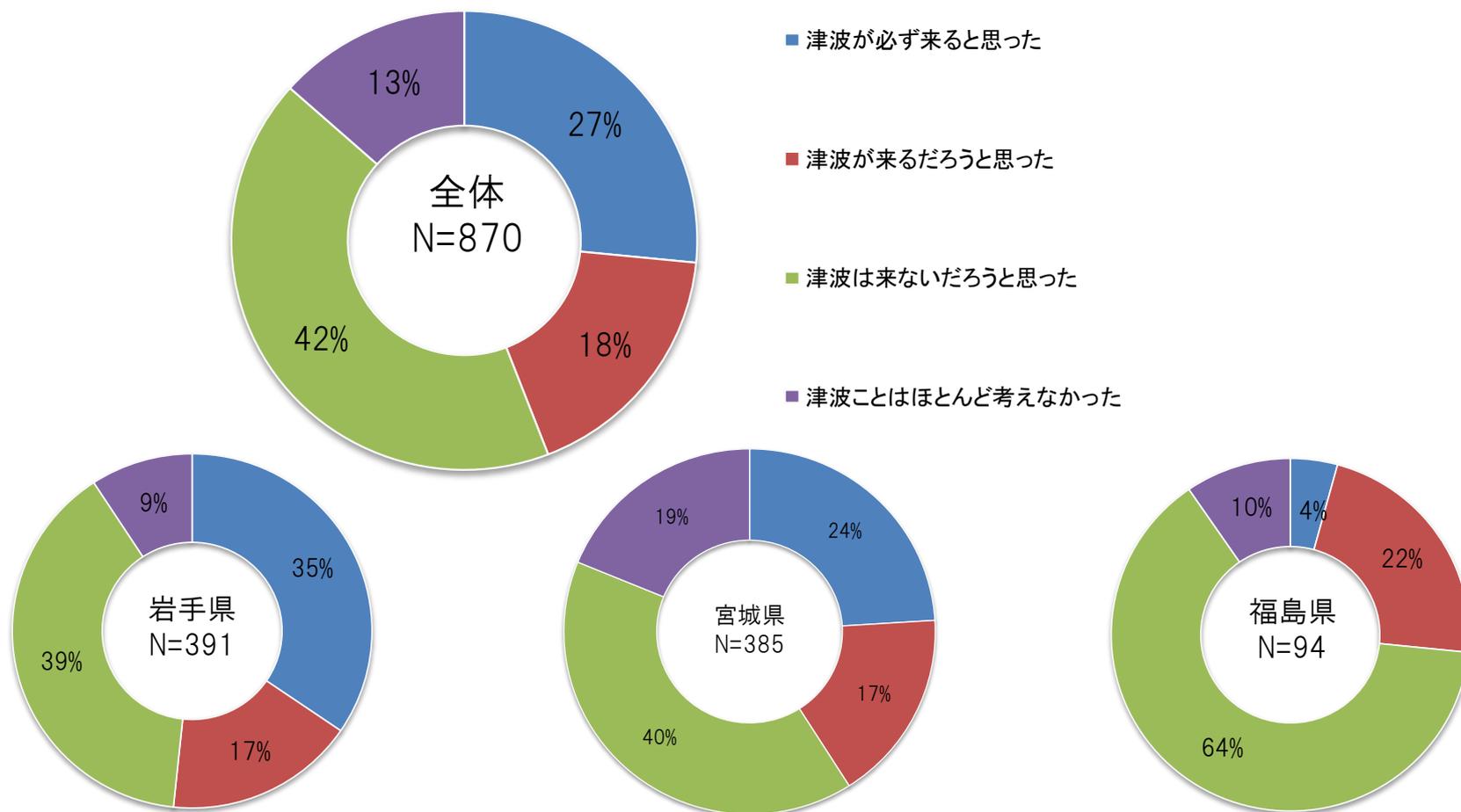
- 地震が起きた午後2時46分から津波が来るまでに居た地域を調査した。「津波で浸水した地域にいた」と回答した方は、3県ともに80%前後となった。



問19. 地震後の津波に対する意識(1)

全員が回答 N=870

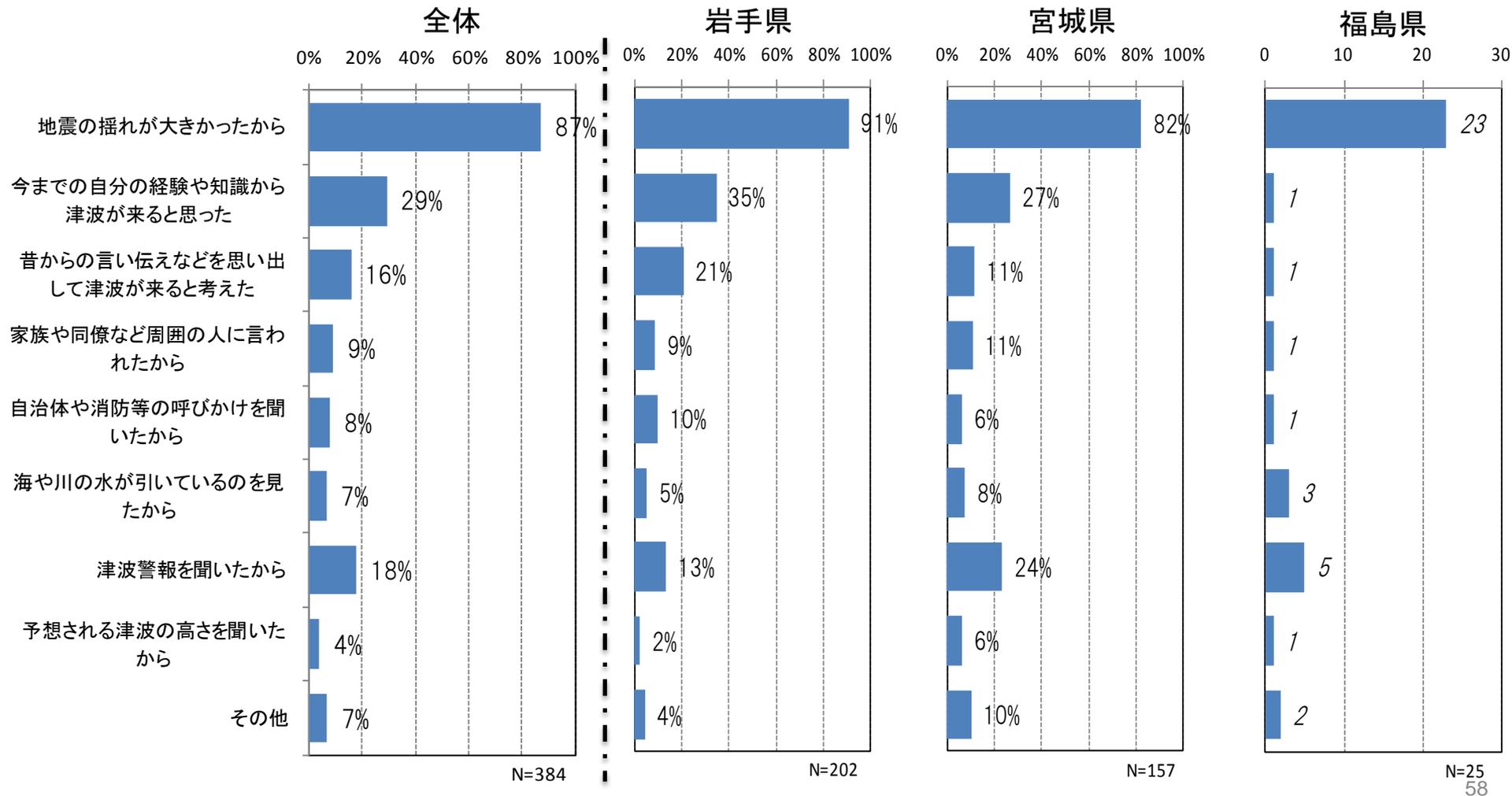
- 地震の後、自分のいる場所に津波が来ると思ったかを調査した。「津波が必ず来る、来るだろうと思った」は、岩手県が約52%で宮城県は約41%と続き、福島は約26%となった。



付問19.1 地震後の津波に対する意識(2)津波が来ると思った理由

問19で「1.津波が必ず来ると思った」「2.津波が来るだろうと思った」を選択した人が回答 N=384

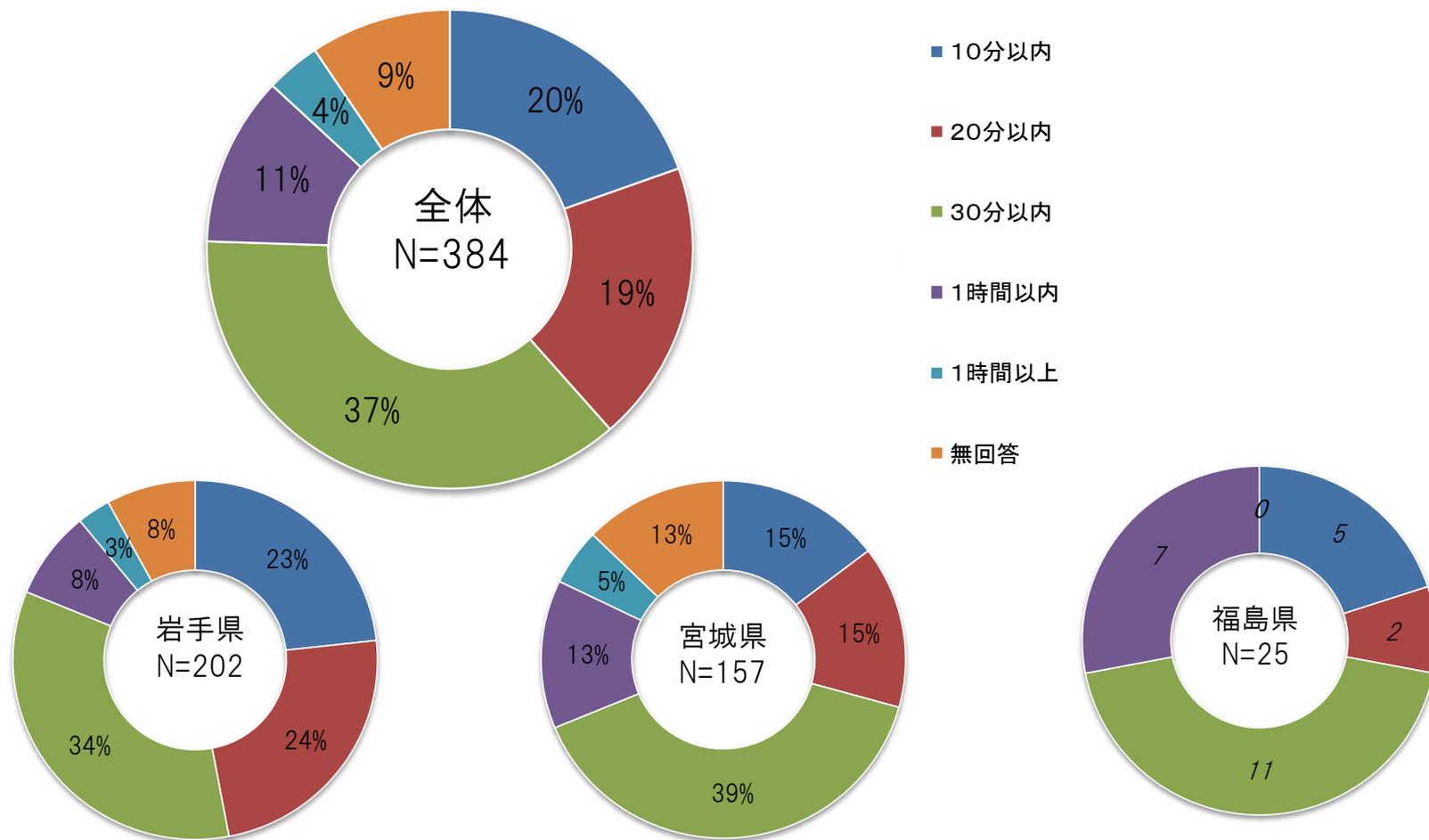
- 地震の後に、ご自身がいる場所に「津波が来ると思った」理由は、3県とも「地震の揺れが大きかったから」と回答した方が最も多い。



付問19. 2 地震後の津波に対する意識(3)津波到達予測時間

問19で「1.津波が必ず来ると思った」「2.津波が来るだろうと思った」を選択した人が回答 N=384

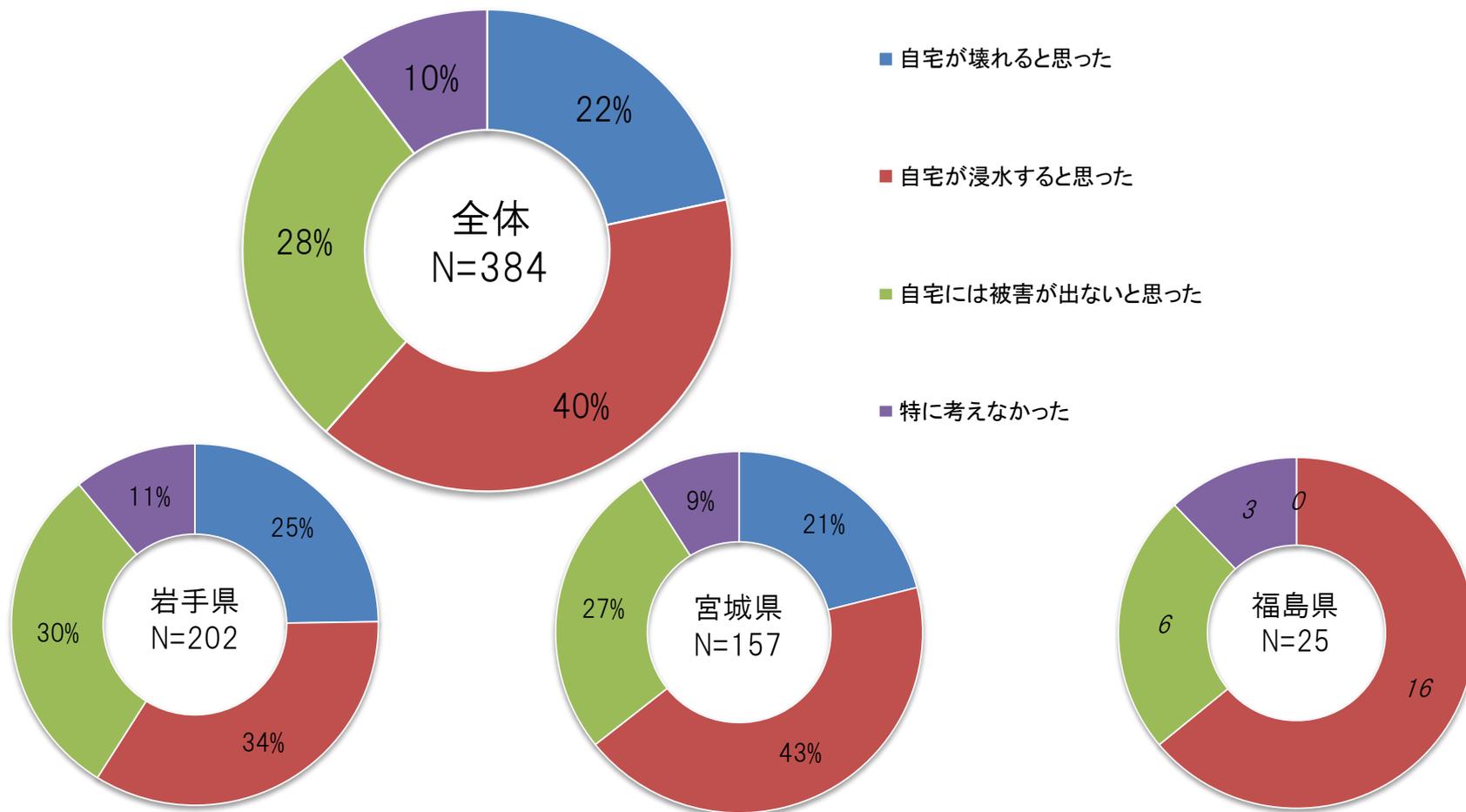
- 「津波が必ず来ると思った」と回答した方の中で、30分以内に津波が来ると思った方は岩手県で約81%、宮城県で約69%、福島県は18票である。(グラフは実数表示)



問20. 地震後の津波に対する意識(4)自宅への被害予想

問19で「1.津波が必ず来ると思った」「2.津波が来るだろうと思った」を選択した人が回答 N=384

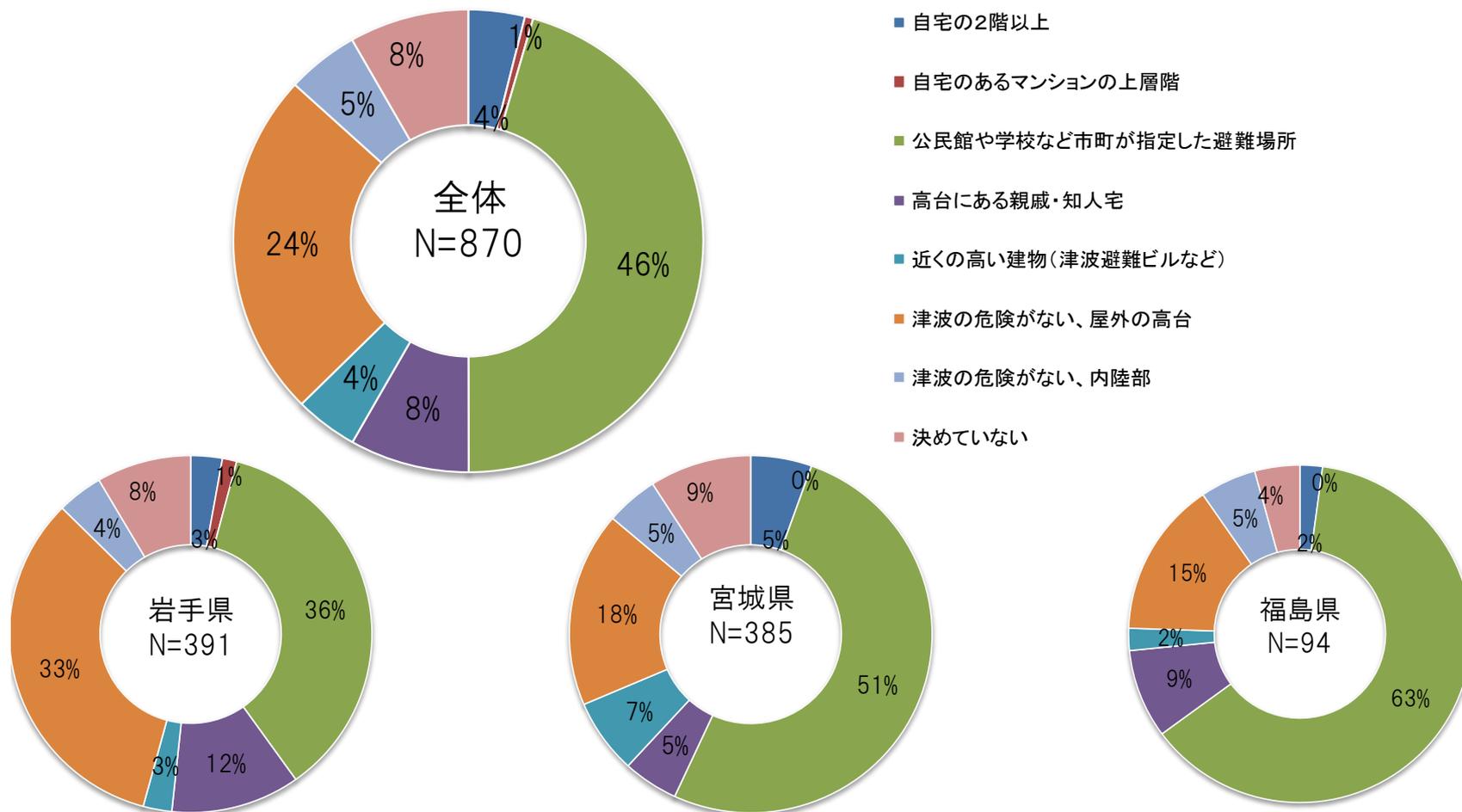
- 「津波が必ず来ると思った」と回答した方に自宅への被害予想を調査した。全体では「自宅が浸水すると思った」、「自宅には被害が出ないと思った」、「自宅が壊れると思った」の順に多い。



問21. 最初に避難しようと思った場所

全員が回答 N=870

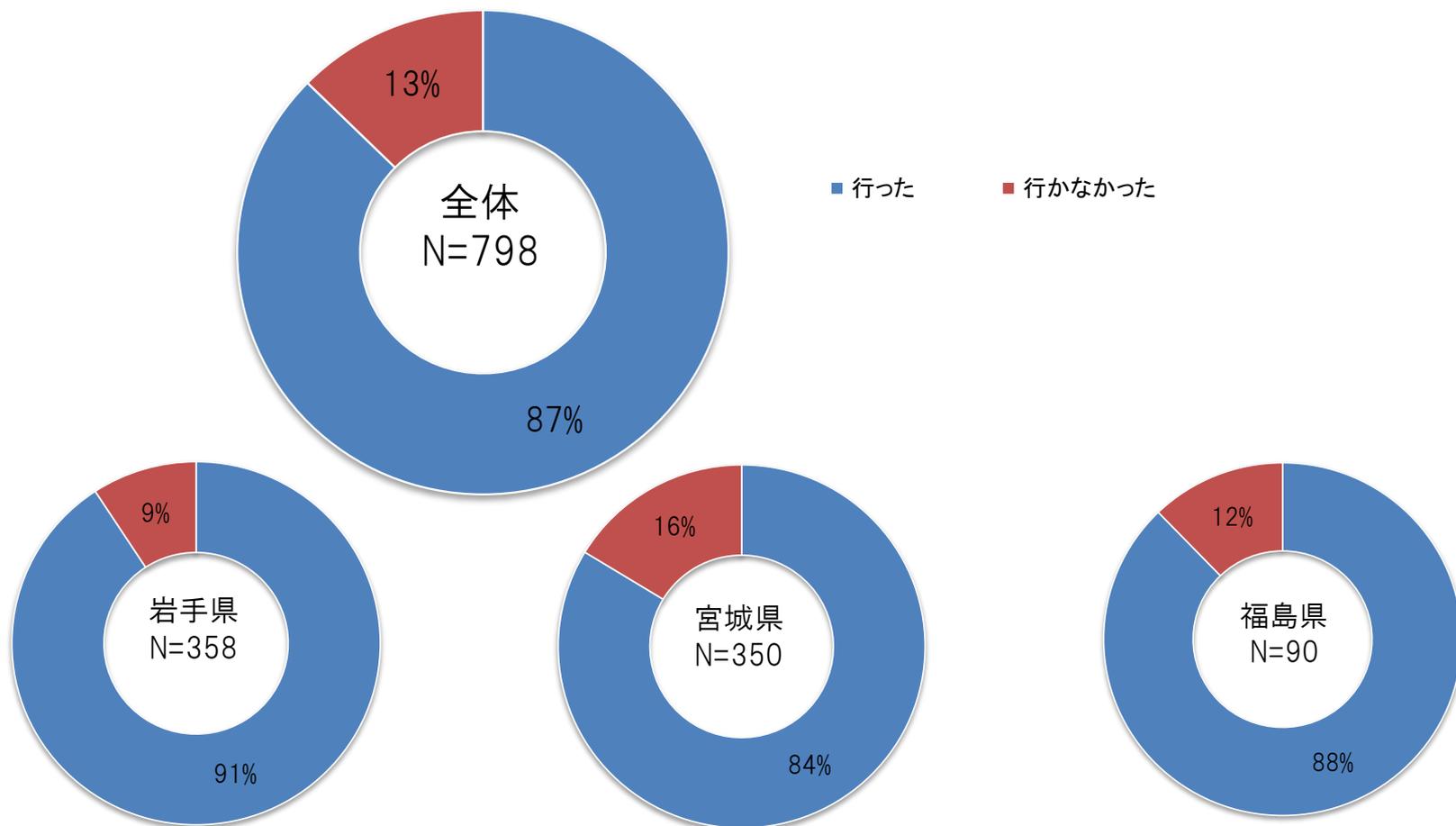
- 最初に避難しようとした場所は、3県ともに「公民館や学校など市町が指定した避難場所」が多く、次いで「津波の危険がない、屋外の高台」が多い。



問22. 最初に避難しようと思った場所に行ったか

問21で「1~7」(避難場所を決めていた)を選択した人が回答 N=798

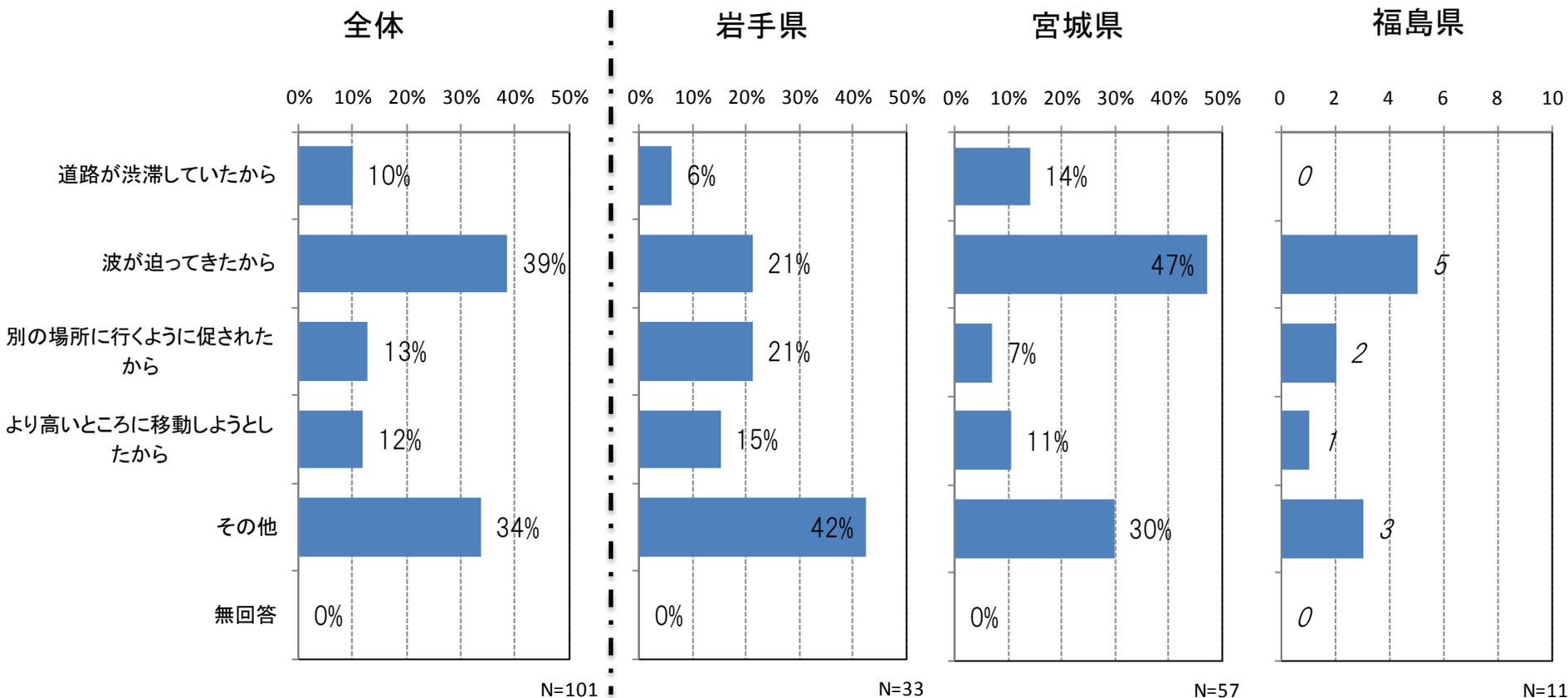
- 最初に避難しようと思った場所に「避難したか」を調査した。岩手県で約91%、宮城県で約84%、福島県で約88%である。



付問22.1 最初に避難しようと思った場所に行かなかった理由

問22で「2.行かなかった」を選択した人が回答 N=101

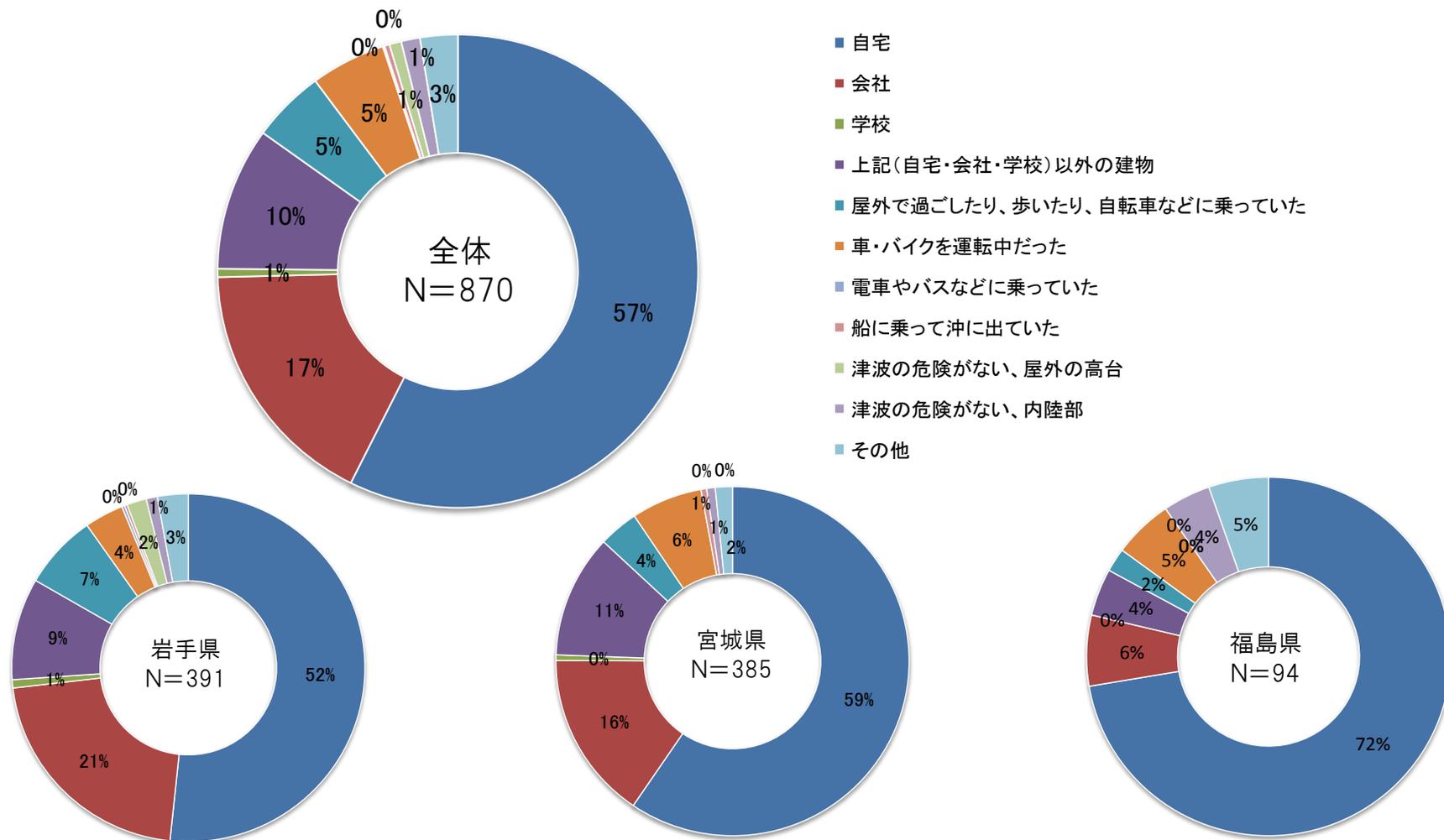
- 最初に避難しようとした場所に「行かなかった」理由を調査した。全体では「波が迫ってきたから」が最も多かった。



問24. 地震発生時にいた場所

全員が回答 N=870

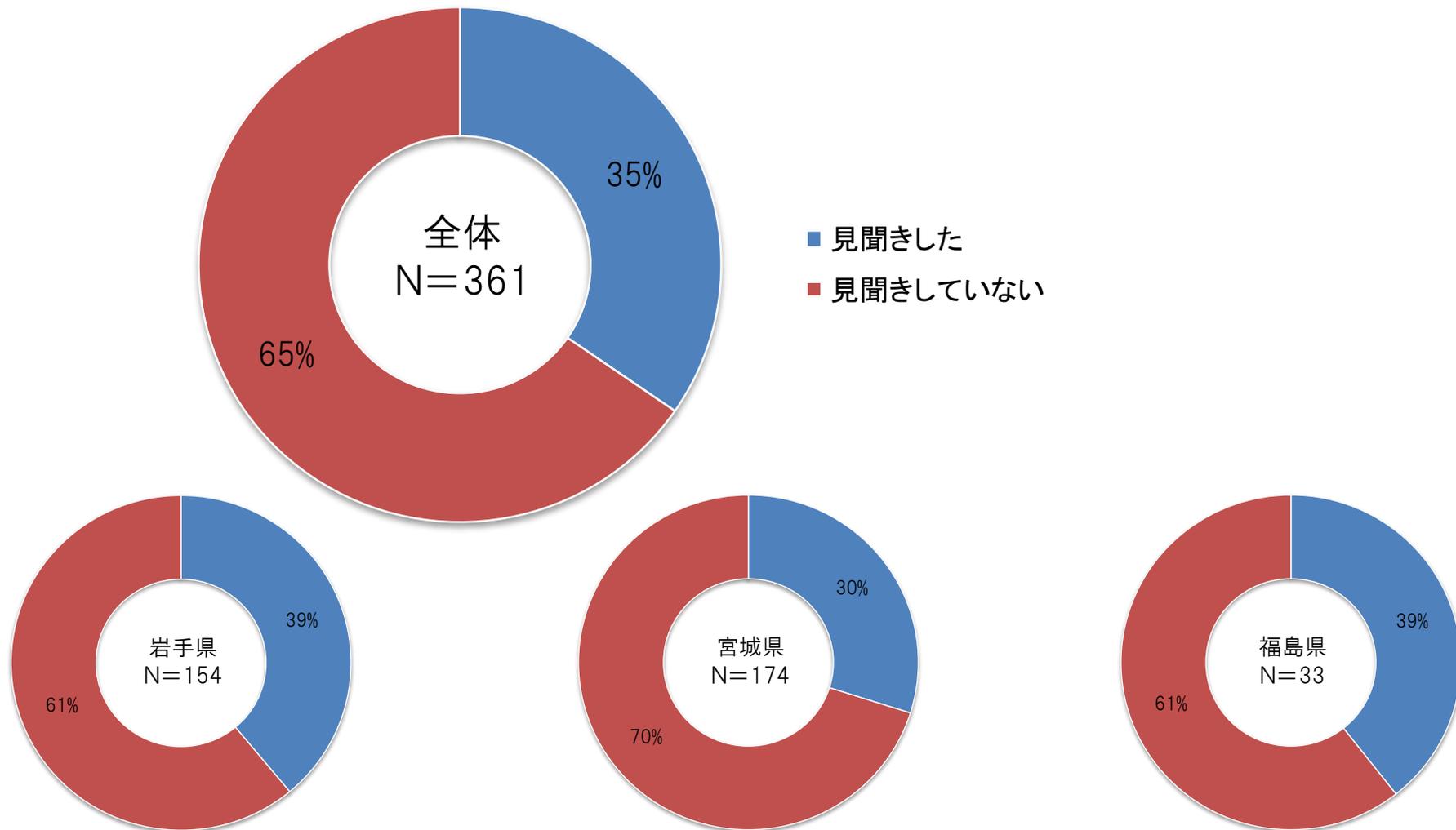
- 地震発生時に、ご自身がいた場所を調査した。3県ともに「自宅」が最も多く、岩手県は約52%、宮城県は約59%、福島県は約72%である。



問24. 津波が来たことを見聞きしたか

問23で「4~9」(揺れが収まった後すぐに避難しなかった)を選択した人が回答 N=361

- 津波を見たり、津波が来たことを聞いたりしたかについて、3県ともに「見聞きしていない」が多く、岩手県では約61%、宮城県では約70%、福島県では約61%である。



付問24. (1) すぐに避難しなかった理由

問23で「4~9」(揺れが収まった後すぐに避難しなかった)を選択した人が回答 N=361

- 「揺れが収まった後すぐに避難をしなかった」理由を調査した。「自宅に戻ったから」、「家族を探しにいったり、迎えに行ったりしたから」、「家族の安否を確認していたから」が多い。「その他」は、「家族・知人を待っていたから」、「避難の準備」、「会社の指示」等があった。

全体

岩手県

宮城県

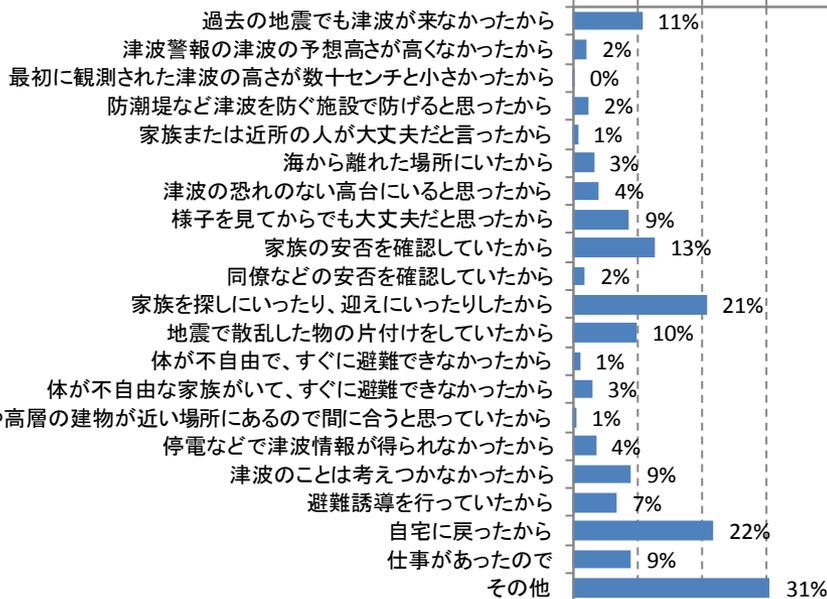
福島県

0% 10% 20% 30% 40%

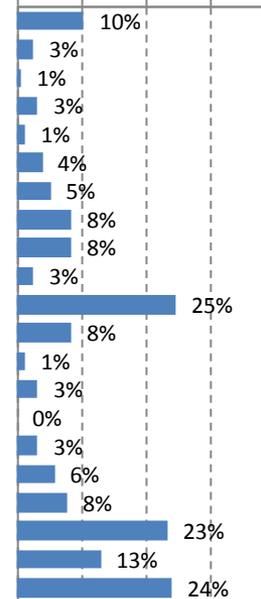
0% 10% 20% 30% 40%

0% 10% 20% 30% 40%

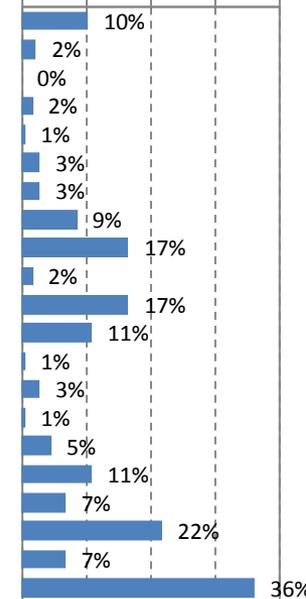
0% 10% 20% 30% 40%



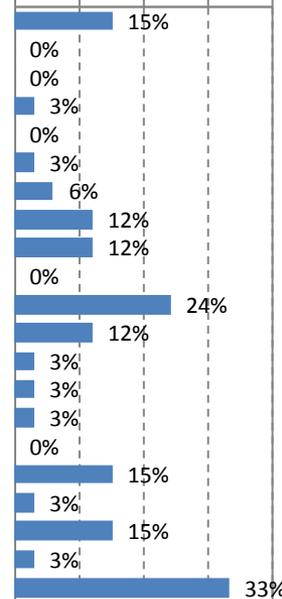
N=361



N=154



N=174



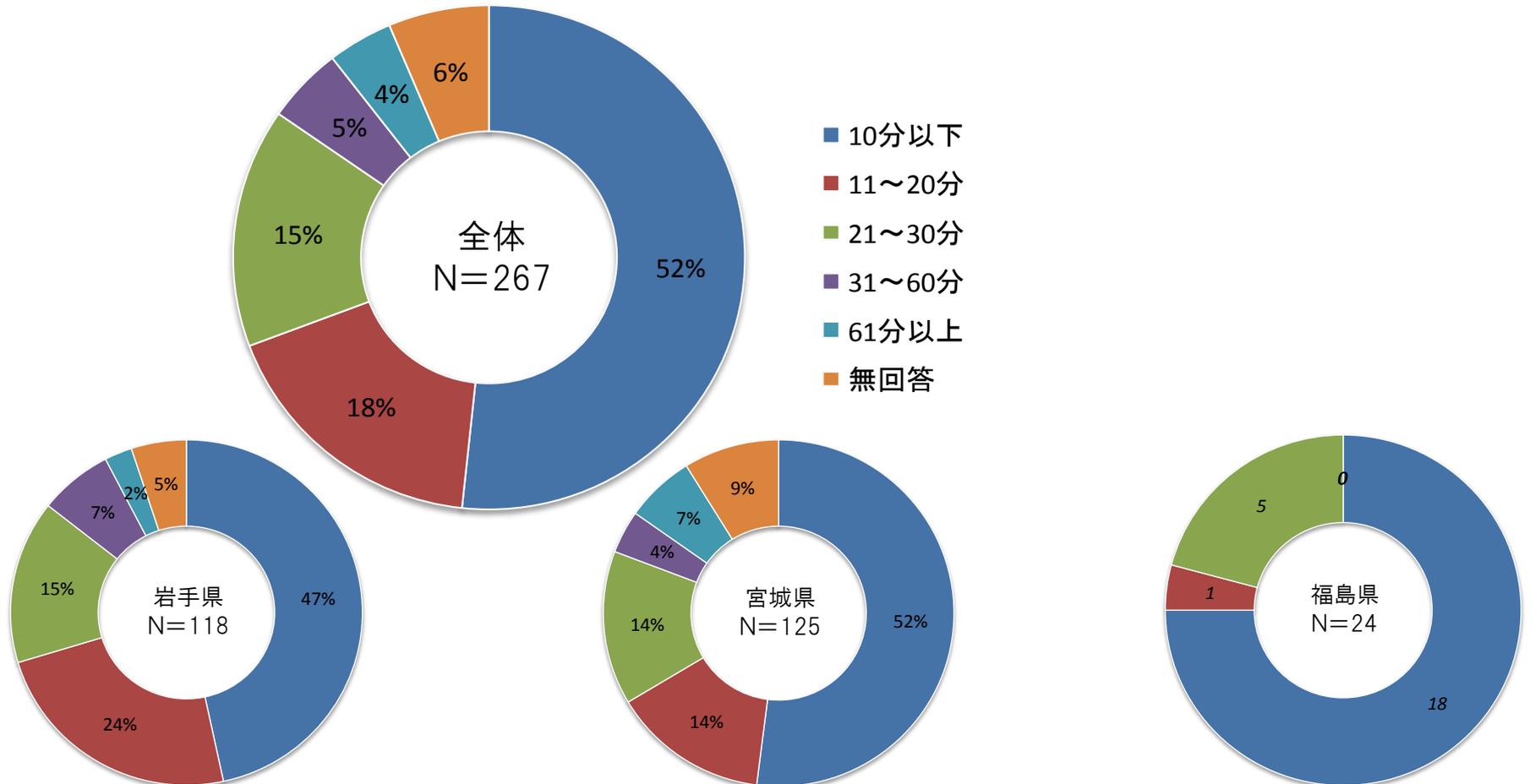
N=33

付問24. (2) 避難しようとしたのは、地震発生後何分くらい後

問23で「4～6」(揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=267

- 「揺れが収まった後、すぐには避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した」人のうち、避難しようとしたのは、地震が発生してから何分後かを調査した。

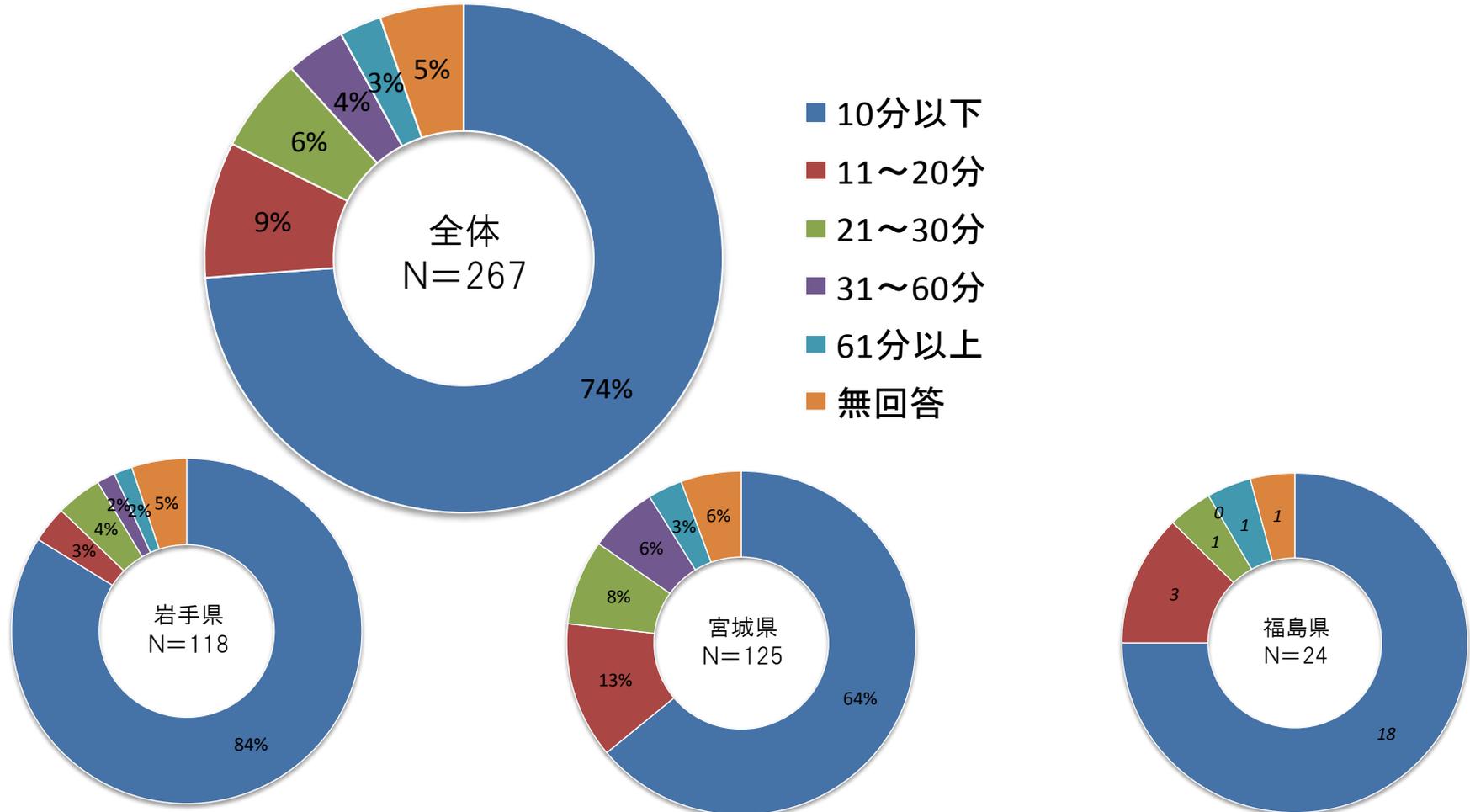
「10分以下」が半数前後であった。



付問24. (3) 実際に避難したのは、避難しようとした後何分くらい後

問23で「4～6」(揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=267

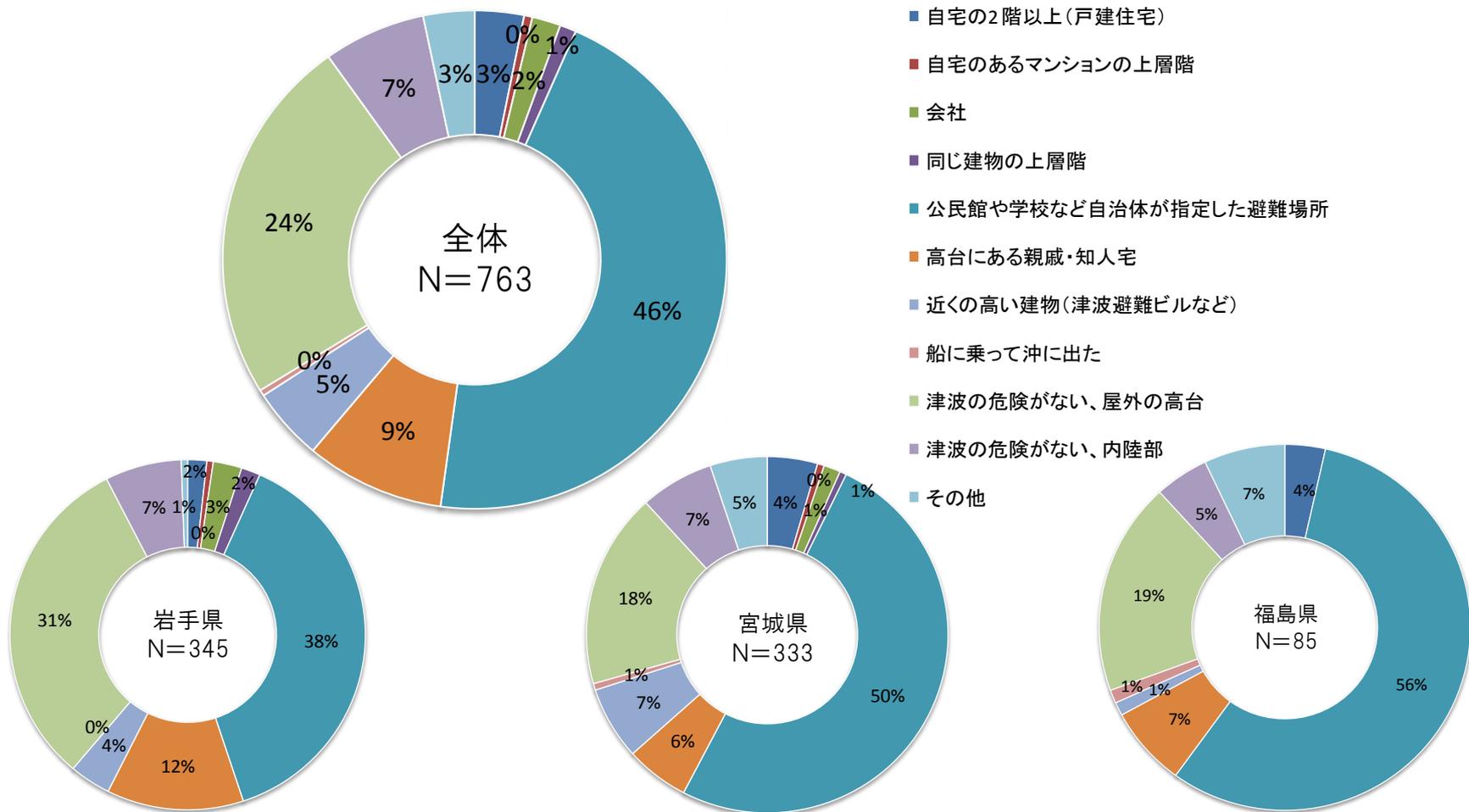
- 「揺れが収まった後、すぐには避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した」人のうち、実際に避難したのは、何分後かを調査した。避難しようとした後「10分以下」が全体の70%強である。



問25. ア 避難した場所【最初】

問23で「1～6」(揺れが収まった直後にすぐ避難した。又は揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=763

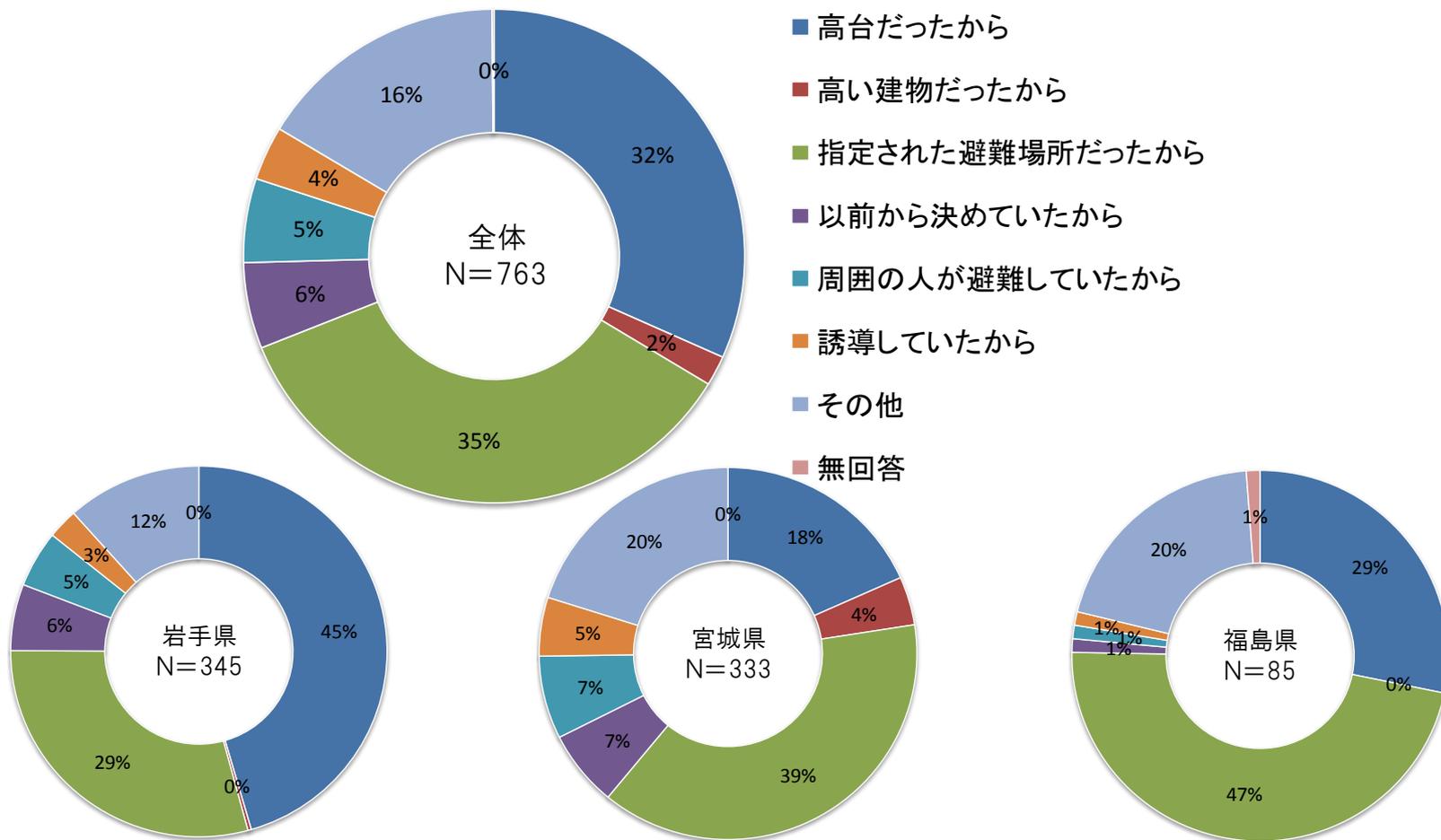
- 最初に避難した場所について、「公民館や学校など自治体が指定した避難場所」が3県ともに最も多く、岩手県で約38%、宮城県で約50%、福島県で約56%だった。次いで、「津波の危険がない、屋外の高台」が多かった。



問25. イ 選んだ理由【最初】

問23で「1～6」(揺れが収まった直後にすぐ避難した。又は揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=763

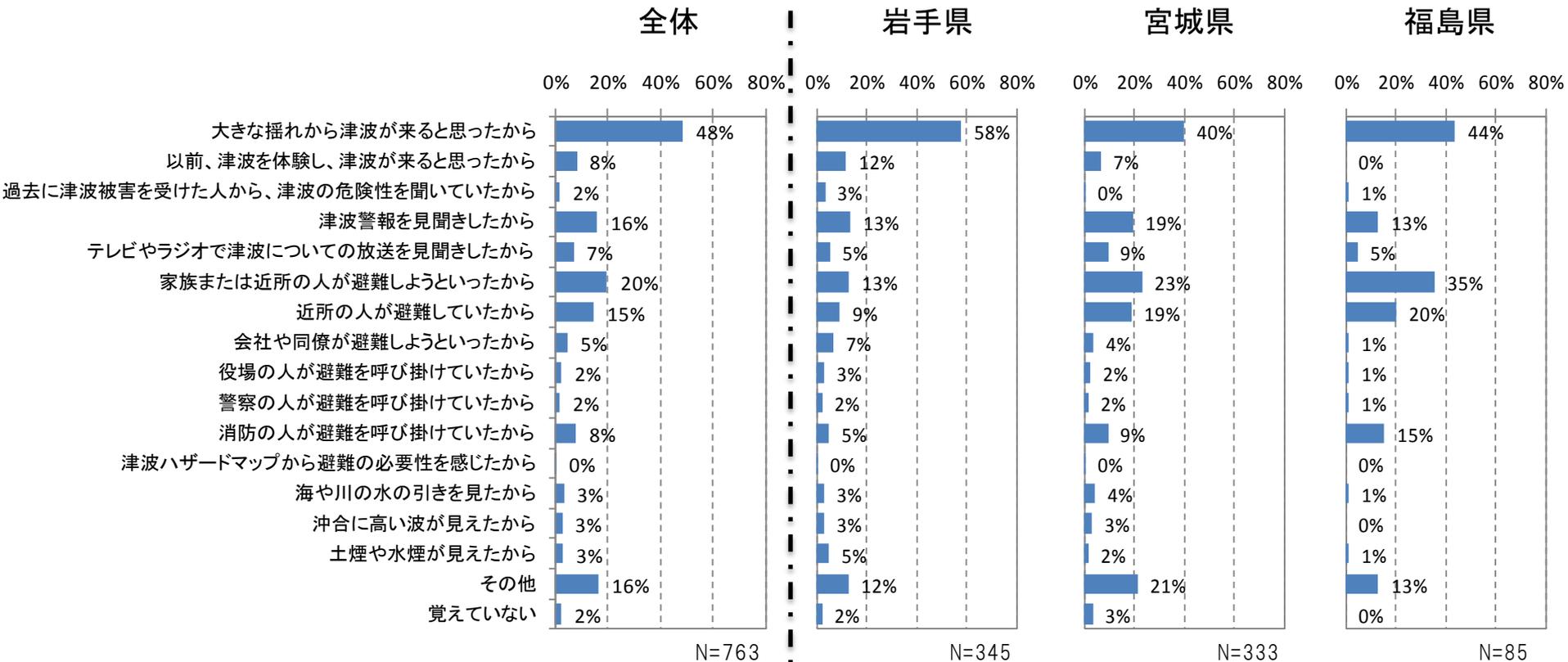
- 最初の避難場所を選んだ理由について、岩手県は「高台だったから」が約45%と多く、次いで「指定された避難場所だったから」が約29%だった。宮城県と福島県は、「指定された避難場所だったから」が最も多く、宮城県で約39%、福島県で約47%となっている。



問25. ウ 避難したきっかけ【最初】

問23で「1~6」(揺れが収まった直後にすぐ避難した。又は揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=763

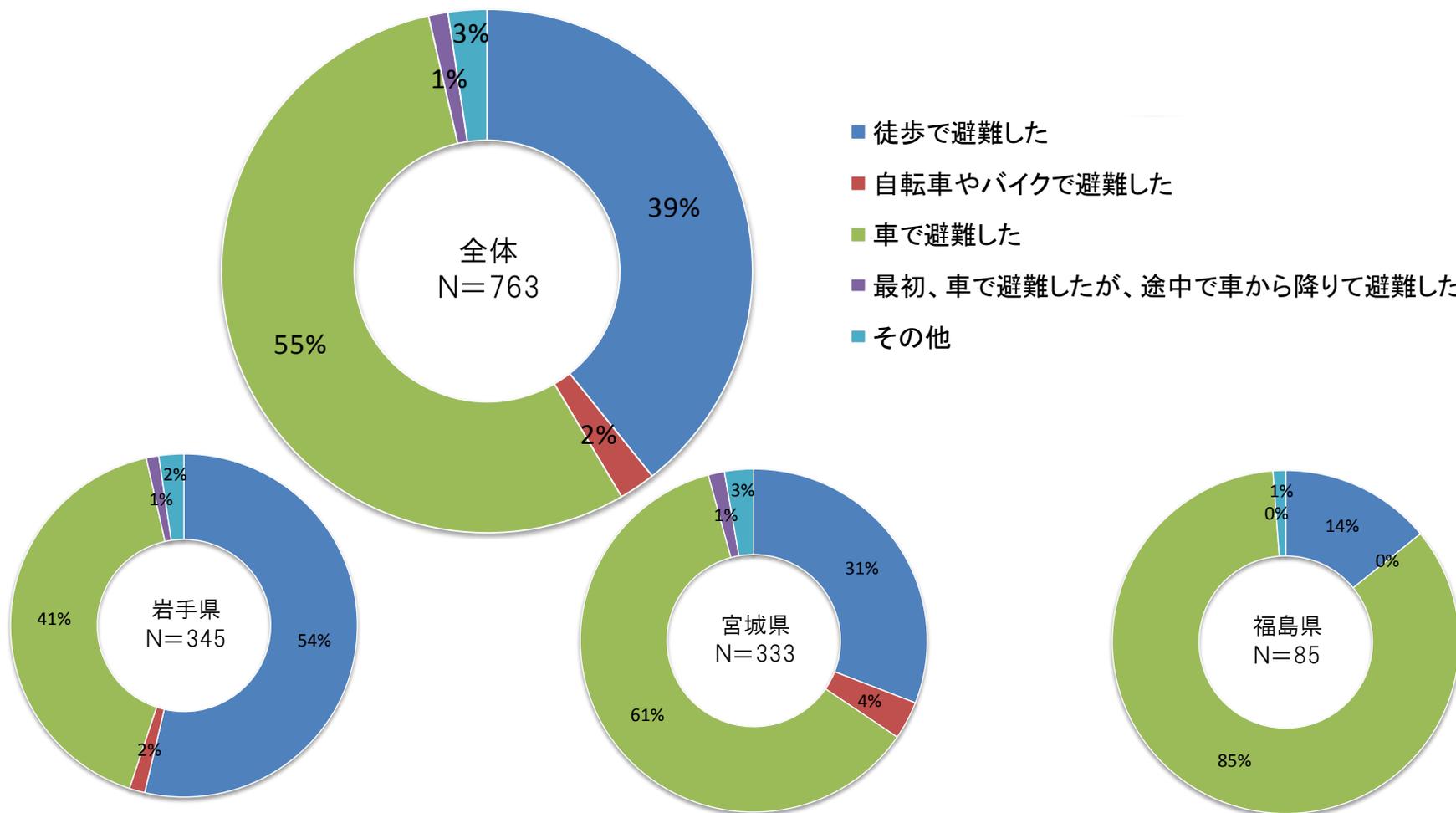
- 避難したきっかけについて、「大きな揺れから津波が来ると思ったから」が最も多く、次いで「家族または近所の人から避難しようといったから」が多い。
- 「津波警報を見聞きしたから」や「消防の人が避難を呼び掛けていたから」も避難したきっかけとして回答した人が多い。



問25. エ 移動した手段【最初】

問23で「1～6」(揺れが収まった直後にすぐ避難した。又は揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=763

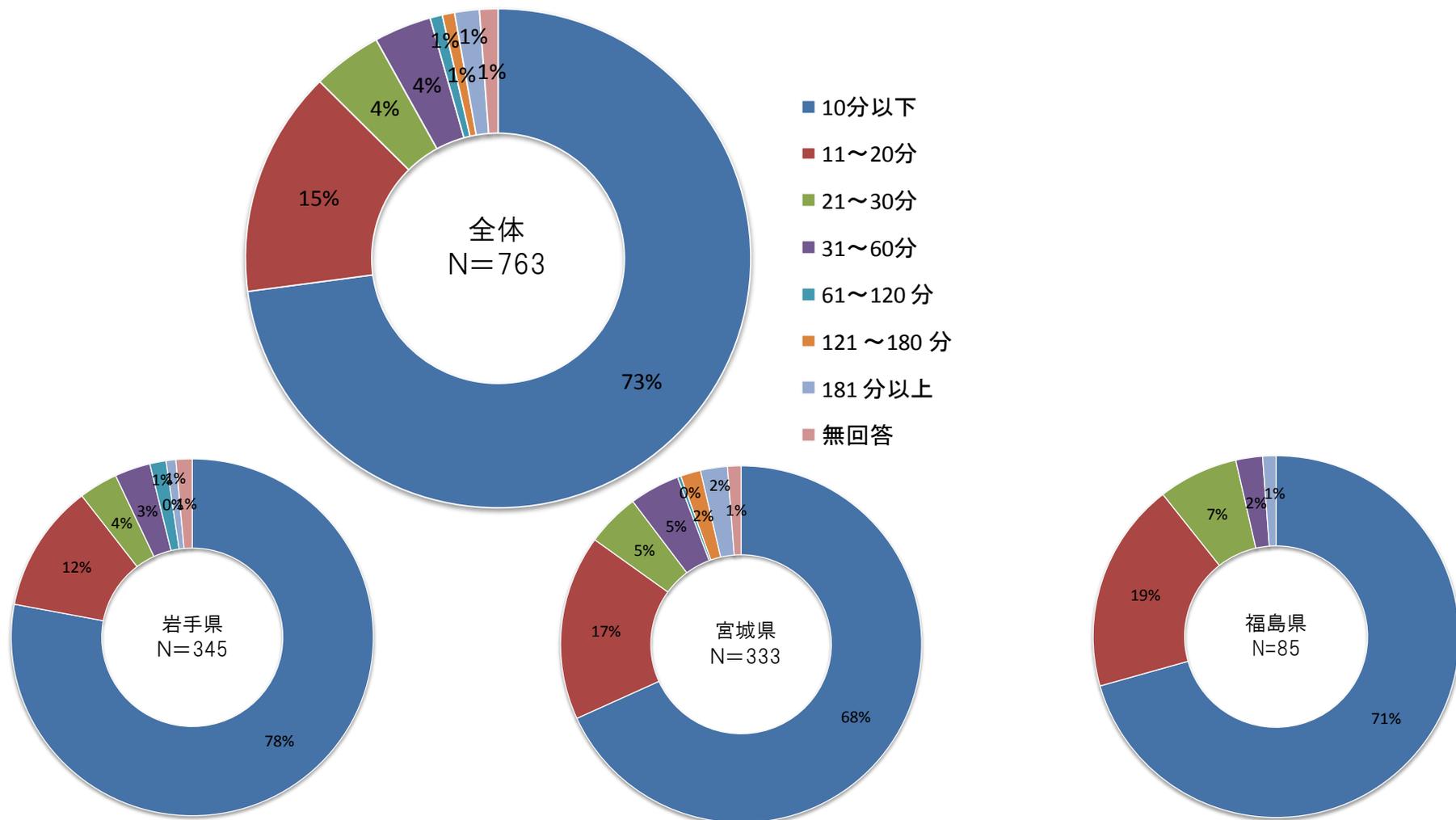
- 最初の避難場所に移動した手段について、岩手県では「徒歩で避難した」が約54%と最も多いが、宮城県と福島県では「車で避難した」が最も多く、宮城県で約61%、福島県で約85%である。



問25. 才 所要時間(分)【最初】

問23で「1～6」(揺れが収まった直後にすぐ避難した。又は揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=763

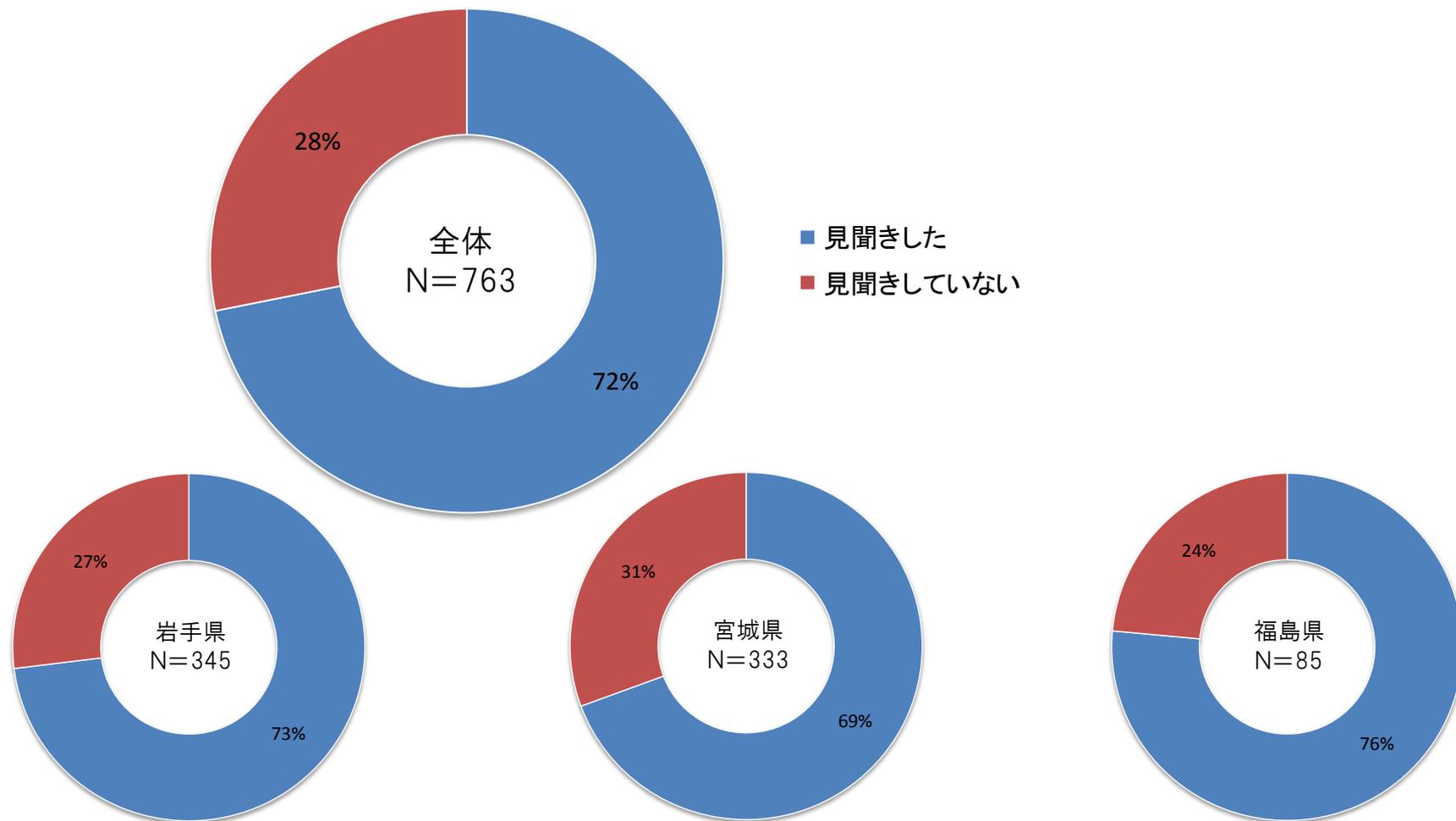
- 最初の避難所までの実際に要した時間について、3県ともに「10分以下」が最も多く岩手県で約78%、宮城県で約68%、福島県で約71%である。



問25. カ 津波が来たことを見聞きしたか【最初】

問23で「1～6」(揺れが収まった直後にすぐ避難した。又は揺れが収まった後、すぐに避難しなかった。なんらかの行動を終えて避難した)を選択した人が回答 N=763

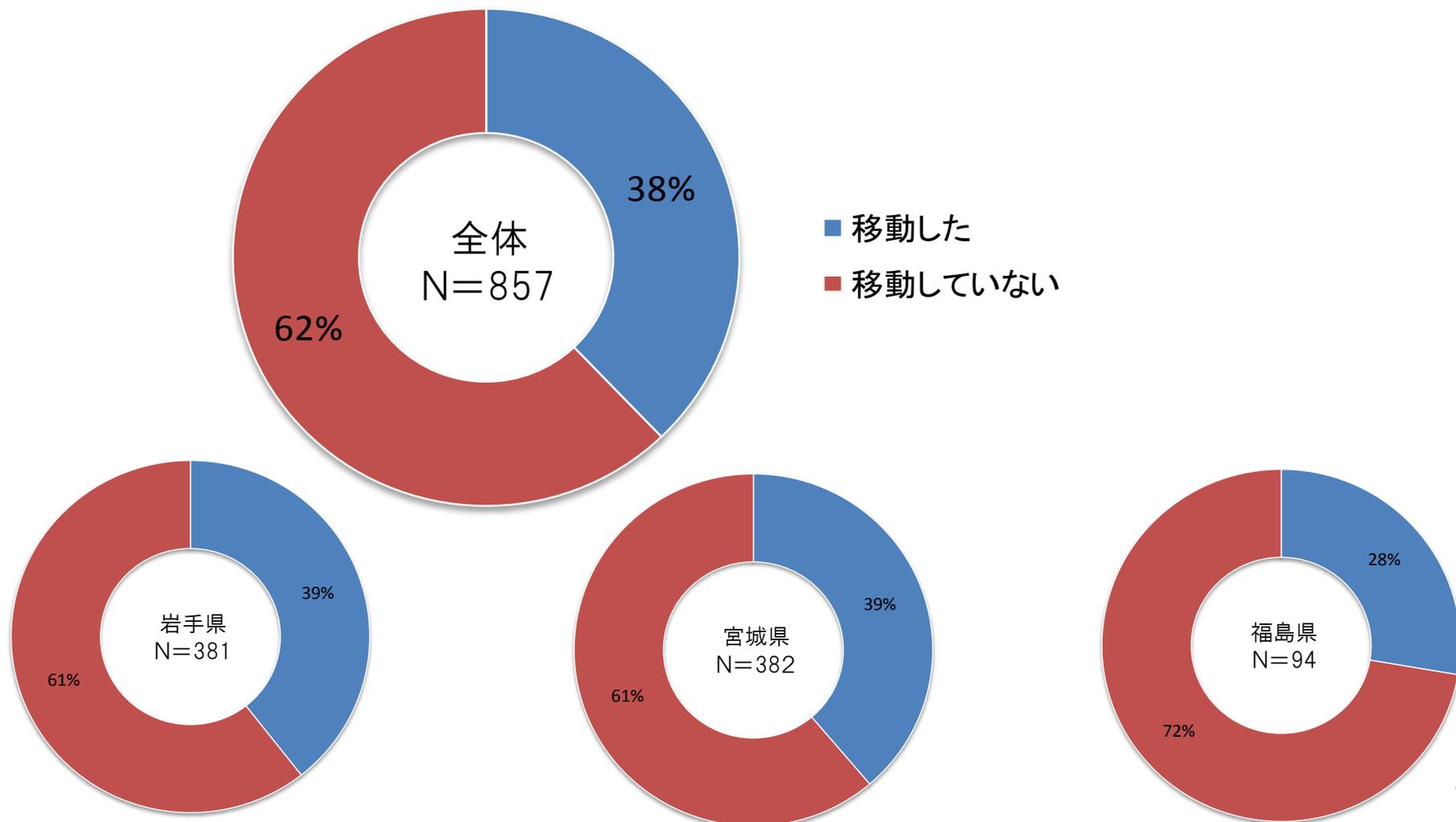
- 津波を見たり、津波が来たことを聞いたりしたかについて、3県ともに「見聞きした」が多く、岩手県では約73%、宮城県では約69%、福島県では約76%である。



問26. さらに移動したか【さらに移動した場所①】

問23の「1～9」を選択した方のうち、避難をした後、さらに移動した人が回答 N=857

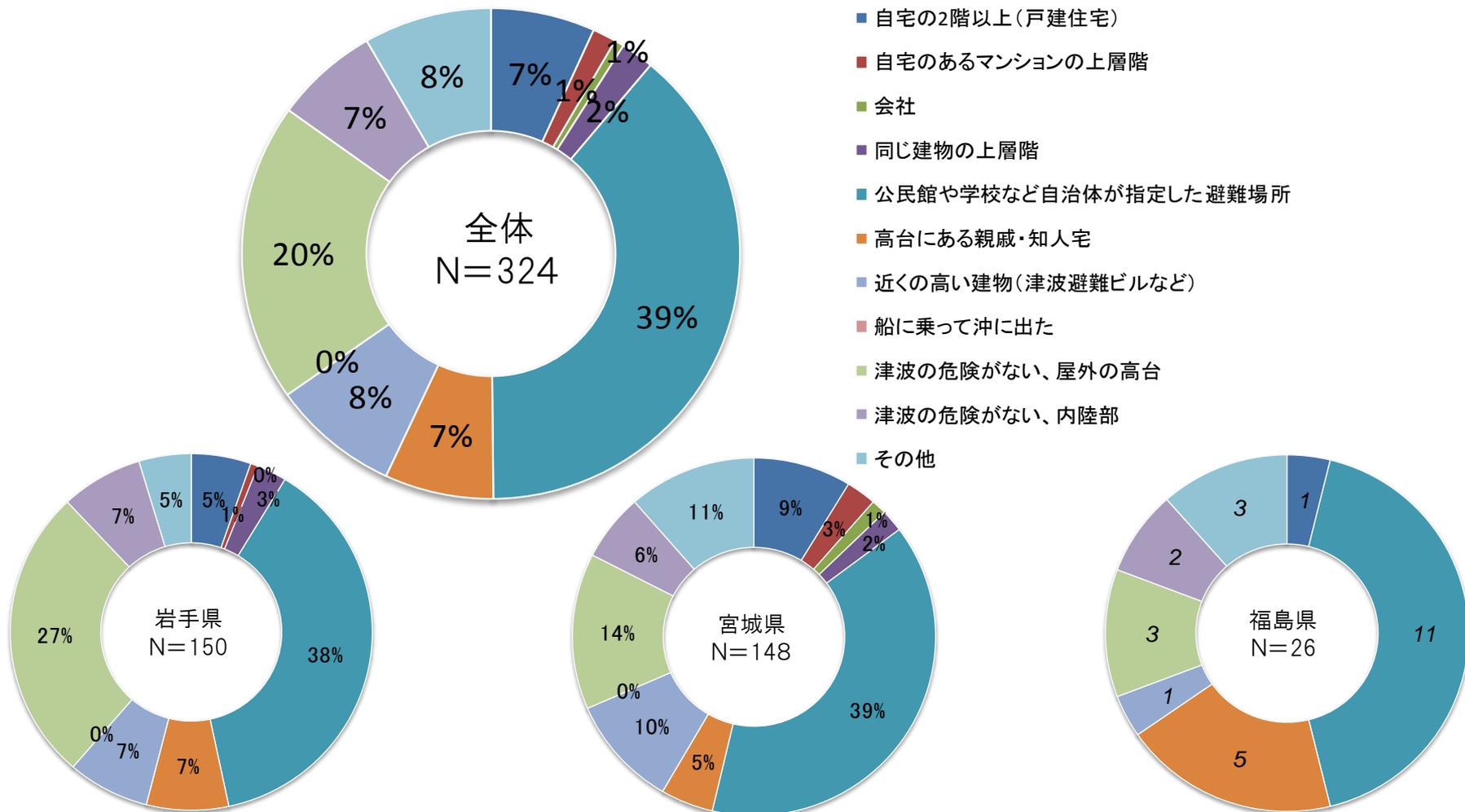
- 「最初に避難をした場所からさらに移動したかどうか」について、3県とも「移動していない」が多く、岩手県で約61%、宮城県で約61%、福島県で約72%である。



問26. 避難をした場所【さらに移動した場所①】

問23の「1～9」を選択した方のうち、避難をした後、さらに移動した人が回答 N=324

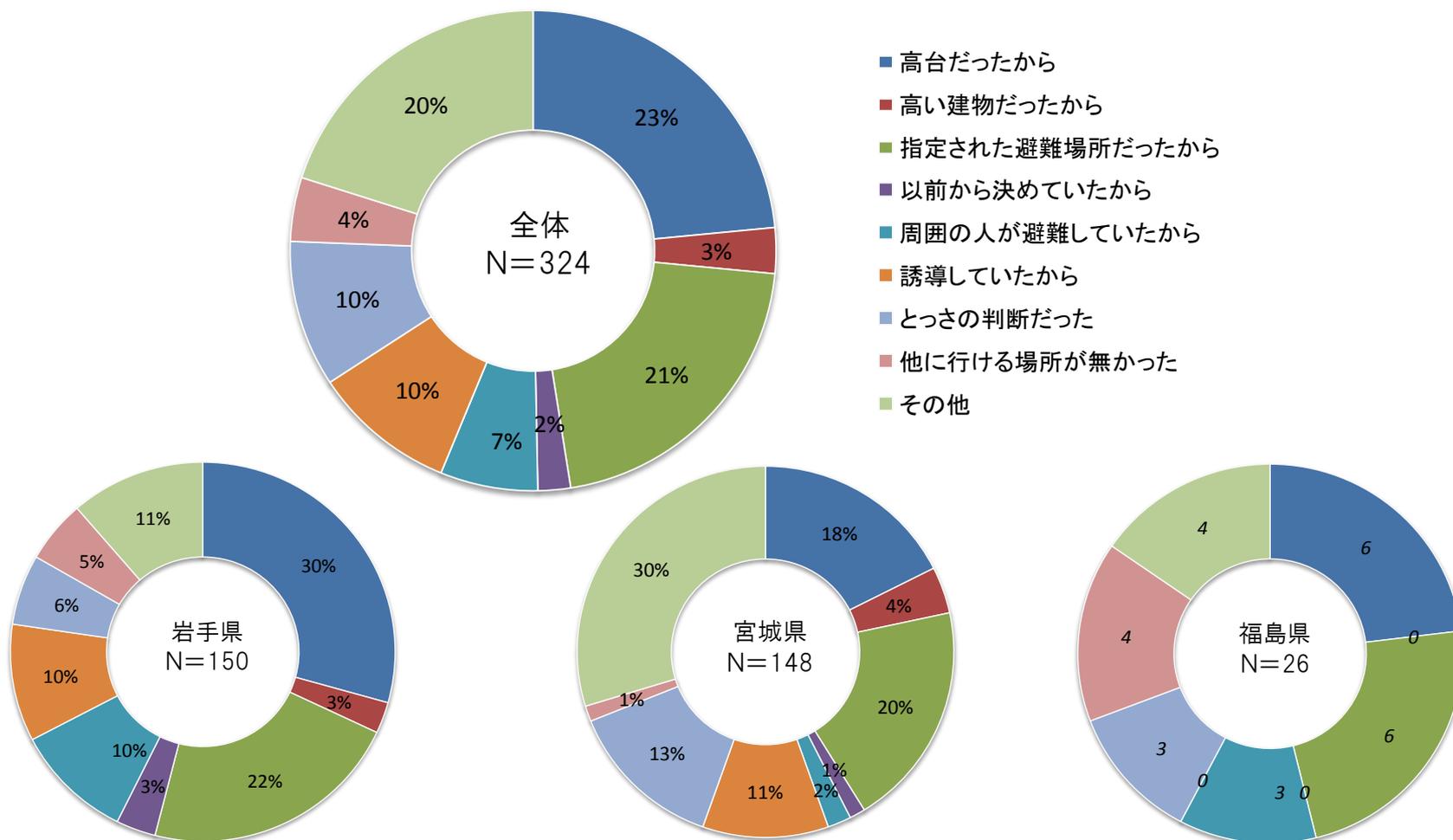
- 「最初に避難をした場所からさらに移動した」場所について、「公民館や学校など自治体が指定した避難場所」が最も多い。次いで、「津波の危険がない、屋外の高台」や「近くの高い建物(津波避難ビルなど)」があげられる。



問26. 選んだ理由【さらに移動した場所①】

問23の「1～9」を選択した方のうち、避難をした後、さらに移動した人が回答 N=324

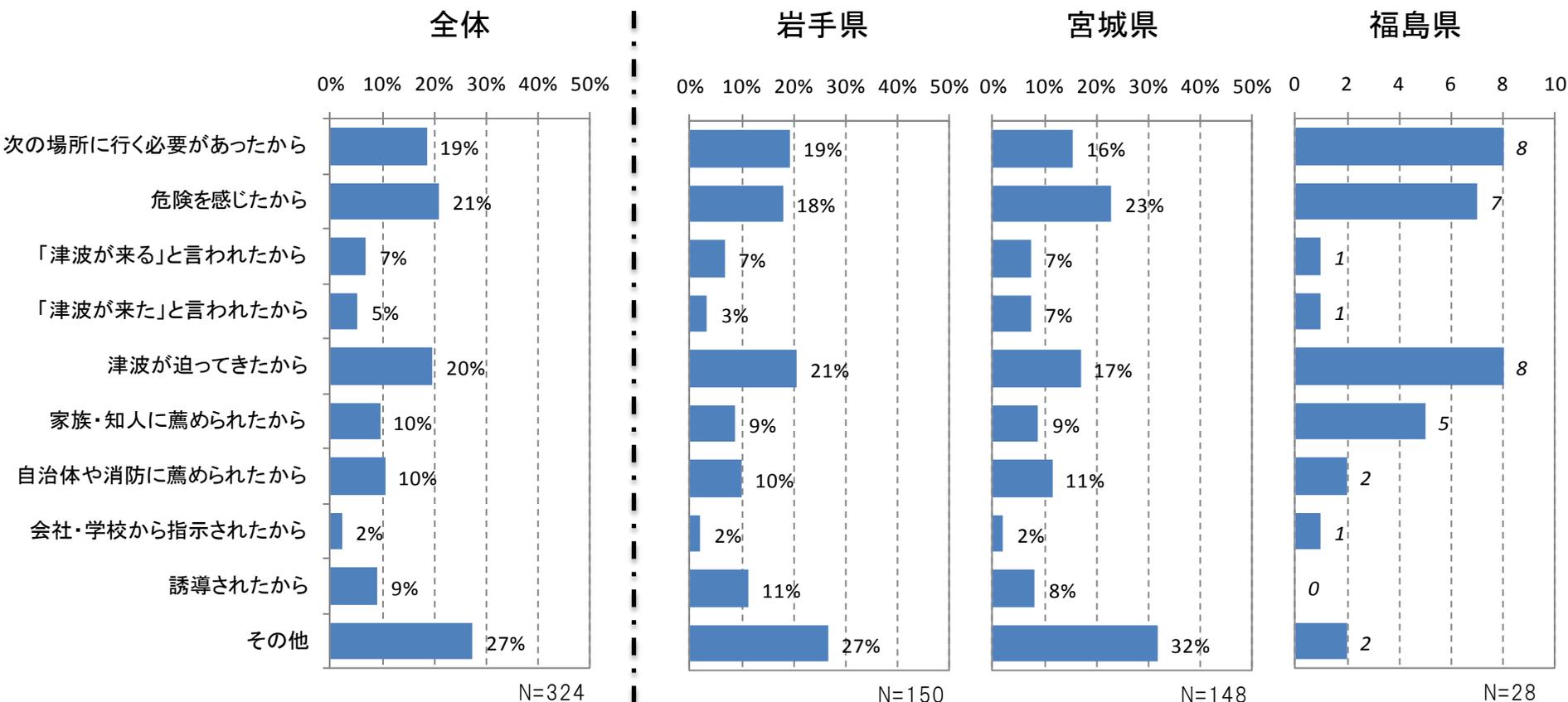
- 「最初に避難をした場所からさらに移動した」場所を選んだ理由について、全体では「高台だったから」が約23%と最も多く、次いで「指定された避難場所だったから」がやや多い。



問26. 避難したきっかけ【さらに移動した場所①】

問23の「1～9」を選択した方のうち、避難をした後、さらに移動した人が回答 N=324

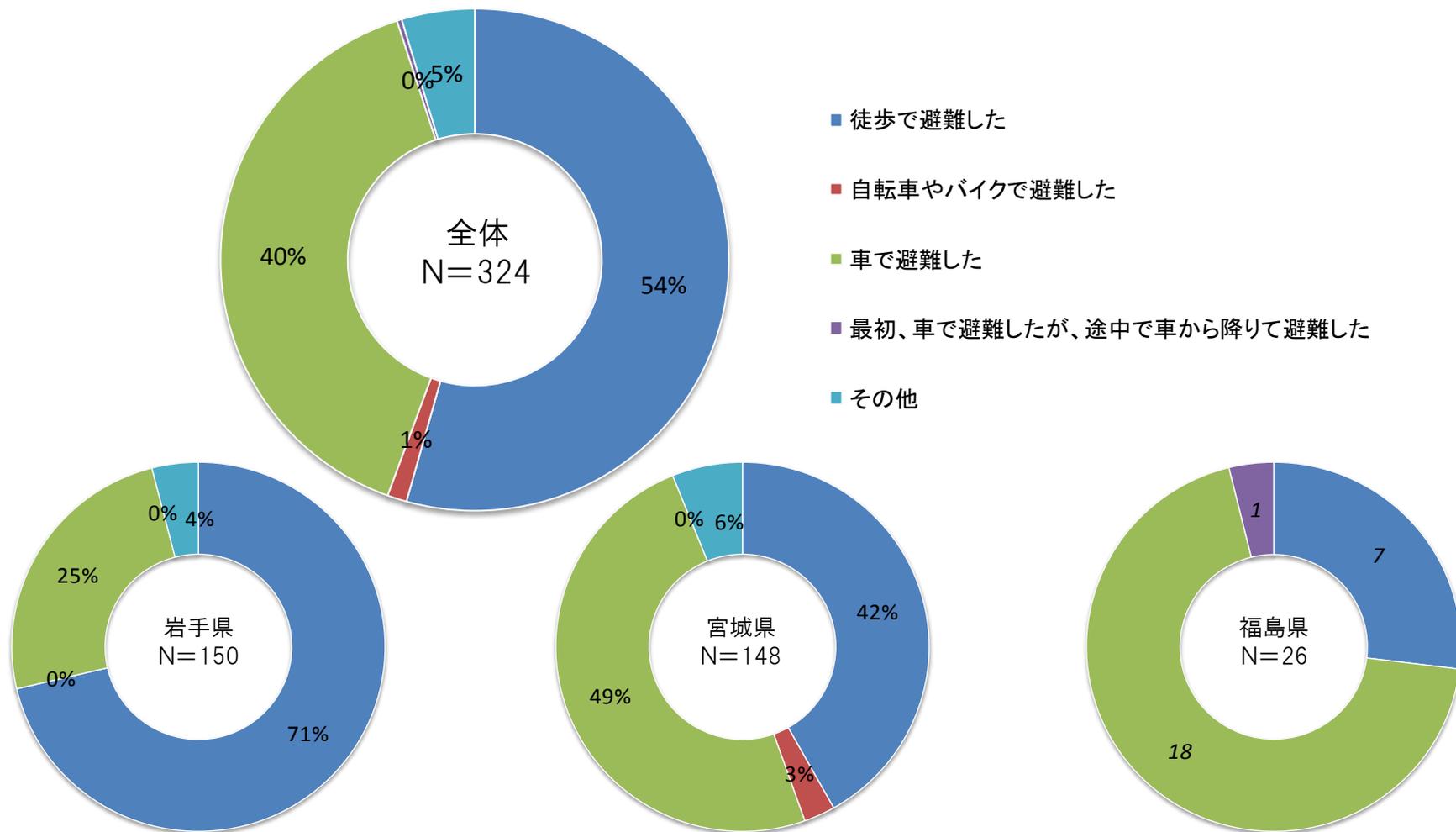
- 「最初に避難をした場所からさらに移動した」きっかけについて、3県ともに「次の場所に行く必要があったから」「危険を感じたから」「津波が迫ってきたから」が多い。



問26. 避難した手段【さらに移動した場所①】

問23の「1～9」を選択した方のうち、避難をした後、さらに移動した人が回答 N=324

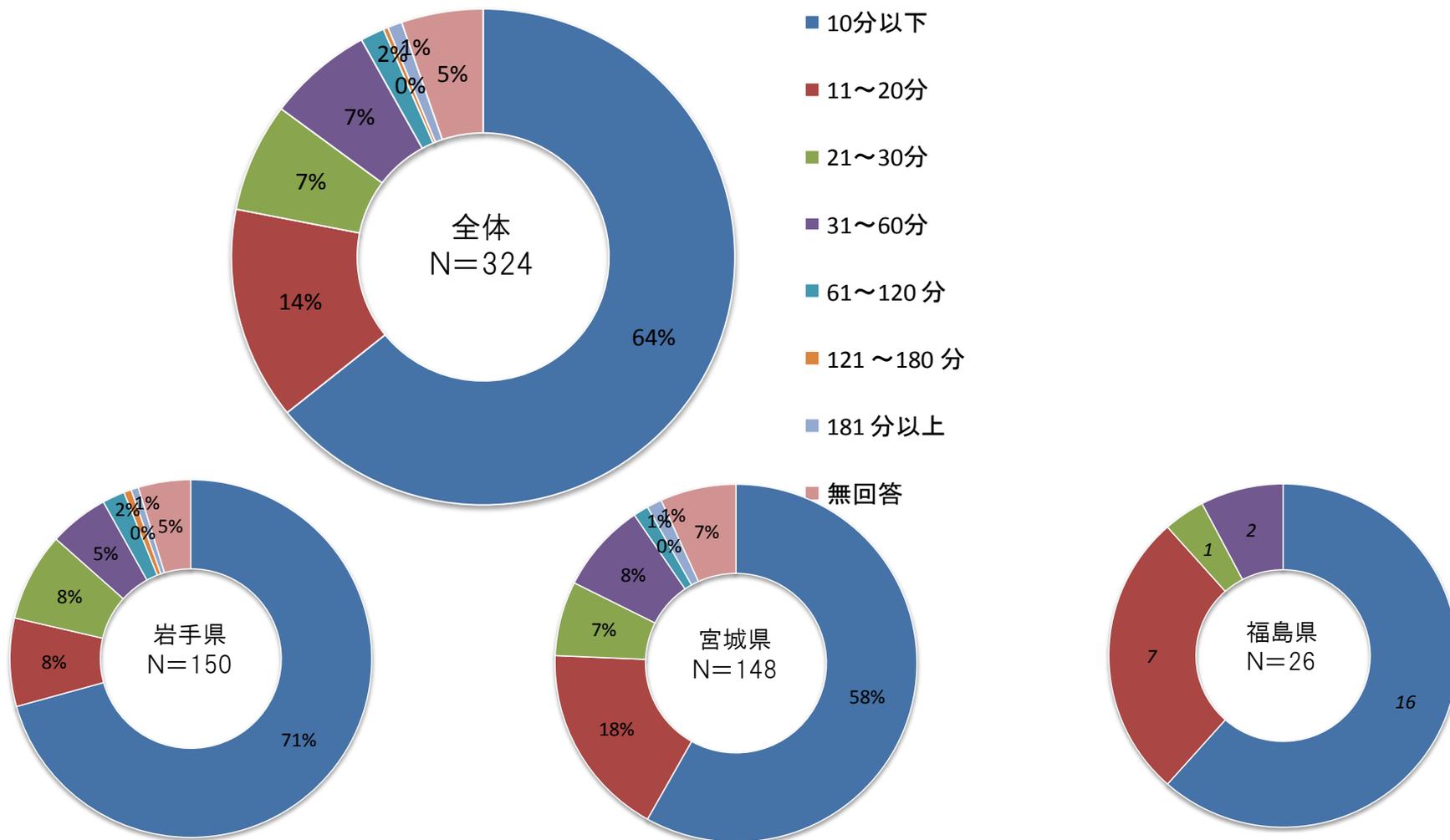
- 「最初に避難をした場所からさらに移動した」場所への移動手段について、岩手県は「徒歩で避難した」が71%と最も多く、一方、宮城県と福島県は「車で避難した」が最も多い。



問26. 避難した時間【さらに移動した場所①】

問23の「1～9」を選択した方のうち、避難をした後、さらに移動した人が回答 N=324

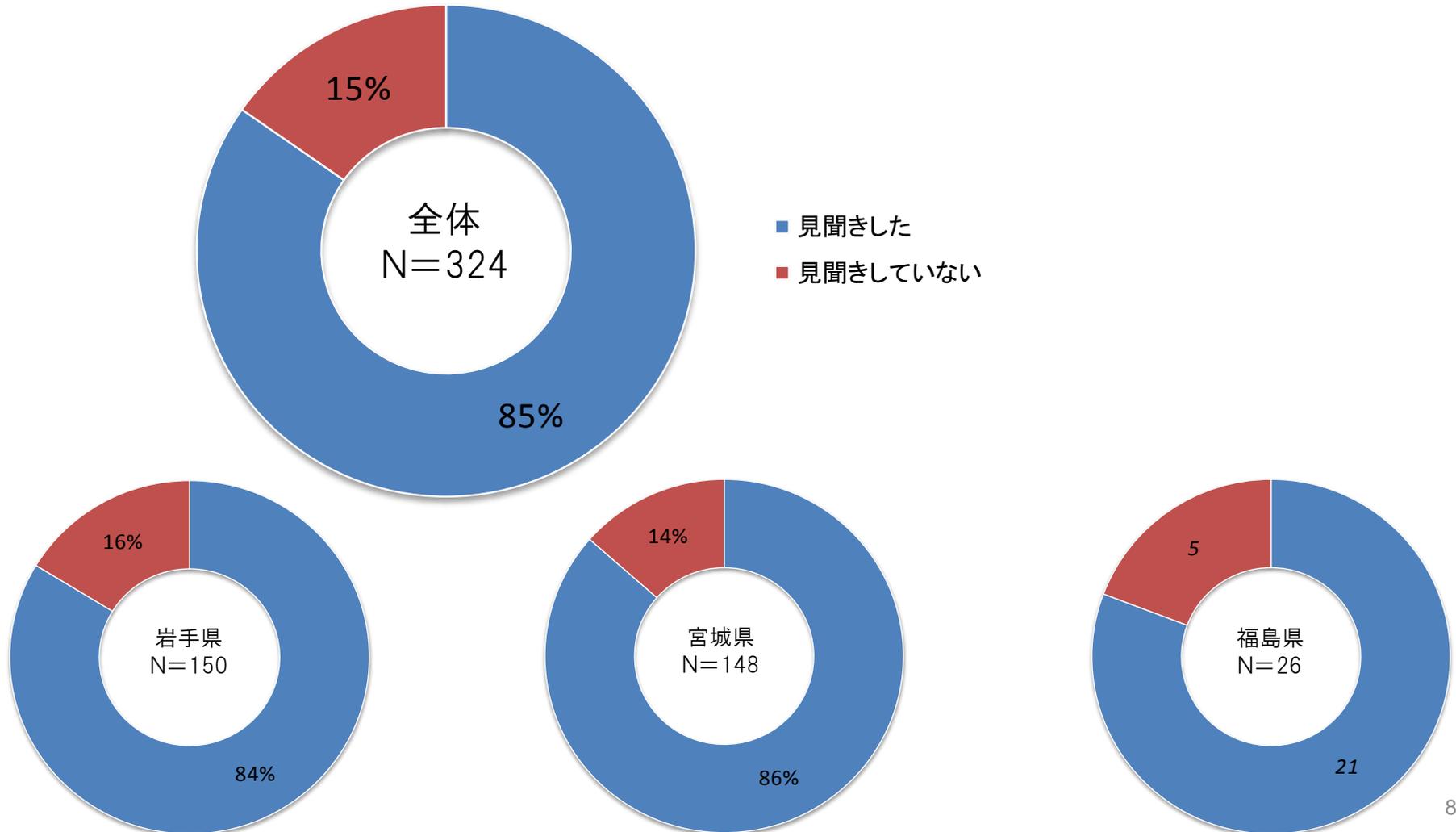
- 「最初に避難をした場所からさらに移動した」場所までの実際に要した時間について、3県ともに「10分以下」が最も多い。



問26. 津波を見たり、津波が来たこと聞いたりしたか【さらに移動した場所①】

問23の「1～9」を選択した方のうち、避難をした後、さらに移動した人が回答 N=324

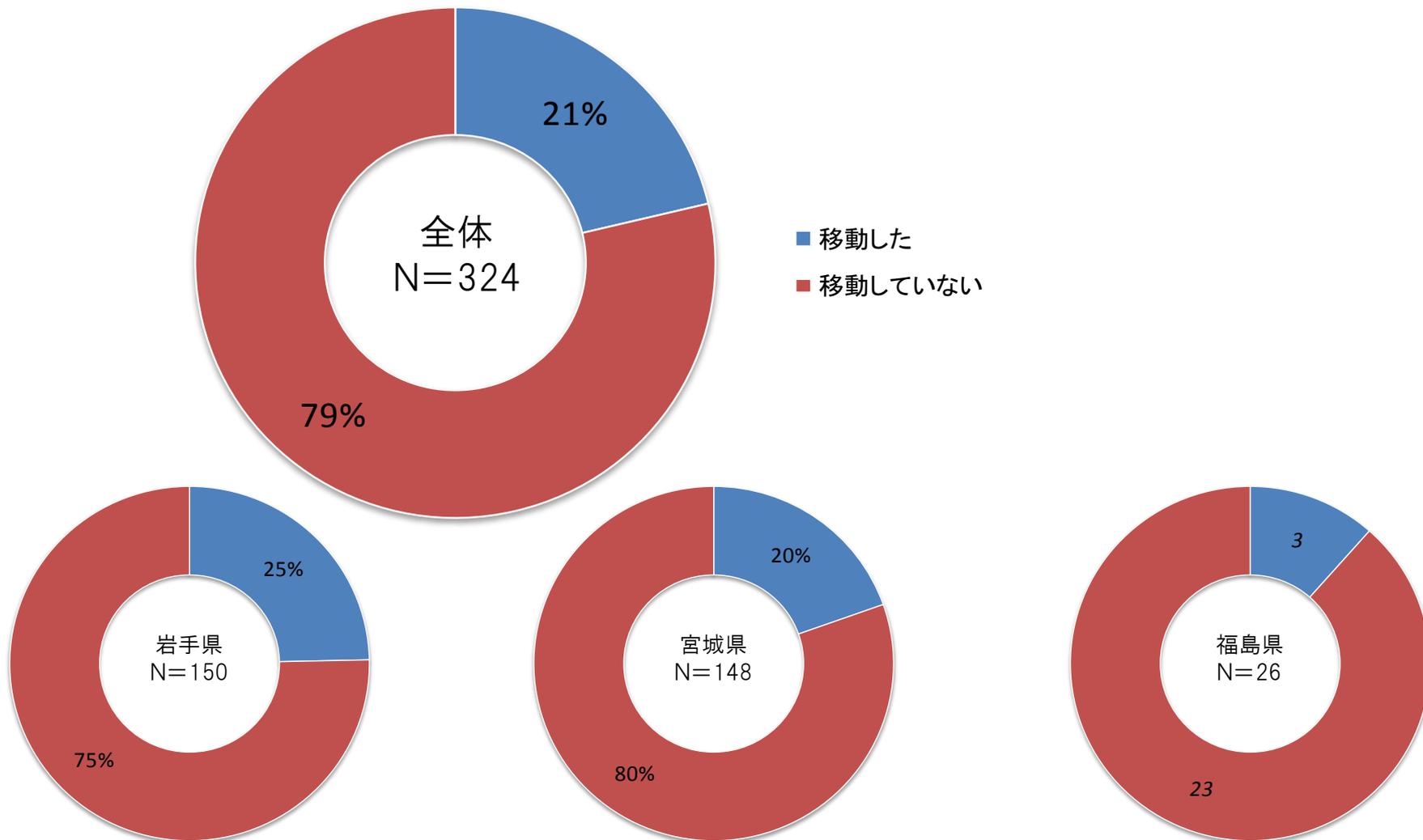
- 「最初に避難をした場所からさらに移動した」場所で津波を見たり、津波が来たことを聞いたりしたかについて、3県とも「見聞きした」が80%以上と多い。



問26. さらに移動したか【さらに移動した場所②】

問26のうち、さらに移動した人が回答(3回目避難) N=324

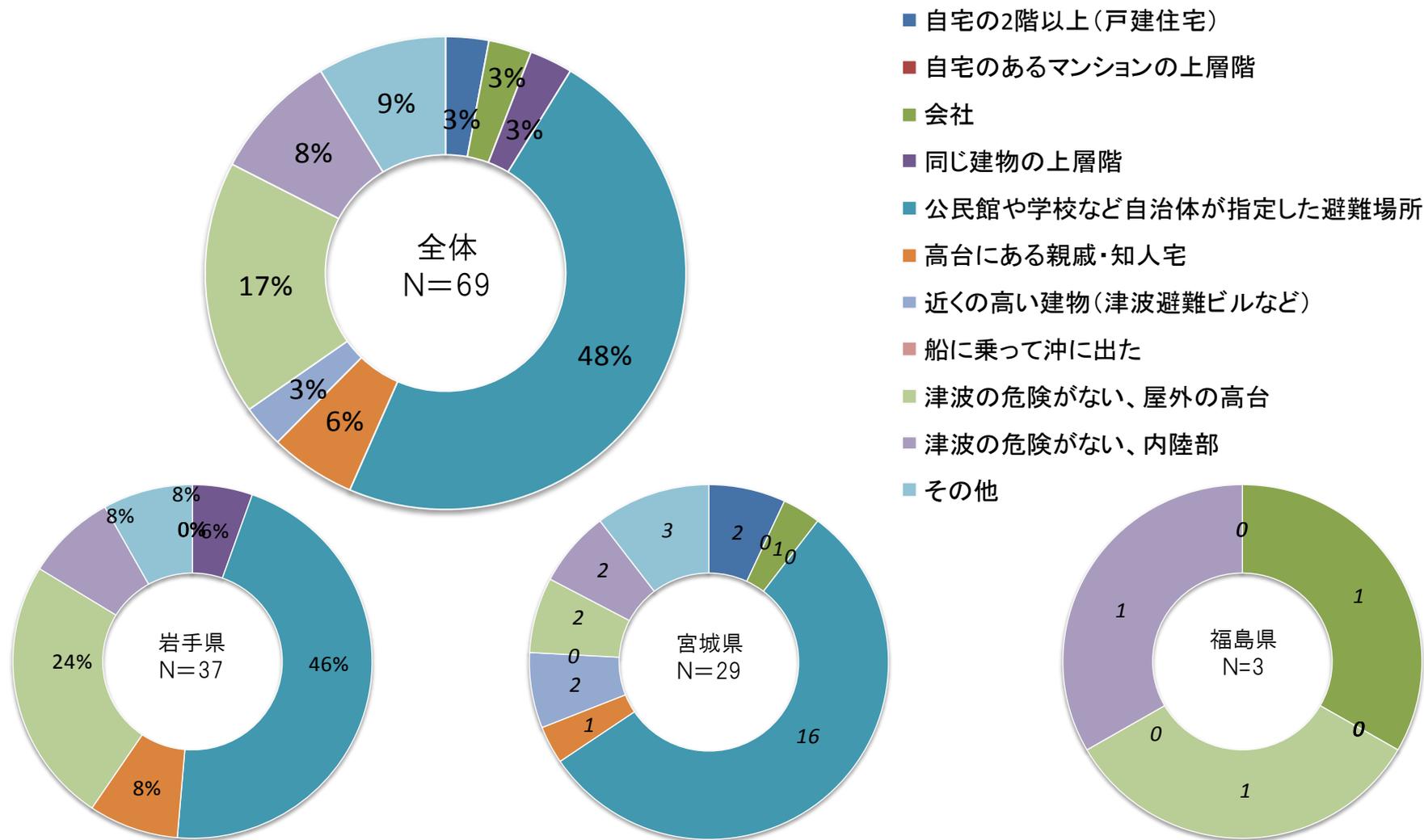
- 「さらに移動した(3回目避難)」について3県とも「移動していない」が多く、岩手県で約75%、宮城県で約80%、福島県で26人中23人である。



問26. 避難をした場所【さらに移動した場所②】

問26のうち、さらに移動した人が回答(3回目避難) N=69

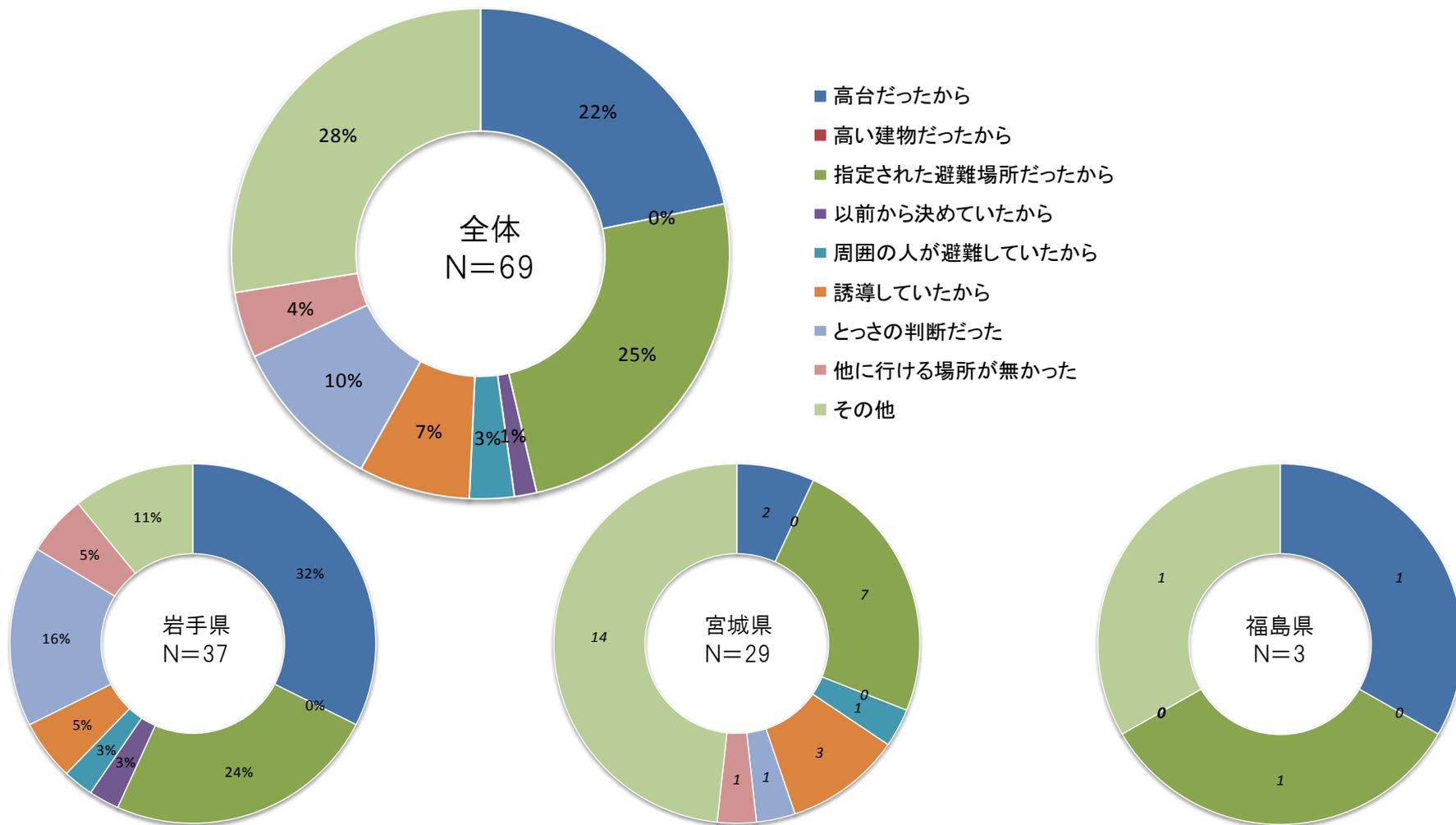
- 「さらに移動した(3回目避難)」場所をについて、岩手県と宮城県は「公民館や学校など自治体が指定した避難場所」が最も多い。



問26. 選んだ理由【さらに移動した場所②】

問26のうち、さらに移動した人が回答(3回目避難) N=69

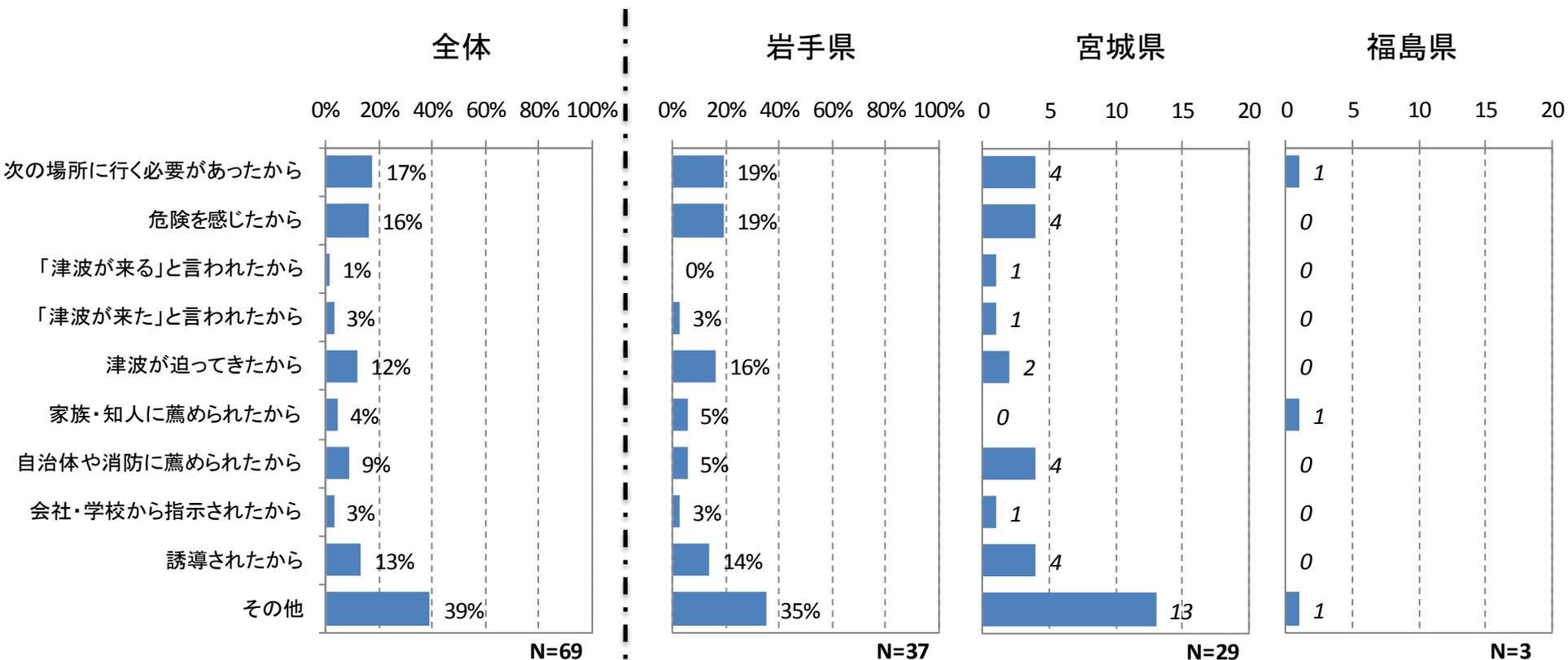
- 「さらに移動した(3回目避難)」場所を選んだ理由について、岩手県は「高台だったから」、宮城県は「指定された避難場所だったから」が最も多い。



問26. 避難したきっかけ【さらに移動した場所②】

問26のうち、さらに移動した人が回答(3回目避難) N=69

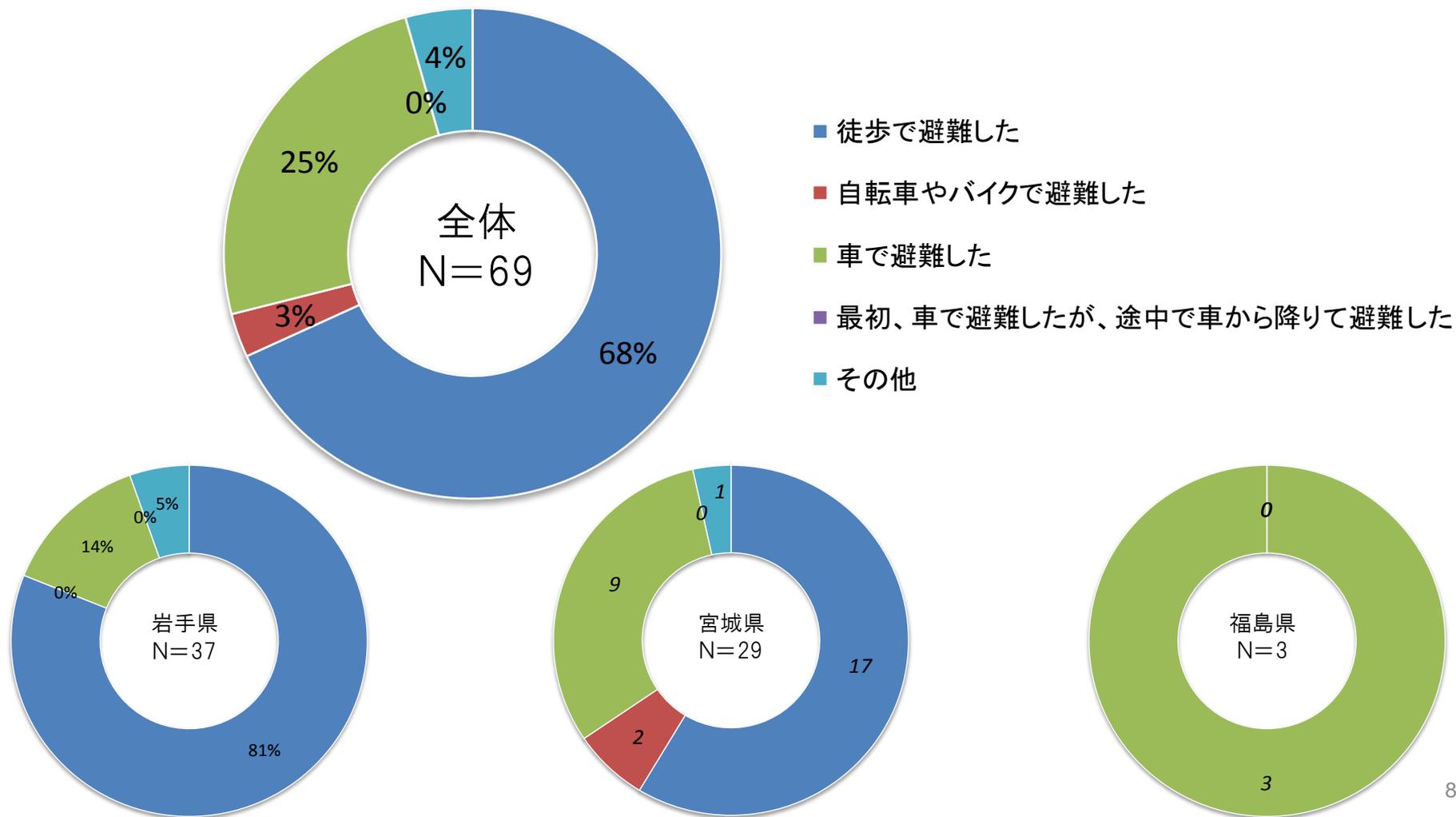
- 「さらに移動した(3回目避難)」場所に避難したきっかけについて、「次の場所に行く必要があったから」、「危険を感じたから」が多い。



問26. 避難した手段【さらに移動した場所②】

問26のうち、さらに移動した人が回答(3回目避難) N=69

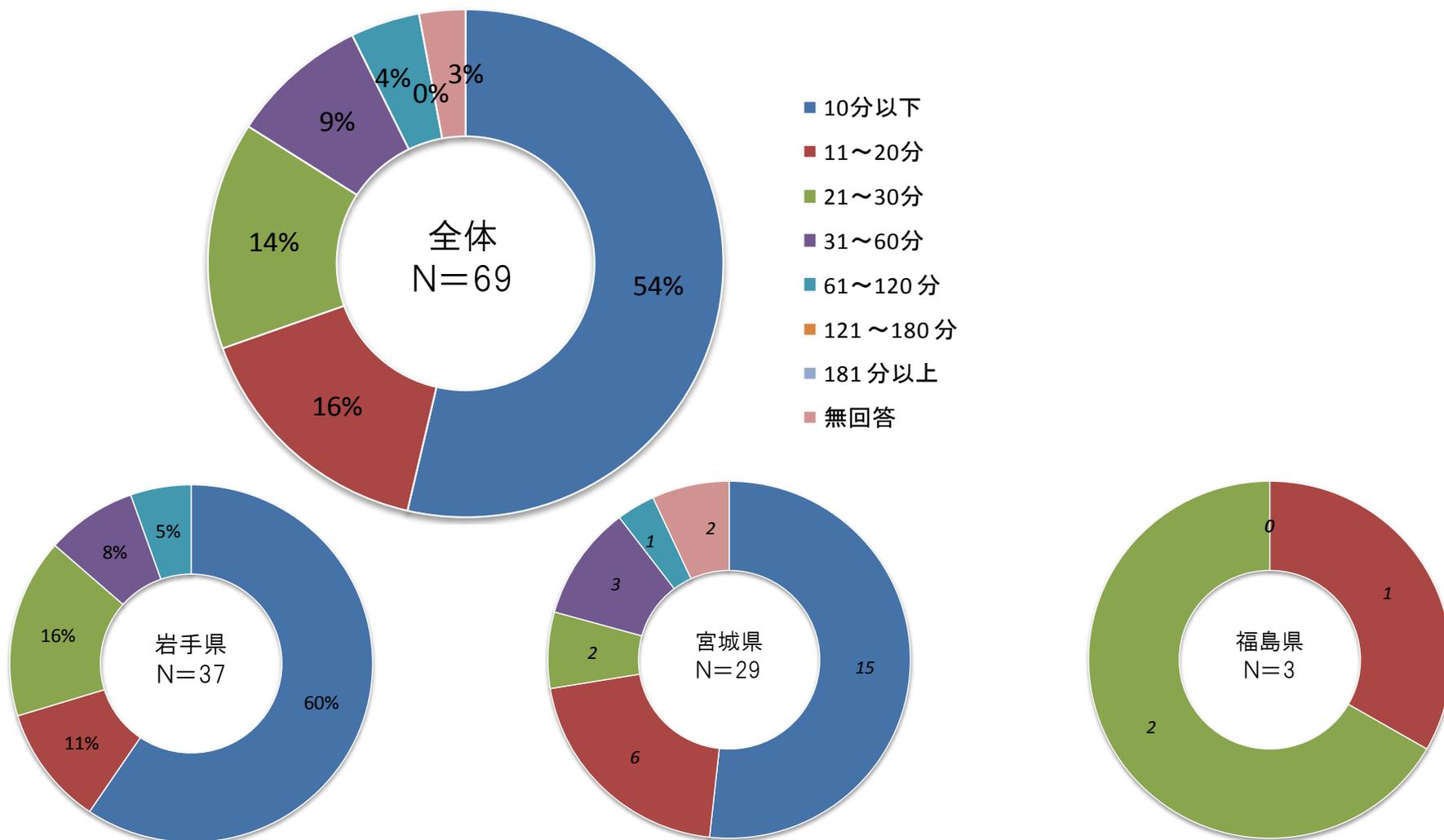
- 「さらに移動した(3回目避難)」手段について、岩手県と宮城県は「徒歩で避難した」が最も多く、福島県は「車で避難した」が最も多い。



問26. 避難した時間【さらに移動した場所②】

問26のうち、さらに移動した人が回答(3回目避難) N=69

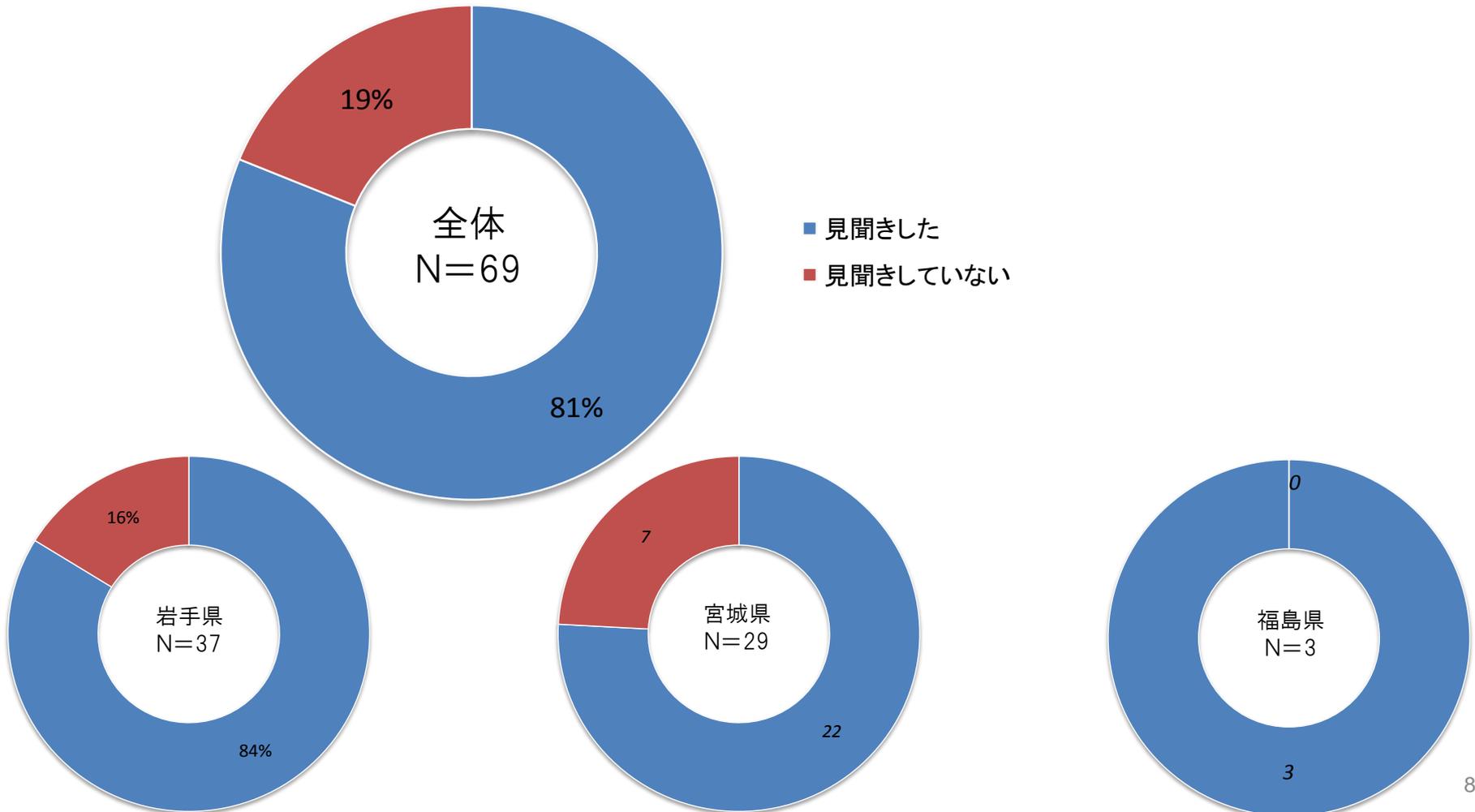
- 「さらに移動した(3回目避難)」までの実際に要した時間について、岩手県と宮城県は「10分以下」が最も多く、福島県は「21～30分」が最も多い。



問26. 津波を見たり、津波が来たこと聞いたりしたか【さらに移動した場所②】

問26のうち、さらに移動した人が回答(3回目避難) N=69

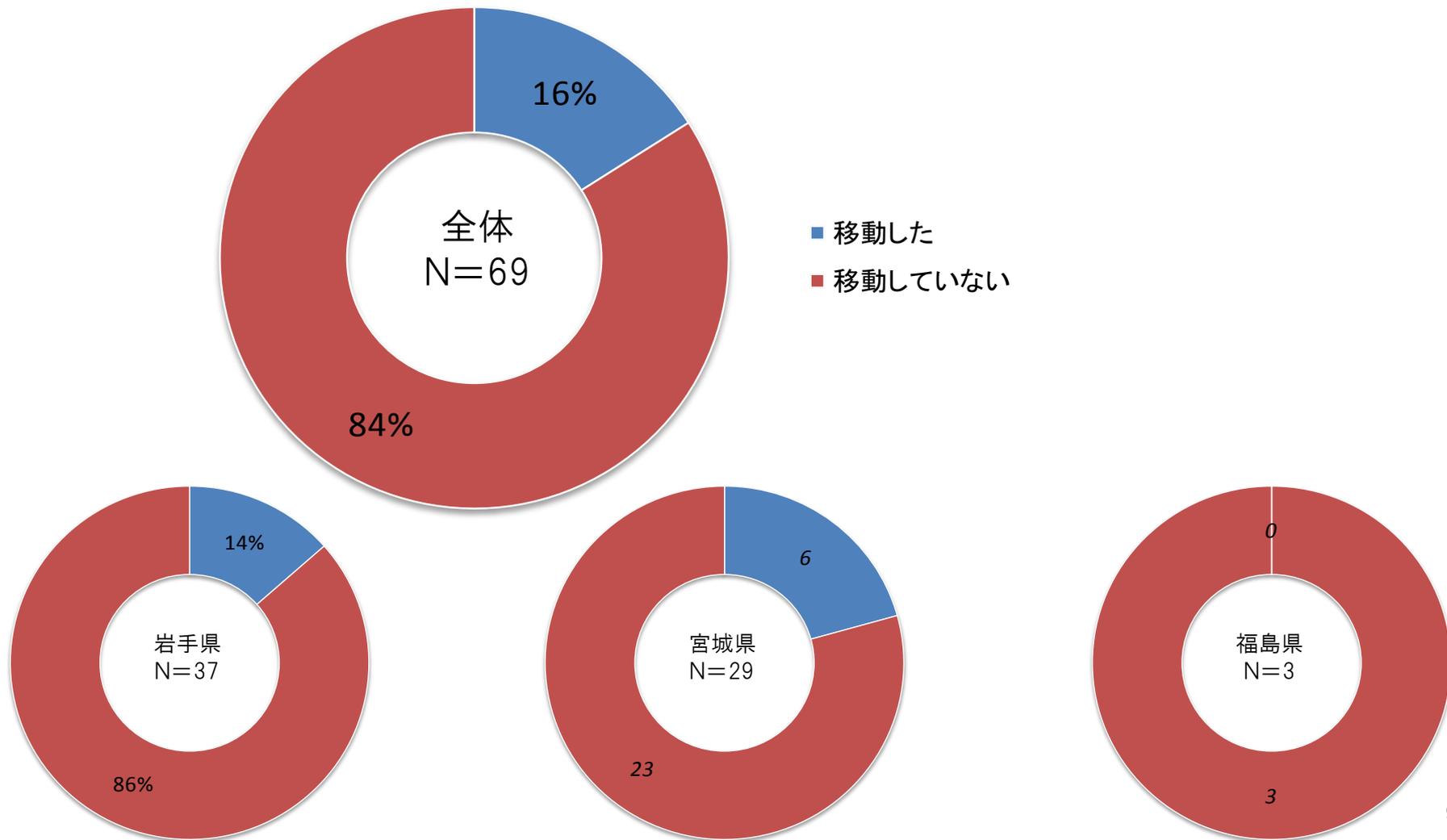
- 「さらに移動した(3回目避難)場所で津波を見たり、津波が来たことを聞いたりしたか」について、3県ともに「見聞きした」と回答した方が多い。



問26. さらに移動したか【さらに移動した場所③】

問26のうち、さらに移動した人が回答(4回目避難) N=69

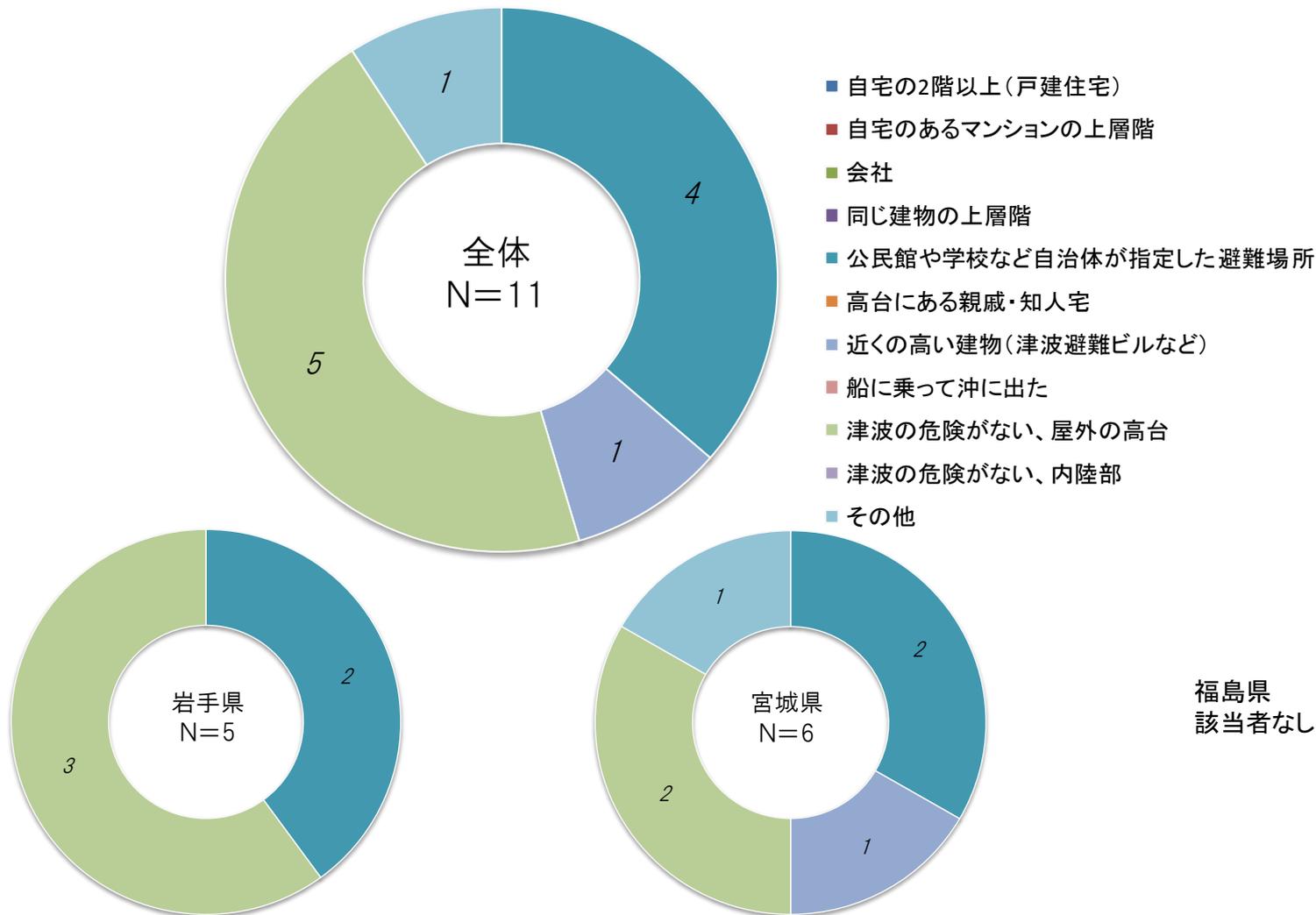
- 「さらに移動した(4回目避難)」について、3県とも「移動していない」が多く、岩手県で約86%、宮城県で29人中23人、福島県で3人中3人である。



問26. 避難をした場所【さらに移動した場所③】

問26のうち、さらに移動した人が回答(4回目避難) N=11

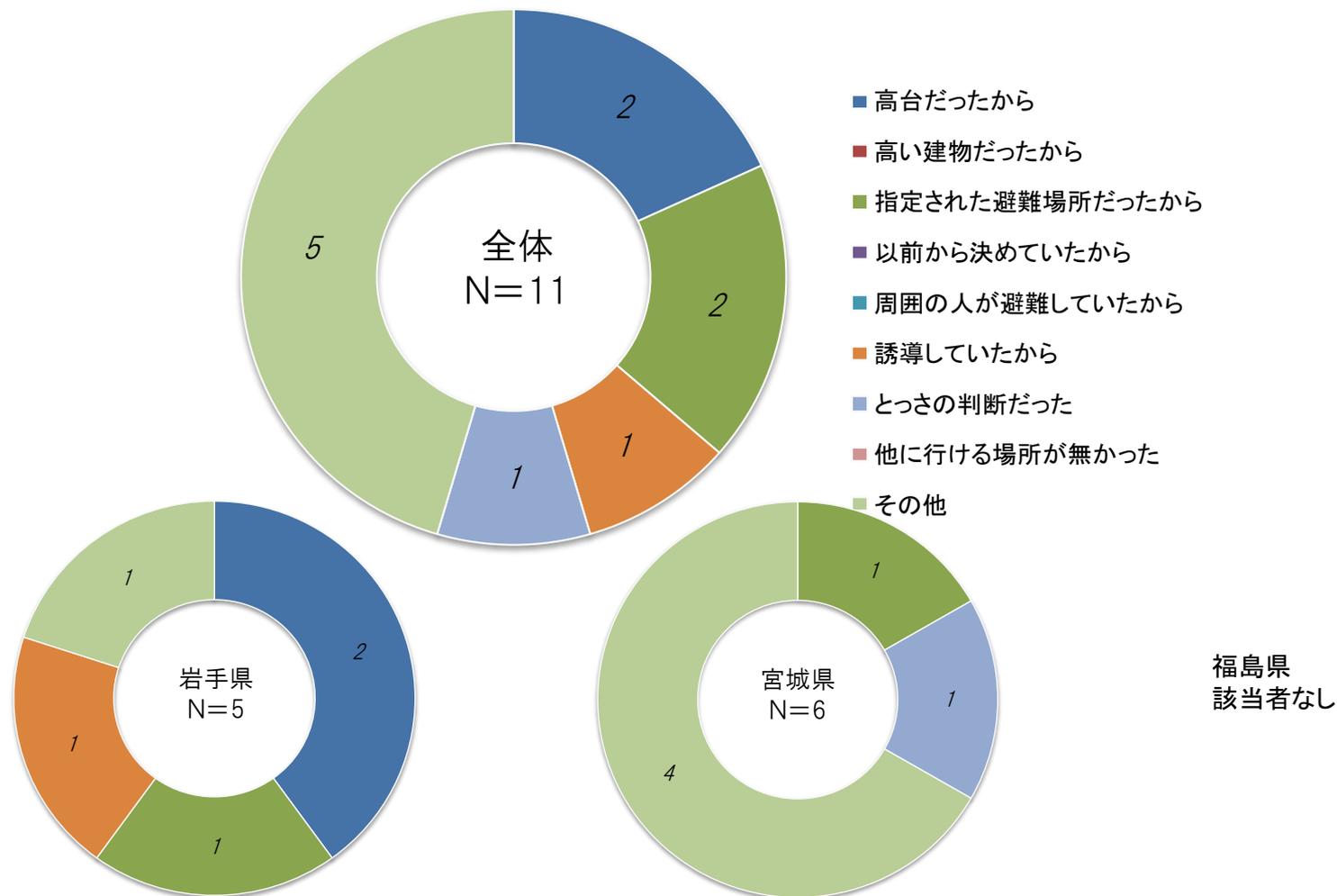
- 「さらに移動した(4回目避難)」場所について、両県とも「津波の危険がない、屋外の高台」と回答した方が多い。



問26. 選んだ理由【さらに移動した場所③】

問26のうち、さらに移動した人が回答(4回目避難) N=11

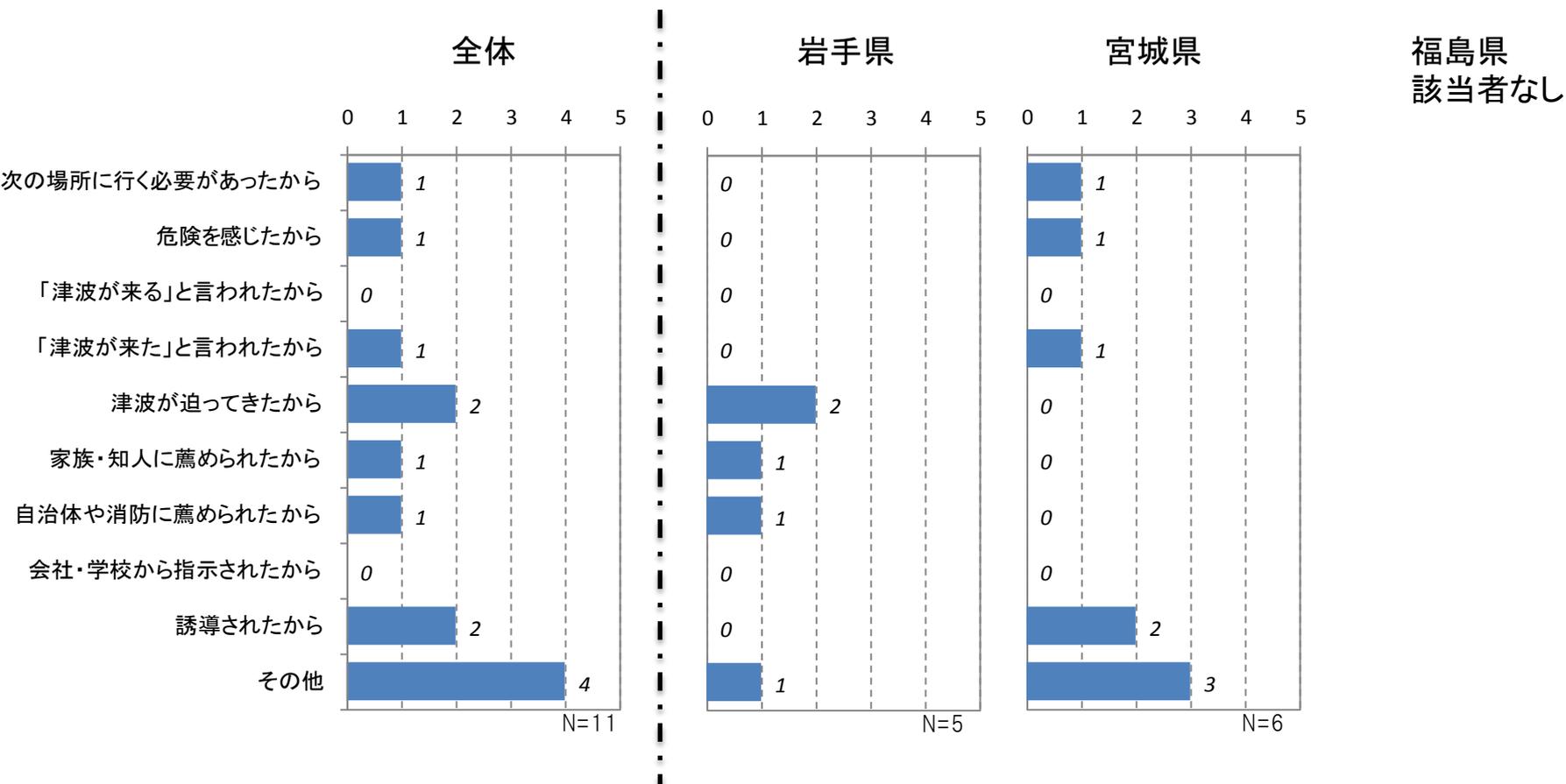
- 「さらに移動した(4回目避難)」場所を選んだ理由については、ばらつきがあり傾向は認められない。



問26. 避難したきっかけ【さらに移動した場所③】

問26のうち、さらに移動した人が回答(4回目避難) N=11

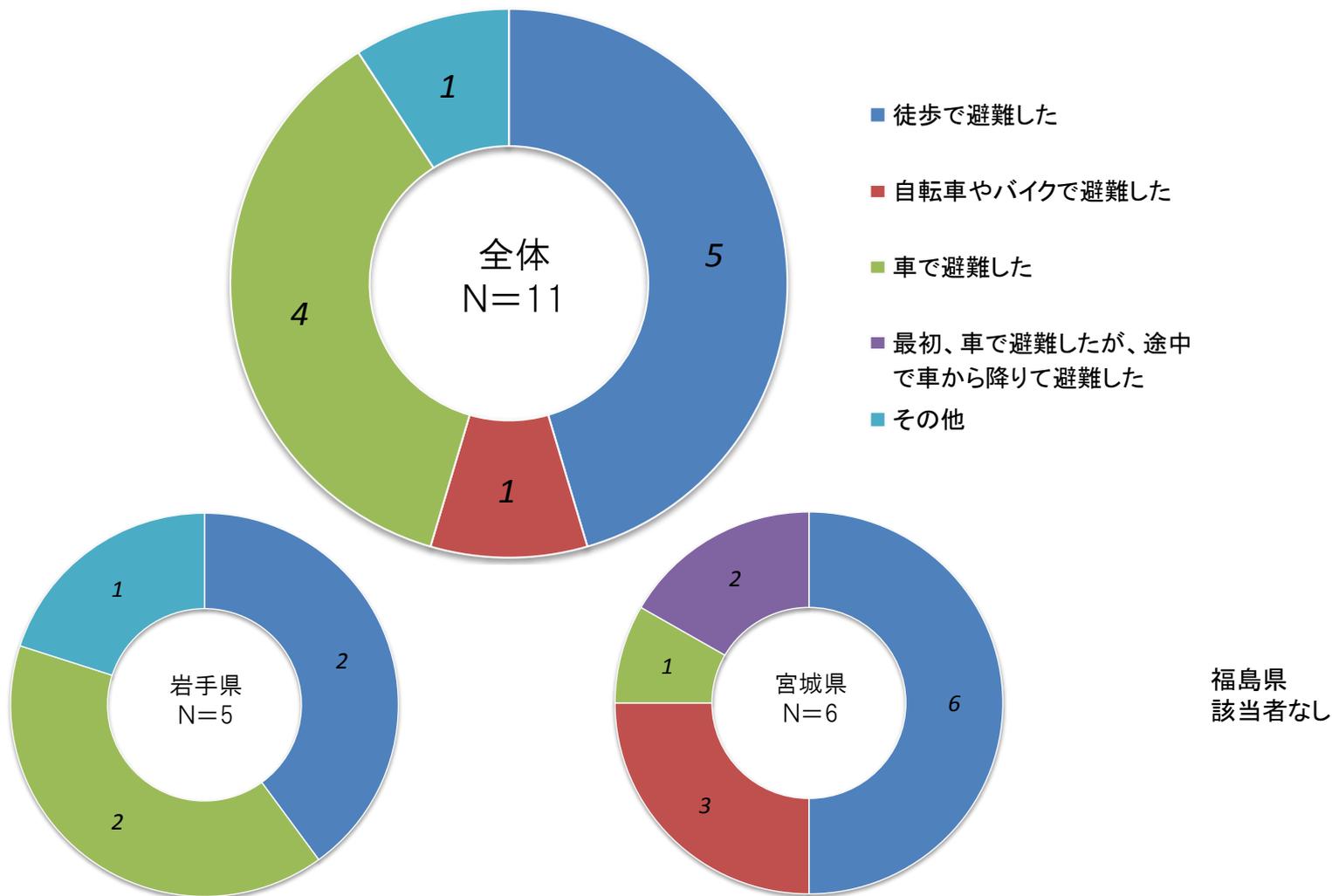
- 「さらに移動した(4回目避難)」きっかけについては、ばらつきがあり傾向は認められない。



問26. 避難した手段【さらに移動した場所③】

問26のうち、さらに移動した人が回答(4回目避難) N=11

- 「さらに移動した(4回目避難)」手段については、「徒歩で避難した」と「車で避難した」と回答した方が多い。

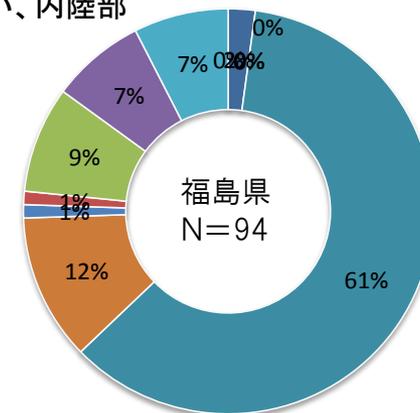
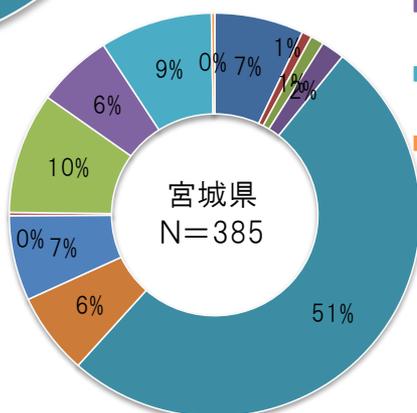
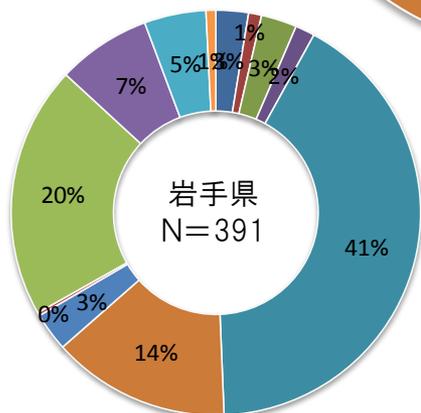
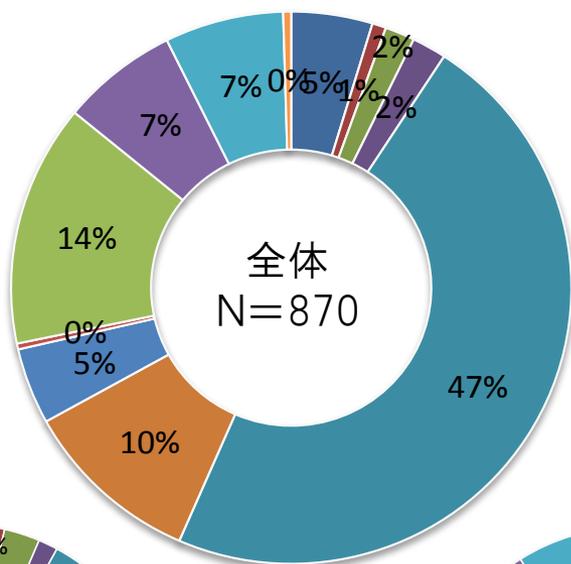


問27. 避難した場所【日没時】

全員が回答 N=870

• 日没時にいた場所を調査したところ、3県とも「自宅2階以上（戸建住宅）」と回答した方が多い。

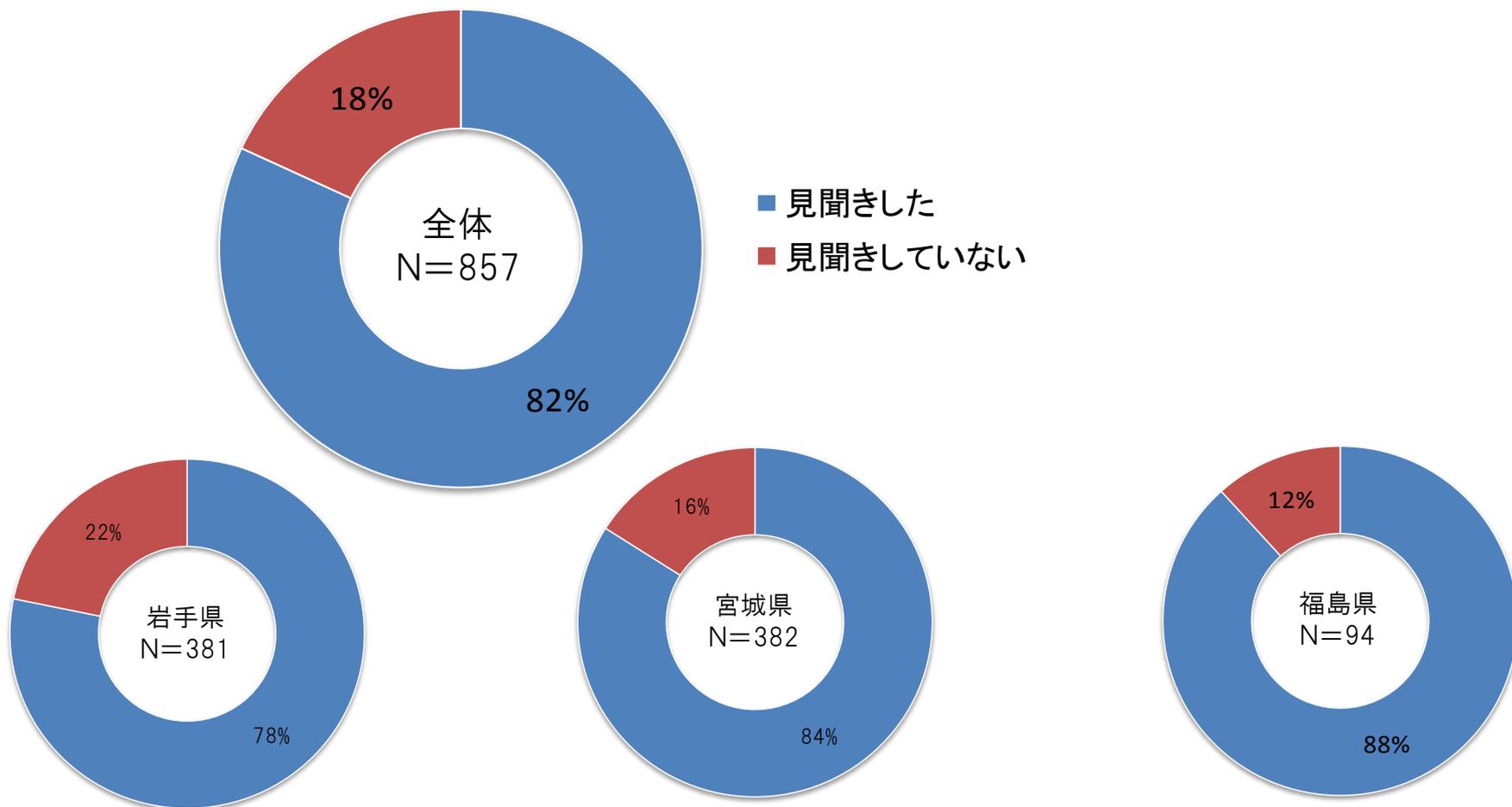
- 自宅の2階以上（戸建住宅）
- 自宅のあるマンションの上層階
- 会社
- 同じ建物の上層階
- 公民館や学校など自治体が指定した避難場所
- 高台にある親戚・知人宅
- 近くの高い建物（津波避難ビルなど）
- 船に乗って沖に出た
- 津波の危険がない、屋外の高台
- 津波の危険がない、内陸部
- その他
- 無回答



問28. 津波が来たことを見聞きしたか【日没】

問23で「1～9」を選択した人が回答 N=857

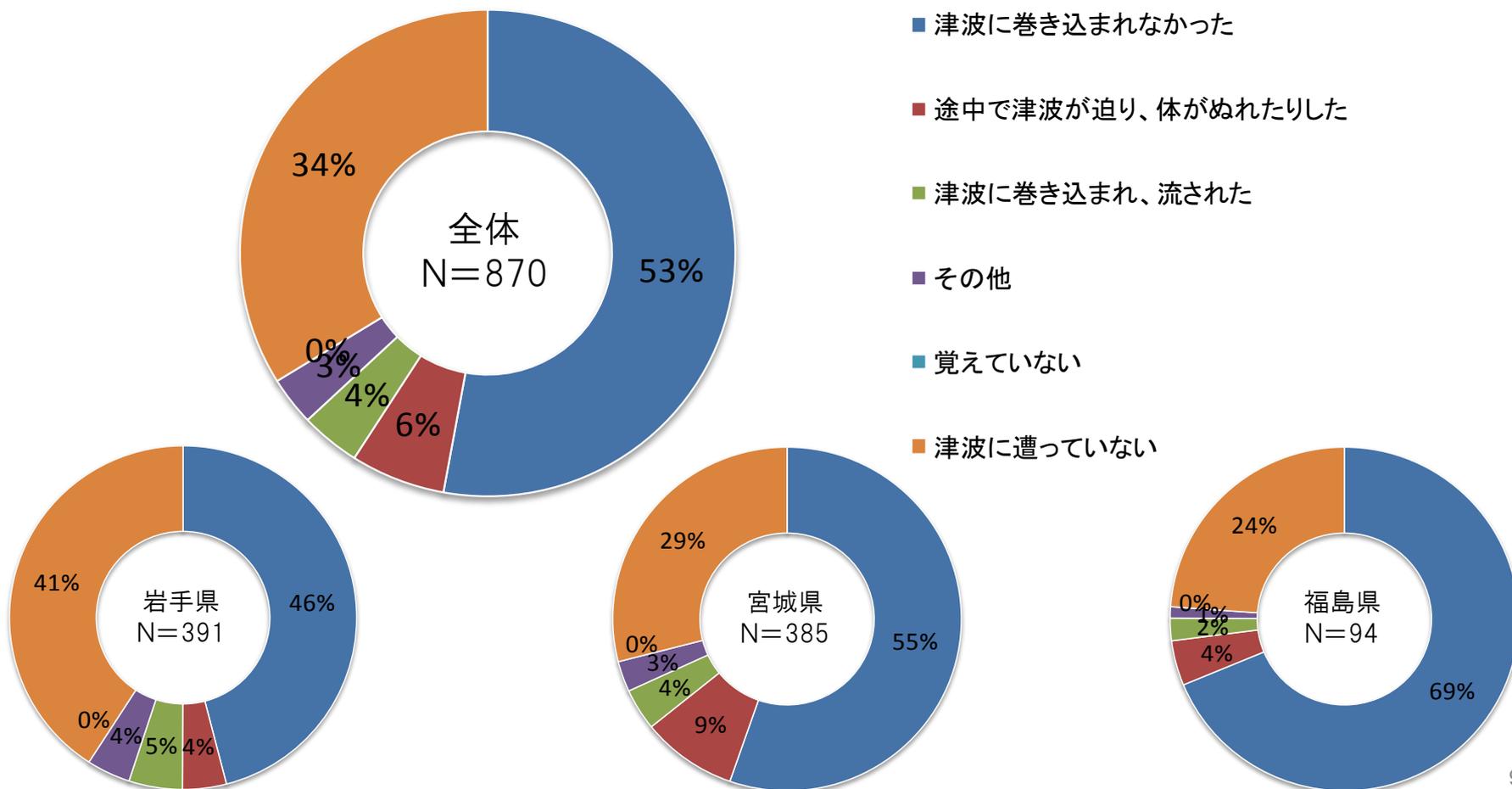
- 日没時にいた場所で「津波を見聞きした」かどうかについて、3県とも「見聞きした」と回答した方が多い。



問29. 避難している時の津波体験について

全員が回答 N=870

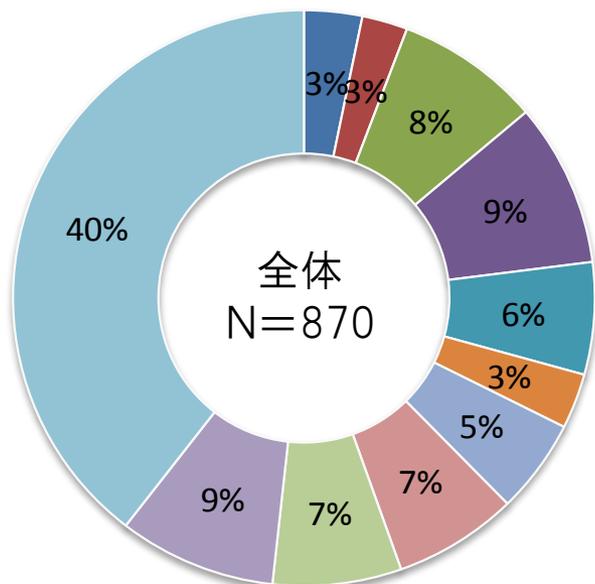
- 避難している時に遭った津波の体験について、「途中で津波が迫り、体がぬれたりした」「津波に巻き込まれ、流された」と回答した人の合計が10%程度いる。



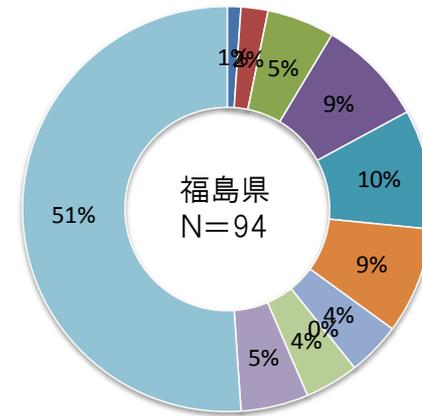
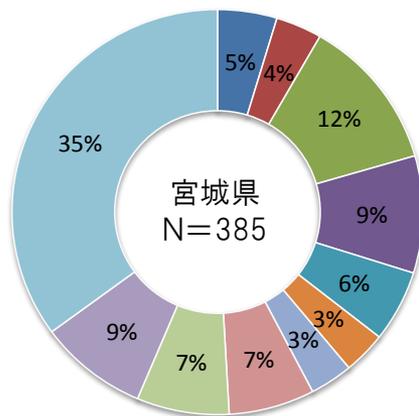
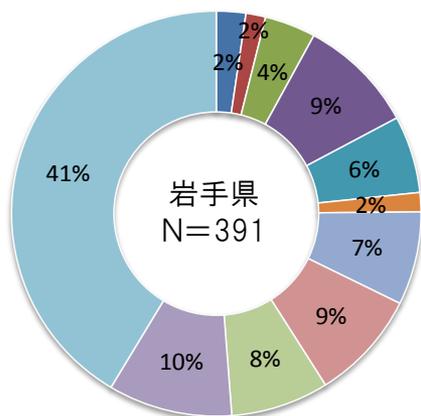
問30. 遭遇した津波の高さ

全員が回答 N=870

今回の津波で遭遇した津波の高さは、最大でどの程度かについて、3県とも「遭遇していない」と回答した方が多い。



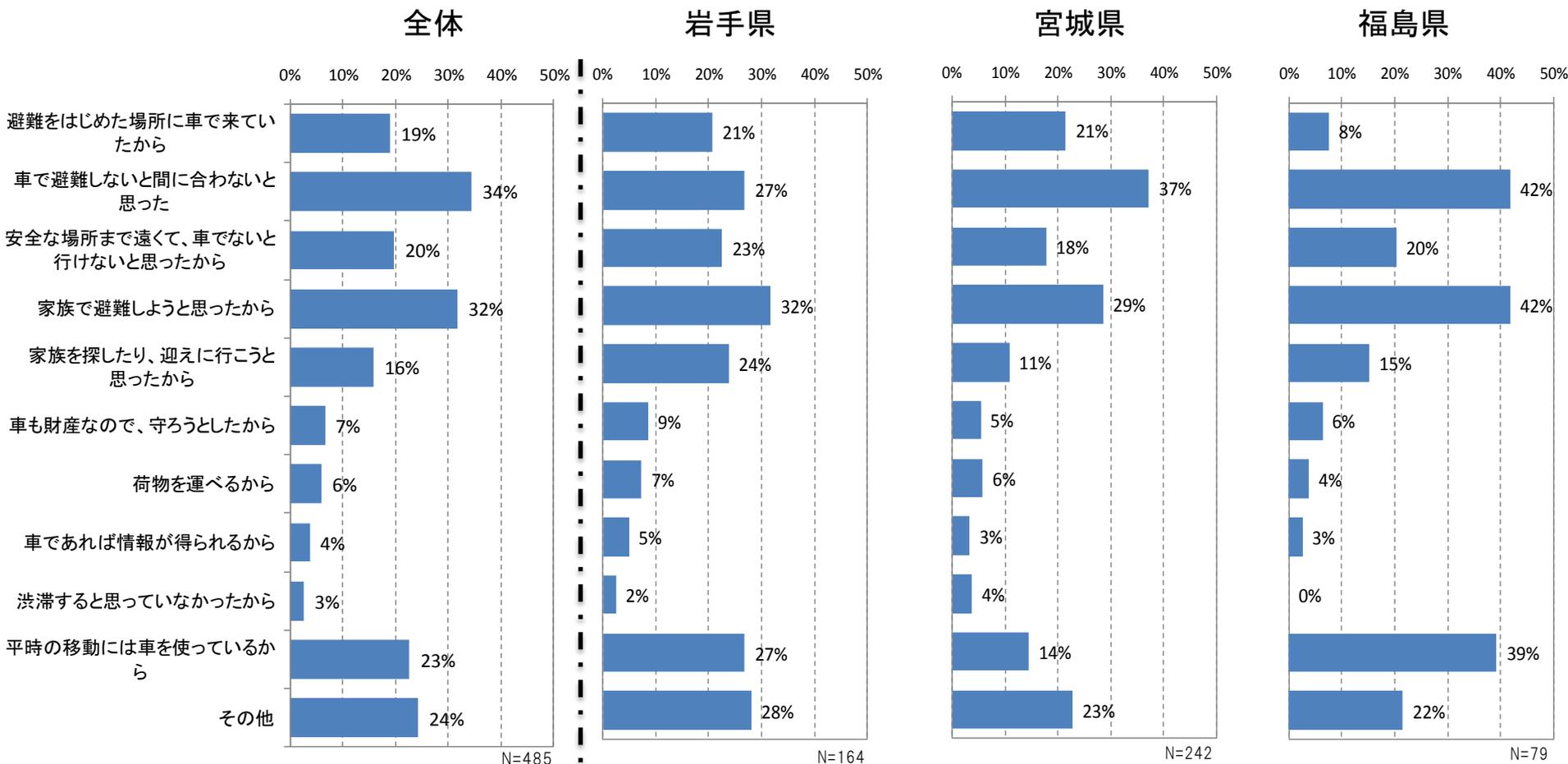
- 腰より下の高さくらい
- 頭の高さくらい
- 天井の高さくらい
- 2階の天井の高さくらい
- 3階の天井の高さくらい
- 4階の天井の高さくらい
- おおよそ20m程度くらい
- その他
- 高かったと思うが、わからない
- わからない
- 遭遇していない



問31. 車で避難した理由

車で避難した人のみが回答 N=485

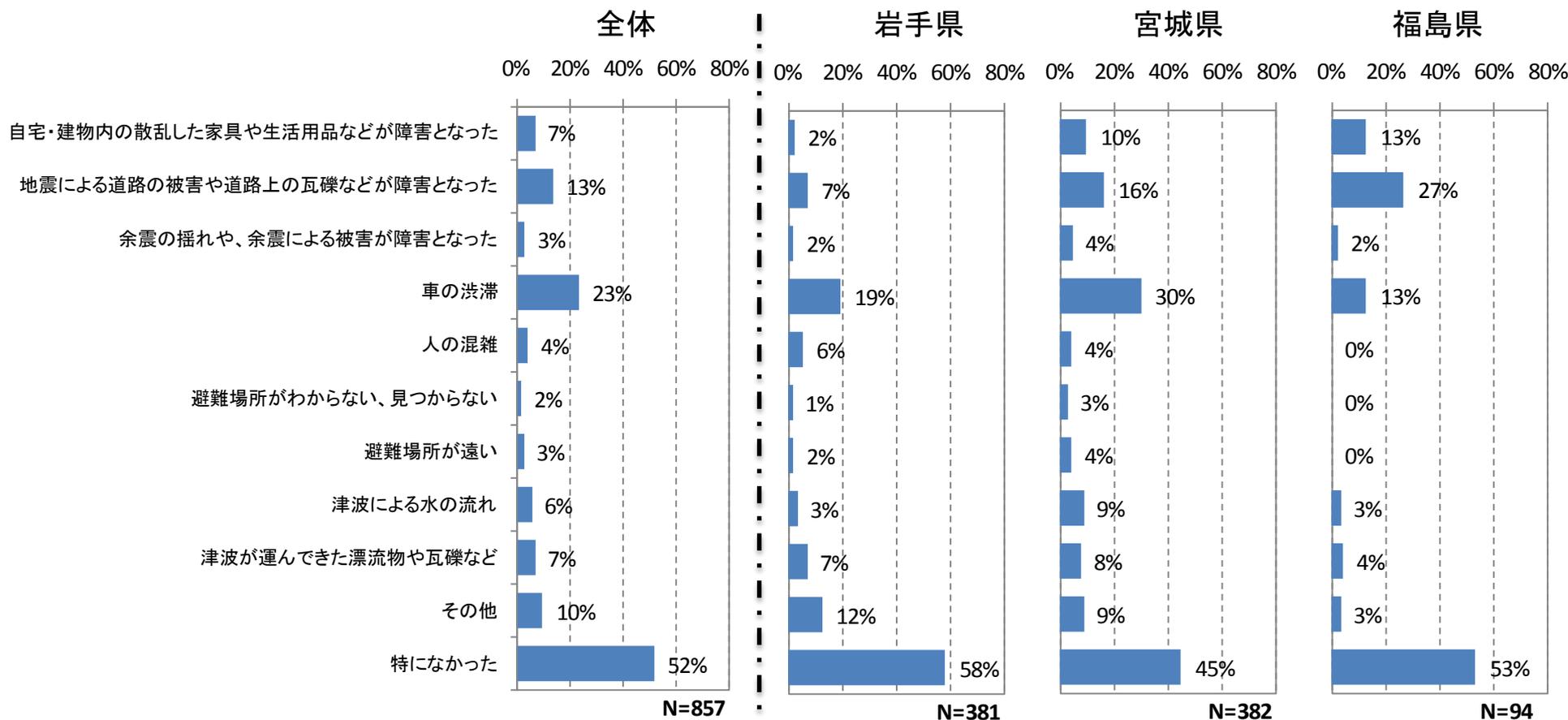
- 車で避難した理由について、全体では「車で避難しないと間に合わないと思った」、「家族で避難しようと思ったから」が多い。



問32. 避難する時に障害となったこと

問23で「1~9」を選択した人が回答 N=857

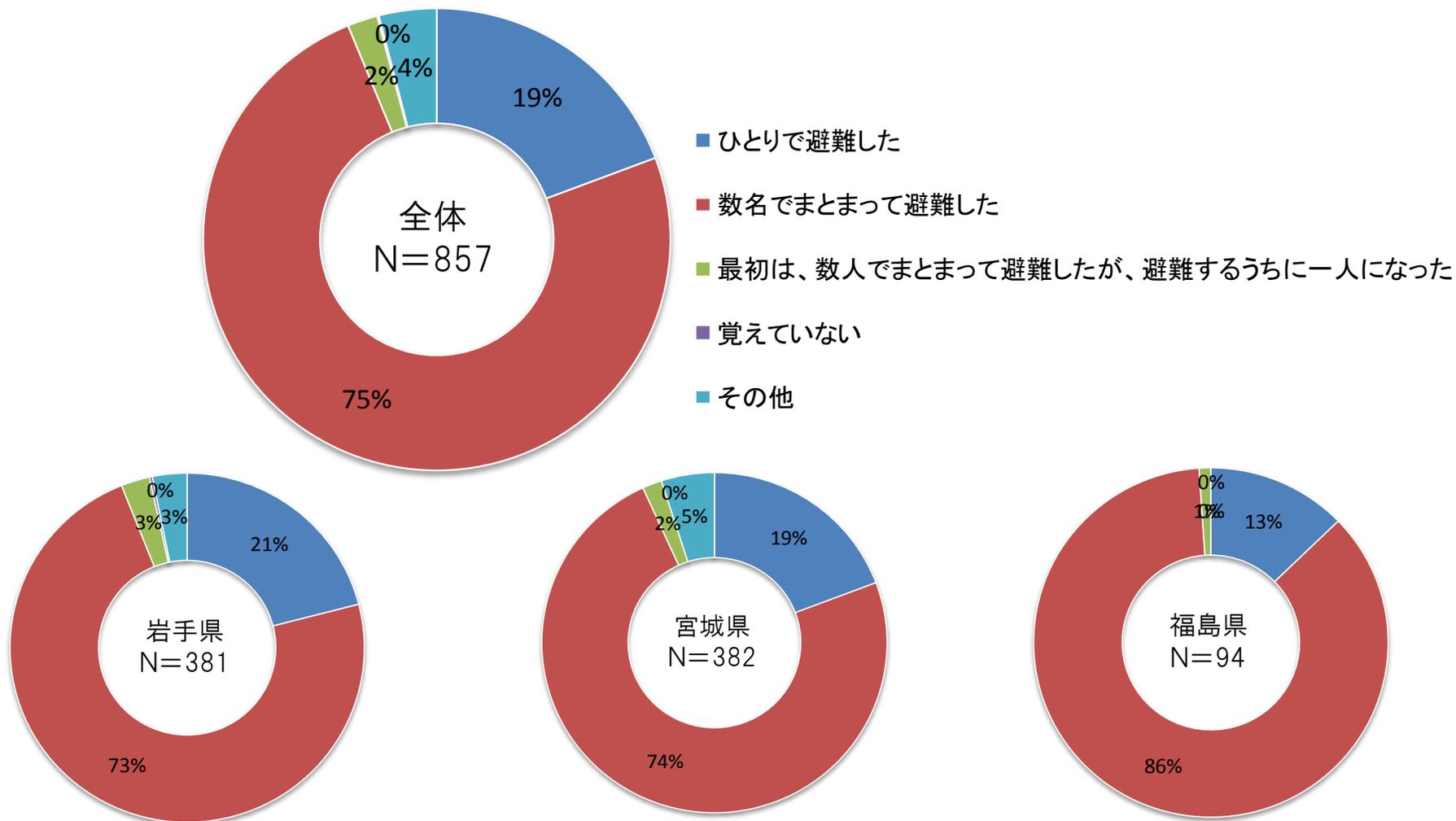
- 避難する時に障害になったことについて、「車の渋滞」、「地震による道路の被害や道路上の瓦礫などが障害となった」と回答した方が多い。一方で、3県とも「特になかった」と回答した方が最も多い。



問33. 避難する時、一緒に行動された方について

問23で「1～9」を選択した人が回答 N=857

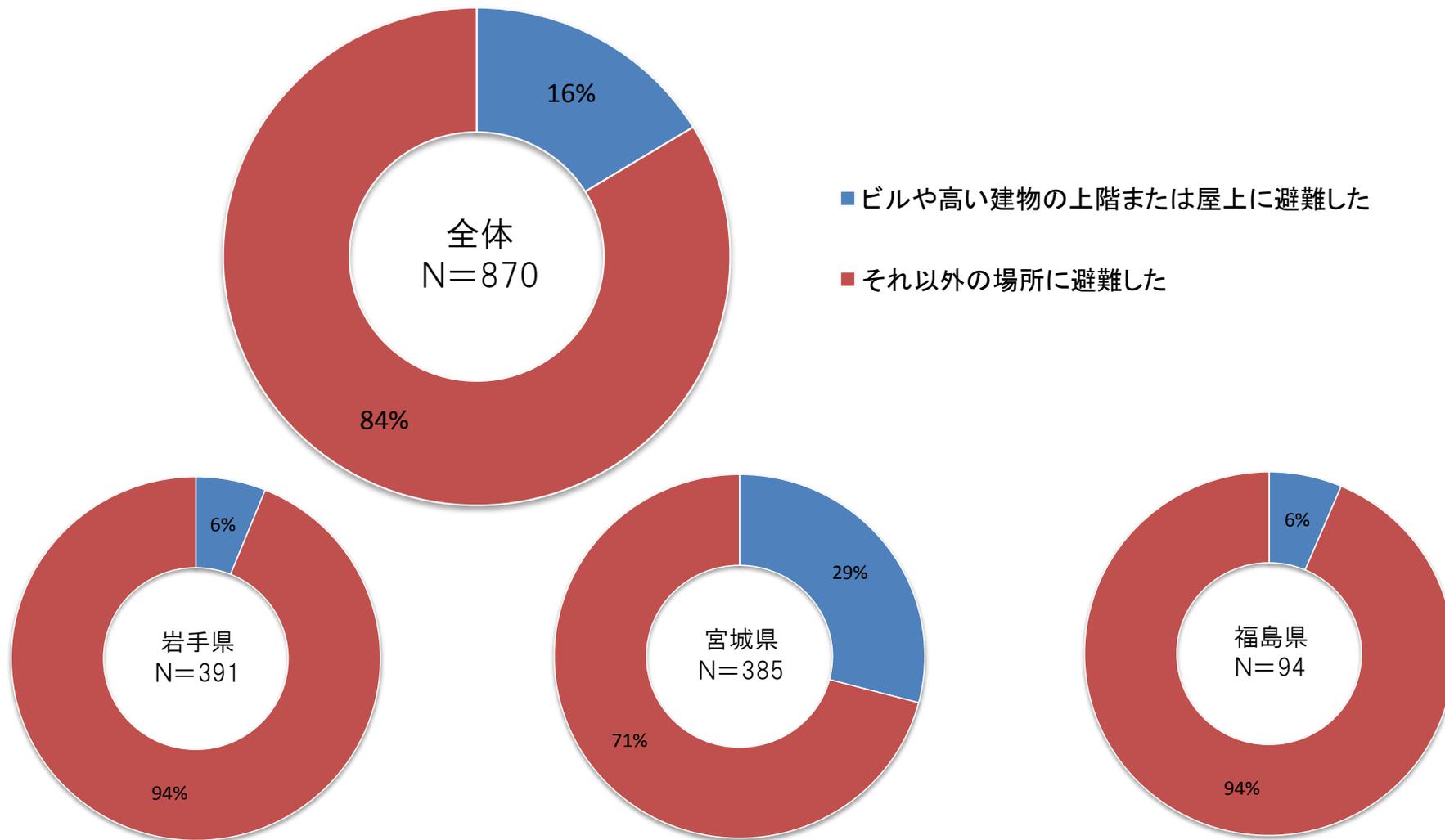
- 一緒に行動された方について、3県とも「数名まとまって避難した」が多い。



問34. ビルや高い建物の上階または屋上に避難しましたか

全員が回答 N=870

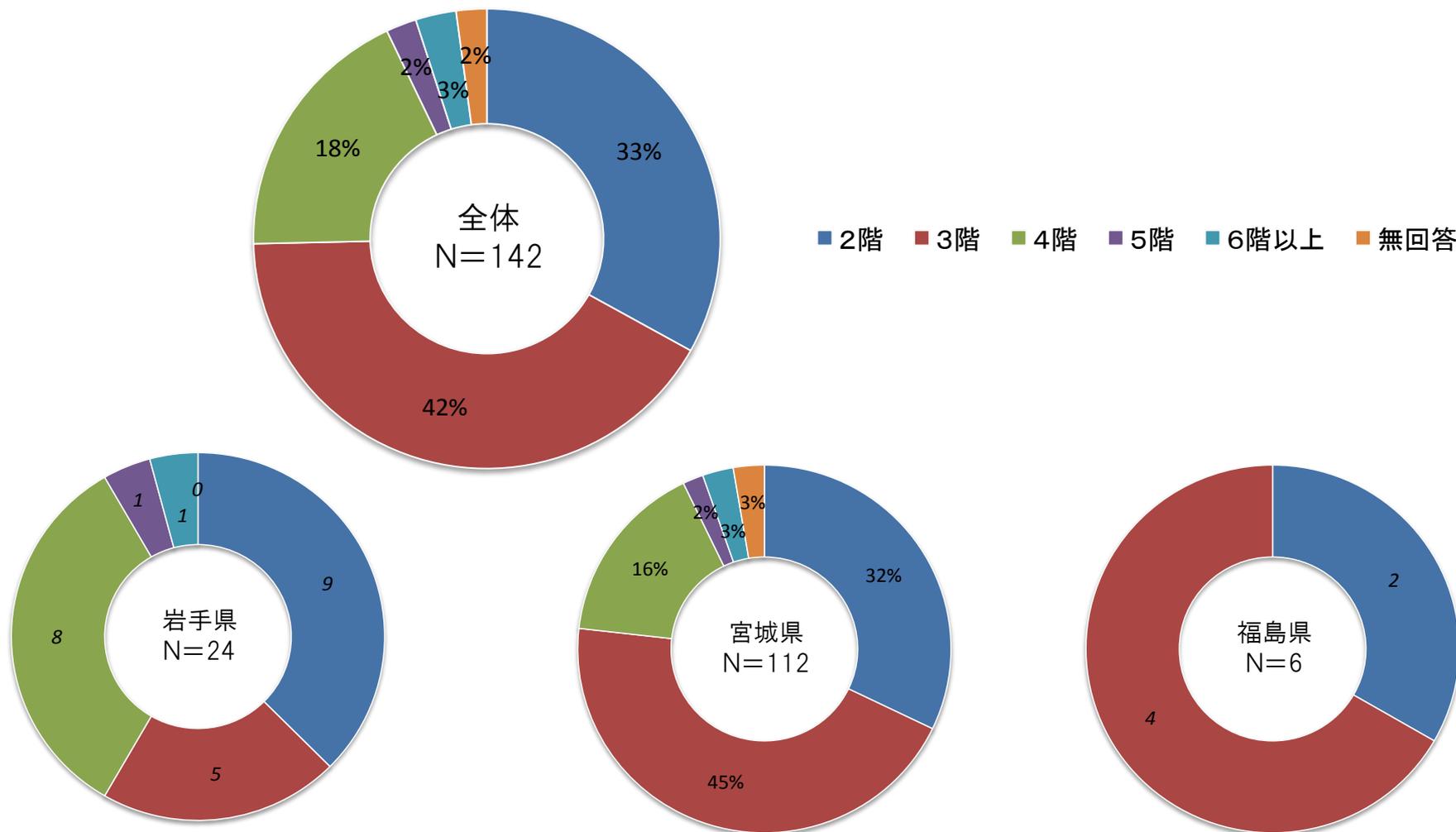
- ビルや高い建物の上階または屋上に避難したかどうかについて、3県とも「それ以外の場所に避難した」が多い。



付問34. 1 (避難した)建物の階数

問34で「1.ビルや高い建物の上階または屋上に避難した」を選択した人が回答 N=142

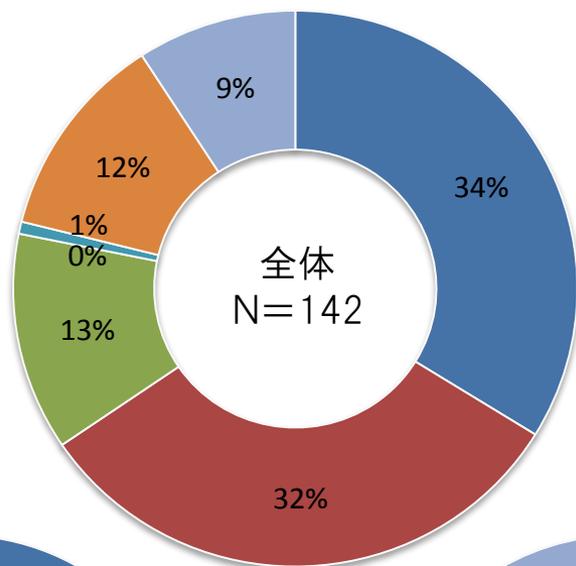
- 避難した建物の階数について、「2階」と「3階」で70%強である。



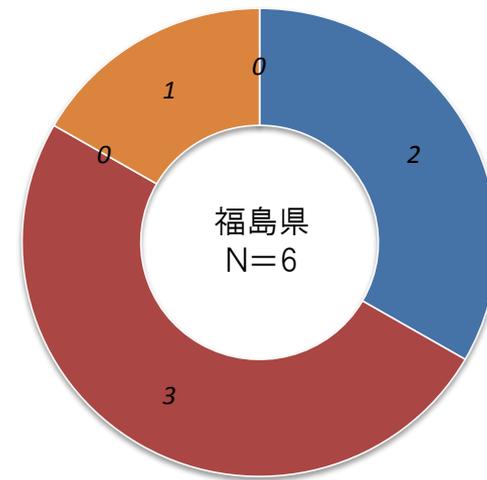
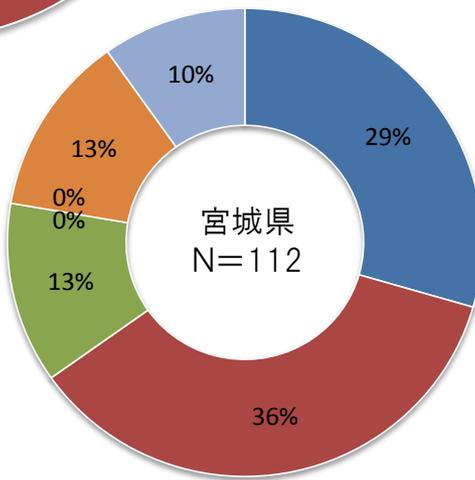
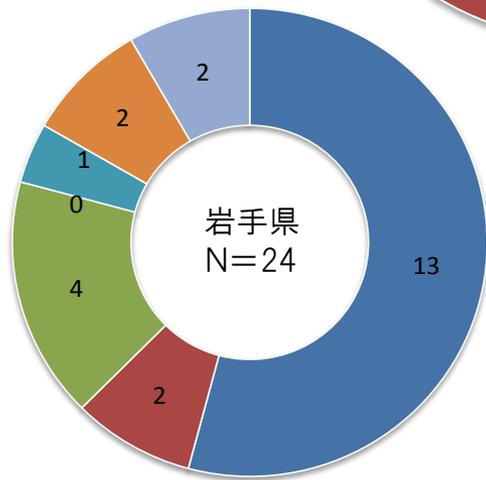
付問34. 1 (避難した)階数

問34で「1.ビルや高い建物の上階または屋上に避難した」を選択した人が回答 N=142

- 避難した階数について、「2階」と「3階」の回答が各々全体の2/3程度を占める。



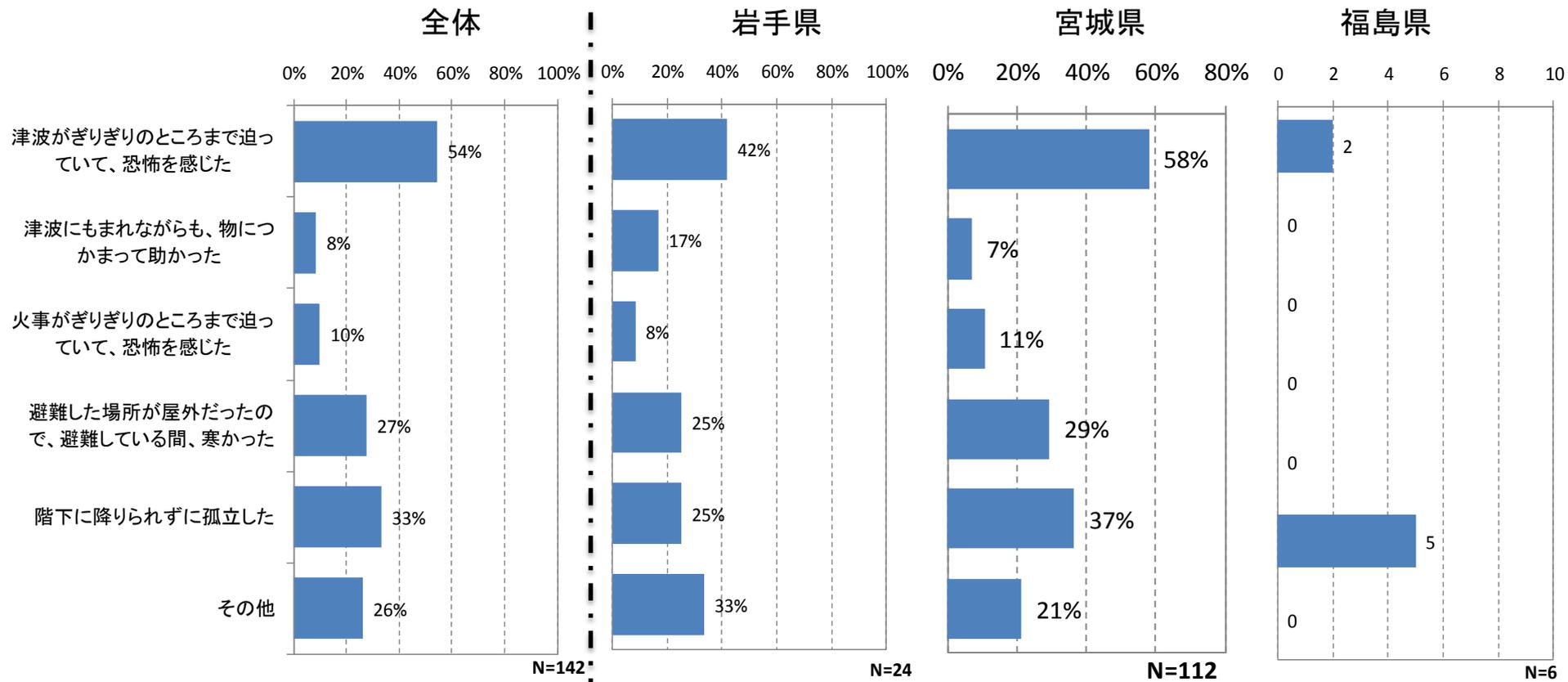
■ 2階 ■ 3階 ■ 4階 ■ 5階 ■ 6階以上 ■ 屋上 ■ 無回答



付問34. 2 ビルや建物の上階、屋上避難時の体験

問34で「1.ビルや高い建物の上階または屋上に避難した」を選択した人が回答 N=142

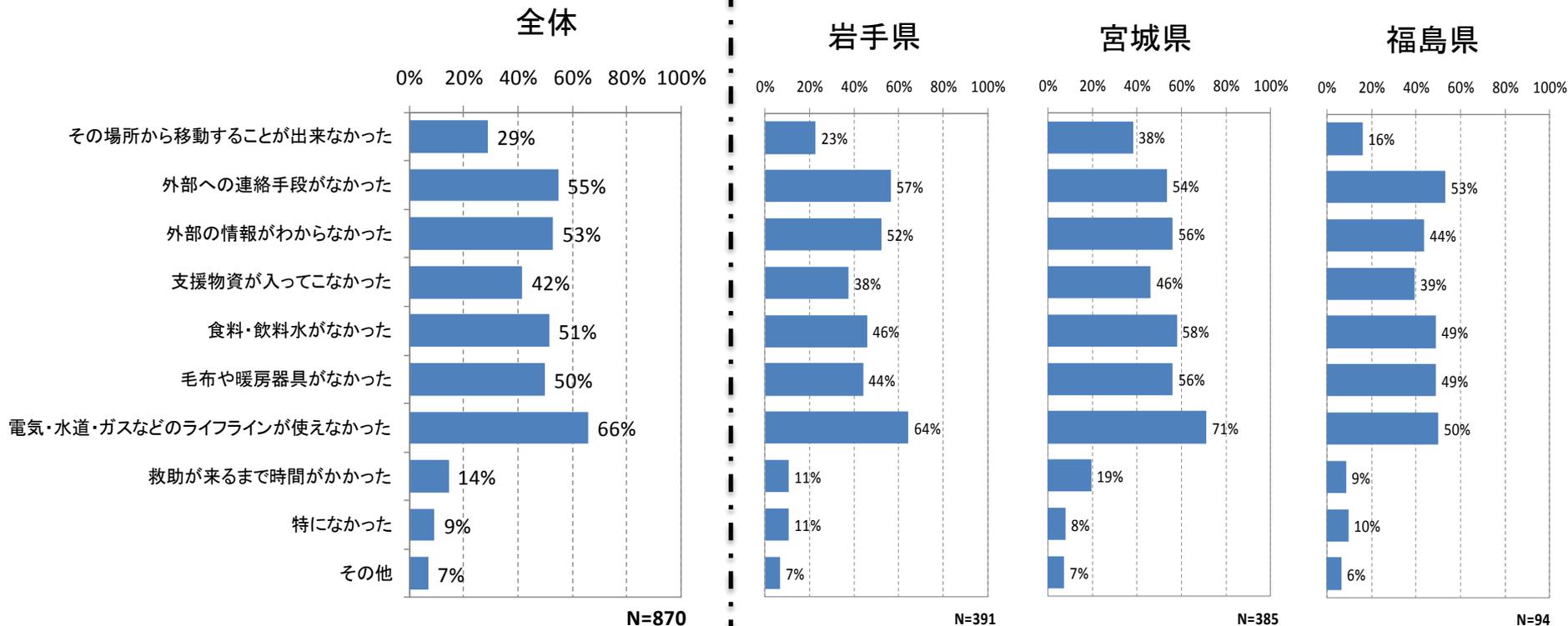
- ビルや高い建物の上階または屋上に避難している時の体験について、岩手県と宮城県では「津波がぎりぎりのところまで迫っていて、恐怖を感じた」が最も多い。次いで、「階下に降りられずに孤立した」、「避難した場所が屋外だったので、避難している間、寒かった」と回答した方が多い。



問35. 避難した地域や建物での体験

全員が回答 N=870

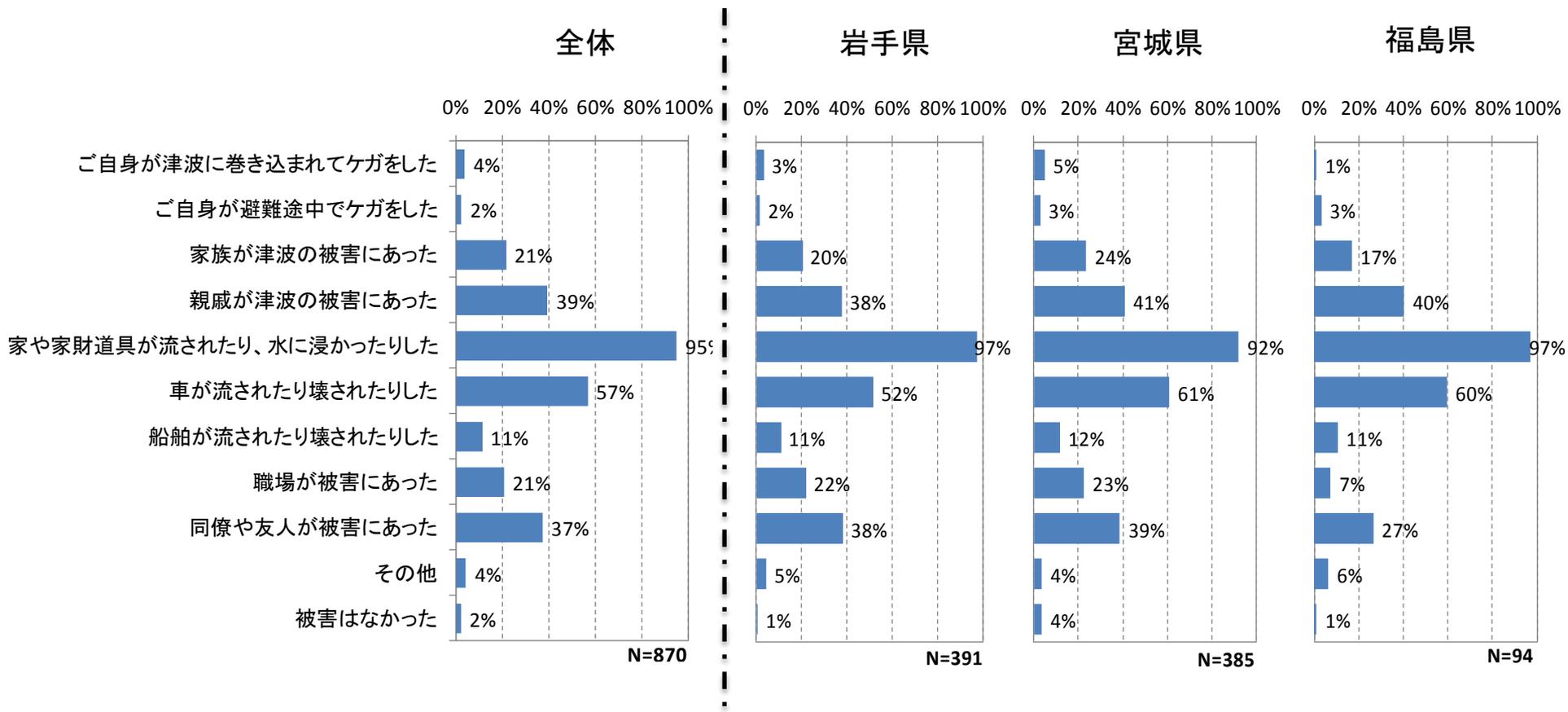
- 避難した地域や建物での体験について、全体で「電気・水道・ガスなどのライフラインが使えなかった」が多い。



問36. 津波による被害

全員が回答 N=870

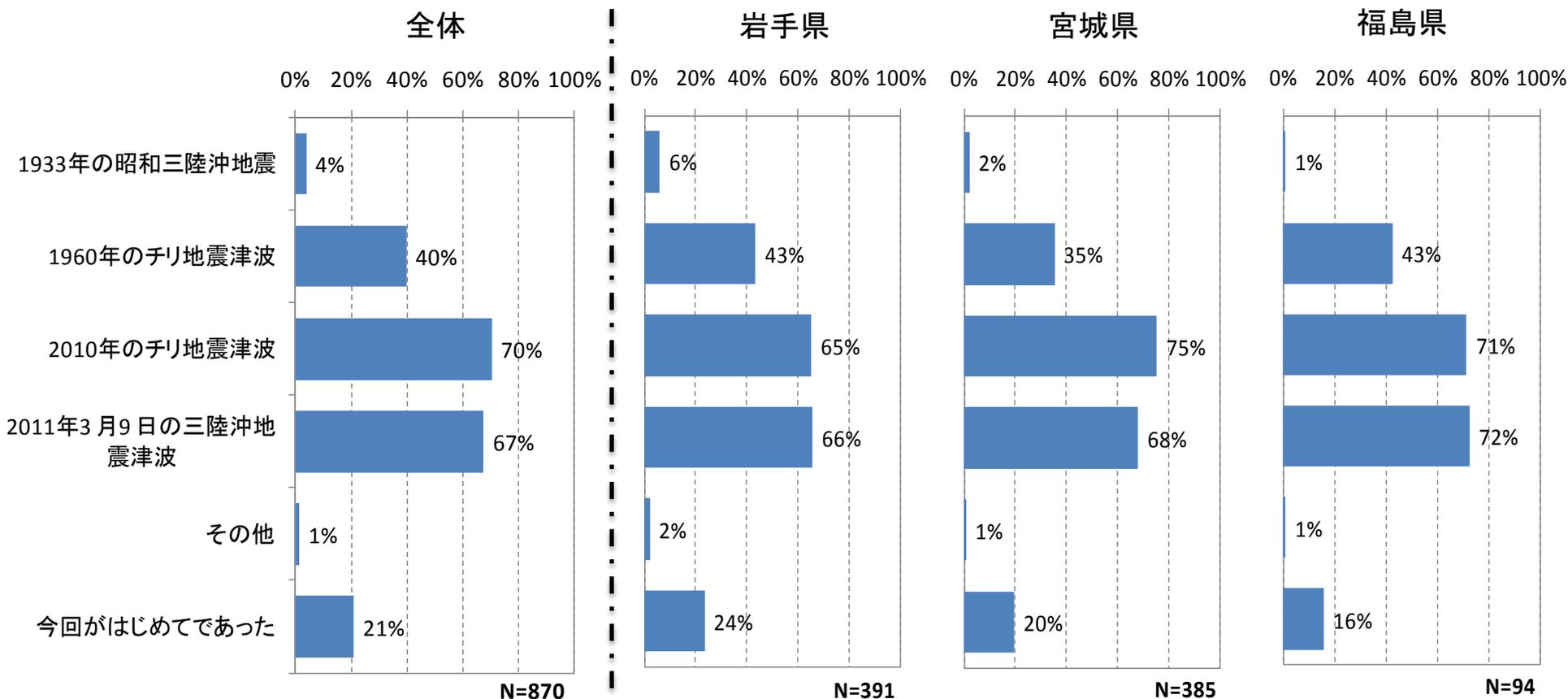
- 今回の津波による被害について、3県ともに「家や家財道具が流されたり、水に浸かったりした」が最も多い。次いで、「車が流されたり、壊されたりした」が多い。



問37. 津波の経験について

全員が回答 N=870

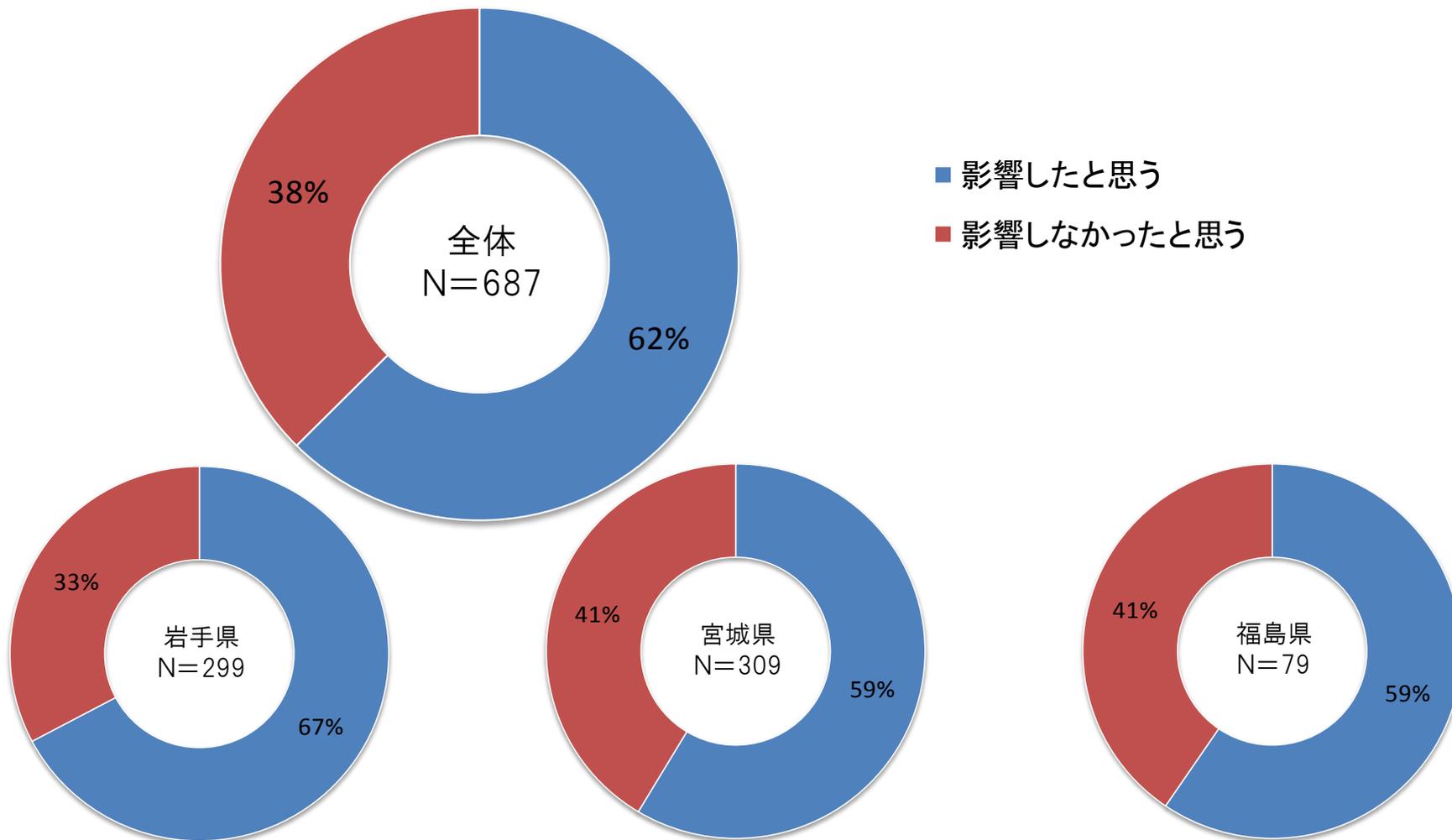
- これまでの地震・津波の経験について、3県ともに「2010年のチリ地震津波」と「2011年3月9日の三陸沖地震津波」が多い。
- 「今回が初めてであった」と回答した方は2割程度である。



付問37. 1 津波経験の今回の避難行動への影響について

問37で「1～5」(過去の地震・津波災害時に被害があった地域や津波警報等が発表された地域に住んでいた)を選択した人が回答 N=687

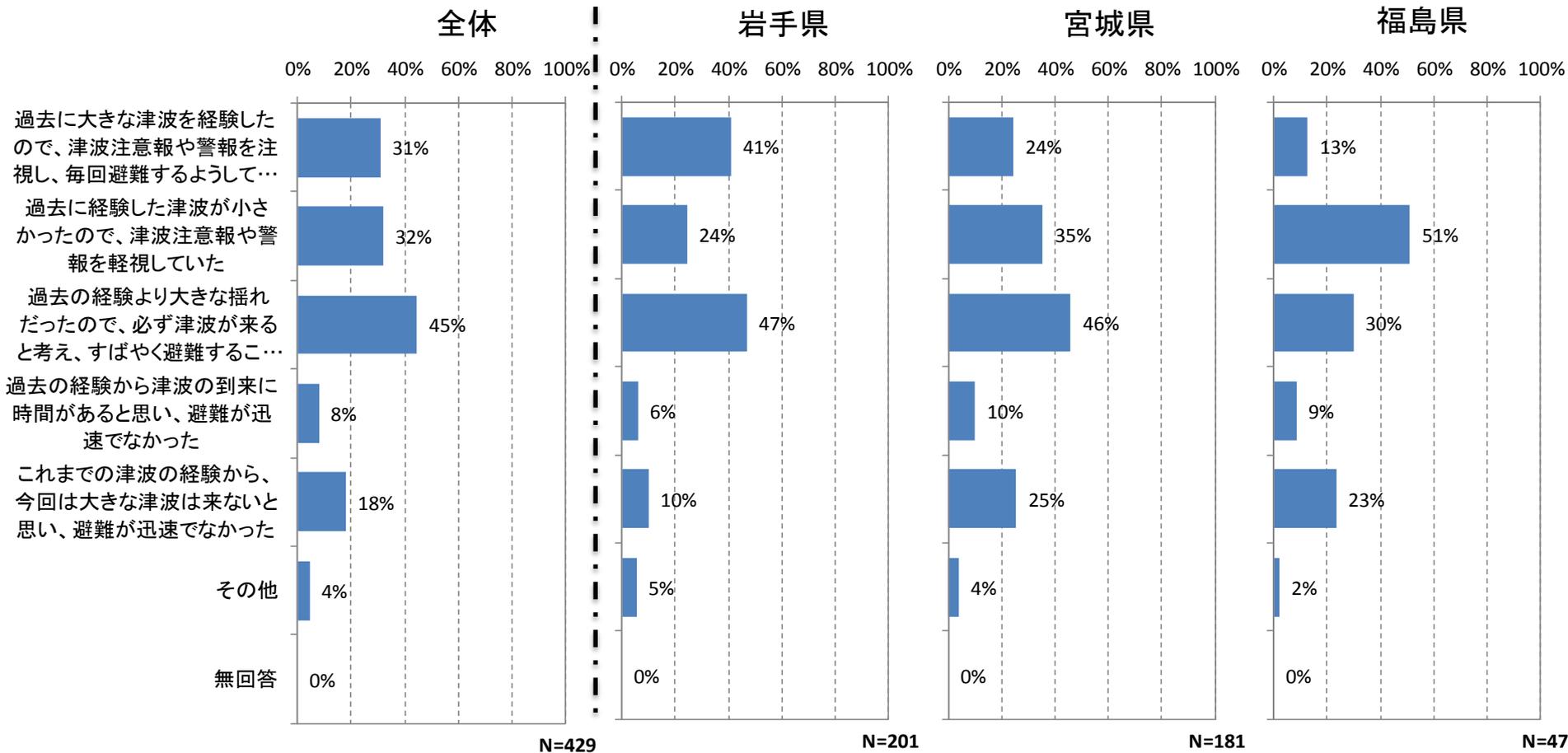
- これまでの津波の経験は、今回の避難行動に影響したと思うかについて、3県ともに「影響したと思う」が半数を越えている。



付問37.2 津波経験の避難行動への影響

付問37.1で「1.影響したと思う」を選択した人が回答 N=429

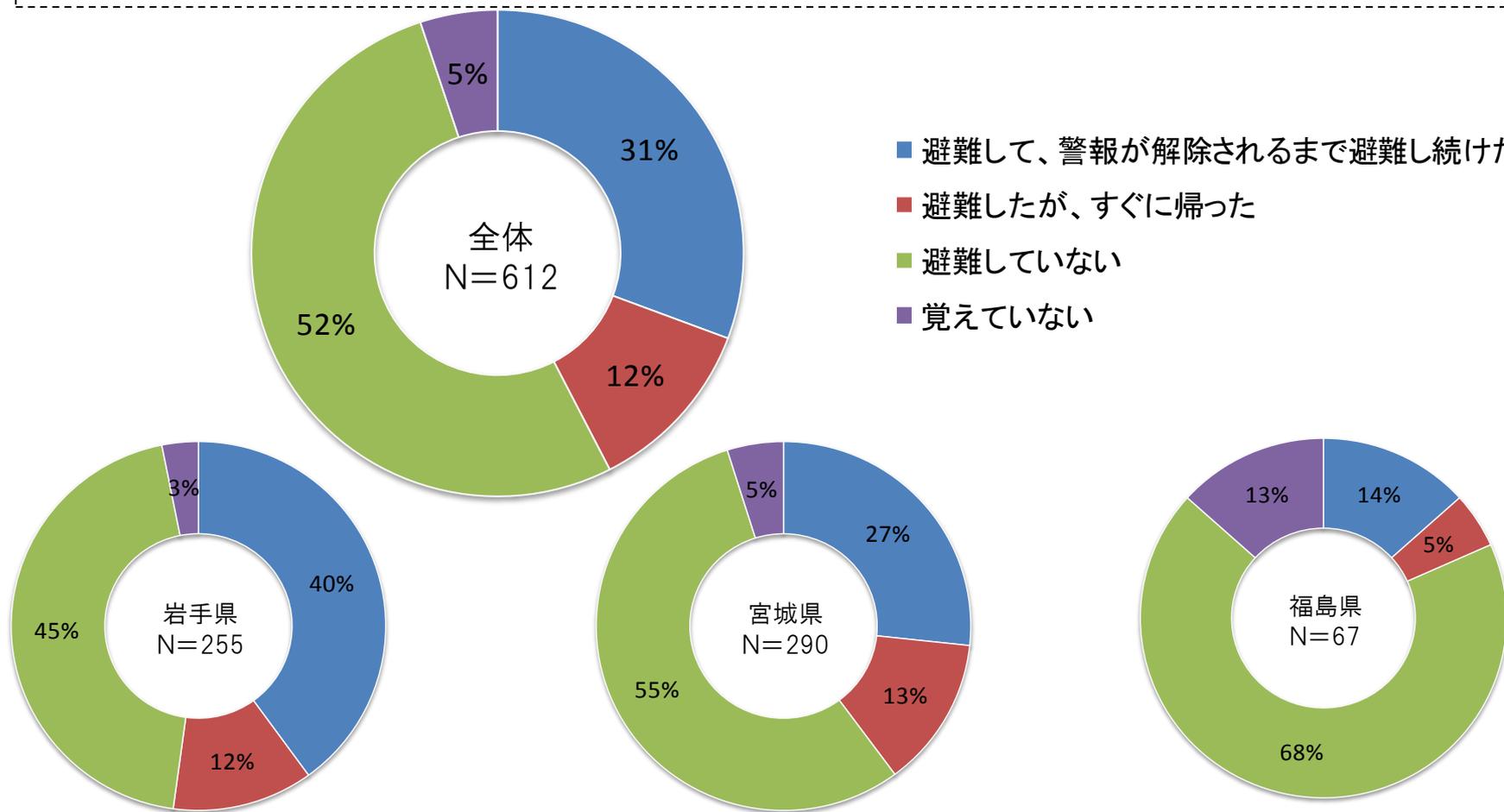
- これまでの津波の経験がどのように影響したかについて、岩手県と宮城県では「過去の経験より大きな揺れだったので、必ず津波が来ると考え、すばやく避難することができた」が最も多いのに対し、福島県は「過去に経験した津波が小さかったので、津波注意報や警報を軽視していた」が最も多い。



問38. 昨年のチリ地震津波の際の避難行動

問37で「3.2010年のチリ地震津波」を選択した人が回答 N=612

- 昨年に発生したチリ遠地津波の時に避難したかどうかについて、3県ともに「避難していない」と回答した人が多い。
- 岩手県では「避難して、警報が解除されるまで避難し続けた」と回答した人が約40%と他県より多い。

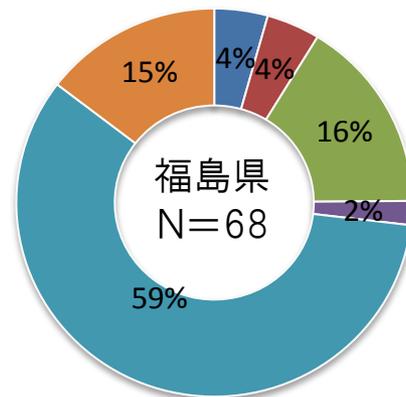
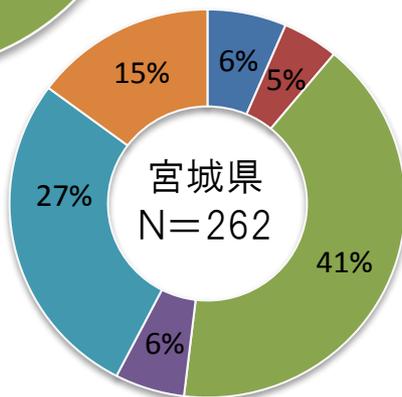
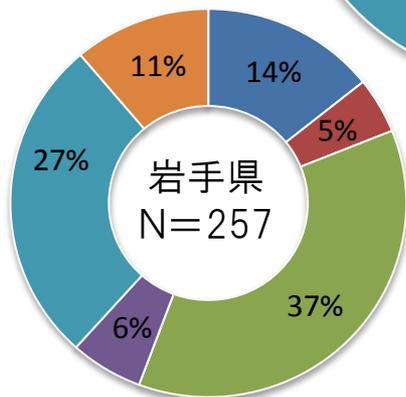
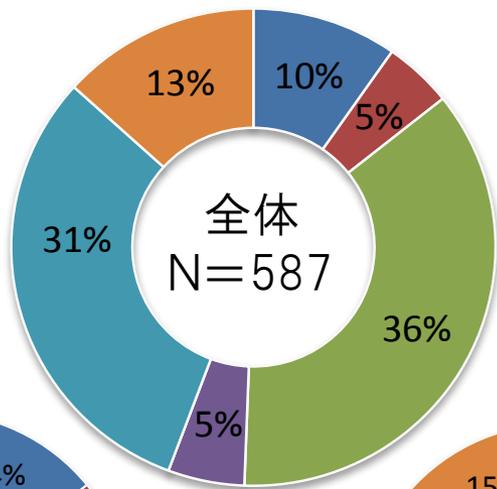


問39. 2日前の三陸沖地震について

問37で「4.2011年3月9日の三陸沖地震津波」を選択した人が回答 N=587

- 今回の地震の2日前(平成23年3月9日)の三陸沖地震の時に避難したかどうかについて、岩手県と宮城県では「避難はしなかったが、テレビやラジオなどの地震や津波情報や役場からの情報に用心した」が最も多いが、福島県では「津波が来ないと思ったので何もしなかった」が最も多い。

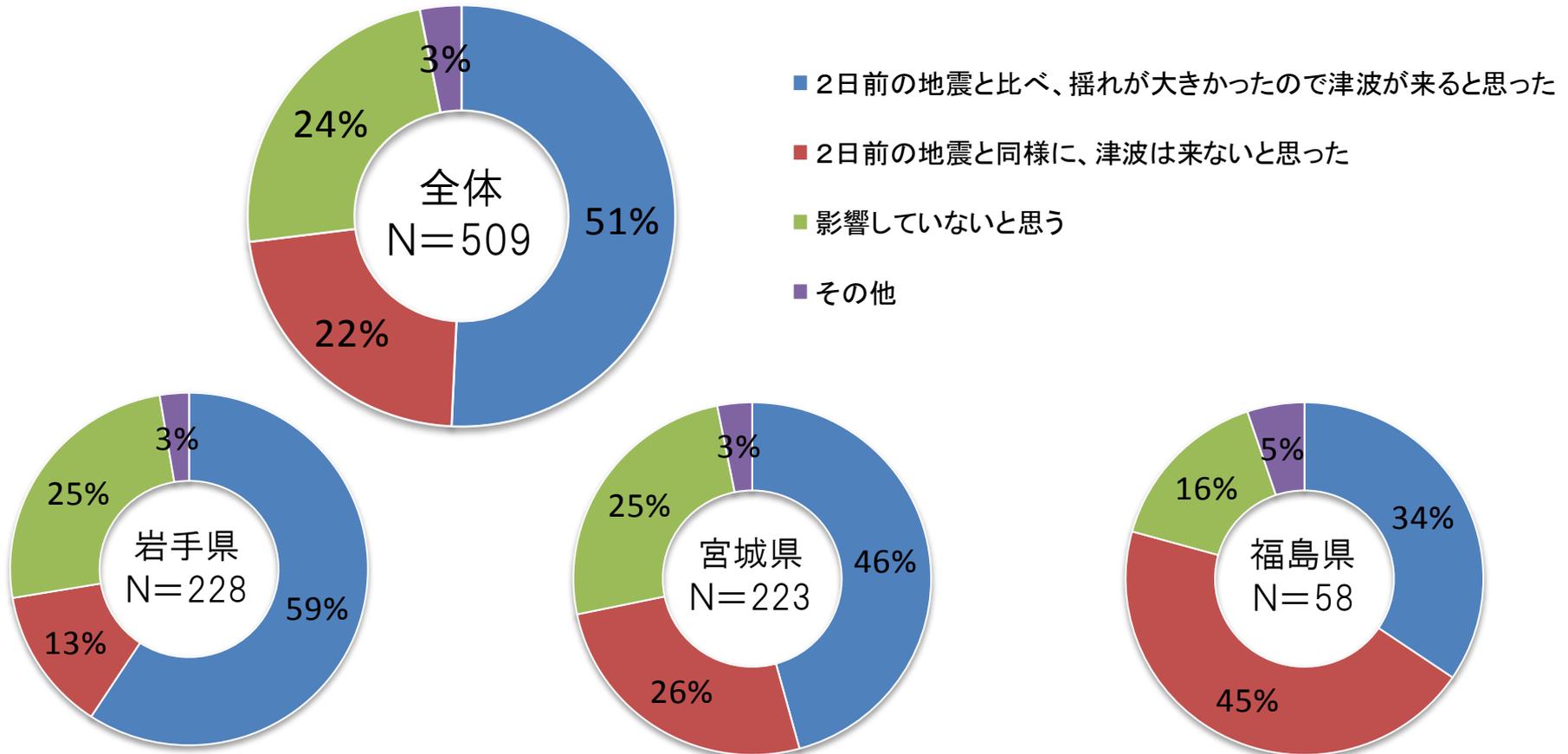
- 揺れが収まってから直ぐに避難した(テレビやラジオなどの地震情報や津波情報を待たずに)
- テレビやラジオなどの地震や津波情報や役場からの情報を判断して、用心のため避難した
- 避難はしなかったが、テレビやラジオなどの地震や津波情報や役場からの情報に用心した
- その他
- 津波が来ないと思ったので何もしなかった
- 知らなかった(覚えていない)



付問39. 1 2日前の地震や津波が今回の避難行動に影響したか

問39で「1～5」(2011年3月9日の三陸沖地震津波の際、避難したり情報に用心した又は津波は来ないと思い何もしなかった)を選択した人が回答 N=509

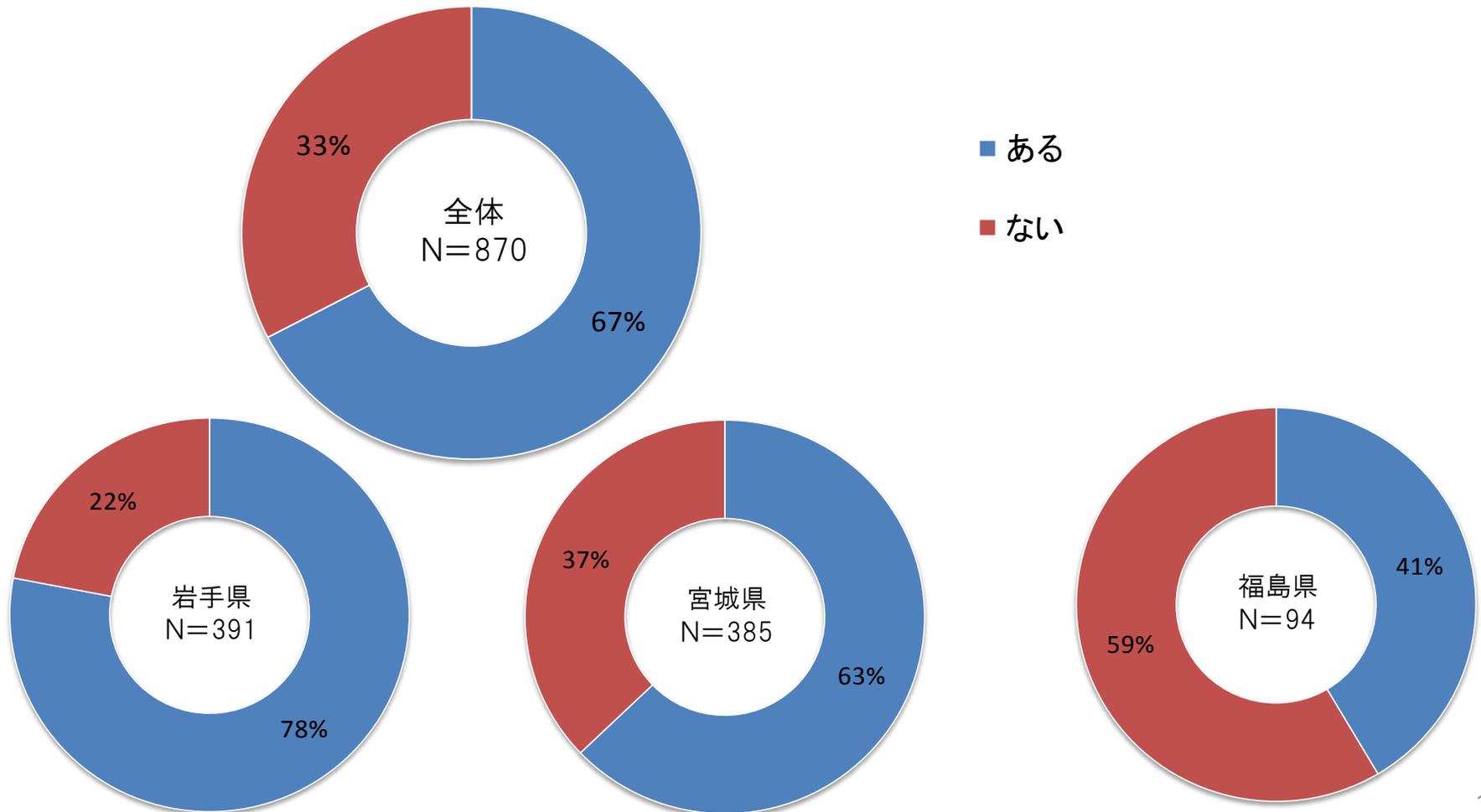
- 2日前の地震や津波が、今回の避難行動に影響したかについて、岩手県と宮城県では「2日前の地震と比べ、揺れが大きかったので津波が来ると思った」が多いが、福島県では「2日前の地震と同様に、津波は来ないと思った」が多い。



問40. 過去の地震・津波についての教訓や知恵を、聞いたことがありますか

全員が回答 N=870

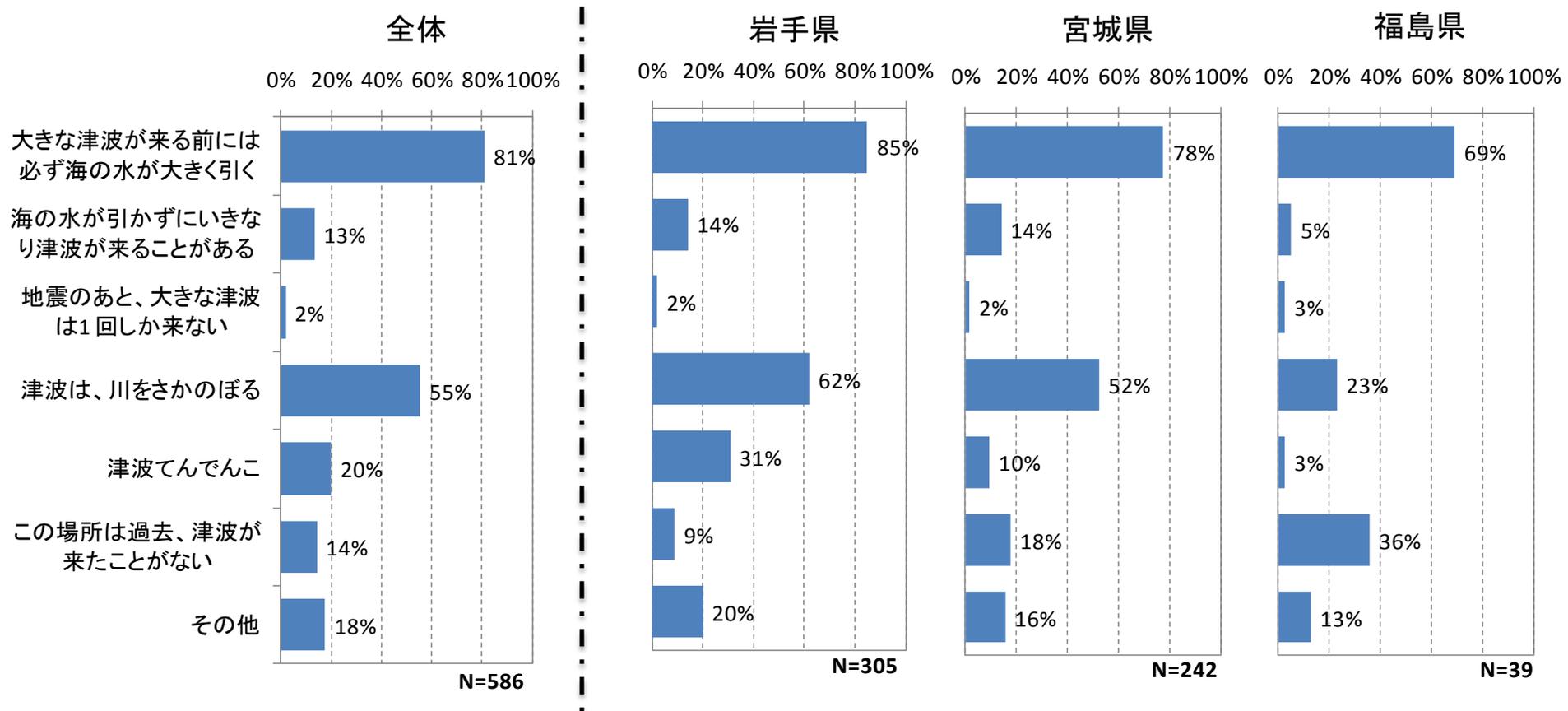
- 子供の頃、昔起きた地震や津波の教訓や知恵について、親や祖父母、近所の人から聞いたことがあるかどうかについて、岩手県と宮城県では60%以上が「ある」と回答したのに対し、福島県では「ない」と回答した人の方が多い。



付問40. 1 地震や津波について、子供の頃聞いた内容

問40で「1.ある」を選択した人が回答 N=586

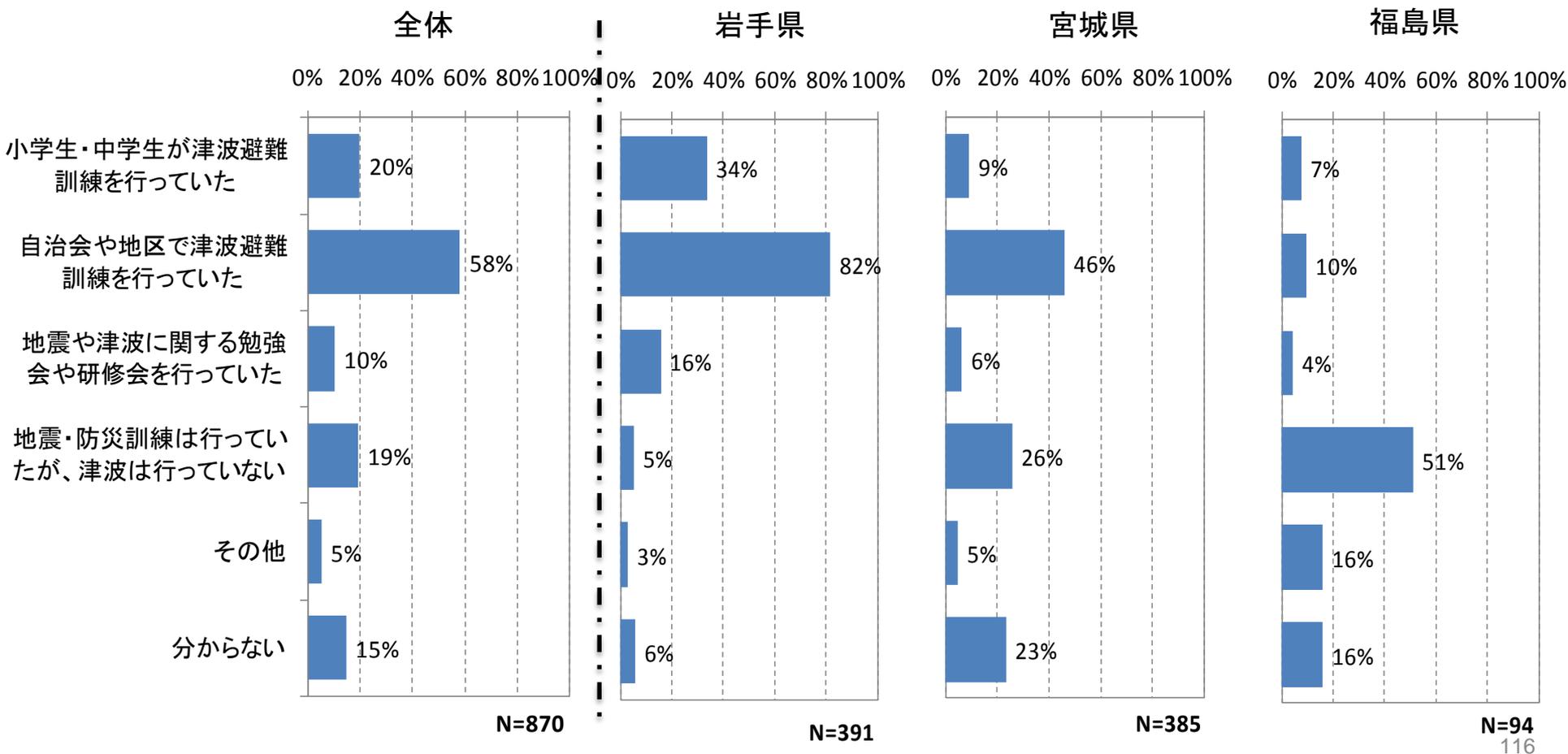
- 地震や津波について子供の頃に聞いた話は、3県ともに「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」が最も多い。
- 福島県では「この場所は過去、津波が来たことがない」が約36%と他県と比べて多い。



問41. 住んでいた地区での、津波防災の取り組みについて

全員が回答 N=870

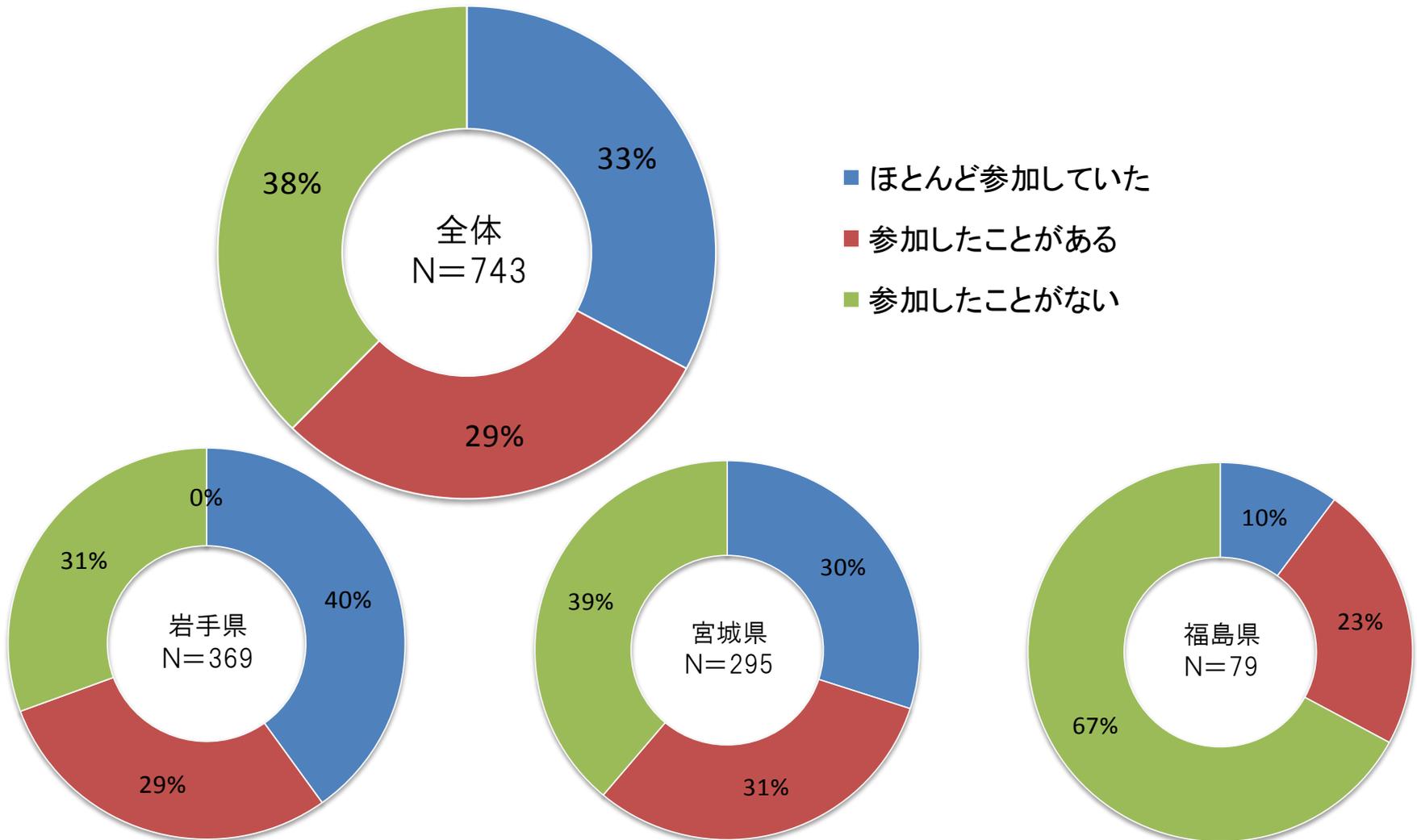
- 住んでいた地区での津波防災の取り組みについて、岩手県と宮城県では「自治会や地区で津波避難訓練を行っていた」が多いのに対し、福島県では「地震・防災訓練は行っていたが、津波は行っていない」が多い。



付問41. 1 津波に関する避難訓練や研修に参加したことがありますか

問41で「1～5」(津波避難訓練又は地震防災訓練等を行っていた)を選択した人が回答 N=743

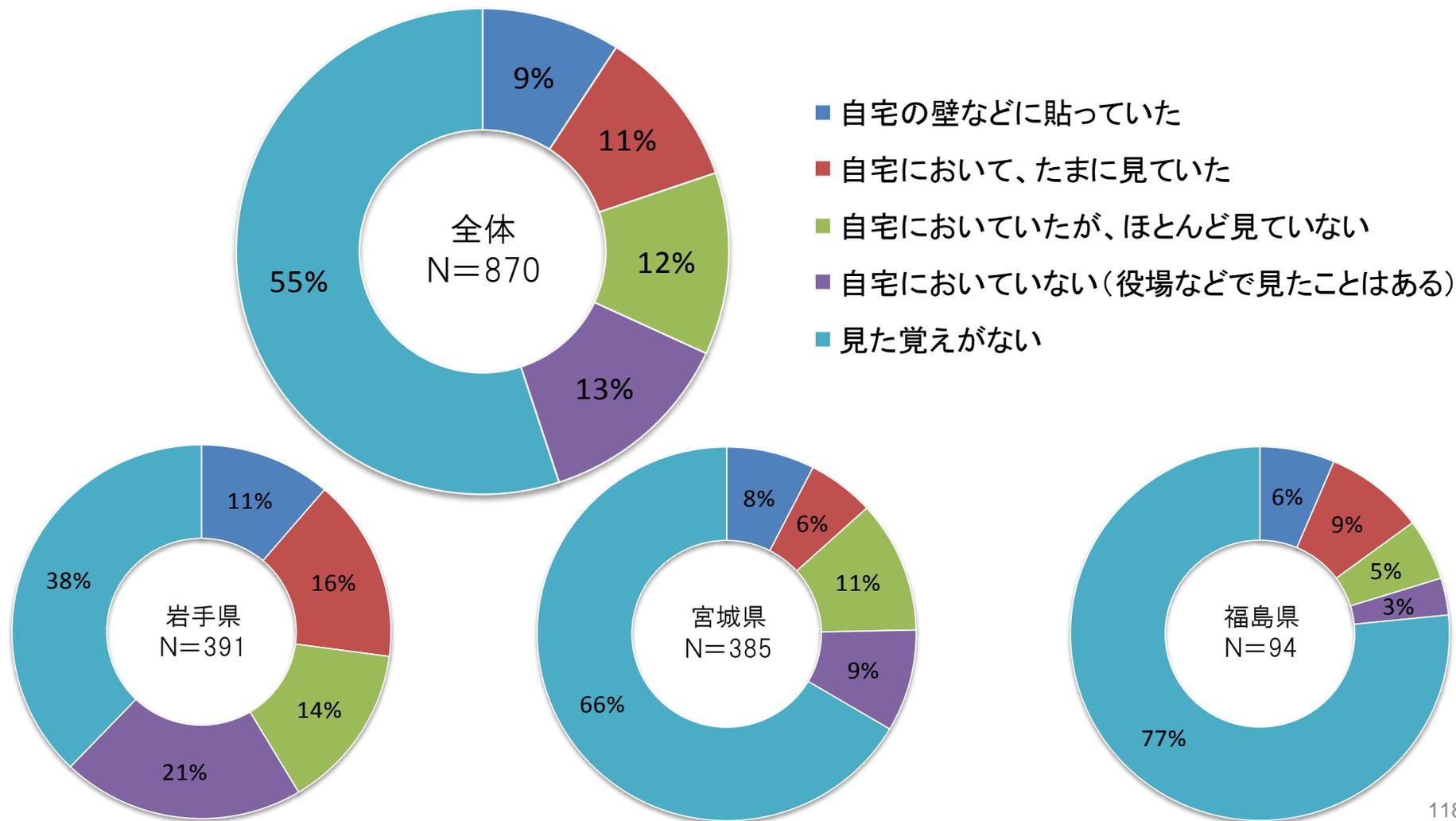
- 津波に関する避難訓練や研修への参加について、岩手県では「ほとんど参加していた」が約40%、宮城県では約30%であるが、福島県では約10%である。



問42. 津波ハザードマップについて(地震前)

全員が回答 N=870

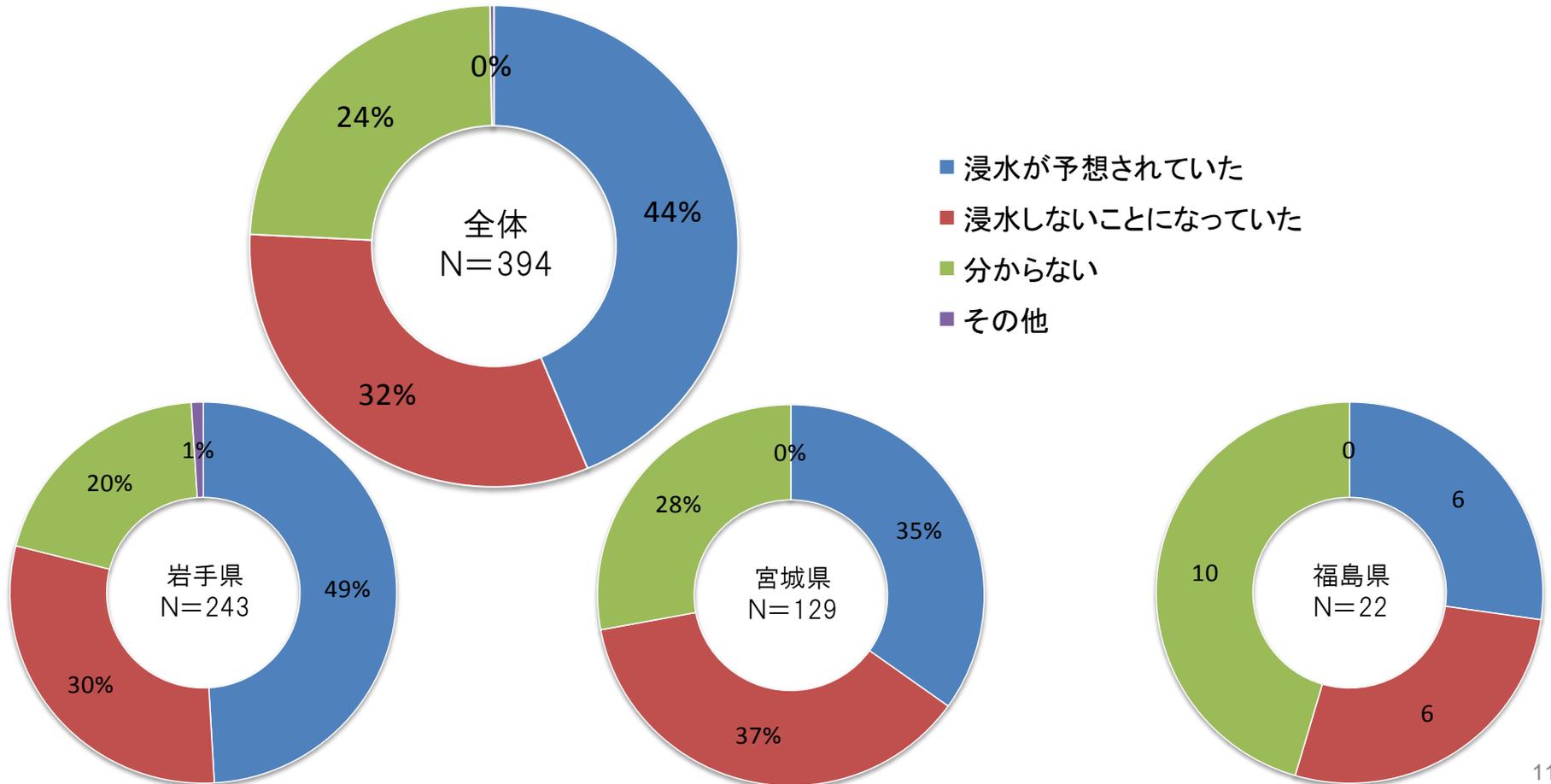
- 地震前に津波ハザードマップを保管したり活用したりしていたかについて、岩手県の活用度が若干高い。



問43. 津波ハザードマップにおける自宅の浸水予想

問42で「1~4」(津波ハザードマップを地震前に見たことがある)を選択した人が回答 N=394

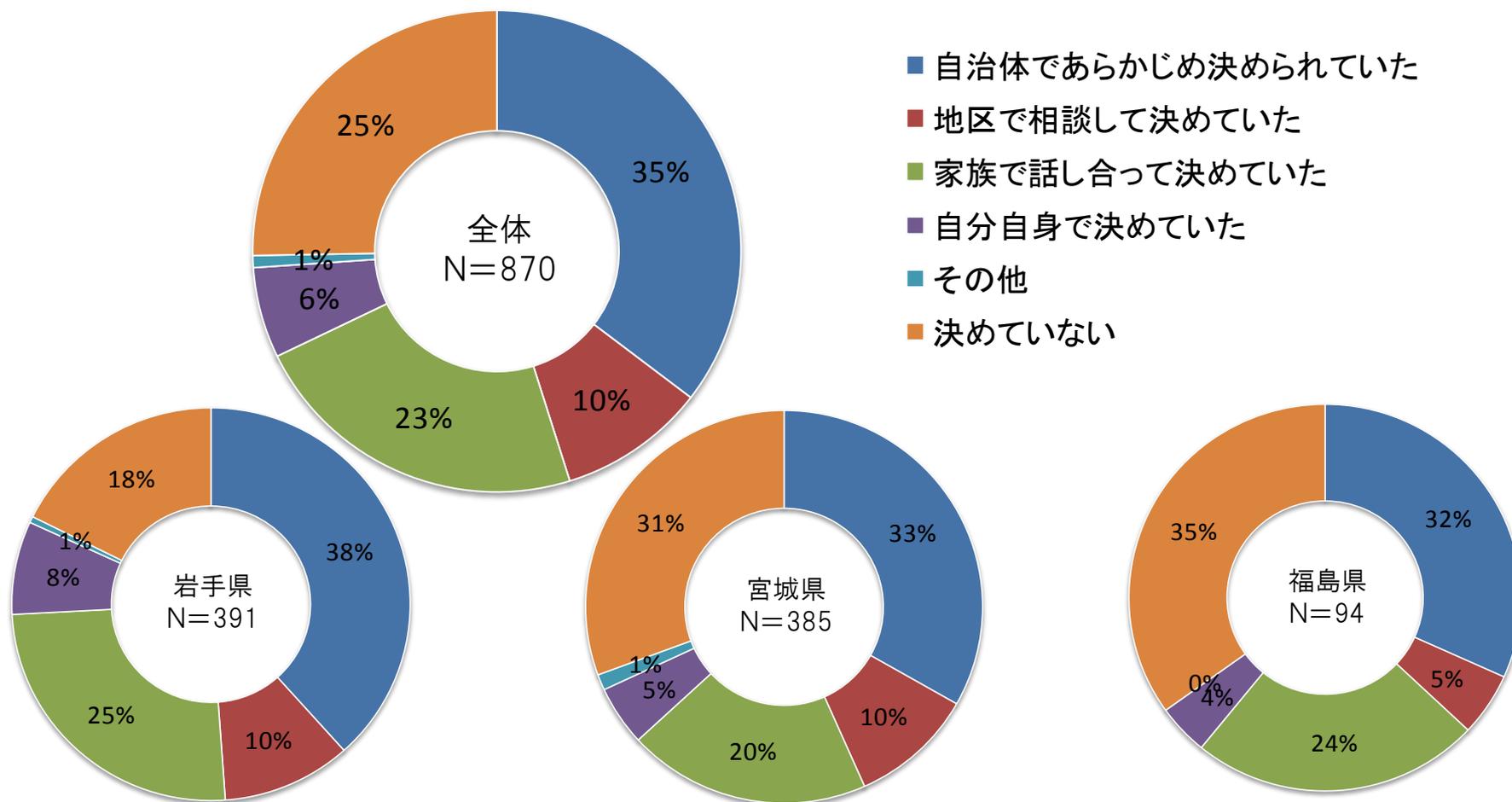
- 自宅が津波ハザードマップ上で浸水すると予想されていたかについて、岩手県では約49%が「浸水が予想されていた」であるのに対して、宮城県では「浸水が予想されていた」と「浸水しないことになっていた」が同程度の割合である。



問44(1) 自宅にいて津波が襲来した時の、避難する場所について

全員が回答 N=870

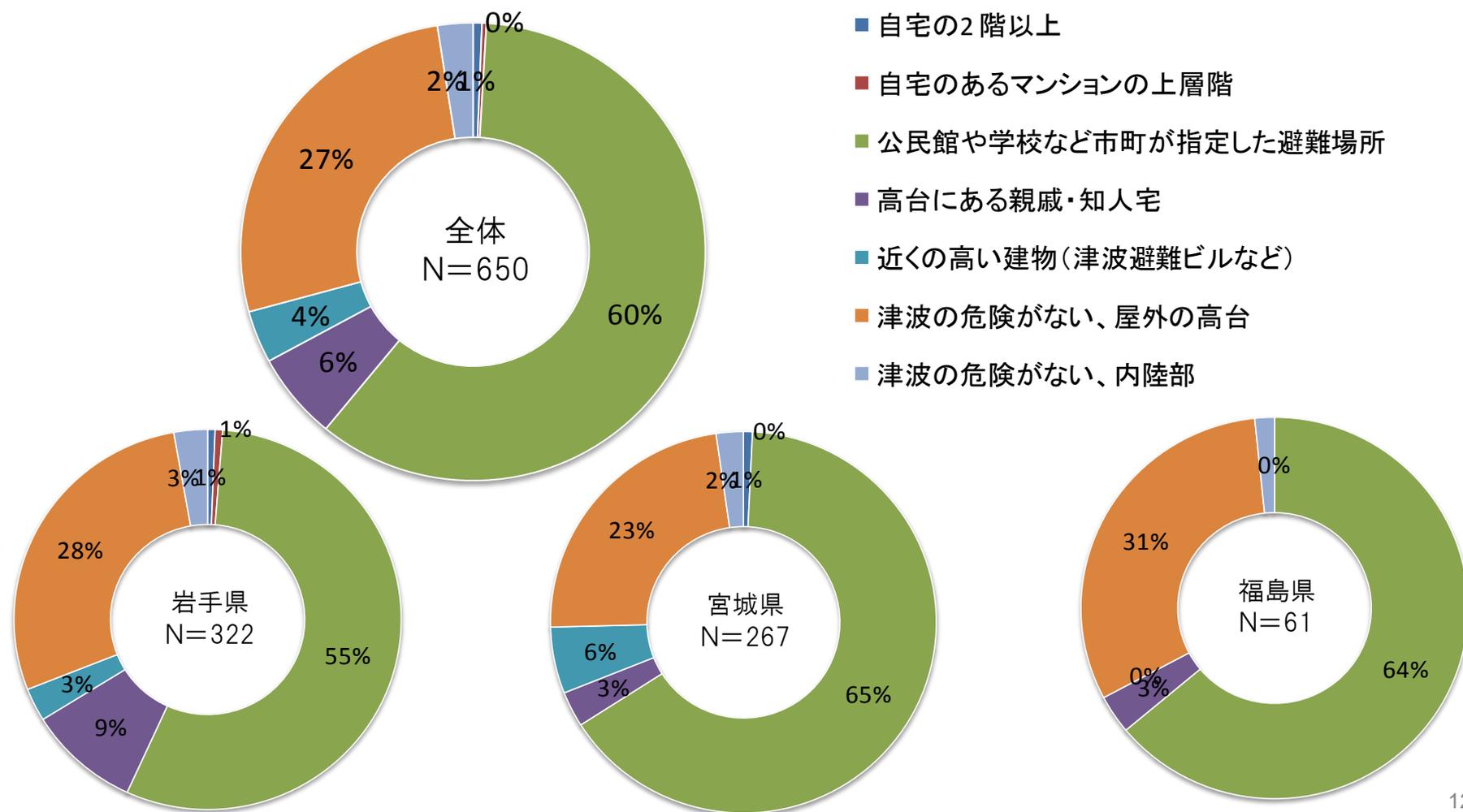
- 自宅にいて津波が襲来した時に避難する場所をどのように決めていたかについて、岩手県、宮城県では「自治体であらかじめ決められていた」が最も多く、次いで「家族で話し合っていた」が多い。福島県では、「決めていない」「自治体であらかじめ決められていた」の順となっている。



問44(2) 自宅にいて津波が襲来した時の、避難する場所について

問44.(1)で「1~5」(自宅にいて津波が襲来した時に、避難する場所を決めていた)を選択した人が回答 N=650

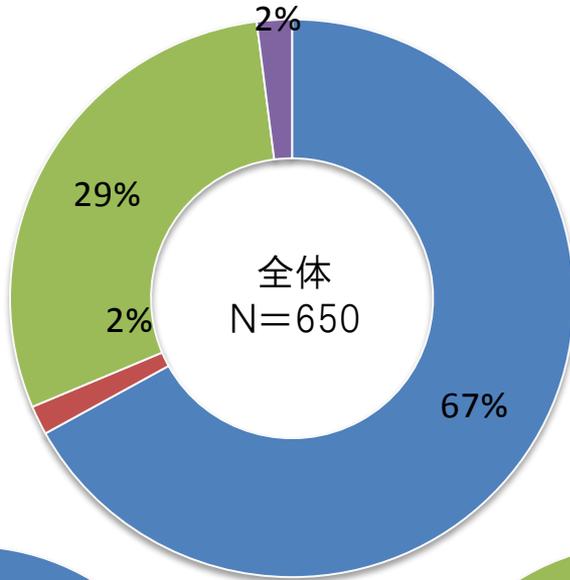
- 自宅にいて津波が襲来した時に避難すると決めていた場所について、3県ともに「公民館や学校など市町が指定した避難場所」が多い。



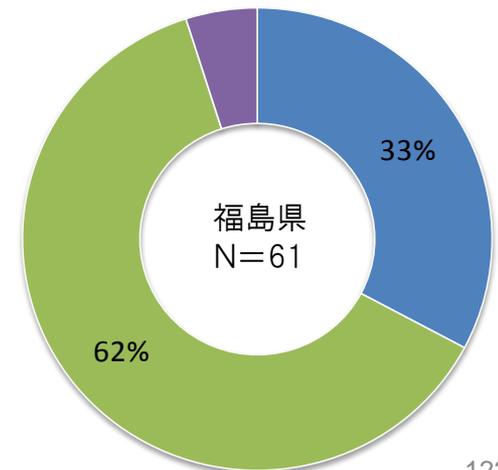
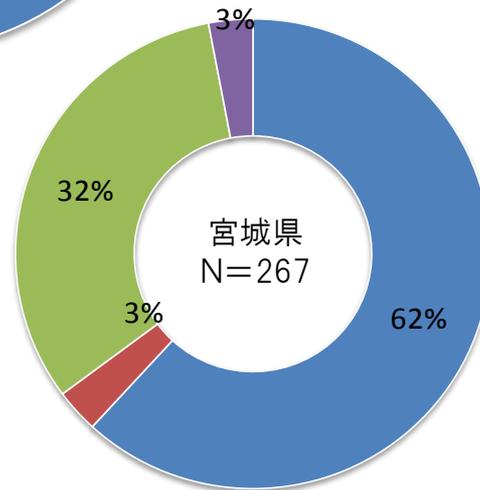
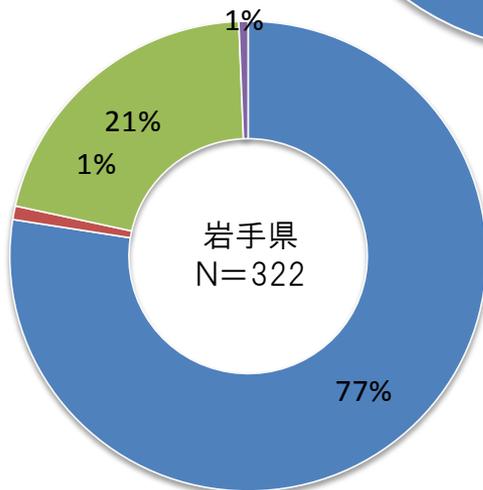
付問44.1 避難する際に、想定していた移動手段

問44.1で「1～5」(自宅にいて津波が襲来した時に、避難する場所を決めていた)を選択した人が回答 N=650

- 自宅にいて津波が襲来した時に避難すると決めていた場所までの移動手段について、岩手県、宮城県では「徒歩」が多いのに対し、福島県では「自動車」が多い。



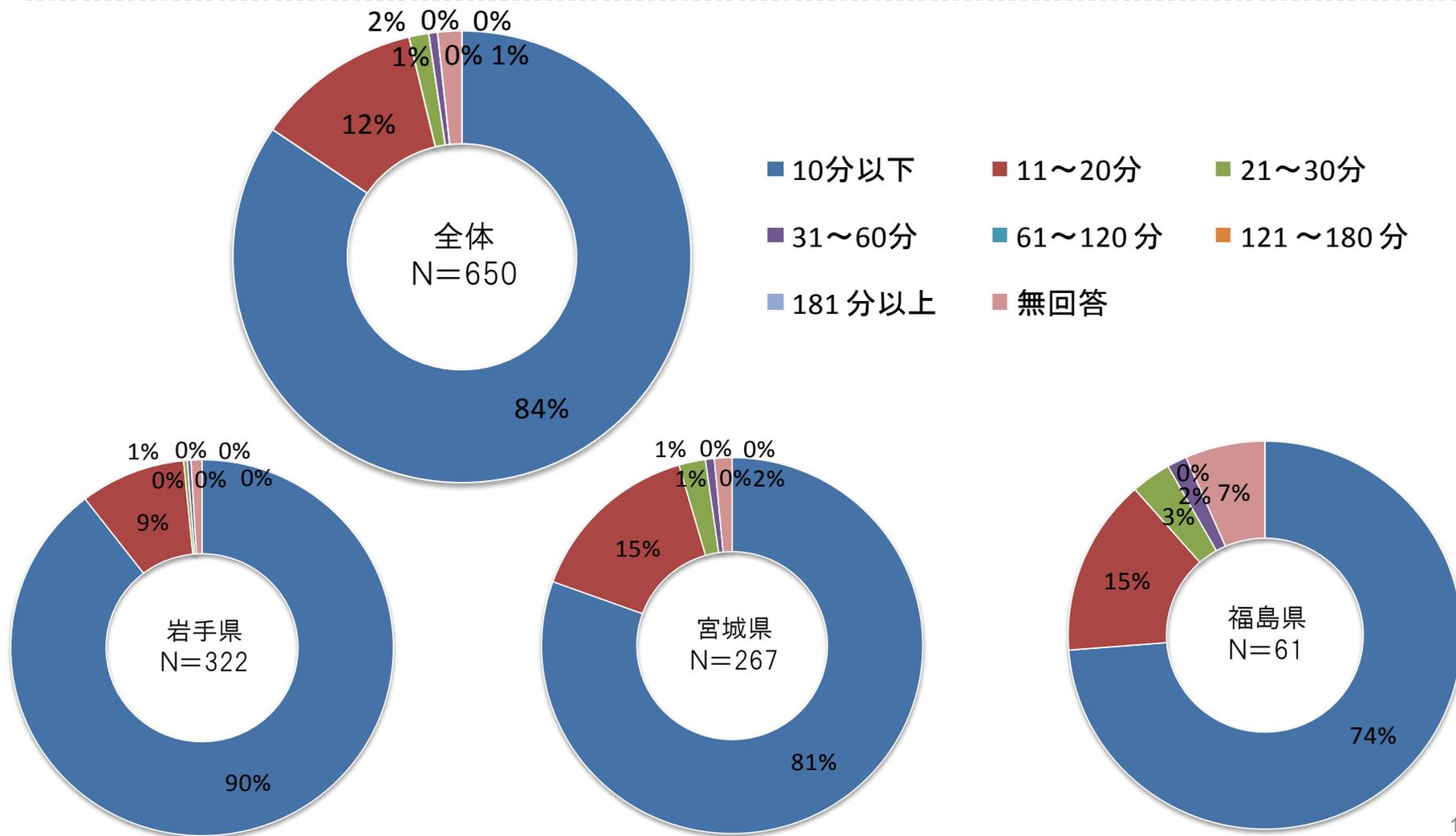
- 徒歩
- 自転車、バイク
- 自動車
- その他



付問44. 2 その避難場所までの所要時間(分)

問44.1で「1～5」(自宅にいて津波が襲来した時に、避難する場所を決めていた)を選択した人が回答 N=650

- 自宅にいて津波が襲来した時に避難すると決めていた場所までの所要時間について、3県ともに「10分以下」が約70%以上を占めている。



問45 今回の経験を経て得た教訓・後世に伝えたいこと

今回の経験を経て、得られた教訓や後世に伝えたいことについて、住民からは以下のような主な意見があった。(自由回答)

教訓

- 大きな揺れを感じたら、すぐに避難する。
- ここなら津波は来ないだろうと思い込むのは危険である。
- 過去の津波経験がマイナスに働くことがあり、経験にとらわれないことも重要である。

情報

- 津波警報が発表されたら、すぐに避難する。
- 停電になっても使用できるラジオや、携帯電話などの連絡手段を確保しておく。
- 被害に遭わないようにするためには、避難時にも地震や津波の状況を知ることが重要である。
- 避難指示は、もっと緊急性を持って伝えるべきである。

避難の行動・手段

- 緊急時に持って行く物を事前に準備しておくことが重要である。
- 高いところへ逃げる。忘れ物をして、絶対に取りに帰らない。
- 車で避難した時、渋滞や周りの状況が把握しにくい時には、車から降りて逃げろ。
- 安全な場所を自分で判断できるようにしておく。
- 高台への避難路を整備してほしい。

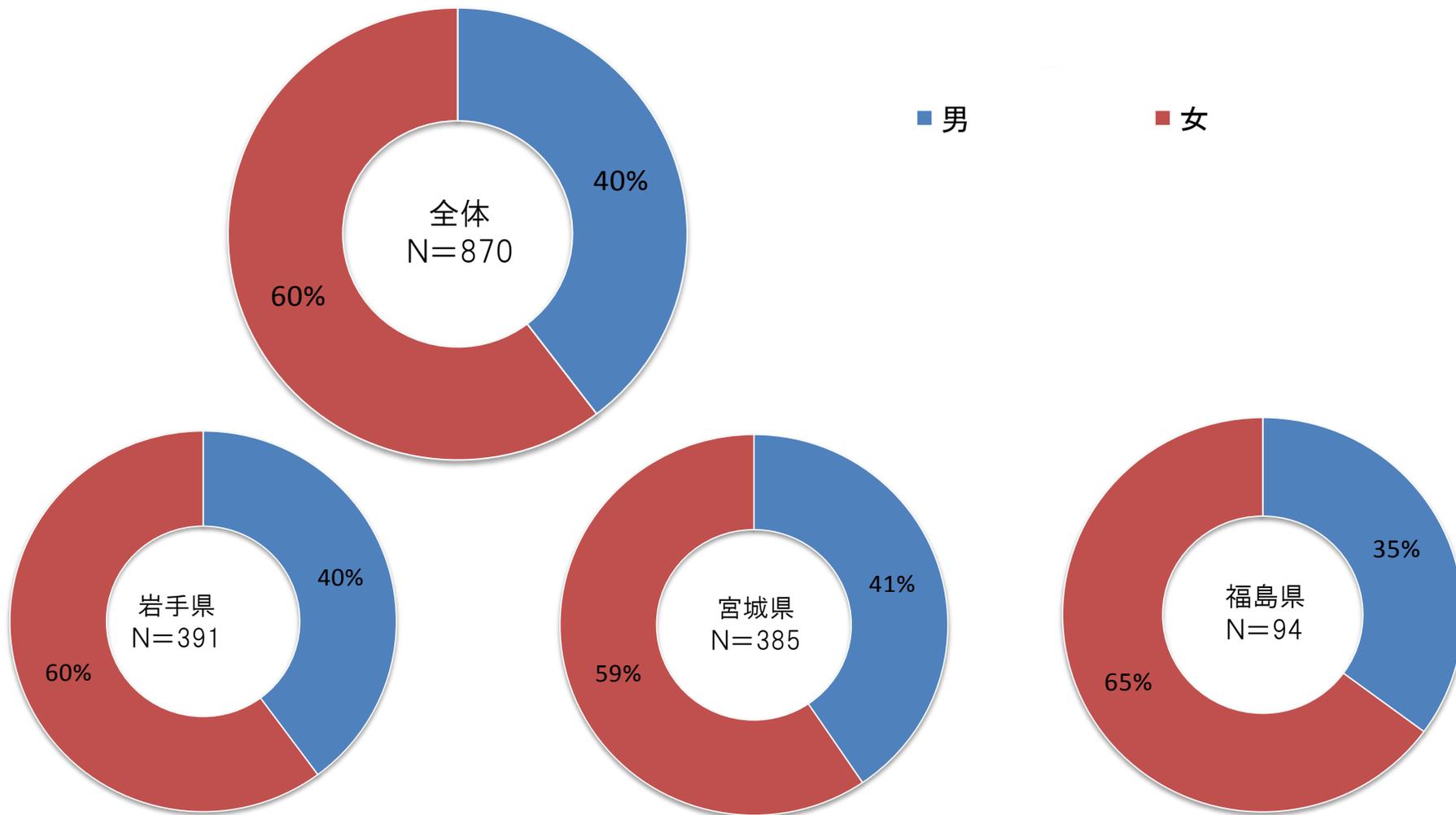
訓練・啓発

- これまでの形式的な避難訓練ではなく、もっと現実的な訓練内容を考えるべきである。

F1. 性別

全員が回答 N=870

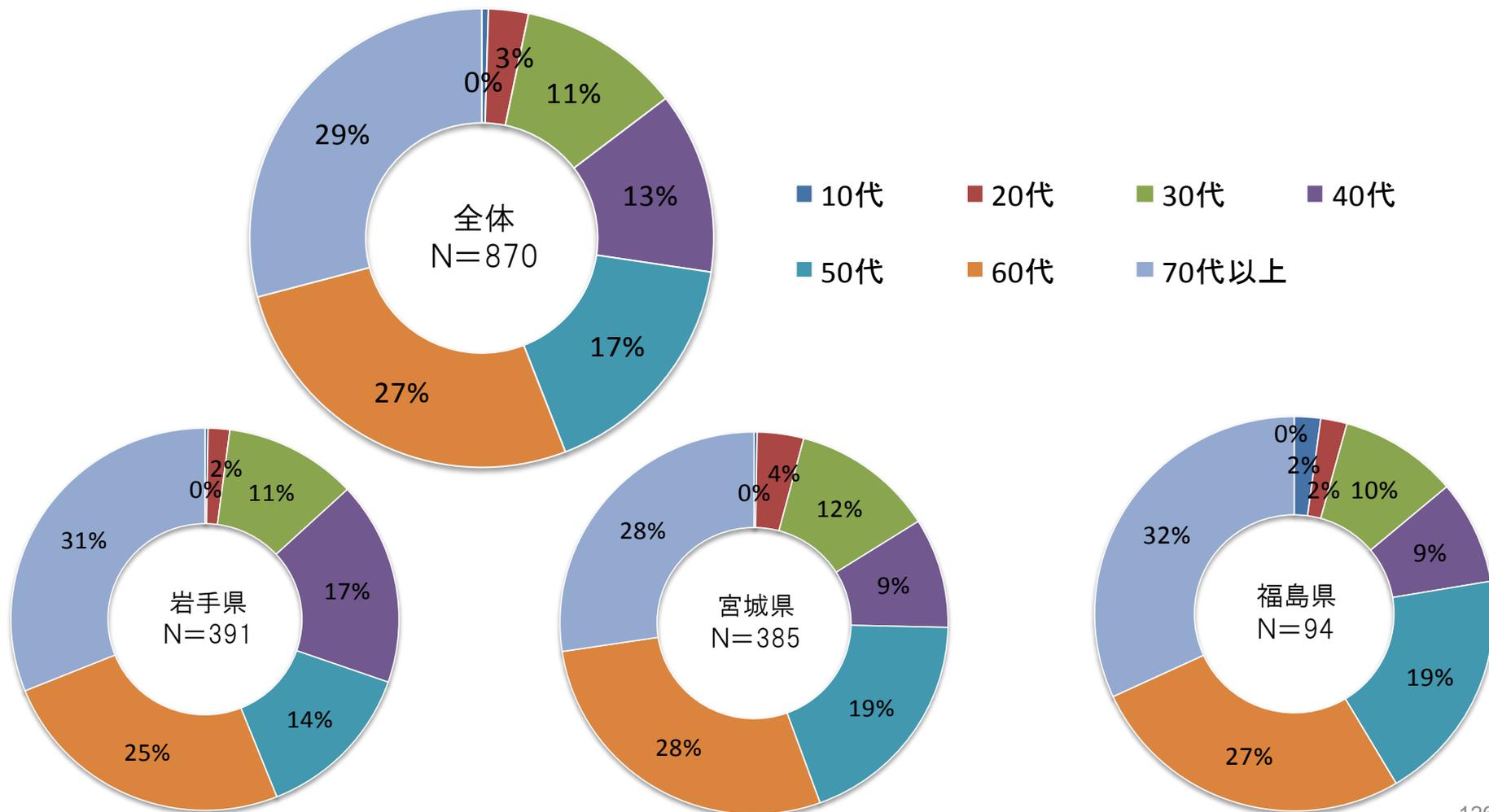
- 回答者の性別は、3県ともに女性が多い。



F2. 年齢

全員が回答 N=870

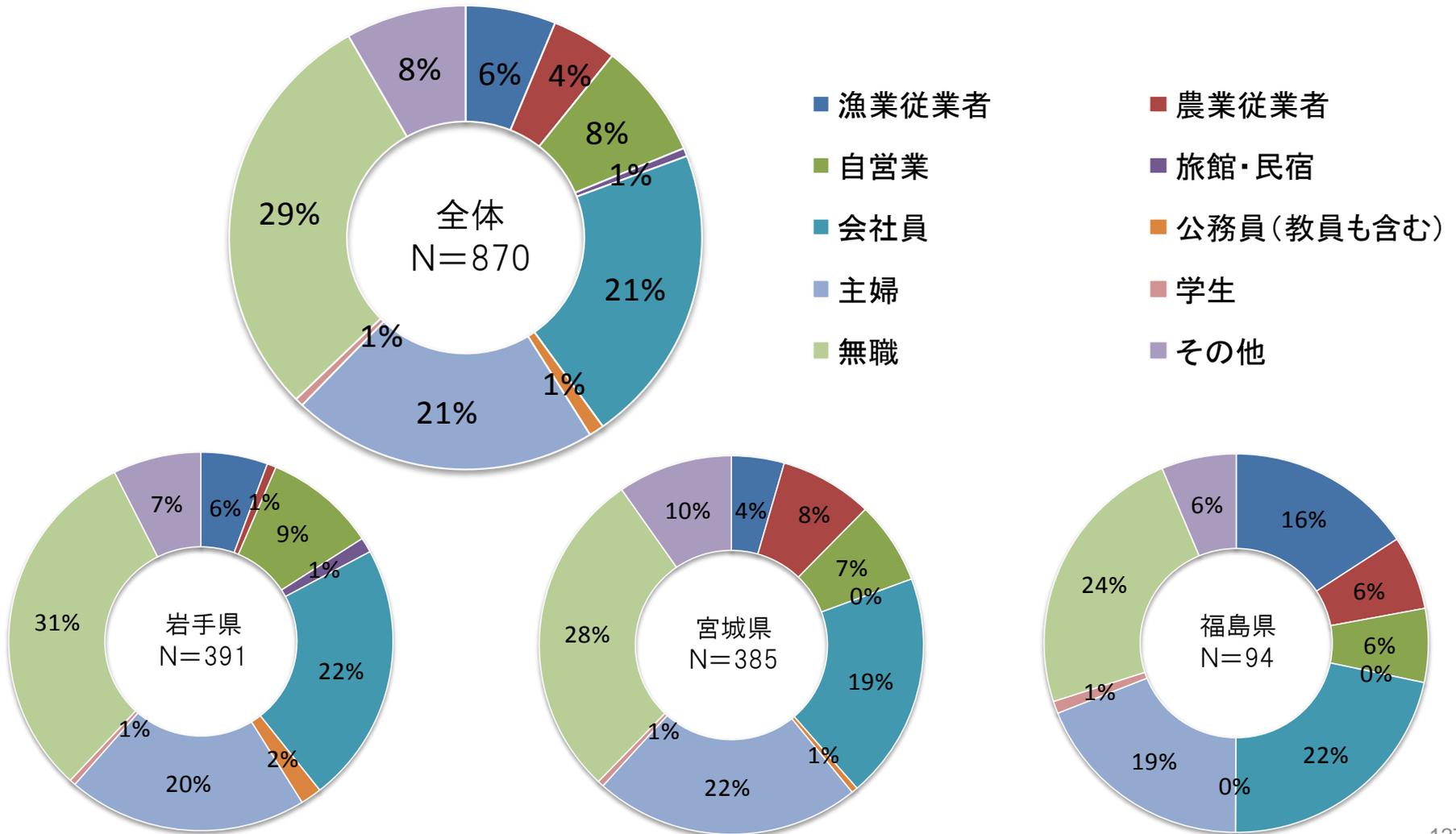
- 回答者の年齢は、3県ともに70代以上が多く、50代・60代・70代以上が半数以上を占めている。



F3. 職業

全員が回答 N=870

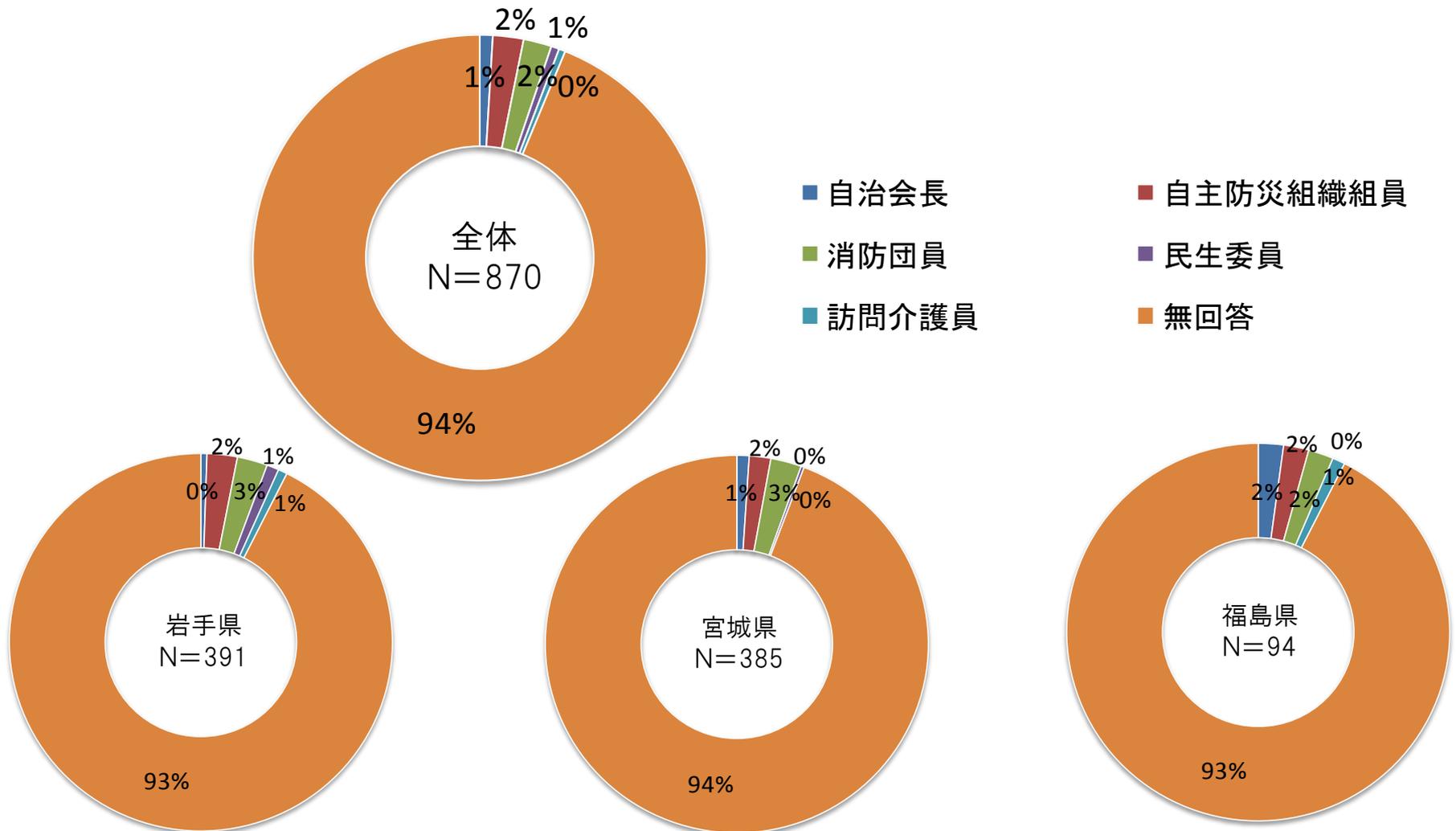
• 回答者の職業は、「会社員」、「主婦」、「無職」の方が7割程度を占めている。



F4. 地域での役割

全員が回答 N=870

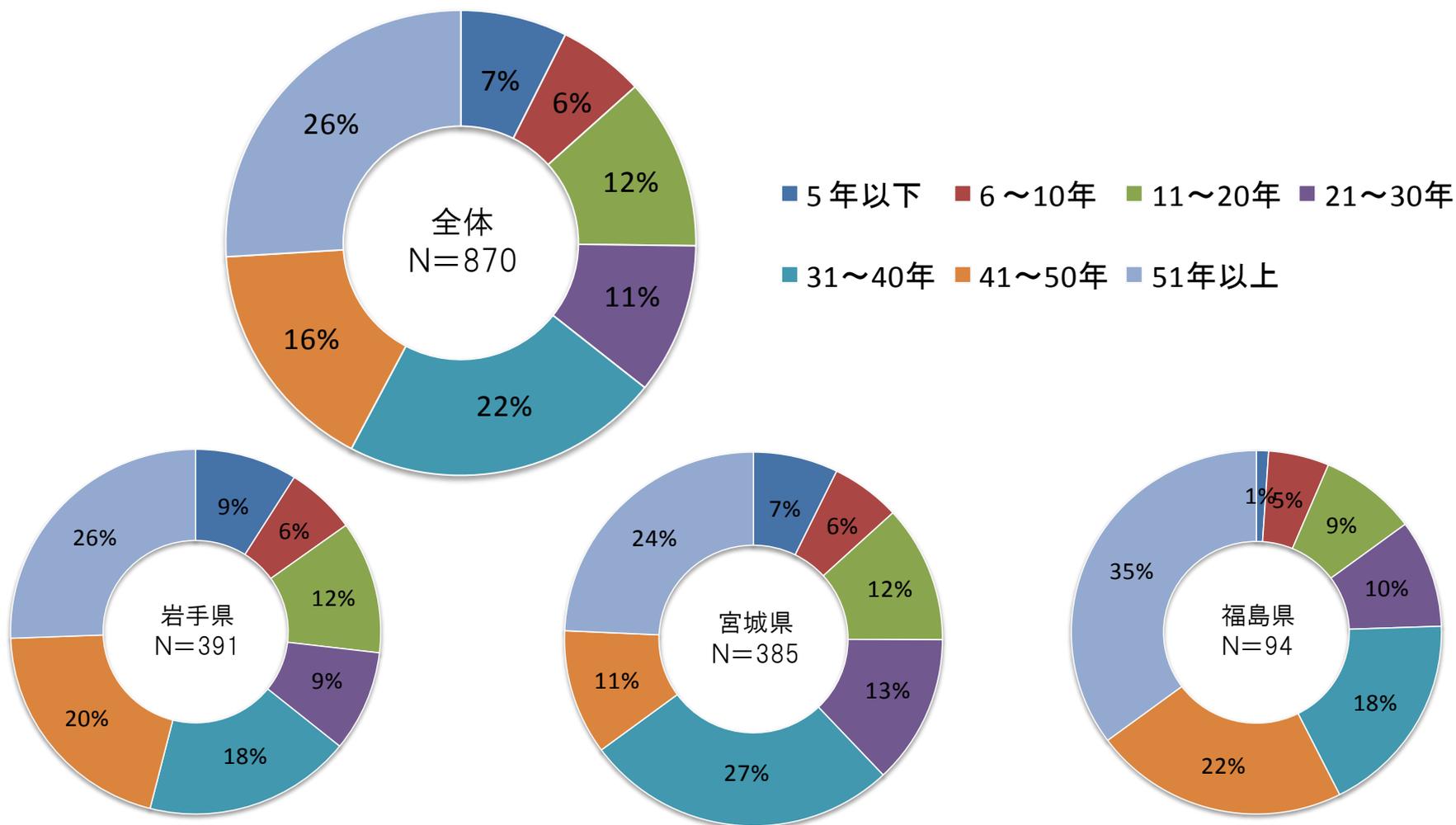
• 地域で「自治会長」等の役割を担う方は、1割弱である。



F6. 居住年数

全員が回答 N=870

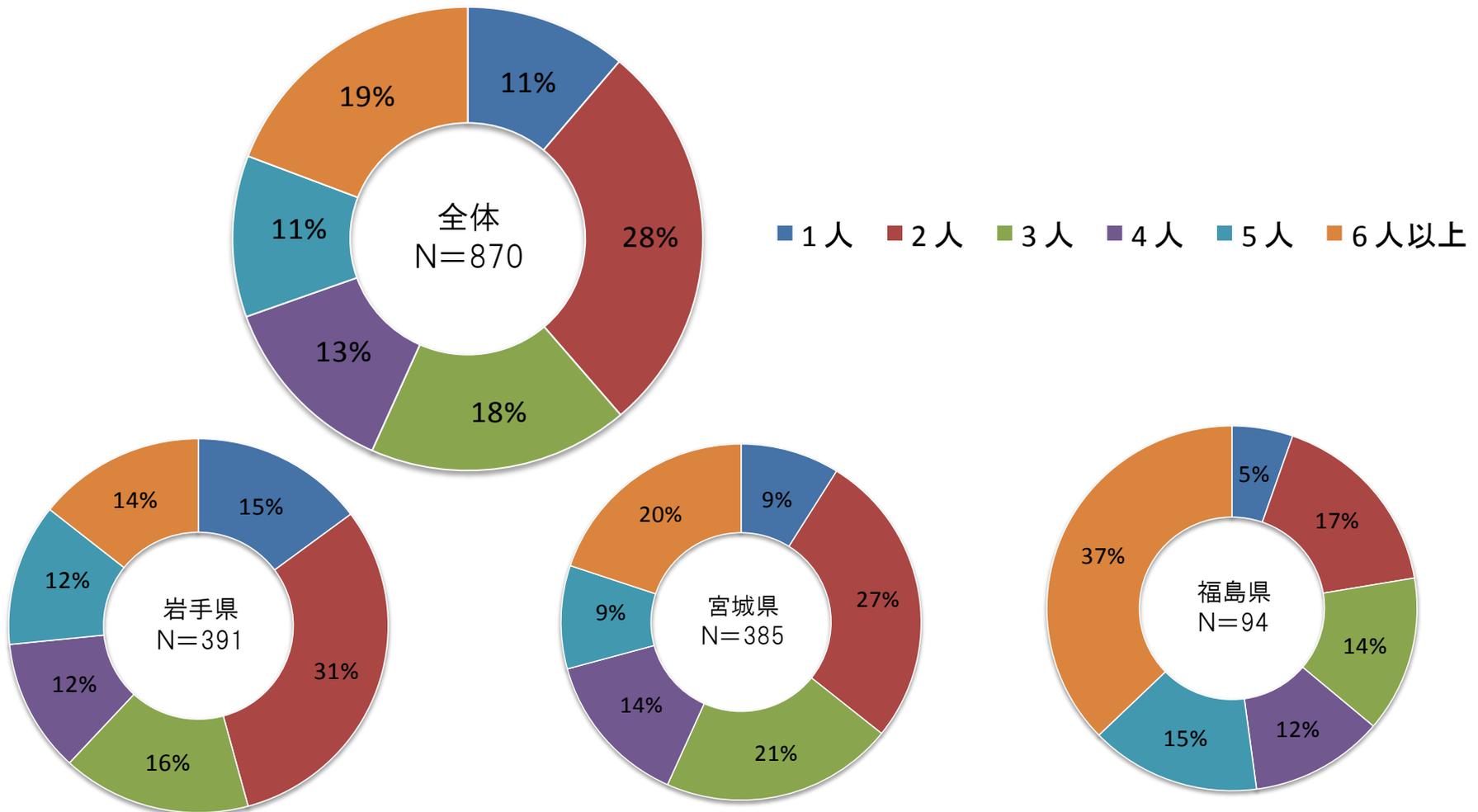
- 地域での居住年数について、3県ともに31年以上の回答が半数以上を占め、長年この土地に居住していることが分かる。



F7.1 同居人数

全員が回答 N=870

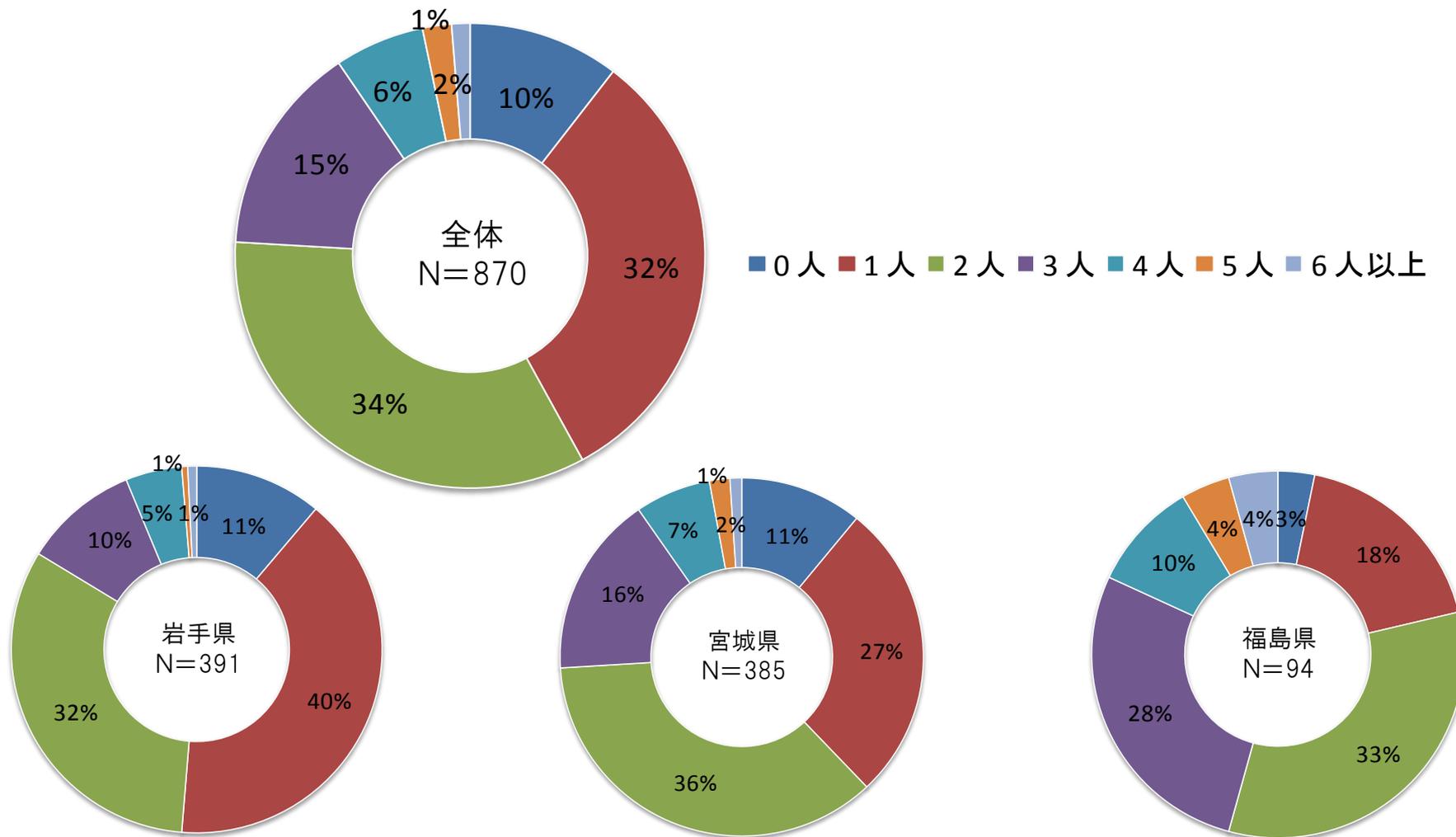
- 同居の家族の人数について、「3人」以上と回答した方は全体の半分以上を占める。一方、単身者は岩手県はや15%、宮城県は約9%、福島県は約5%である。



F7.2 当時自宅にいた人数

全員が回答 N=870

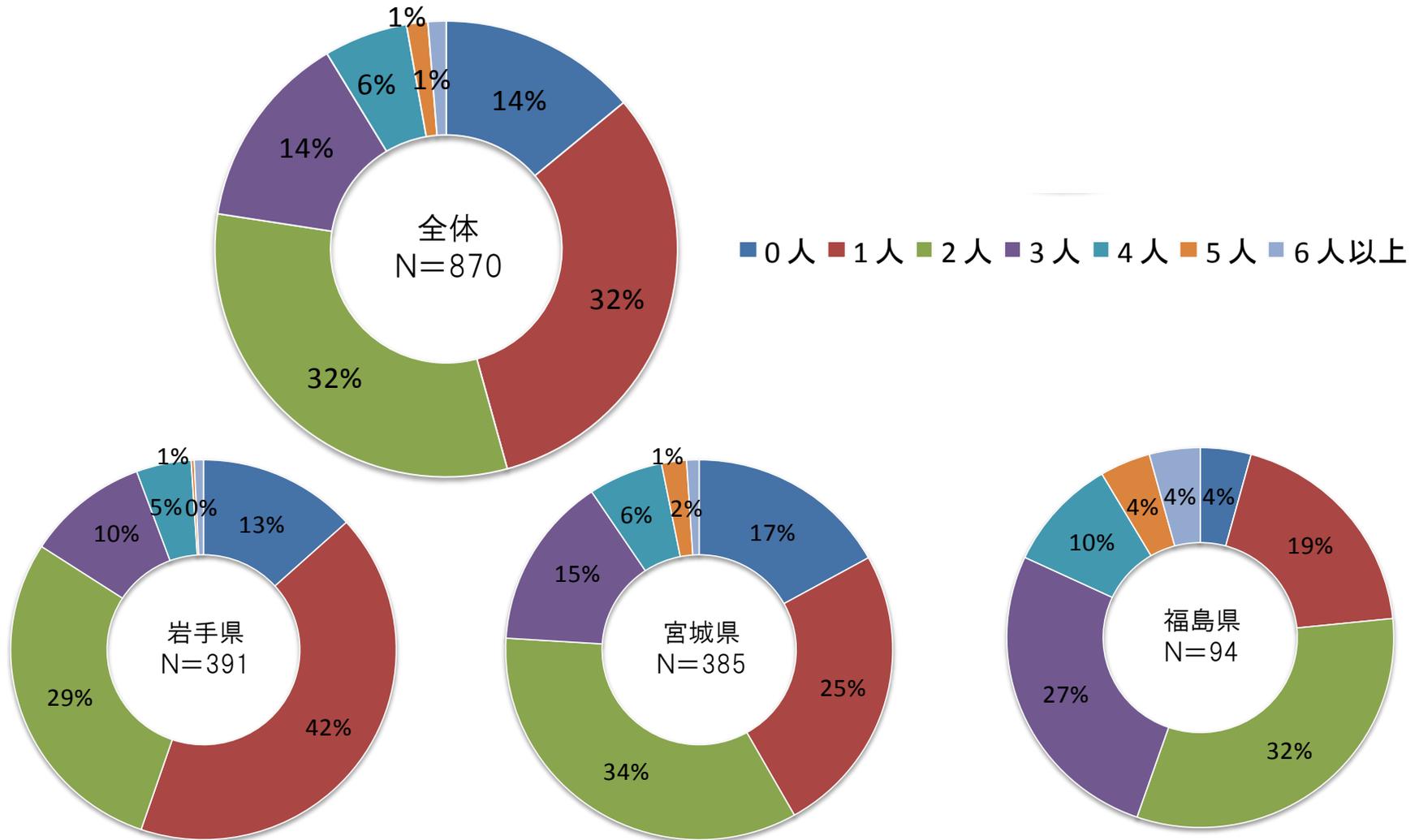
- 地震が起きた時に自宅にいた人数について、自宅に人がいないのは1割程度またはそれより少ない。およそ半数以上が自宅に「2人」以上いたと回答している。



F7.3 そのうち避難した人数

全員が回答 N=870

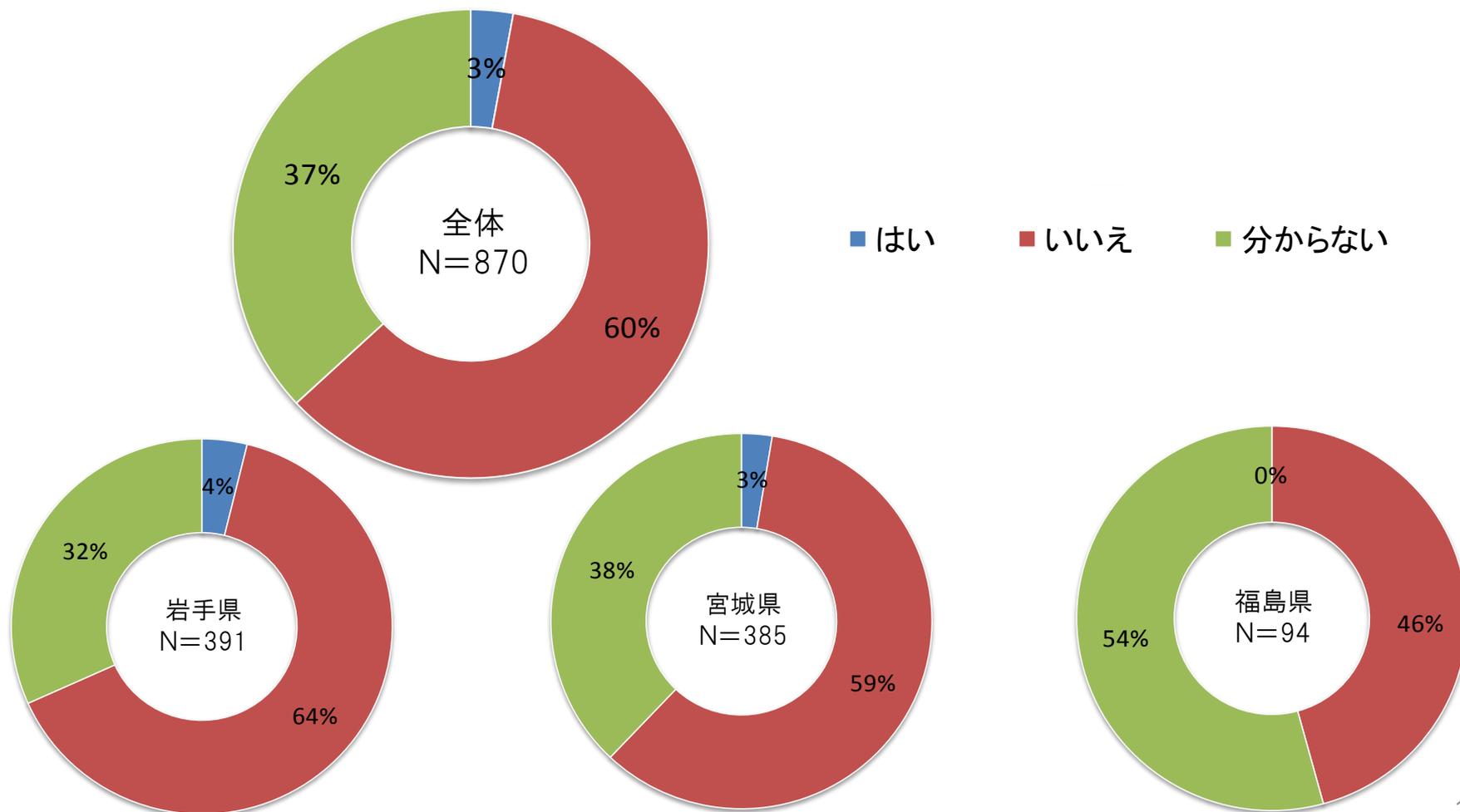
- 地震が起きた時に自宅にいた人数のうち、地震発生直後に避難した人数について、岩手県では「1人」が最も多く、宮城県と福島県では「2人」が最も多い。



F8. 災害時要援護者名簿に登録されていましたか

全員が回答 N=870

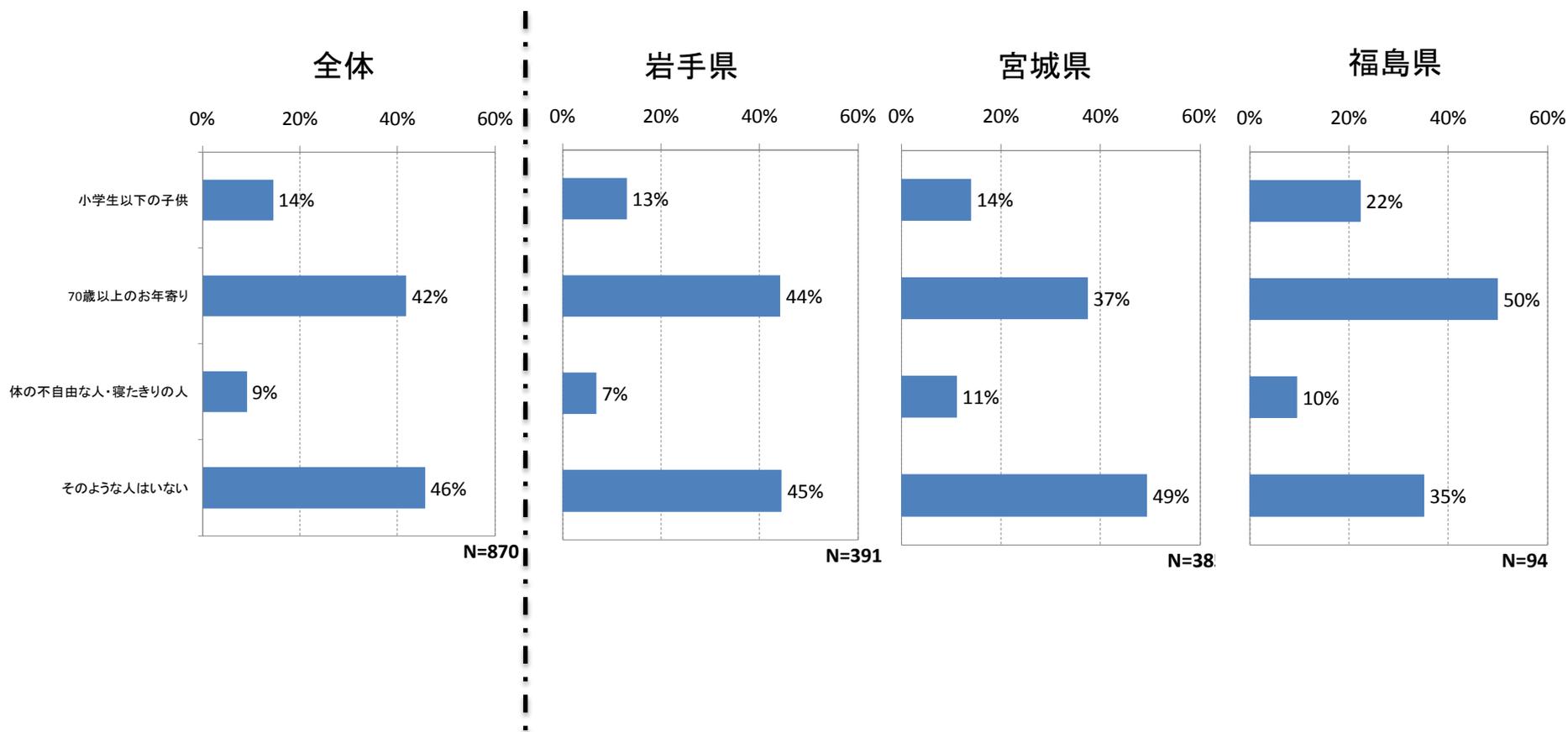
- 市町村が整備している災害時要援護者名簿への登録について、登録されていると回答した方は数%程度である。



F9. 地震が起きた時、一緒に住んでいた方

全員が回答 N=870

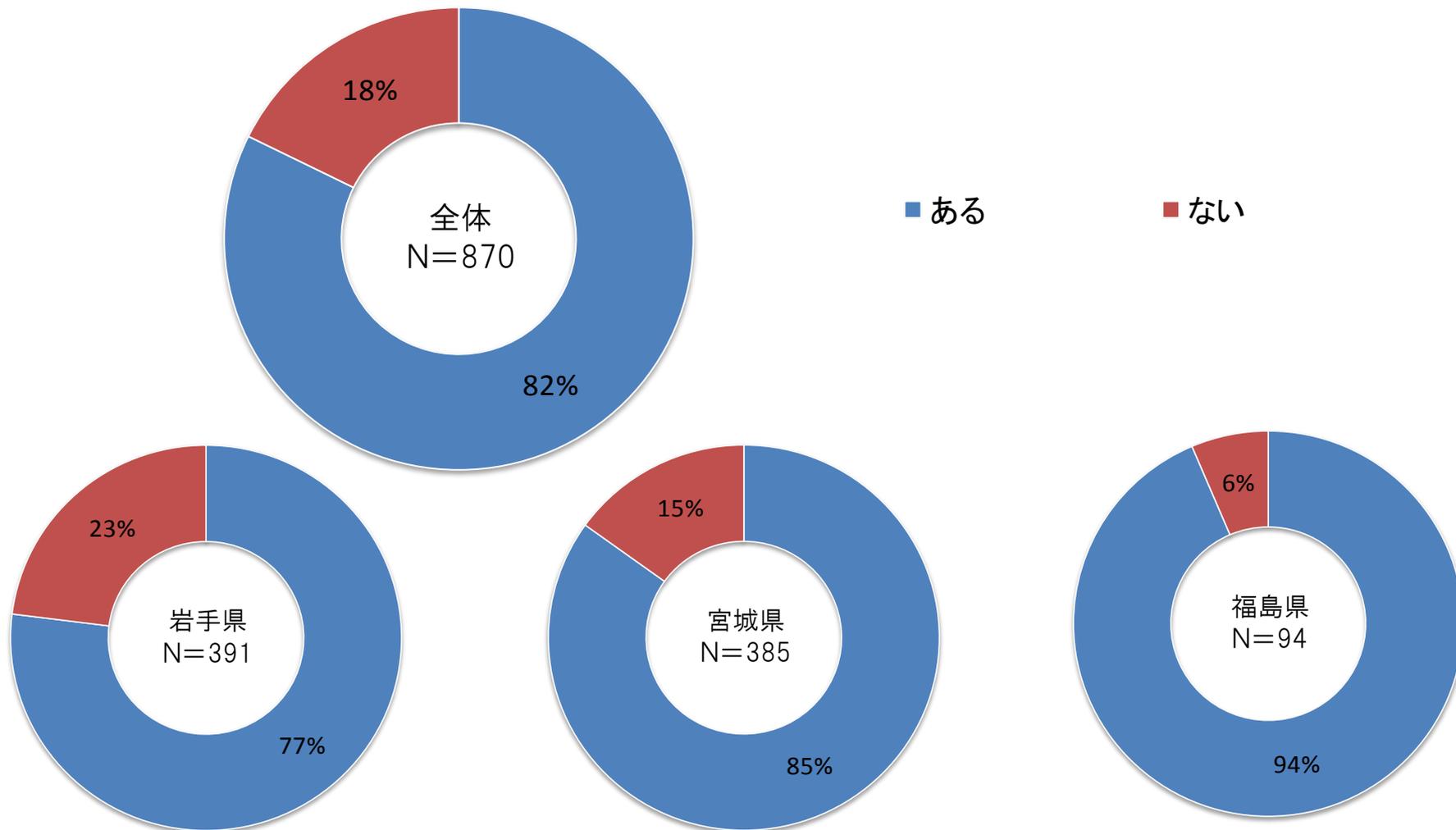
- 地震が起きた時、一緒に住んでいた方について、避難の際、援助が必要な可能性のある人と一緒に住んでいた方は岩手県、宮城県では半数強である。



F10. いつでも利用できる自家用車の有無

全員が回答 N=870

- いつでも利用できる自家用車の有無について、3県ともに70%を超え、高い車所有率を示している。

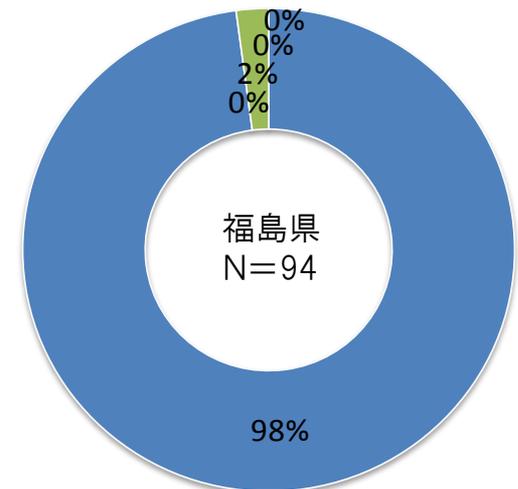
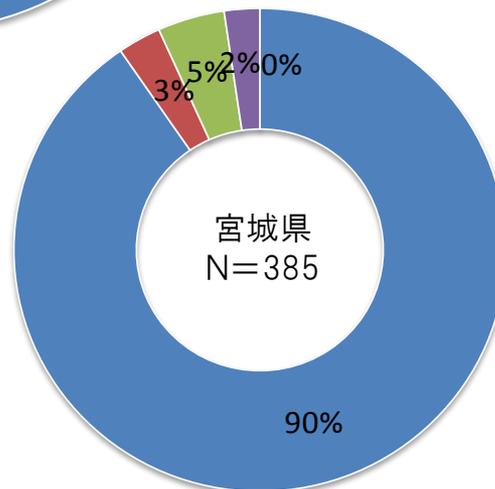
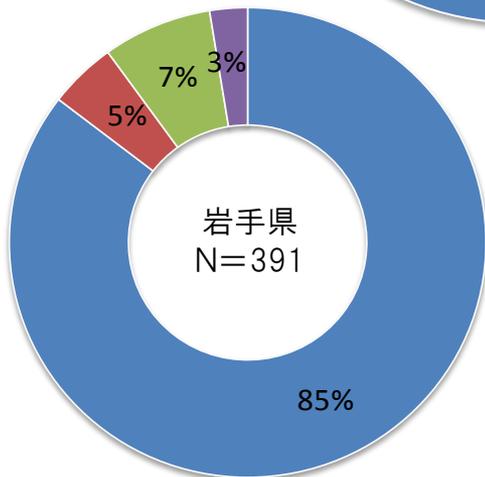
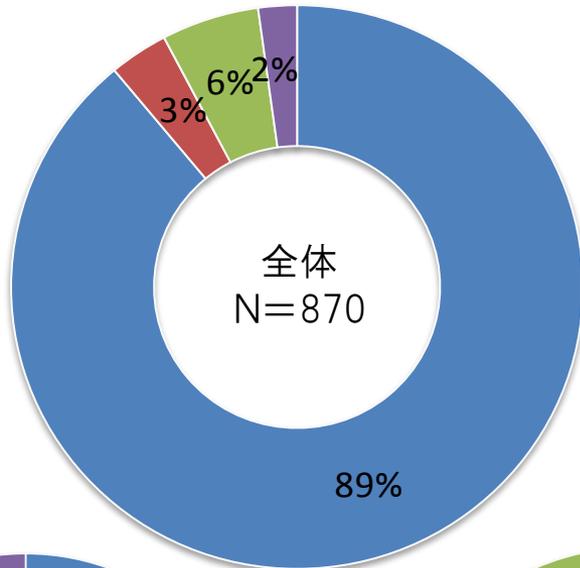


F11. 家の構造

全員が回答 N=870

- 家の構造については、「木造」が9割程度と多い。

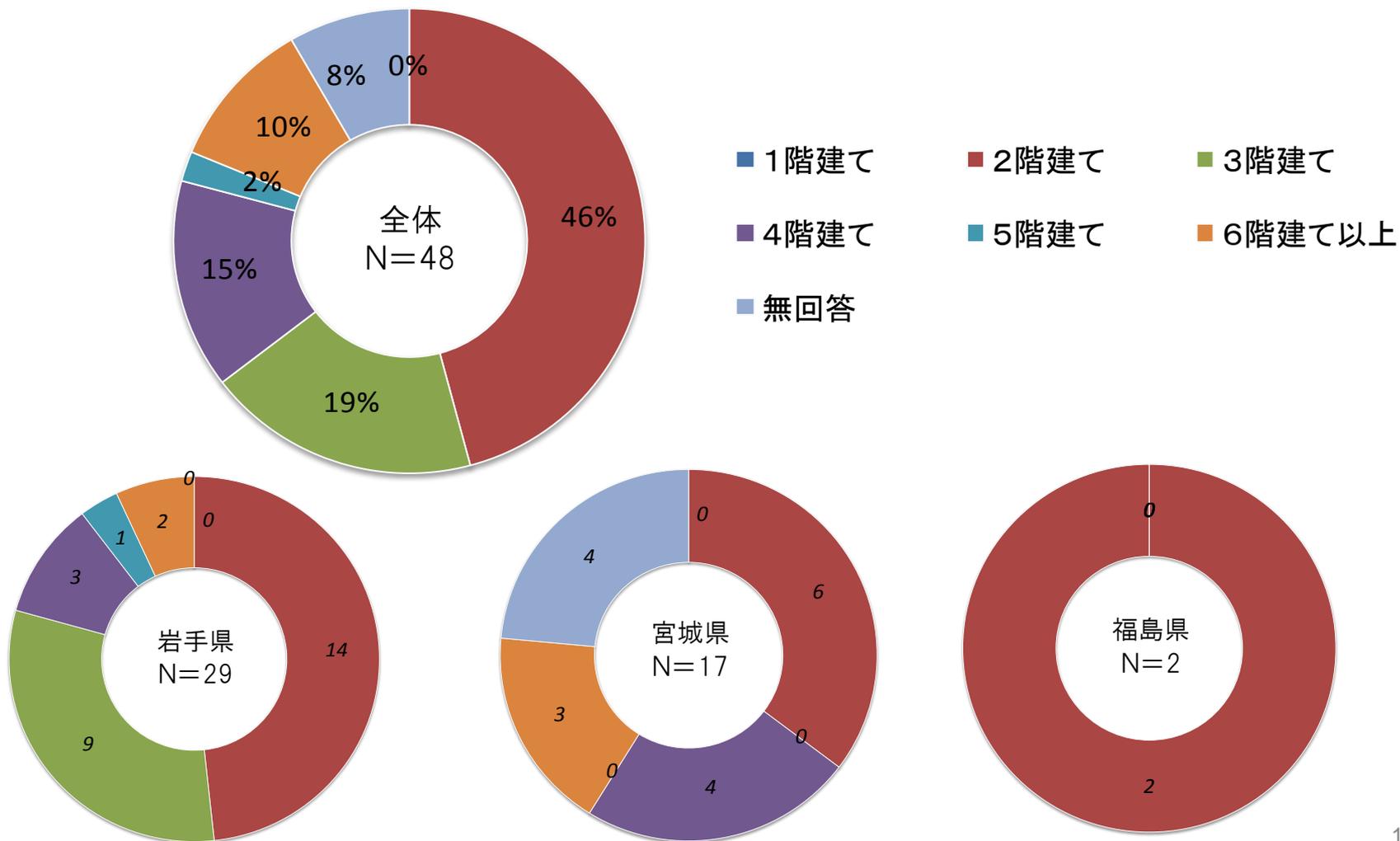
■ 木造 ■ 鉄骨 ■ 鉄筋コンクリート ■ わからない



F11. 鉄筋コンクリートの階数(建物の階数)

F11で「3.鉄筋コンクリート」を選択した人が回答 N=48

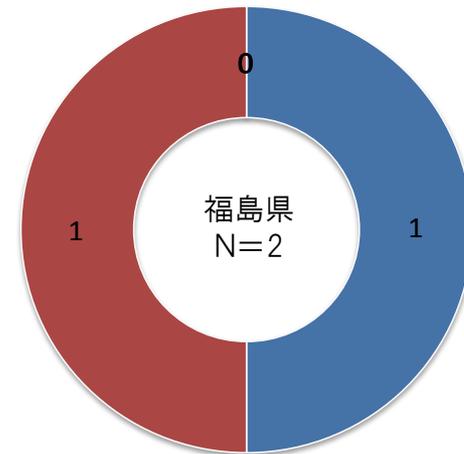
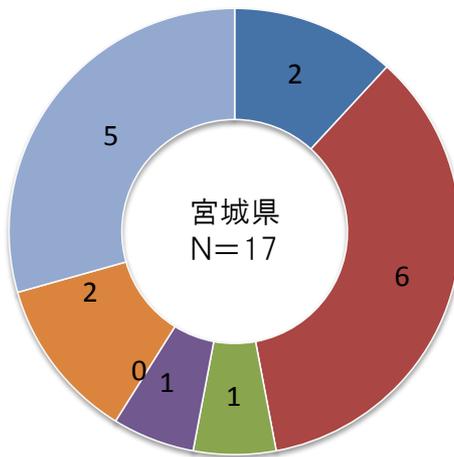
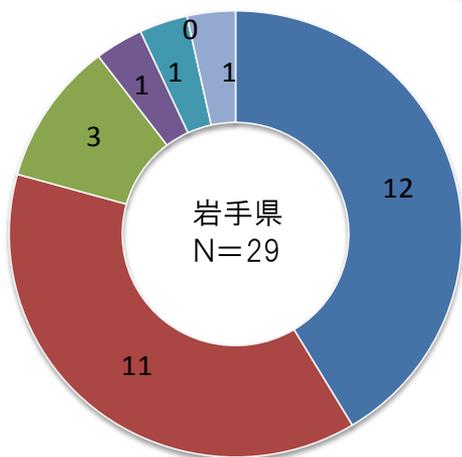
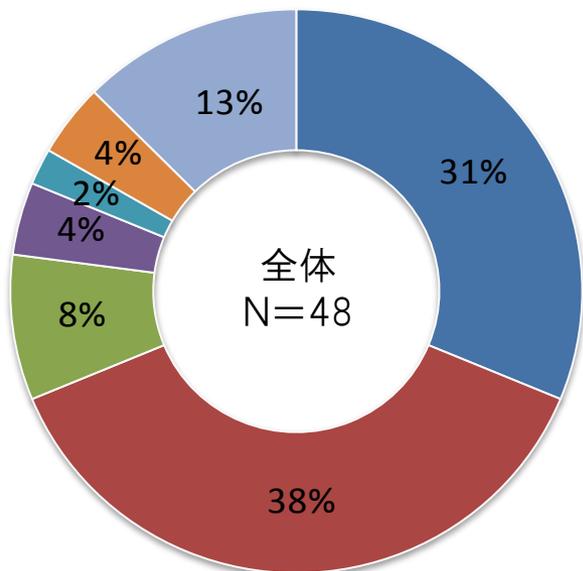
- 家の構造において、鉄筋コンクリートでの建物の階数は「2階建て」が多い。



F11. 鉄筋コンクリートの階数(住居階)

F11で「3.鉄筋コンクリート」を選択した人が回答 N=48

• 家の構造において、鉄筋コンクリートでの住居階は「1階」「2階」が多い。



F12. 戸別受信機の有無

全員が回答 N=870

- 防災行政無線の戸別受信機の有無については、3県ともに「戸別受信機はなかった」と回答した方が8割から9割程度と多い。

